

総合英語 I (1)

相馬 美明

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なことながら意外と軽視されがちな音読について、授業ではできる限り意識的にそれを行い、またそのことを通じ正しく音を知覚し認知することによって、リーディング、リスニングの両面から自信をつけていく。

【到達目標】

読むこと、聞くことの両面から英語の楽しさを再確認し、加えて自らの新たな可能性を見出すこと。

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は毎回 3 本立てとして構成され、講読を中心に、音読・和訳、リスニング・ディクテーション、発話（表現力）などを通じ、英語の基本的なフォー・スキルズについて学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	声をだす①	Kwaidan ①, Exercise 1 PART A, Film ①
3	声をだす②	Film ①～②, Your Song ,
4	意識的に声をだす 音に変える	Questions Kwaidan ②, Exercise 2 PART B, Film ③
5	音を聞き取る①	Kwaidan ③, Exercise 3 PART C, Film ③～④
6	音を聞き取る②	Film ④～⑤, Top of the world ,
7	音を聞き取る③	Questions Kwaidan ④, Exercise 4 PART A, Film ⑤～⑥
8	音をつくる①	Kwaidan ⑤, Exercise 5 PART B, Film ⑦
9	音をつくる②	Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	音をつくる③	Kwaidan ⑥, Exercise 7 PART A, The sound of silence , Film ⑧～⑨
11	正確に書き取る①	Kwaidan ⑦, Exercise 8 PART B, Film ⑨
12	正確に書き取る②	Kwaidan ⑧, Exercise 9 PART C, Film ⑨～⑩
13	正確に書き取る③	Exercise PART A-C, まとめ
14	まとめ	Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出
15	学期末試験	学期末テスト
16	秋学期予定	秋学期予定確認, Exercise 13 PART A, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
17	集中力をつける	Story ⑨, Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film ①
18	集中して聞き取る	Story ⑩, Exercise 16 PART C, Coin changer, Film ①
19	集中して書き取る	Story ⑪, Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film ①～②
20	音を育て、発音する	Exercise 18 PART B, プレゼンテーションについて指示、説明
21	瞬時に聞き取る	Story ⑫, Exercise 19 PART C, Film ②, She's got a way.
22	耳から理解する	Story ⑬, Exercise 20 PART A, Film ②～③

23	発話のための準備	Exercise 21 PART B, Film ③, The Story of O-TEI
24	発話のための準備	Exercise 22 PART C, Film ③～④
25	まとめ	Exercise PART A-C まとめ, 力だめし
26	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①
27	プレゼンテーション②	プレゼンテーション②
28	プレゼンテーション③	プレゼンテーション③
29	まとめ、確認	一年のまとめ、確認
30	学期末まとめ	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】

必要に応じ適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験（60％）：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート（10％）：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション（10％）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに答えられる授業となるよう努力していきたい。

総合英語 I (2)

小川 真也

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の事象や問題を論じた記事を英語で読み、英語の読解力を身に付ける。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、第一に、英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけることを目指す。第二に、まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになることを目指す。第三に、段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになることを目指す。第四に、記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付けることを目指す。

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。授業の進捗状況によって、適宜、関連した記事を取り上げて講読する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1 Smart Phones Deserve Smart Users	賢い電話と依存症の利用者
3	Unit 2 The Animals in Our Lives	動物のいる生活
4	Unit 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育はどこへ行く？
5	時事ニュース講読	時事ニュースを読む
6	Unit 4 A Hungry Future	未来が飢えている
7	Unit 5 No More Unwelcome Advertisements	押し売りお断り！
8	Unit 6 A Living Wage	賃金の効果的な払い方
9	英作文	扱った記事に関する各自の意見を英作文
10	Unit 7 Keeping Mothers on the Payroll	働くママを応援！
11	Unit 8 Slow Life	心豊かな生活
12	Unit 9 Volunteering	広まるボランティア活動と深まる疑念
13	Unit 10 Longevity: a Mixed Blessing	ご長寿万歳！
14	関連記事講読	関連記事を読む
15	期末試験	扱ったテキストから出題
16	イントロダクション	春学期期末試験の講評と英作文
17	Unit 11 The Importance of Biodiversity	生物の多様性が人類を救う
18	Unit 12 A Home for Endangered Storks	コウノトリに優しいまちづくり
19	Unit 13 Japan's Future Energy Supply	再生可能エネルギーの時代
20	時事ニュース講読	時事ニュースを読む
21	Unit 14 Green Transportation	持続可能な社会の乗り物
22	Unit 15 How Much Is Nature Worth?	あなたは自然にいくら払いますか
23	Unit 16 Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
24	Storing Energy	エネルギーはためられない？
25	英作文	扱った記事に関する各自の意見を英作文
26	A Dollar a Day	貧困を撲滅せよ
27	Beyond Fair Trade	フェアトレードと生産者の自立支援
28	Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展は地球を減らす
29	関連記事講読	関連記事を読む
30	期末試験	扱ったテキストから出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著, 成美堂, 2017 年, 定価 1,900 円

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 20 % 小テスト 30 % 試験 50 %

各学期、欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

段落の要約、記事のまとめにも充分に時間を割く。

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

総合英語 I (3)

浦川 智子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスに関する Dialogue と Passage の 2 つの英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に把握できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、日本とは異なる文化や社会に興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

原則として 1 回の授業で Unit1 つ扱うので、その Unit の単語や構文、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業では適宜単語テストを実施し、テキストの英文の内容について受講者の理解を確認しつつ解説をおこなう。また、TOEIC などの試験の演習問題もおこなう。授業の進度によって授業計画に若干の変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 1. Arriving in London	Unit 1 Dialogue と Passage の講読
3	Unit 2. London's museums and art galleries	Unit 2 Dialogue と Passage の講読
4	Unit 3. Royal palaces and castles	Unit 3 Dialogue と Passage の講読
5	Unit 4. Sports venues	Unit 4 Dialogue と Passage の講読
6	Unit 5. Shopping in London	Unit 5 Dialogue と Passage の講読
7	Unit 1～5 のまとめ	Unit 1～5 のまとめとリスニング
8	Unit 6. Canterbury	Unit 6 Dialogue と Passage の講読
9	Unit 7. Cheddar, Wells and Glastonbury	Unit 7 Dialogue と Passage の講読
10	Unit 8. Cheltenham and Broadway	Unit 8 Dialogue と Passage の講読
11	Unit 9. Chester	Unit 9 Dialogue と Passage の講読
12	Unit 10. The Yorkshire Dales	Unit 10 Dialogue と Passage の講読
13	Unit 6～10 のまとめ、プレゼンテーション (1)	Unit 6～10 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
14	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
15	春学期試験・総括	春学期における学習到達度をはかる
16	イントロダクション	秋学期の授業の目標と計画のガイダンス
17	Unit 11. Newcastle-upon-Tyne	Unit 11 Dialogue と Passage の講読
18	Unit 12. Swansea and Gower	Unit 12 Dialogue と Passage の講読
19	Unit 13. Brecon Beacons	Unit 13 Dialogue と Passage の講読
20	Unit 14. Conwy and Caernarfon	Unit 14 Dialogue と Passage の講読

21	Unit 15. Edinburgh	Unit 15 Dialogue と Passage の講読
22	Unit 11～15 のまとめ	Unit 11～15 のまとめとリスニング
23	Unit 16. Glasgow	Unit 16 Dialogue と Passage の講読
24	Unit 17. The Isle of Skye	Unit 17 Dialogue と Passage の講読
25	Unit 18. Belfast	Unit 18 Dialogue と Passage の講読
26	Unit 19. The Causeway Coast	Unit 19 Dialogue と Passage の講読
27	Unit 20. The Isle of Man	Unit 20 Dialogue と Passage の講読
28	Unit 16～20 のまとめとプレゼンテーション (1)	Unit 16～20 のまとめ、グループ・プレゼンテーション
29	プレゼンテーション (2)	グループ・プレゼンテーション
30	秋学期試験・総括	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：シラバス記載内容（授業計画、予習等）の確認

第 2～15 回：前回の授業で扱った重要語句を復習し、次回で扱う Unit の読解、語彙や文法を事前に確認する。

第 16 回：春学期の確認

第 17～30 回：前回の授業で扱った重要語句を復習し、次回で扱う Unit の読解、語彙や文法を事前に確認する。

【テキスト（教科書）】

相澤一美、伊藤典子、Richard Powell 著、『Touring Britain: Language and Travel Tips (英国探訪)』朝日出版、2012 年

【参考書】

辞書を持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、授業内の発表、課題等）：30%、2 回の期末試験（春学期、秋学期）：70%、合計 100% として評価する。評価基準は A+：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60 とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

総合英語 I (4)

式町 眞紀子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活に関わるさまざまな健康科学関連の知識や情報が、英語ではどのように表現されるかということを知る機会にします。

【到達目標】

読むだけでは意味がとりにくい表現や、ネイティブにとっては標準的な口語表現などが理解できることを目指します。また、英語による医学・生理学・心理学や栄養学など、諸分野の語彙増強も図ります。

【授業の進め方と方法】

アメリカでベストセラーになった *The 100 Simple Secret Series* をもとに編集されたテキストを使います。Abstract(概要) Example(実例) Research(研究報告) の三項目で構成されている各 Chapter を、授業では、ネイティブによる音声教材を活用し、意味のまとまりに沿って内容を検討します。文法も重視します。また、個々のパラグラフを構成する topic sentence や support sentences を把握することにより、main idea が何であるかを明らかにします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation and Introduction.	テキスト・参考図書の説明を中心に行います。
2	Chapter1: The Quest for a Perfect Body is Doomed	Abstract, Example そして Research と、語釈や文法事項を確認しながら読み進め、Exercise で仕上げます。類義語や言換え表現に重点を置き、表現の多様化を図ります。
3	Chapter2: Stop the War on Bacteria	Chapter2 進め方は上記に準じます。
4	Chapter3: Don't Buy the Fountain of Youth	Chapter3 進め方は上記に準じます。
5	Chapter4: Fitness Is Free	Chapter4 進め方は上記に準じます。
6	Chapter5: A Tomato a Day Is Even Better	Chapter5 進め方は上記に準じます。
7	Mid-term Exam (Spring)	これまで授業で扱ってきた内容の、理解度や定着度を測る試験です。
8	Mid-term Review	答案講評および春学期後半に向けてのフィードバックを行います。
9	Chapter6: Turn Off the TV	Chapter6 進め方は上記に準じます。
10	Chapter7: Home Affects Your Health More than Work	Chapter7 進め方は上記に準じます。
11	Chapter8: Memories Are Not Lost	Chapter8 進め方は上記に準じます。
12	Chapter9: Wipe, Don't Blow	Chapter9 進め方は上記に準じます。
13	Chapter10: Study Your Sports Drink	Chapter10 進め方は上記に準じます。
14	Chapter11: Build Your Energy Level Gradually	Chapter11 進め方は上記に準じます。
15	Term-end Review (Spring)	春学期に学習した内容の理解度や達成度を測ります。
16	春学期末試験答案講評・秋学期に向けてのオリエンテーション	春学期迄の学習実績を元に、達成状況と弱点、および留意事項について確認します。

17	Chapter12: Secondhand Smoke Affects the Brain	Chapter12 進め方は上記に準じます。
18	Chapter13: Write It Down	Chapter13 進め方は上記に準じます。
19	Chapter14: Your Teeth Are More than Something to Chew On	Chapter14 進め方は上記に準じます。
20	Chapter15: Home Is Where Accidents Happen	Chapter15 進め方は上記に準じます。
21	Mid-term Exam(Fall)	これまで授業で扱ってきた内容の、理解度や定着度を測る試験です。
22	Mid-term Review	答案講評および秋学期後半に向けてのフィードバックを行います。
23	Chapter16: Remember the Drugs We Tend to Forget	Chapter16 進め方は上記に準じます。
24	Chapter17: High Heels Cause Knee Problems	Chapter17 進め方は上記に準じます。
25	Chapter18: Limit Your Piercings	Chapter18 進め方は上記に準じます。
26	Chapter19: Pay Attention to Chronic Conditions	Chapter19 進め方は上記に準じます。
27	Chapter20: Recognize the Difference Between Caution and Fear	Chapter20 進め方は上記に準じます。
28	Chapter21: Vegetables Will Taste Better in the Future	Chapter21 進め方は上記に準じます。
29	Chapter22: Complete Health Is Rare	Chapter22 進め方は上記に準じます。
30	Term-end Review (Fall)	秋学期後半ならびに年間を通して学んだことの理解度・定着度を測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの注は最小限に抑えられているので、自分で辞書を引くことが不可欠です。また、教室では本文の音読も行いますので、予習の際、付属 CD を活用してテキストを読むこと。

【テキスト（教科書）】

Niven, David. *The Simplest Secrets of Healthy People*. 英光社 (2008)(邦題『健康な生活を送るために』)

【参考書】

英和辞典（紙・電子いずれでも）辞書を忘れた場合は欠席扱いとします。また、スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので、教室での使用は認めません。これに関連して、机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 発表や発言などの積極性。授業に出席しただけでは評価対象となりません。②試験（中間試験・期末試験ほか小テスト）40 % ③課題や提出物 20 % 以上3点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「丁寧な授業で、理解が深まった」との意見が多く寄せられました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

大学生になると、さまざまな場面で自己管理が求められることを常に意識してもらいたいと思います。

総合英語 I (5)

渡辺 廣人

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。その基本的な成り立ちのリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回、確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価等を説明する。
2	CHAPTER 1-1	Grammar Review 文型
3	CHAPTER 1-2	Yuzuru Hanyu 1
4	CHAPTER 1-3	Yuzuru Hanyu 2
5	CHAPTER 2-1	Grammar Review 時制
6	CHAPTER 2-2	Kei Nishikori 1
7	CHAPTER 2-3	Kei Nishikori 2
8	CHAPTER 3-1	Grammar Review 助動詞
9	CHAPTER 3-2	Christel Takigawa 1
10	CHAPTER 3-3	Christel Takigawa 2
11	CHAPTER 4-1	Grammar Review 名詞・代名詞
12	CHAPTER 4-2	Kyary Pamyu Pamyu 1
13	CHAPTER 4-3	Kyary Pamyu Pamyu 2
14	CHAPTER 5-1	Grammar Review 形容詞
15	学期末まとめ	総括、春学期末試験
16	CHAPTER 5-2	World Cultural Heritage Site Mount Fuji 1
17	CHAPTER 5-3	World Cultural Heritage Site Mount Fuji 2
18	CHAPTER 6-1	Grammar Review 副詞
19	CHAPTER 6-2	World Intangible Cultural Heritage Washoku 1
20	CHAPTER 6-3	World Intangible Cultural Heritage Washoku 2
21	CHAPTER 7-1	Grammar Review 比較
22	CHAPTER 7-2	Spiber 1
23	CHAPTER 7-3	Spiber 2
24	CHAPTER 8-1	Grammar Review 受動態
25	CHAPTER 8-2	Abenomics 1
26	CHAPTER 8-3	Abenomics 2
27	CHAPTER 9-1	Grammar Review 不定詞
28	CHAPTER 9-2	Maglev Train 1
29	CHAPTER 9-3	Maglev Train 2
30	学年末まとめ	総括、秋学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味の分からない単語は英和辞典で確認し、必ず自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト（教科書）】

COOL JAPAN 邦題『クールジャパン』JoAnn Parochetti 他著
南雲堂 2017 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験：50% 確認テスト・レポート・発表等：20% 平常点：20% 授業態度：10%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計途中なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならない。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

総合英語 I (6)

北出 広子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストとプリント教材を使用して授業を進めていきます。テキストでは、語彙や文法の知識を確認しながら本文の新聞記事の内容を理解します。さらに、その記事を通して様々な分野に関心を示し、自分なりの視点で捉える力を養います。プリント教材ではパラグラフの構造や要約の仕方を学びます。

【到達目標】

テキストの中の新聞記事を読んで英語を学ぶとともに内容を捉えることを目標とします。加えて、他のテキストから抜粋してプリント教材として用い、パラグラフ毎に内容を消化します。また訳読だけではなく、意見や要約を書くことは、解釈力やまとめる力の養成に役立ちます。

【授業の進め方と方法】

テキストの順番に従って、CD を聞いたり、問題を解いたり、英文和訳を行ったりします。なお、語彙を増やすために毎回小テストを行います。プリント教材では英文和訳と要約を行います。課題として要約を提出することがあります。また、グループ毎に分かれて、本文の内容についてディスカッションを行い発表します。授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイドラインとパラグラフの構造について	授業の方針や進め方、成績評価方法及びパラグラフの構造について説明します。
第 2 回	Chapter 1	Traveling with Your Dog
第 3 回	Chapter 2	Please Take Just a Nibble
第 4 回	Chapter 3	Let's Go to the Museum
第 5 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 6 回	Chapter 4	A Fork in the Road
第 7 回	Chapter 5	Products by Women for Women
第 8 回	Chapter 6	Japan's Tokusatsu Hero Gone Global
第 9 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 10 回	Chapter 7	Go for the Gold with New Wheelchairs!
第 11 回	Chapter 8	Manzai for Education
第 12 回	Chapter 9	Your Car Might Be Hacked
第 13 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 14 回	Chapter 10	How Much Is This Autograph?
第 15 回	期末試験	筆記試験とまとめ
第 16 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 17 回	Chapter 11	Math Drills for Cambodian Pupils
第 18 回	Chapter 12	Flying Causes Problems
第 19 回	Chapter 13	A Romantic Bridge between...
第 20 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 21 回	Chapter 14	Microbes Decide Your Health
第 22 回	Chapter 15	"Light" for a Buddhist Temple
第 23 回	Chapter 16	Advanced Health Checker
第 24 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 25 回	Chapter 17	Do You Know Where Santa Lives?
第 26 回	Chapter 18	Is It Fair or Unfair?
第 27 回	Chapter 19	The Warmest Race in the Coldest Land
第 28 回	プリント教材	英文和訳と要約
第 29 回	Chapter 20	Solar Cells for the Near Future
第 30 回	期末試験	筆記試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としてテキストの問題を解く。次に、本文の英語の単語を辞書でよく調べて英文和訳を行う。復習として本文を読み直し、重要な単語や熟語を覚えて小テストに臨む。要約の課題は期限内に提出する。

【テキスト（教科書）】

Insights 2017、村尾純子、Ashley Moore 他、金星堂、2017 年発行、1900 円（税別）

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、小テスト（10%）、その他（課題提出、平常点など）（30%）を総合的に評価します。

詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

総合英語 I (7)

蒔田 裕美

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解力と語彙力を培うことを目的とする。読解に必要な文法事項も確認していく。

【到達目標】

知的な英文を辞書を使いながら、自分で読みこなす読解力を身につけることを目標とする。テキストを精読することにより、英米の文化、慣習を理解できるようになる。
発音記号を理解し、正しい音読ができる。

【授業の進め方と方法】

読解のためのスキルを説明し、実際に活用した練習問題に取り組んでいく。語彙力を強化する問題、内容理解問題、リスニングの練習を各章ごとに行う。適宜、発音記号の説明を行い、正確な発音を身につける練習をする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針の説明、辞書指導
2	Unit 1: Have I Found Ms. Right?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
3	Unit 1: Have I Found Ms. Right?	Reading Comprehension、Listening Practice
4	Unit 2: How Good Is Your Memory?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
5	Unit 2: How Good Is Your Memory?	Reading Comprehension、Listening Practice
6	Unit 3: The History of Time-Keeping	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
7	Unit 3: The History of Time-Keeping	Reading Comprehension、Listening Practice
8	Unit 4: Endangered Species	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
9	Unit 4: Endangered Species	Reading Comprehension、Listening Practice
10	Unit 5: Travel Manners	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
11	Unit 5: Travel Manners	Reading Comprehension、Listening Practice
12	Unit 6: What Does a Million Dollars Buy?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
13	Unit 6: What Does a Million Dollars Buy?	Reading Comprehension、Listening Practice
14	Unit 7: Earth's Mysterious Places	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
15	中間試験	Unit1-7 までの復習
16	Unit 7: Earth's Mysterious Places	Reading Comprehension、Listening Practice
17	Unit 8: Is an Only Child a Lonely Child?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
18	Unit 8: Is an Only Child a Lonely Child?	Reading Comprehension、Listening Practice
19	Unit 9: Homeschooling — a Better Way to Learn?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
20	Unit 9: Homeschooling — a Better Way to Learn?	Reading Comprehension、Listening Practice

21	Unit 10: The Segway — a New Look at Travel	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
22	Unit 10: The Segway — a New Look at Travel	Reading Comprehension、Listening Practice
23	Unit 11: What Constitutes Art?	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
24	Unit 11: What Constitutes Art?	Reading Comprehension、Listening Practice
25	Unit 12: Avoiding Cultural Taboos	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
26	Unit 12: Avoiding Cultural Taboos	Reading Comprehension、Listening Practice
27	Unit 13: Robotic Surgeons	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
28	Unit 13: Robotic Surgeons	Reading Comprehension、Listening Practice
29	Unit 14: The Challenges of Space Travel	Scanning、Vocabulary Exercise、Reading
30	期末試験	Unit7-14 までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：次週に向けての予習

第15回：春学期の復習

第16～29回：次週に向けての予習

第30回：秋学期の復習

授業は予習をしていることを前提で進む。必ず辞書を用いて分からない単語の意味を調べ、テキストの予習を行い、自発的に授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

菅野英一編『Advanced Skills for Reading リーディングスキルの発展演習』成美堂、2010 年

関根応之『5 分間英語発音』南雲堂、2013 年

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

30 %：授業への参加度：授業内での発表などを考慮する。

30 %：中間試験

40 %：期末試験

【学生の意見等からの気づき】

速度が速くなりすぎないように、学生の理解度を確認しながら授業展開していく。

総合英語Ⅱ(1)

松下 晴彦

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今までに習得した英語基礎力を充実・発展させながら、反復学習し英語力の定着を目標とする。ある程度のコミュニケーションを自力で行うための土台づくりを目指す。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。
海外に遠征に行った場合に困らない日常会話を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

テキストで基本的な英文法を復習し、スポーツに関する平易な英文を読む。毎回、前回の復習テストを行う。反復学習をしていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	be 動詞	解説、問題演習
第3回	Baseball 1	Chapter 1
第4回	一般動詞 1	解説、問題演習
第5回	Baseball 2	Chapter 2
第6回	一般動詞 2	解説、問題演習
第7回	Basketball 1	Chapter 3
第8回	助動詞	解説、問題演習
第9回	Basketball 2	Chapter 4
第10回	進行形	解説、問題演習
第11回	Football 1	Chapter 5
第12回	受動態	解説、問題演習
第13回	Football 2	Chapter 6
第14回	現在完了形	問題演習
第15回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験
第1回	Soccer 1	Chapter 7
第2回	比較 1	解説、問題演習
第3回	Soccer 2	Chapter 8
第4回	比較 2	解説、問題演習
第5回	Golf 1	Chapter 9
第6回	不定詞	解説、問題演習
第7回	Golf 2	Chapter 10
第8回	関係代名詞	解説、問題演習
第9回	Tennis 1	Chapter 11
第10回	形容詞と副詞	解説、問題演習
第11回	Tennis 2	Chapter 12
第12回	分詞と動名詞	解説、問題演習
第13回	Figure Skating	Chapter 13
第14回	前置詞	解説、問題演習
第15回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。ノートを用意し、未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。授業後、内容の復習をする。毎回、復習の課題を出すので、自習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『やさしい英語で学ぶ“スポーツは世界だ” & 英語の基礎』Mark Thompson／谷岡敏博（英宝社）本体 1,890 円

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

授業にて演習をするのが主となるので、全出席が期待されている。

総合英語Ⅱ(2)

村井 三千男

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) の向上を目指す。特に productive skills である speaking, writing 力の向上を重視する。

【到達目標】

英語の4技能の向上を目指す。特に発表能力である speaking と writing の能力向上を目指している。具体的には各学生に Oral Presentation を課しており、Self-Introduction, Show & Tell などの言語活動を通じての speaking 力向上を行なう。また各課に Applied-Level Comprehension, What If? の項目があり、それらについての作文の活動を通じて writing 力の向上を目指す。また教科書中に見られる Reading Strategy は Writing Strategy に通じる箇所があるので重視する。Introduction, Body, Conclusion など writing の基礎の習得も目指す。

【授業の進め方と方法】

教科書は Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Test, What Happened, Graphic Organizer, What Followed, Applied-Level Comprehension, What If? など多岐に亘る項目がある。このうち What Happened, What Followed などの reading 活動にはさほど時間を掛けず、Applied-Level Comprehension, What Followed なその writing 活動や speech(self-introduction) などの speaking 活動に時間を掛ける予定である。video (英語版) を観て粗筋や感想を英文で書くという言語活動も随時含めることとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Orientation	自己紹介 授業の説明 予習・復習等の説明 etc.
2 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
3 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
4 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
5 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
6 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
7 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
8 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
9 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
10 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
11 回	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
12 回	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
13	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
14 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
15 回	定期テスト	(まとめ)
16 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
17 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?

18 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
19 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
20 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
21 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
22 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
23 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
24 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
25 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
26 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
27 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
28 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
29 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
30 回	定期テスト	(まとめ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は十分な予習を行なって授業に臨んで下さい。(授業の際 speech を行うことに決まっている学生は必ず練習してから授業に臨むこと。) また随時出される課題は、期日までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

Masanori Terauchi, Atsushi Koiso, Michio Murai 他著 Phoenix from the Flames
CENGAGE Learning (センゲージ・ラーニング) 2,000 円

【参考書】

必要な場合には授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト 50% 授業内課題 25% 授業外課題 25%

なお、授業内課題とは Speech, あるいは授業内での作文、授業外課題とは、課題として writing 活動を行うというレポート課題などを表す。

【学生の意見等からの気づき】

要点についてまとめて板書するので、ノートを取りながら聴くことを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。(辞書や電子辞書を用いるのは、授業前の予習の段階で行なってはしい活動です。授業中はそのような活動ではなく、注意して講義を聴くことに専念することが望まれます。)

【その他の重要事項】

できる限り出席して、理解できない点は質問してほしいと思います。また予習・復習を十分に行うとともに、授業を熱心に受けることが重要です。

総合英語Ⅱ (3)

齋藤 元治

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに習得してきた英語力をさらに拡充させ、英文をより正確に理解し、英語圏独特の思考方法や生活様式の理解を深め、英語での総合的な表現力をつける。

【到達目標】

英語のリスニング、会話、英作文、パラグラフライティングの力を向上させるためには基本的な英語の構文、文法事項をきちんと把握しておくことが大前提になります。

英文を語順にしたがって、「訳さず」に「解る」という力を習得することを目指します。

【授業の進め方と方法】

「訳さず」に「解る」力をつけるために、基本的な構文と文法事項を確認する。

リスニング力をつけるために CD を利用します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方などの説明	英語の学習方法の確認。 英文を理解することと、訳すことの違いについて。
第2回	Unit. 1 - 1	Alzheimer's Disease
第3回	Unit1-1. Unit1-2	Alzheimer's Disease The Alzheimer's Caregiver
第4回	Unit1-2	Alzheimer's Caregiver
第5回	Unit2-1	Floor Plan
第6回	Unit2-1 Unit2-2	Floor Plan Interior Decoration
第7回	Unit2-2	Interior Decoration
第8回	Unit3-1	Interview Special Services
第9回	Unit3-2	Interview Finances
第10回	Unit4-1, 4-2	Mental Retardation and IQ Mental Retardation
第11回	Unit4-2	Educational Services
第12回	Unit5-1	Mental Retardation Interview
第13回	Unit5-1 Unit5-2	Child Services Interview
第14回	Unit5-2	Adult Services Interview
第15回	期末まとめ	Adult Services 試験
第16回	Unit6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
第17回	Unit6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
第18回	Unit6-2	Coping with a Dangerous Situation
第19回	Unit6-2	Coping with a Dangerous Situation
第20回	Unit7-1	Attitudes Toward Disabilities: Society and Therapists

第21回 Unit7-1

回

第22回 Unit7-2

回

第23回 Unit7-2

回

第24回 Unit8-1

回

第25回 Unit8-1

回

第26回 Unit8-2

回

第27回 Unit8-2

回

第28回 Unit9-1

回

第29回 Unit9-1 Unit10

回

第30回 期末まとめ

回

Attitudes Toward

Disabilities:

Society and Therapist

Attitudes Toward

Disabilities:

People with Disability

Attitudes Toward

Disabilities:

People with Disability

Interview:

Duties

Interview:

Duties

Interview:

Education and Preparation for the job

Interview:

Education and Preparation for the job

Bullying:

The Problem

Bullying: The Problem

Some solution

試験

既習事項の確認・評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。解ることと訳すことの違いを常に意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Aiming at Improving Social Welfare

Stella Yamazaki 石川郁二

成美堂

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% (2回)

平常点 20% (小テスト、宿題、受講態度)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者が変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

総合英語Ⅱ(4)

衣川 清子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近、多くのスポーツ分野で海外で活躍する日本人選手が増えていく。彼らの活躍を伝える英字新聞や英文ニュースやインタビュー記事を読み、海外の生活体験やスポーツ事情、外国人として経験する喜びや苦悩、彼らが後輩たちに伝えたいことなどを学ぶ。そうした記事の英語表現から英作文や表現活動に応用できるものをピックアップし、それらを使うトレーニングを行う。

【到達目標】

- ①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
- ②スポーツ記事で使われている平易な英語表現を自分の英作文や表現活動で活用し、作文課題やプレゼンテーションに生かす。

【授業の進め方と方法】

比較的最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書とノートを持参すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①前半
3	見出しのルール	記事①後半
4	英語の文型	記事②前半
5	品詞の種類	記事②後半
6	動詞の種類	記事③前半
7	句と節	記事③後半
8	中間テスト	中間テスト
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事④前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事④前半
11	時制（進行形）	記事⑤前半
12	時制（完了形）	記事⑤後半
13	時制の一致・プレゼンテーションのためのレクチャー	プレゼンテーション準備作業 資料集め
14	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーション準備作業 スライド作成
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション
16	秋学期イントロダクション	秋学期イントロダクション；授業に臨む心構え
17	英語らしい表現とは	記事⑥前半
18	無生物主語	記事⑥後半
19	言い換え表現	記事⑦前半
20	仮定法過去	記事⑦後半
21	仮定法過去完了	記事⑧前半
22	中間テスト前のまとめ	記事⑧後半
23	中間テスト	中間テスト
24	中間テスト返却、講評	記事⑨前半
25	直接話法と間接話法	記事⑨後半
26	分詞構文	記事⑩前半
27	付帯状況	記事⑩後半
28	作文課題について・レクチャー	作文課題準備 テーマの設定
29	秋学期のまとめ	作文課題準備 課題作成の注意点
30	作文課題提出	作文課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末のプレゼンテーション・課題 35 % + 平常点（出席点含む）30 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

総合英語Ⅱ (5)

出縄 貴良

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主にライティングを通して、基本的な文法確認をしながら正しい英文を書けるようにします。英語の表現を学ぶ為には、実際の英語に触れることが不可欠であるので、リーディングも行います。読解を通して重要表現をインプットし、英作文を通してアウトプットします。日本語で考えたことをそのまま英作しようとしても難しいことに気づくはずです。英語には英語の表現の仕方があるからです。そのような英語独特の表現方法を学び、表現したいこととなるべく簡潔に表現する訓練も行います。最初は一行から始めて、徐々にまとまった文章を書けることを目指します。

【到達目標】

これまで習ってきた文法を再度確認し、文法的に正しい英文を書けるようにする。重要な表現やフレーズを身に付け、それらを用いて自分なりのアウトプットができるようになる。日本語と英語とは表現の仕方に異なる部分があることを理解し、より英語らしい文章を書けるようにする。ある程度まとまった文章を論理的に書けるようにする。

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。授業 2 回で Unit1 回分を終える予定です。1 回目では単元の文法の確認をし、表現に注意しながら短めのエッセイを読みます。エッセイは分からない単語などは調べしっかりと予習して授業に臨んでください。2 回目では学んだ文法事項に気を付けながら英作をします。演習時間を取り、その後解説に移ります。授業では毎回出席者全員を指名し発言してもらうことになります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明を行います。各自の英語力を知るために簡単な調査をします。
2	Unit1 英語の主語の種類 1	英語ではどのようなものが主語になることができるかを確認する。
3	Unit1 英語の主語の種類 2	主語に気を付けながら英作する。
4	Unit2 There 構文 1	「～がある」、「～がいる」という表現の確認。
5	Unit2 There 構文 2	There 構文が使える場合と使えない場合に気を付けながら英作する。
6	Unit3 自動詞と他動詞 1	自動詞と他動詞の使い方を確認する。
7	Unit3 自動詞と他動詞 2	自動詞と他動詞を正確に用いて英作する。
8	Unit4 文型 1	基本 5 文型の確認。
9	Unit4 文型 2	5 文型それぞれの典型的な表現を用いて英作する。
10	Unit5 look, appear, seem, smell, taste, feel1	表題の動詞の使い方を確認する。
11	Unit5 look, appear, seem, smell, taste, feel2	表題の動詞を使って英作する。
12	Unit6 動名詞と不定詞 1	動名詞と不定詞の使い方を確認する。
13	Unit6 動名詞と不定詞 2	動名詞と不定詞を用いて英作する。
14	Unit7 形容詞の文型 1	形容詞の使い方を確認する。

15	Unit7 形容詞の文型 2	"it is ~ for A to do"や"it is ~ of A to do"のような構文を用いて英作する。
16	ガイダンス、前期の復習	後期授業の進め方についての確認。前期試験の見直し。
17	Unit9 助動詞 1	主な助動詞の意味と用法の確認。
18	Unit9 助動詞 2	助動詞を用いての英作。特に助動詞の過去形の役割に注目する。
19	Unit12 完了形 1	現在完了・過去完了・完了進行形の確認。
20	Unit12 完了形 2	特に現在完了の 3 用法と大過去を表す過去完了に注意しながら英作する。
21	Unit16 前置詞 1	基本的な前置詞が持つイメージの確認。
22	Unit16 前置詞 2	様々な前置詞を用いて英作する。
23	Unit17 現在分詞と過去分詞 1	分詞の使い方の確認。
24	Unit17 現在分詞と過去分詞 2	分詞を用いて英作する。
25	Unit19 受け身 1	受動態の確認。
26	Unit19 受け身 2	受動態を用いて英作。特に日本語の能動態が英語でも能動態で表される訳ではないということに注意する。
27	Unit22 関係詞 1	関係代名詞・関係副詞の確認。
28	Unit22 関係詞 2	関係詞を用いてより複雑な文章を書く。また同時に、文を短く切ることで簡潔に表現できることも確認する。
29	Unit23 比較 1	比較級・最上級・原級の確認。
30	Unit23 比較 2	比較構文を用いて英作する。比較級は必ずしも than と共に使われるわけではなく、むしろ単独で使われることの方が多いということを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定したエッセイを読み、和訳できるようにしておくこと。分からない単語や文法事項はしっかりと調べて授業に臨む。訳す場合はただ単語をつなげて何となく訳すのではなく、文章構造を理解して訳す。直訳で終わらすのではなく、できるだけ自然な日本語に訳すよう心掛けること。分からないことがある場合、ただ分からないとするのではなく、何が分からないかを明確にすること。

【テキスト（教科書）】

『Writing Points! Basic Grammar for Better Writing』, 奥田隆一 / Anthony Allan 著, 金星堂, 2012, ¥1,900(税別)

【参考書】

特に指定はありません。高校の授業や受験の時に使った参考書が分からないことがあった時に役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率・予習の有無・授業態度など） 40 %

学期末試験試験 60 %

ただ出席するだけで得点がもらえる出席点はありません。しっかり予習し、指名された際には責任を持って応答することで平常点となります。遅刻、居眠り、私語、予習不足、その他不適切と思われる行為があった場合平常点から減点されることがあります。授業回数 3 分の 1 を超える欠席は成績評価の対象としません。詳しくは 4 月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当の為フィードバックできません。

総合英語Ⅱ(6)

今里 智晃

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライティングを中心として英語の表現力を向上させる授業内容。現代社会の諸問題を論じた英文を読み、語句・語法や文法項目を整理したうえで適切な英文の書き方を学ぶ。

【到達目標】

200 語程度の英文を読んでそこに含まれている文法事項を再確認し、段階的なタスクを通してライティングスキルを身につけ、まとめた英文が書けるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

文法を活用したライティングの教科書を使用し、教員が文法事項を解説、表現上の注意点などを喚起し、学生は授業内での発表や課題に取り組む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、辞書の使い方、成績評価などについての説明
第 2 回	Unit 1	英語の主語
第 3 回	Unit 2	存在構文
第 4 回	Unit 3	自動詞と他動詞
第 5 回	Unit 4	文型
第 6 回	Unit 5	不完全自動詞
第 7 回	Unit 6	動詞 + 動名詞/to 不定詞
第 8 回	Unit 7	形容詞の文型
第 9 回	Unit 8	疑問文
第 10 回	Unit 9	助動詞-1(can, may, must)
第 11 回	Unit 10	助動詞-2(need, should)
第 12 回	Unit 11	進行形
第 13 回	Unit 12	完了形
第 14 回	応用演習	パラグラフ・ライティング
第 15 回	まとめと期末試験	春学期の学習個所の理解度を確認するためのまとめと試験
第 16 回	Unit 13	形容詞の用法
第 17 回	Unit 14	副詞と副詞句
第 18 回	Unit 15	名詞
第 19 回	Unit 16	前置詞
第 20 回	Unit 17	分詞
第 21 回	Unit 18	限定詞
第 22 回	Unit 19	受動文
第 23 回	Unit 20	命令文
第 24 回	Unit 21	接続詞
第 25 回	Unit 22	関係詞
第 26 回	Unit 23	比較
第 27 回	Unit 24	仮定法
第 28 回	応用演習	パラグラフ・ライティング-1
第 29 回	応用演習	パラグラフ・ライティング-2
第 30 回	まとめと期末試験	秋学期の学習個所の理解度を確認するためのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回：特になし
- 第 2 回～第 14 回：前回授業の復習と予習
- 第 15 回：春学期の学習個所の復習
- 第 16 回～第 29 回：前回授業の復習と予習
- 第 30 回：秋学期の学習個所の復習

【テキスト（教科書）】

Writing Points（金星堂:2015）

【参考書】

英語の辞書を毎回持ってくる（スマートフォン搭載の辞書は内容と用例が不十分のため不可）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %（授業への取り組み 10 % + 課題 30 %）+ 各学期末試験 60 % で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して英語が役に立つのだという意識を高めていきたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

総合英語Ⅱ(7)

シェーン・ボール

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study many different styles of communication using commonly reoccurring topics. Students will be given many opportunities to practice situations that they deem most challenging, find the most interesting, or consider to be the most useful

【到達目標】

The main objective of this course is to improve English communication skills. Communication can be performed verbally or written. Throughout this course the students will be given many chances to practice several different speaking and writing styles that occur in many different situations. One important aspect of communication is being able to understand what your partner is expressing. The course will also work to improve this aspect as well through various listening and reading exercises.

【授業の進め方と方法】

This course will not use a textbook. There will be vocabulary and grammar exercises as necessary in order to understand the content, but the majority of learning will be completed through student discussions, role-plays, and other activities. Students will be asked to complete weekly homework in order to increase exposure to English outside of class. If students come to class prepared to be active, ask questions, and speak as much as possible, they will find this class very rewarding.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self introductions and discussion of the class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Meeting old friends or new people	Vocabulary, grammar, reading activity
4	Meeting old friends or new people	Reading and listening activities
5	Meeting old friends or new people	Practical exercises
6	Review and Test	Review previous content and take a test
7	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading activity
8	Describing people, places, and things	Listening and speaking activities
9	Describing people, places, and things	Practical exercises
10	Asking for or giving directions	Vocabulary, grammar, reading activity
11	Asking for or giving directions	Listening and speaking activities
12	Asking for or giving directions	Practical exercises
13	Review and Test	Review all previous content up to this point and take a test
14	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic

15	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
16	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
17	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
18	Student Interest Topic 1	Vocabulary, grammar, and reading activity
19	Student Interest Topic 1	Listening activity and practical exercises
20	Review and Test	Review all previous content up to this point and take a test
21	Student Interest Topic 2	Vocabulary, grammar, and reading activity
22	Student Interest Topic 2	Listening activity and practical exercises
23	Student Interest Topic 3	Vocabulary, grammar, and reading activity
24	Student Interest Topic 3	Listening activity and practical exercises
25	Student Interest Topic 4	Vocabulary, grammar, and reading activity
26	Student Interest Topic 4	Listening activity and practical exercises
27	Student Interest Topic 4	Additional listening activities and practical exercises
28	Review	Review all previous content up to this point and discuss final test
29	Review	Review all previous content up to this point
30	Final Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the weekly homework, students will be expected to come to class having previewed the material to be discussed. Also, during the practical exercises students will be asked to prepare short (1 or 2 minute) role plays to demonstrate their understanding of the material.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Attendance: 10%
Participation 20%
Homework: 10%
Quizzes: 10%
Test 1: 10%
Test 2: 10%
Test 3: 10%
Final Test: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Some of the student interest topics will include more lighthearted, entertaining topics that most college age students are currently interested in.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

総合英語Ⅲ(1)

式町 眞紀子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎なくして応用はありません。また、わかったようなわからないような、という曖昧さを引きずることは、苦手意識を誘導し、モチベーションの妨げとなります。この授業では、リーディング・リスニング・ライティング、そしてスピーキングの基本であり、活用する際の手立てとなる「文法」を体系的に繰り返し学びます。授業は、学生の皆さんが確固たる基礎力を身につけ、発展的に上記 4 技能に対応し得るトレーニングの場とも言えるでしょう。

【到達目標】

どんな種目であれ、ルールを知らずに試合や競技が成り立たないように、英語もルール、すなわち文法なくして成り立ちません。中学・高校レベルから大学入学までに身につけておくべき文法事項を愚直に学習することによって、「なんとなく」で片づけてしまいがちな状況からの脱却を目指します。基礎が固まることによって表現力は豊かになります。わかることの楽しさと、伝わるときの感激を、英語によってでも可能になることを目指します。

【授業の進め方と方法】

動詞・助動詞・時制・5 文型、さらに句動詞やイディオムなどの口語表現別に、一行文章題を 1 回の授業で 15～20 題を目安に取り上げます。テキストは空欄に適語を選択補充するマークシート形式になっていますが、単に記号を選択するのではなく、センテンス単位で理解するために、各自持ち回りで板書し、正誤確認をふまえて訳を検討します。なぜそうなるのかという説明や、語彙の説明もし、応用表現も学びます。目安としては 4 週に 1 度、スポーツの歴史に関するまとまった長さの英文を使い（配布）、演習形式で定着を図ります。以上のことは、各自によるノートづくりを前提とします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction & Guidance	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明。
2	Session 1	上掲授業の進め方に基づき、演習形式で行います。
3	Session 2	つづき
4	Session 3	つづき
5	Session 4	引き続き全員参加型の演習形式で行います。進捗状況によっては演習量を加減することもあります。
6	Review and exercise	既習事項の定着度の確認と、スポーツの歴史についての英文を扱います。
7	Session 5	つづき
8	Session 6	つづき
9	Session 7	上掲授業の進め方に基づき、演習形式で行います。
10	Session 8	つづき
11	Review and exercise	既習事項の定着度の確認と、スポーツの歴史についての英文を扱います。
12	Session 9	上掲授業の進め方に基づき、演習形式で行います。
13	Session 10	つづき
14	Session 11	つづき
15	Term-end review	春学期の学習内容の確認と振り返り
16	Introduction & Guidance	春学期の講評、秋学期の進め方について。

17	Session 10	上掲授業の進め方に基づき、演習形式で行います。秋学期はスピードアップや応用演習も視野に入れます
18	Session 11	つづき
19	Session 12	つづき
20	Session 13	つづき
21	Review and exercise	既習事項の定着度の確認と、スポーツの歴史についての英文を扱います。合わせて、リスニングも行います。
22	Session 14	つづき
23	Session 15	つづき
24	Session 16	つづき
25	Session 17	つづき
26	Review and exercise	既習事項の定着度の確認と、スポーツの歴史についての英文を扱います。合わせて、リスニングも行います。
27	Session 18	つづき
28	Session 19	つづき
29	Session 20	つづき
30	Term-end review	秋学期の学習内容の確認と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は前提ですが、文法の場合は復習がさらに大事になります。やりっぱなしではなく、学習事項を踏まえて定着を図ること。また、各自の関心に従い、ネットやテレビなどで英文に触れること。

【テキスト（教科書）】

小池直己『英文法の要点整理 *Step by Step English Grammar*』

英光社、2009

英文による「スポーツの歴史」、リスニングの script 集などはプリントを用意します。

【参考書】

各種英和辞典（紙、電子いずれでも）辞書を忘れた場合は欠席扱いとします。また、スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので、教室での使用は認めません。これに関連して、机上に授業と関係のないものを置くことに対してはペナルティを科します。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成します。欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処します。②定期試験・中間試験ほか小テスト 30 % ③課題や提出物 30 % 授業での参加態度を反映するノート提出は特に重視します。以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「基礎的な文法を改めて見直すことができ、writing においても speaking においても基礎力の大切さを痛感した」「時制の捉えかたなど、よく理解していなかった項目が明らかになって良かった」「丁寧な授業でわかりやすかった」

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

必修科目であることを忘れないでください。学生によっては、専門的な学部に入學したという自負から、時として英語科目を軽視する態度に繋がっているようですが、将来、進学するにしろ就職するにしろ、また好き嫌いや得意不得意に関わらず、英語は一生あなたたちについてまわります。

総合英語Ⅲ (2)

浦川 智子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本の技術や注目のアスリートなどに関する英文を扱うにあたり、次の 3 点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を身につける。英文の内容・要点を正確に理解できる。リスニングの演習を通して英語の発音などの特徴を理解する。

【到達目標】

辞書を使いながら、テキストの英文の語彙や文法、構文を理解し、要点を正確に把握することができる。また、テキストで扱うテーマを通して、改めて日本の技術や日本を代表するアスリートなどに興味を持ち、理解を深めるための土台を築くことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業で扱う Chapter の単語や構文確認、演習問題をあらかじめ予習しておくことを前提とする。授業では適宜単語テストを実施し、テキストの英文の内容について受講者の理解を確認しつつ解説をおこなう。また、文法の確認の際には TOEIC などの試験の演習問題もおこなう。授業の進捗によって授業計画に若干の変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Chapter 1. Mao Asada (1)	Chapter 1 の講読
3	Chapter 1. Mao Asada (2)	Chapter 1 の文法確認（文型）
4	Chapter 2. Eri Fukatsu (1)	Chapter 2 の講読
5	Chapter 2. Eri Fukatsu (2)	Chapter 2 の文法確認（名詞と代名詞）
6	Chapter 3. Takashi Murakami (1)	Chapter 3 の講読
7	Chapter 3. Takashi Murakami (2)	Chapter 3 の文法確認（動詞）
8	Chapter 4. Two World Champions (1)	Chapter 4 の講読
9	Chapter 4. Two World Champions (2)	Chapter 4 の文法確認（助動詞）
10	Chapter 5. Tokyo Skytree (1)	Chapter 5 の講読
11	Chapter 5. Tokyo Skytree (2)	Chapter 5 の文法確認（分詞）
12	Chapter 6. Ocean Biodiversity (1)	Chapter 6 の講読
13	Chapter 6. Ocean Biodiversity (2)	Chapter 6 の文法確認（進行形）
14	Chapter 7. Hayabusa	Chapter 7 の講読と文法確認（完了時制）
15	春学期試験・総括	春学期における学習到達度をはかる
16	イントロダクション	秋学期の授業の目標と計画のガイダンス
17	Chapter 8. Green Technology (1)	Chapter 8 の講読
18	Chapter 8. Green Technology (2)	Chapter 8 の文法確認（受動態）
19	Chapter 9. Rice (1)	Chapter 9 の講読
20	Chapter 9. Rice (2)	Chapter 9 の文法確認（不定詞）
21	Chapter 10. Biofuel (1)	Chapter 10 の講読

22	Chapter 10. Biofuel (2)	Chapter 10 の文法確認（動名詞）
23	Chapter 11. Medical Tourism (1)	Chapter 11 の講読
24	Chapter 11. Medical Tourism (2)	Chapter 11 の文法確認（形容詞）
25	Chapter 12. E-Books (1)	Chapter 12 の講読
26	Chapter 12. E-Books (2)	Chapter 12 の文法確認（比較）
27	Chapter 13. Secondhand Markets	Chapter 13 の講読と文法確認（接続詞）
28	Chapter 14. Charitable Activities	Chapter 14 の講読と文法確認（関係代名詞）
29	Chapter 15. Fast Fashion	Chapter 15 の講読と文法確認（仮定法）
30	秋学期試験・総括	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：シラバス記載内容（授業計画、予習等）の確認

第 2～15 回：前回の授業で扱った重要語句を復習し、次回で扱う Chapter の読解、語彙や文法を事前に確認する。

第 16 回：春学期の確認

第 17～30 回：前回の授業で扱った重要語句を復習し、次回で扱う Chapter の読解、語彙や文法を事前に確認する。

【テキスト（教科書）】

JoAnn Parochetti 他共著、『Vitality of Japan (活力あふれる日本)』南雲堂、2014 年

【参考書】

辞書を持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、授業内の発表、課題等）：30%、2 回の期末試験（春学期、秋学期）：70%、合計 100%として評価する。評価基準は A+：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60 とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、リーディングやリスニングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

総合英語Ⅲ (3)

北出 広子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プリント教材を用いて、パラグラフ毎に英文の大意を読み取り、要約する訓練を養います。パラグラフ・リーディングの重要性及びパラグラフの構造や要約する仕方について学びます。加えて、語彙の増強に役立つテキストを補助教材として併用します。

【到達目標】

英文の大意をパラグラフ単位で捉えて要約することにより、内容要約力と解釈力を養います。文単位からパラグラフ単位へ、さらにその課の内容へと理解を深めていきます。また、英文読解の速度を向上させるために、音読しながら内容を掴む練習を行います。声を出して繰り返し読むことは、英文の構造を理解する練習にも繋がります。一方テキストでは、単語・熟語・日常的に頻出される慣用表現などを習得します。

【授業の進め方と方法】

まずテキストを使用して練習問題を解きますが、その中から小テストを行います。次にプリント教材では、文章を音読して英文和訳を行います。その際に、重要な語彙や文法の知識を確認しながら内容を理解します。パラグラフの 1 つを利用して、グループワークで要約文の作成を行うことがあります。なお、要約の仕方に慣れるために、要約の課題を提出したりします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとパラグラフの構造について	授業の方針や進め方、小テストや成績評価方法及びパラグラフの構造について説明します。
第 2 回	プリント教材 1A テキスト Lesson 1	Flightless Birds 社会・文化に関する語句
第 3 回	プリント教材 1A テキスト Lesson 1	Flightless Birds 社会・文化に関する語句
第 4 回	プリント教材 1B テキスト Lesson 3	Wildlife Photography 経済・ビジネスに関する語句
第 5 回	プリント教材 2A テキスト Lesson 3	Dressing for the Season 経済・ビジネスに関する語句
第 6 回	プリント教材 2A テキスト Lesson 7	Dressing for the Season 教育・大学に関する語句
第 7 回	プリント教材 2B テキスト Lesson 7	Protection from the Sun 教育・大学に関する語句
第 8 回	中間テスト	音読テスト
第 9 回	プリント教材 6A テキスト Lesson 9	Muscles and Their Functions 交通・旅行に関する語句
第 10 回	プリント教材 6A テキスト Lesson 9	Muscles and Their Functions 交通・旅行に関する語句
第 11 回	プリント教材 6B テキスト Lesson 10	Training to Be a Runner マスコミ・放送・情報に関する語句
第 12 回	プリント教材 11A テキスト Lesson 10	The Usefulness of Mud マスコミ・放送・情報に関する語句
第 13 回	プリント教材 11A テキスト Lesson 11	The Usefulness of Mud 郵便・電話・メールに関する語句
第 14 回	プリント教材 11B テキスト Lesson 11	Preparing Adobe Bricks 郵便・電話・メールに関する語句
第 15 回	期末試験	筆記試験とまとめ
第 16 回	プリント教材 16A テキスト Lesson 14	George Washington Carver 食品・食事に関する語句
第 17 回	プリント教材 16A テキスト Lesson 14	George Washington Carver 食品・食事に関する語句
第 18 回	プリント教材 16B テキスト Lesson 15	The Health Value of Nuts 健康・医学に関する語句
第 19 回	プリント教材 18A テキスト Lesson 15	The Importance of a Balanced Diet 健康・医学に関する語句
第 20 回	プリント教材 18A テキスト Lesson 17	The Importance of a Balanced Diet 日常生活に関する語句

第 21 回	プリント教材 18B テキスト Lesson 17
第 22 回	中間試験
第 23 回	プリント教材 23A テキスト Lesson 18
第 24 回	プリント教材 23 A テキスト Lesson 18
第 25 回	プリント教材 23B テキスト Lesson 19
第 26 回	プリント教材 25A テキスト Lesson 19
第 27 回	プリント教材 25A テキスト Lesson 20
第 28 回	プリント教材 25B テキスト Lesson 20

第 29 回 プリント教材
(英字新聞より)

第 30 回 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント教材の英文和訳と音読を行う。その際に、教材のテーマがスポーツや健康を含めて様々な科学なので、単語の意味や発音を辞書でよく調べて内容を捉える。また、小テストのための復習にも力を入れる。要約の課題は期限内に提出する。

【テキスト（教科書）】

A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes、佐藤誠司、南雲堂、700 円（税別）
プリント教材では、**Timed Readings Plus in Science (McGraw-Hill)** のテキストの中から適宜抜粋してプリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加 20%
 - 2) 小テスト・音読テスト・課題提出など 30%
 - 3) 期末試験 50%
- 詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

プリント教材の進め方は課ごとの順番通りではありませんので、[授業計画] 中にある「テーマ」に記載されている数字に気を付けてください。授業の展開によって若干の変更があり得ます。

The Need for Exercise

日常生活に関する語句

音読テスト

A History of Mountaineering

家族・対人関係に関する語句

A History of Mountaineering

家族・対人関係に関する語句

Learning to Rock Climb

人の性格・態度などに関する語句

Animal Communication

人の性格・態度などに関する語句

Animal Communication

時・場所に関する語句

Can Animals Communicate with People?

時・場所に関する語句

Mountain queen not done yet

英字新聞の見出しや新聞記事の特徴について説明します。

筆記試験とまとめ

総合英語Ⅲ (4)

渡辺 廣人

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。その基本的な成り立ちのリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回、確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価等を説明する。
2	Unit 1-1	読解のポイント 本文
3	Unit 1-2	本文
4	Unit 1-3	本分 Dictation
5	Unit 2-1	読解のポイント 本文
6	Unit 2-2	本分
7	Unit 2-3	本分 Dictation
8	Unit 3-1	読解のポイント 本文
9	Unit 3-2	本文
10	Unit 3-3	本分 Dictation
11	Unit 4-1	読解のポイント 本文
12	Unit 4-2	本分
13	Unit 4-3	本分 Dictation
14	Unit 5-1	読解のポイント 本文
15	学期末まとめ	総括、春学期末試験
16	Unit 5-2	本分
17	Unit 5-3	本分 Dictation
18	Unit 6-1	読解のポイント 本文
19	Unit 6-2	本分
20	Unit 6-3	本文 Dictation
21	Unit 7-1	読解のポイント 本文
22	Unit 7-2	本分
23	Unit 7-3	本分 Dictation
24	Unit 8-1	読解のポイント 本文
25	Unit 8-2	本分
26	Unit 8-3	本分 Dictation
27	Unit 9-1	読解のポイント 本文
28	Unit 9-2	本文
29	Unit 9-3	本分 Dictation
30	学年末まとめ	総括、秋学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味のわからない単語は英和辞典で確認し、必ず自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト（教科書）】

What Really Happened? 邦題『ほんと？ うそ？ 世界のびっくりミステリー』Frank

Bailey 他著 開文社出版 2016 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験：50% 確認テスト・レポート・発表等：20% 平常点：20% 授業態度：10%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計途中なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならぬ。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

総合英語Ⅲ (5)

相馬 美明

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ①～②, Your Song, Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises + a, まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩
14	Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出
15	学期末テスト	学期末テスト
16	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
17	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
18	Power Exercises + a	Exercise 10, Coin changer, Film ①
19	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①～②
20	Power Exercises + a, プレゼンテーションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテーションについて指示、説明

21	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
22	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ②～③
23	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
24	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③～④
25	プレゼンテーション準備	Exercise まとめ、力だめし
26	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
27	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
28	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
29	一年のまとめ、確認	一年のまとめ、確認
30	学期末	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト（教科書）】

YOUR ACCESS TO THE FUTURE（南雲堂フェニックス）和田晋一、大東俊一ほか

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50 %）、レポート（10 %）、平常点（30 %）、プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

総合英語Ⅲ (6)

蒔田 裕美

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスに関するエッセイの精読を通して読解力を高め、文法・語彙力の育成を目的とする。

【到達目標】

発音記号を理解し、正しく音読ができるようになる。
英文の大体の意味を掴むのではなく、文法事項を確認し、文脈に合った単語の意味を辞書で調べ、正しい解釈ができるようになる。
イギリスについての知識が深まる。

【授業の進め方と方法】

イギリスの社会における問題や文化に関するエッセイを精読する。
毎回発音記号を説明し、適宜 CD を用いて音声聞き分け、正しく発音する訓練を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認し、辞書指導を行う。
2	Chapter1: Class	階級について学ぶ
3	Chapter1: Class	Questions for further discussion and writing
4	Chapter2: Education	教育について学ぶ
5	Chapter2: Education	Questions for further discussion and writing
6	Chapter3: Feminism	フェミニズムについて学ぶ
7	Chapter3: Feminism	Questions for further discussion and writing
8	Chapter4: Health and Age	健康問題について学ぶ
9	Chapter4: Health and Age	Questions for further discussion and writing
10	Chapter5: Crime and Punishment	犯罪について学ぶ
11	Chapter5: Crime and Punishment	Questions for further discussion and writing
12	Chapter6: Drugs	ドラッグ問題について学ぶ
13	Chapter6: Drugs	Questions for further discussion and writing
14	Chapter7: Sport	イギリス発祥のスポーツについて学ぶ
15	中間試験	Chapter1 - 7 で学んだ事項の確認
16	Chapter7: Sport	Questions for further discussion and writing
17	Chapter8: Religion	宗教について学ぶ
18	Chapter8: Religion	Questions for further discussion and writing
19	Chapter9: Monarchy	英国王室について学ぶ
20	Chapter9: Monarchy	Questions for further discussion and writing
21	Chapter10: Love and Marriage	イギリスの結婚事情について学ぶ
22	Chapter10: Love and Marriage	Questions for further discussion and writing
23	Chapter11: Environment	環境問題について学ぶ
24	Chapter11: Environment	Questions for further discussion and writing

25	Chapter12: Immigration and Race	人種問題について学ぶ
26	Chapter12: Immigration and Race	Questions for further discussion and writing
27	Chapter13: Ireland	アイルランドについて学ぶ
28	Chapter13: Ireland	Questions for further discussion and writing
29	Chapter14: Europe	ヨーロッパ内でのイギリスの位置について学ぶ。
30	期末試験	Chapter7-14 で学んだ事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、予習をしていることを前提に進める。分からない単語の意味は必ず辞書で調べて授業に臨むこと。
授業には、辞書を持参すること。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati『Life and Society in Modern Britain』英宝社、2008 年、1800 円（税別）
関根応之『5 分間英語発音』南雲堂、2013 年、700 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30%、試験 70% を基本とする。通年で三分の一年以上欠席した場合には、単位を認められない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くなりすぎないように、学生の理解度に合わせた授業展開を心がけたい。

総合英語Ⅲ (7)

小川 真也

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の事象や問題を論じた記事を英語で読み、英語の読解力を身に付ける。

【到達目標】

リーディングを中心に勉強するこの授業では、第一に、英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけることを目指す。第二に、まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになることを目指す。第三に、段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになることを目指す。第四に、記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付けることを目指す。

【授業の進め方と方法】

基本的に 1 つの Chapter を 1 回の授業で読む。授業冒頭ではテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いて英文を正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら訳読し、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Chapter ごとに小テストを行なう。

授業の進捗状況によって、適宜、関連したトピックを取り上げる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法の説明
2	Chapter 1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	文章を書く：トラブルに巻き込まれないよう書く時にはご注意ください
3	Chapter 6 Man Versus Machine: How are machines changing society?	人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか
4	Chapter 11 Saving the Environment: Can one person make a difference?	環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか
5	時事ニュース講読	時事ニュースを読む
6	Chapter 16 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big questions?	未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか
7	Chapter 2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible?	見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか
8	Chapter 7 More Than Enough: Are some people just too rich?	十分すぎるほどの資産：裕福すぎるひともいる？
9	英作文	扱った記事に関して各自の意見を英作文
10	Chapter 12 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか
11	Chapter 17 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	現実と幻想：身の周りの出来事が本当に「現実」だと確信は持てるか
12	Chapter 3 Girl Power: Do female action stars really empower women?	ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか
13	Chapter 8 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	周りをよく見て：スマホ依存の人もある？
14	関連記事講読	関連記事を読む
15	期末試験	扱った記事から出題
16	イントロダクション	春学期期末試験の講評と英作文
17	Chapter 13 Hit the Road: Where can we find some of the most scenic drives?	ドライブに出発：景色の良いドライブ道はどこにあるか
18	Chapter 18 The Golden Rule: How do people decide what is moral and immoral?	黄金律：人は道徳と不道徳の境をどのように決めるのか

19	Chapter 4 It's Just a Game: What are some of the big debates in sports today?	たかが試合、されど試合：今日のスポーツ界が抱える大きな論争とは
20	時事ニュース講読	時事ニュースを読む
21	Chapter 9 Mind Your Manners: Is rude behavior on the rise?	マナーは守ろう：失礼な行為をする人が増えている？
22	Chapter 14 It's Getting Crowded: How is population growth changing the world?	人口過密：人口増で世界はどのように変わりつつあるのか
23	Chapter 19 Doing What We Want: Are we really free to make choices?	自由に生きる：私は本当に自由に選択しているのか
24	英作文	扱った記事に関する各自の意見を英作文
25	Chapter 5 That's News to Me: Can we really trust the press?	それは初耳だ：マスコミは本当に信頼できるか
26	Chapter 10 Constant Threat: How can we balance personal liberty and public safety?	常にある脅威：個人の自由と公共の安全のバランスをどう取るか
27	Chapter 15 Highly Contagious: Is the world ready for the next outbreak?	感染性の高い病気：次の世界的流行病への備えは十分か
28	Chapter 20 Little Green Men: Are we alone in the universe?	地球外生命：我々はこの宇宙で唯一の生物なのか
29	関連記事講読	関連記事を読む
30	期末試験	扱った記事から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Chapter 終了後には小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking About Our Place in the World — New Questions, New Answers —
François de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 定価 1900 円

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 20 % 小テスト 30 % 試験 50 %

各学期、欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

段落の要約、記事のまとめを充分に実施する。

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

総合英語Ⅳ (1)

衣川 清子

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近、多くのスポーツ分野で海外で活躍する日本人選手が増えていく。彼らの活躍を伝える英字新聞や英文ニュースやインタビュー記事を読み、海外の生活体験やスポーツ事情、外国人として経験する喜びや苦悩、彼らが後輩たちに伝えたいことなどを学ぶ。そうした記事の英語表現から英作文や表現活動に応用できるものをピックアップし、それらを使うトレーニングを行う。

【到達目標】

- ①比較的平台なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
- ②スポーツ記事で使われている平易な英語表現を自分の英作文や表現活動で活用し、作文課題やプレゼンテーションに生かす。

【授業の進め方と方法】

比較的平台なスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書とノートを持参すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①前半
3	見出しのルール	記事①後半
4	英語の文型	記事②前半
5	品詞の種類	記事②後半
6	動詞の種類	記事③前半
7	句と節	記事③後半
8	中間テスト	中間テスト
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事④前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事④前半
11	時制（進行形）	記事⑤前半
12	時制（完了形）	記事⑤後半
13	時制の一致・プレゼンテーションのためのレクチャー	プレゼンテーション準備作業 資料集め
14	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーション準備作業 スライド作成
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション
16	秋学期イントロダクション	秋学期イントロダクション；授業に臨む心構え
17	英語らしい表現とは	記事⑥前半
18	無生物主語	記事⑥後半
19	言い換え表現	記事⑦前半
20	仮定法過去	記事⑦後半
21	仮定法過去完了	記事⑧前半
22	中間テスト前のまとめ	記事⑧後半
23	中間テスト	中間テスト
24	中間テスト返却、講評	記事⑨前半
25	直接話法と間接話法	記事⑨後半
26	分詞構文	記事⑩前半
27	付帯状況	記事⑩後半
28	作文課題について・レクチャー	作文課題準備 テーマの設定
29	秋学期のまとめ	作文課題準備 課題作成の注意点
30	作文課題提出	作文課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース、特に海外で活躍する日本人選手の記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末のプレゼンテーション・課題 35 % + 平常点（出席点含む）30 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容・順序が変更される場合もあります。

総合英語Ⅳ (2)

出縄 貴良

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主にライティングを通して、基本的な文法確認をしながら正しい英文を書けるようにします。英語の表現を学ぶ為には、実際の英語に触れることが不可欠であるので、リーディングも行います。読解を通して重要表現をインプットし、英作文を通してアウトプットします。日本語で考えたことをそのまま英作しようとしても難しいことに気づくはずです。英語には英語の表現の仕方があるからです。そのような英語独特の表現方法を学び、表現したいこととなるべく簡潔に表現する訓練も行います。最初は一行から始めて、徐々にまとまった文章を書けることを目指します。

【到達目標】

これまで習ってきた文法を再度確認し、文法的に正しい英文を書けるようにする。重要な表現やフレーズを身に付け、それらを用いて自分なりのアウトプットができるようになる。日本語と英語とは表現の仕方に異なる部分があることを理解し、より英語らしい文章を書けるようにする。ある程度まとまった文章を論理的に書けるようにする。

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。授業 2 回で Unit1 回分を終える予定です。1 回目では単元の文法の確認をし、表現に注意しながら短めのエッセイを読みます。エッセイは分からない単語などは調べしっかりと予習して授業に臨んでください。2 回目では学んだ文法事項に気を付けながら英作をします。演習時間を取り、その後解説に移ります。授業では毎回出席者全員を指名し発言してもらうことになります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明を行います。各自の英語力を知るために簡単な調査をします。
2	Unit1 英語の主語の種類 1	英語ではどのようなものが主語になることができるかを確認する。
3	Unit1 英語の主語の種類 2	主語に気を付けながら英作する。
4	Unit2 There 構文 1	「～がある」、「～がいる」という表現の確認。
5	Unit2 There 構文 2	There 構文が使える場合と使えない場合に気を付けながら英作する。
6	Unit3 自動詞と他動詞 1	自動詞と他動詞の使い方を確認する。
7	Unit3 自動詞と他動詞 2	自動詞と他動詞を正確に用いて英作する。
8	Unit4 文型 1	基本 5 文型の確認。
9	Unit4 文型 2	5 文型それぞれの典型的な表現を用いて英作する。
10	Unit5 look, appear, seem, smell, taste, feel1	表題の動詞の使い方を確認する。
11	Unit5 look, appear, seem, smell, taste, feel2	表題の動詞を使って英作する。
12	Unit6 動名詞と不定詞 1	動名詞と不定詞の使い方を確認する。
13	Unit6 動名詞と不定詞 2	動名詞と不定詞を用いて英作する。
14	Unit7 形容詞の文型 1	形容詞の使い方を確認する。

15	Unit7 形容詞の文型 2	"it is ~ for A to do"や"it is ~ of A to do"のような構文を用いて英作する。
16	ガイダンス、前期の復習	後期授業の進め方についての確認。前期試験の見直し。
17	Unit9 助動詞 1	主な助動詞の意味と用法の確認。
18	Unit9 助動詞 2	助動詞を用いての英作。特に助動詞の過去形の役割に注目する。
19	Unit12 完了形 1	現在完了・過去完了・完了進行形の確認。
20	Unit12 完了形 2	特に現在完了の 3 用法と大過去を表す過去完了に注意しながら英作する。
21	Unit16 前置詞 1	基本的な前置詞が持つイメージの確認。
22	Unit16 前置詞 2	様々な前置詞を用いて英作する。
23	Unit17 現在分詞と過去分詞 1	分詞の使い方の確認。
24	Unit17 現在分詞と過去分詞 2	分詞を用いて英作する。
25	Unit19 受け身 1	受動態の確認。
26	Unit19 受け身 2	受動態を用いて英作。特に日本語の能動態が英語でも能動態で表される訳ではないということに注意する。
27	Unit22 関係詞 1	関係代名詞・関係副詞の確認。
28	Unit22 関係詞 2	関係詞を用いてより複雑な文章を書く。また同時に、文を短く切ることで簡潔に表現できることも確認する。
29	Unit23 比較 1	比較級・最上級・原級の確認。
30	Unit23 比較 2	比較構文を用いて英作する。比較級は必ずしも than と共に使われるわけではなく、むしろ単独で使われることの方が多いということを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定したエッセイを読み、和訳できるようにしておくこと。分からない単語や文法事項はしっかりと調べて授業に臨む。訳す場合はただ単語をつなげて何となく訳すのではなく、文章構造を理解して訳す。直訳で終わらすのではなく、できるだけ自然な日本語に訳すよう心掛けること。分からないことがある場合、ただ分からないとするのではなく、何が分からないかを明確にすること。

【テキスト（教科書）】

『Writing Points! Basic Grammar for Better Writing』, 奥田隆一 / Anthony Allan 著, 金星堂, 2012, ¥1,900(税別)

【参考書】

特に指定はありません。高校の授業や受験の時に使った参考書が分からないことがあった時に役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席率・予習の有無・授業態度など） 40 %

学期末試験試験 60 %

ただ出席するだけで得点がもらえる出席点はありません。しっかり予習し、指名された際には責任を持って応答することで平常点となります。遅刻、居眠り、私語、予習不足、その他不適切と思われる行為があった場合平常点から減点されることがあります。授業回数 3 分の 1 を超える欠席は成績評価の対象としません。詳しくは 4 月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当の為フィードバックできません。

総合英語Ⅳ (3)

今里 智晃

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・ 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライティングスキルを向上させる授業。インターネット、メール、SNS では「読む・書く」ことがコミュニケーション手段である。したがって、このクラスではメールでのやり取りを中心にして段階的なタスクに取り組みながら相手に自分の伝えたいことを英語で簡潔に書くことを学ぶ。

【到達目標】

「メールを書く」、「自分について書く」、「出来事を描写する」、「グラフや図をまとめる」、「意見を述べる」などいろいろな状況を想定して具体的な内容を含む英文を論理的に書けるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

教科書を使用し、各ユニットにある英文や図表を読み取り、リスニングやディクテーションを行い、与えられた表現を活用してタスクに取り組みオリジナルの英文を書きあげていく。出来上がった英文を発表して意見交換をする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、辞書の使い方、成績評価などについての説明
第 2 回	Unit 1	友人宛のメール Step 1-2
第 3 回	Unit 1	友人宛のメール Step 3-4
第 4 回	Unit 2	先輩・先生宛のメール Step 1-2
第 5 回	Unit 2	先輩・先生宛のメール Step 3-4
第 6 回	Unit 3	苦情メール Step 1-2
第 7 回	Unit 3	苦情メール Step 3-4
第 8 回	Unit 4	自己紹介文 Step 1-2
第 9 回	Unit 4	自己紹介文 Step 3-4
第 10 回	Unit 5	自分の趣味 Step 1-2
第 11 回	Unit 5	自分の趣味 Step 3-4
第 12 回	Unit 6	自分の夢 Step 1-2
第 13 回	Unit 6	自分の夢 Step 3-4
第 14 回	Unit 7	自分の出来事 1-2
第 15 回	まとめと期末試験	春学期の学習個所の理解度を確認するためのまとめと試験
第 16 回	Unit 8	写真や絵の説明 Step 1-2
第 17 回	Unit 8	写真や絵の説明 Step 3-4
第 18 回	Unit 9	印象的な思い出 Step 1-2
第 19 回	Unit 9	印象的な思い出 Step 3-4
第 20 回	Unit 10	グラフや図 Step 1-2
第 21 回	Unit 10	グラフや図 Step 3-4
第 22 回	Unit 11	アンケート Step 1-2
第 23 回	Unit 11	アンケート Step 3-4
第 24 回	Unit 12	調査結果に対する自分の意見 Step 1-2
第 25 回	Unit 12	調査結果に対する自分の意見 Step 3-4
第 26 回	Unit 13	賛成・反対の表明 Step 1-2
第 27 回	Unit 13	賛成・反対の表明 Step 3-4
第 28 回	Unit 14	自分の要望 Step 1-2
第 29 回	Unit 14	自分の要望 Step 3-4
第 30 回	まとめと期末試験	秋学期の学習個所の理解度を確認するためのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2 回～14 回：前回授業の復習と予習

第 15 回：春学期の学習個所の復習

第 16 回～第 29 回：前回授業の復習と予習

第 30 回：秋学期の学習個所の復習

【テキスト（教科書）】

Have Fun Writing（金星堂:2017）

【参考書】

英語の辞書（スマートフォン搭載の辞書は内容と用例が不十分のため不可）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %（授業への取り組み 10 % + 課題 30 %）+ 各学期末試験 60 % で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して英語が役に立つのだという意識を高めていきたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

総合英語Ⅳ (4)

松下 晴彦

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語Ⅰ・Ⅱで習得した英語基礎力を充実・発展させながら、反復学習し英語力の定着を目標とする。ある程度のコミュニケーションを自力で行うための土台づくりを目指す。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。
海外に遠征に行った場合に困らない日常会話を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

テキストで基本的な英文法を復習し、英語で表現する。毎回、前回の復習テストを行う。反復学習をしていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	Japanese Cultural Invasion Part 1	Unit 1
第 3 回	Japanese Cultural Invasion Part 2	問題演習
第 4 回	Emoji: From Japan to the World Part 1	Unit 2
第 5 回	Emoji: From Japan to the World Part 2	問題演習
第 6 回	Tokyo 2020: Chance for a New Beginning Part 1	Unit 3
第 7 回	Tokyo 2020: Chance for a New Beginning Part 2	問題演習
第 8 回	Pet Obsession Part 1	Unit 4
第 9 回	Pet Obsession Part 2	問題演習
第 10 回	Silver Japan Part 1	Unit 5
第 11 回	Silver Japan Part 2	問題演習
第 12 回	Changing Gender Roles Part 2	Unit 6
第 13 回	Changing Gender Roles Part 1	問題演習
第 14 回	Maternity Harassment	Unit 7
第 15 回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験
第 1 回	Digital Youth Part 1	Unit 8
第 2 回	Digital Youth Part 2	問題演習
第 3 回	Japan's Peaceful Poor Part 1	Unit 9

第 4 回	Japan's Peaceful Poor Part 2	問題演習
第 5 回	The Idol-Making Machine Part 1	Unit 10
第 6 回	The Idol-Making Machine Part 2	問題演習
第 7 回	Japanese Hospitality Part 1	Unit 11
第 8 回	Japanese Hospitality Part 2	問題演習
第 9 回	Shrinking Cities Part 1	Unit 12
第 10 回	Shrinking Cities Part 2	問題演習
第 11 回	Student Power Part 1	Unit 13
第 12 回	Student Power Part 2	問題演習
第 13 回	Japan in Space Part 1	Unit 14
第 14 回	Japan in Space Part 2	問題演習

第 15 回 試験・学期末のまとめ 語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。ノートを用意し、未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。授業後、内容の復習をする。毎回、復習の課題を出すので、自習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『日本を知り、そして世界を知り、そして考える』上村淳子（Cengage Learning）本体 2,000 円＋税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

授業にて演習をするのが主となるので、全出席が期待されている。

総合英語Ⅳ (5)

村井 三千男

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) の向上を目指す。特に productive skills である speaking, writing 力の向上を重視する。

【到達目標】

英語の4技能の向上を目指す。特に発表能力である speaking と writing の能力向上を目指している。具体的には各学生に Oral Presentation を課しており、Self-Introduction, Show & Tell などの言語活動を通じての speaking 力向上を行なう。また各課に Applied-Level Comprehension, What If? の項目があり、それらについての作文の活動を通じて writing 力の向上を目指す。また教科書中に見られる Reading Strategy は Writing Strategy に通じる箇所があるので重視する。Introduction, Body, Conclusion など writing の基礎の習得も目指す。

【授業の進め方と方法】

教科書は Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Test, What Happened, Graphic Organizer, What Followed, Applied-Level Comprehension, What If? など多岐に亘る項目がある。このうち What Happened, What Followed などの reading 活動にはさほど時間を掛けず、Applied-Level Comprehension, What Followed なその writing 活動や speech(self-introduction) などの speaking 活動に時間を掛ける予定である。video (英語版) を観て粗筋や感想を英文で書くという言語活動も随時含めることとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Orientation	自己紹介 授業の説明 予習・復習等の説明 etc.
2 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
3 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
4 回	Unit01 Steve Jobs, A Dismissed Founder	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
5 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
6 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
7 回	Unit02 Saving the Hubble Space Telescope	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
8 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
9 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
10 回	Unit03 Invention of the Microwave Oven	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
11 回	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
12 回	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
13	Unit04 The Unbeatable Chess Computer	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
14 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
15 回	定期テスト	(まとめ)
16 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
17 回	Unit05 The Hillsborough Disaster	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?

18 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
19 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
20 回	Unit06 What Happened to JAL123?	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
21 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
22 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
23 回	Unit07 The Titanic Tragedy	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
24 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
25 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
26 回	Unit08 Penicillin: It All Started with Mold	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
27 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches Vocabulary Check, What It Was Like, True or False Check
28 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches What Happened, Graphic Organizer
29 回	Unit09 The Apollo 13 Mission: A Successful Failure	Students' Speeches What Followed, Applied-Level Comprehension, What If?
30 回	定期テスト	(まとめ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は十分な予習を行なって授業に臨んで下さい。(授業の際 speech を行うことに決まっている学生は必ず練習してから授業に臨むこと。) また随時出される課題は、期日までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

Masanori Terauchi, Atsushi Koiso, Michio Murai 他著 Phoenix from the Flames
CENGAGE Learning (センゲージ・ラーニング) 2,000 円

【参考書】

必要な場合には授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト 50% 授業内課題 25% 授業外課題 25%
なお、授業内課題とは Speech, あるいは授業内での作文、授業外課題とは、課題として writing 活動を行うというレポート課題などを表す。

【学生の意見等からの気づき】

要点についてまとめて板書するので、ノートを取りながら聴くことを望みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。(辞書や電子辞書を用いるのは、授業前の予習の段階で行なうてほしい活動です。授業中はそのような活動ではなく、注意して講義を聴くことに専念することが望まれます。)

【その他の重要事項】

できる限り出席して、理解できない点は質問してほしいと思います。また予習・復習を十分に行うとともに、授業を熱心に受けることが重要です。

総合英語Ⅳ (6)

齋藤 元治

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の表現力を含めた総合的な英語力を習得することを目指します。リスニング、会話、英作文、パラグラフライティングの力をつけるには、基本的な英文の構文と文法事項をきちんと把握していることが不可欠です。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、英語での発信力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

予習して授業に参加することを前提に講義を進めます。英文の構造をしっかりと把握し、内容を理解しながら英語圏の文化や社会的な慣習について理解を深めます。テキストの購読をベースに、リスニング、英作文の小テスト等を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方等の説明	英語の勉強の仕方や進度等の説明
第 2 回	Chapter 1	My English, Your English, Our English
第 3 回	Chapter 1, 2	My English, Your English, Our English A Short Story of the Miniskirt
第 4 回	Chapter 2	A Short Story of the Miniskirt
第 5 回	Chapter 3	The Cutest Car Ever Made -The Mini
第 6 回	chapter 3,4	Always in Fashion- The Suit
第 7 回	Chapter 4	Always In Fashion- the Suit
第 8 回	Chapter 4,5	The English Gentleman- Does He really Exist Anymore?
第 9 回	Chapter 5	The English Gentleman- Does He really Exist Anymore?
第 1 0 回	chapter 5,6	Thinking Machine- The Story of the Computer
第 1 1 回	chapter 6	Thinking Machine- The story of the Computer
第 1 2 回	Chapter 7,	I Get Around - Transport
第 1 3 回	Chapter 7,8	London- How the Centre of the Financial World Started in a Coffee shop
第 1 4 回	Chapter 8	London- How the Centre of the Financial World Started in a Coffee shop
第 1 5 回	期末まとめ	試験既習事項の確認・評価
第 1 6 回	Chapter 9	Issac Newton and Beyond
第 1 7 回	Chapter 9,10	Titans of the English Language
第 1 8 回	Chapter 10	Titans of the English Language

第 1 9 回	Chapter 11,	The British and Their Food
第 2 0 回	Chapter 11,12	A Nice Cup of Tea
第 2 1 回	Chapter 12	A Nice Cup of Tea
第 2 2 回	Chapter 13	The British Pub
第 2 3 回	Chapter 13,14	Golf
第 2 4 回	Chapter 14	Golf
第 2 5 回	Chapter 15	A Short History of British Pop
第 2 6 回	Chapter 15,16	Football
第 2 7 回	Chapter 16	Football
第 2 8 回	Chapter 17	The BBC
第 2 9 回	Chapter 17,18	Harrods, Burberry and More
第 3 0 回	期末まとめ	既習事項の確認・評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いを常に意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Made in Britain [「イギリスの底力」
Antony Sellick, John Barton, Norio Shimamura
成美堂

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% (2回)
平常点 20% (小テスト、宿題、受講態度)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者が変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

総合英語Ⅳ (7)

シェーン・ボール

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study many different styles of communication using commonly reoccurring topics. Students will be given many opportunities to practice situations that they deem most challenging, find the most interesting, or consider to be the most useful.

【到達目標】

The main objective of this course is to improve English communication skills. Communication can be performed verbally or written. Throughout this course the students will be given many chances to practice several different speaking and writing styles that occur in many different situations. One important aspect of communication is being able to understand what your partner is expressing. The course will also work to improve this aspect as well through various listening and reading exercises.

【授業の進め方と方法】

This course will not use a textbook. There will be vocabulary and grammar exercises as necessary in order to understand the content, but the majority of learning will be completed through student discussions, role-plays, and other activities. Students will be asked to complete weekly homework in order to increase exposure to English outside of class. If students come to class prepared to be active, ask questions, and speak as much as possible, they will find this class very rewarding.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self introductions and discussion of the class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Going out with friends	Vocabulary, grammar, reading activity
4	Going out with friends	Reading and listening activities
5	Going out with friends	Practical exercises
6	Review and Test	Review previous content and take a test
7	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading activity
8	Describing people, places, and things	Listening and speaking activities
9	Describing people, places, and things	Practical exercises
10	Conducting an Job Interview	Vocabulary, grammar, reading activity
11	Conducting an Job Interview	Listening and speaking activities
12	Conducting an Job Interview	Practical exercises
13	Review and Test	Review all previous content up to this point and take a test
14	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic

15	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
16	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
17	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
18	Student Interest Topic 1	Vocabulary, grammar, and reading activity
19	Student Interest Topic 1	Listening activity and practical exercises
20	Review and Test	Review all previous content up to this point and take a test
21	Student Interest Topic 2	Vocabulary, grammar, and reading activity
22	Student Interest Topic 2	Listening activity and practical exercises
23	Student Interest Topic 3	Vocabulary, grammar, and reading activity
24	Student Interest Topic 3	Listening activity and practical exercises
25	Student Interest Topic 4	Vocabulary, grammar, and reading activity
26	Student Interest Topic 4	Listening activity and practical exercises
27	Student Interest Topic 4	Additional listening activities and practical exercises
28	Review	Review all previous content up to this point and discuss final test
29	Review	Review all previous content up to this point
30	Final Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the weekly homework, students will be expected to come to class having previewed the material to be discussed. Also, during the practical exercises students will be asked to prepare short (1 or 2 minute) role plays to demonstrate their understanding of the material.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Attendance: 10%
Participation 20%
Homework: 10%
Quizzes: 10%
Test 1: 10%
Test 2: 10%
Test 3: 10%
Final Test: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Some of the student interest topics will include more lighthearted, entertaining topics that most college age students are currently interested in.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

英語コミュニケーション I

シェーン・ボール

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English. In order to accomplish this the majority of the class will focus on group discussion and speeches or role-plays in front of the class.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English.

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. Also, as needed I will use reading and listening activities to help students further understand of the topic.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introductions
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things	Group practice, class presentation
8	Recalling Past Experiences	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
9	Recalling Past Experiences	Group practice, class presentation
10	Speeches	Second class speech
11	Making Plans	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
12	Making Plans	Group practice, class presentation
13	Job Interview	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
14	Job Interview	Group practice, class presentation
15	Speeches	Third class speech
16	Sports Topics 1	Student selected sport vocabulary and discussion topic
17	Sports Topics 1	Student selected sport vocabulary and discussion topic
18	Sports Topics 2	Student selected sport vocabulary and discussion topic

19	Sports Topics 2	Student selected sport vocabulary and discussion topic
20	Speeches	Fourth class speech
21	Sports Topics 3	Student selected sport vocabulary and discussion topic
22	Sports Topics 3	Student selected sport vocabulary and discussion topic
23	Sports Topics 4	Student selected sport vocabulary and discussion topic
24	Sports Topics 4	Student selected sport vocabulary and discussion topic
25	Speeches	Fifth class speech
26	Student Interest Topic 1	Topic introduction, reading and listening activities
27	Student Interest Topic 1	Group discussion followed by class discussion
28	Student Interest Topic 2	Topic introduction, reading and listening activities
29	Student Interest Topic 2	Group discussion followed by class discussion
30	Speeches	Sixth class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Attendance: 20%
Participation 30%
Homework: 10%
Speech 1: 5%
Speech 2: 5%
Speech 3: 5%
Speech 4: 5%
Speech 5: 10%
Speech 6: 10%

【学生の意見等からの気づき】

I have not received and student feedback yet for this course.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

英語コミュニケーションⅡ

シェーン・ボール

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English. In order to accomplish this the majority of the class will focus on group discussion and speeches or role-plays in front of the class.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English.

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. Also, as needed I will use reading and listening activities to help students further understand of the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will vote on topics that are most interesting to them and I will make content around students' interests.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introductions
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things	Group practice, class presentation
8	Recalling Past Experiences	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
9	Recalling Past Experiences	Group practice, class presentation
10	Speeches	Second class speech
11	Making Plans	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
12	Making Plans	Group practice, class presentation
13	Job Interview	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
14	Job Interview	Group practice, class presentation
15	Speeches	Third class speech
16	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
17	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
18	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic

19	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
20	Speeches	Fourth class speech
21	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
22	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
23	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
24	Sports Topics	Student selected sport vocabulary and discussion topic
25	Speeches	Fifth class speech
26	Student Interest Topic	Topic introduction, reading and listening activities
27	Student Interest Topic	Group discussion followed by class discussion
28	Student Interest Topic	Topic introduction, reading and listening activities
29	Student Interest Topic	Group discussion followed by class discussion
30	Speeches	Sixth class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Attendance: 20%
Participation 30%
Homework: 10%
Speech 1: 5%
Speech 2: 5%
Speech 3: 5%
Speech 4: 5%
Speech 5: 10%
Speech 6: 10%

【学生の意見等からの気づき】

I have not received and student feedback yet for this course.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

スポーツとキャリア形成

平野 祐司

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツのキャリア形成～2020 年東京オリンピックパラリンピックの開催に向けて

日本のスポーツ界の歴史的背景を理解した上で、さらに現状を把握し、受講者がスポーツ界でキャリアを得るための指導を行う。

【到達目標】

日本のスポーツ界の現状を理解、把握した上で、スポーツを学ぶ学生や選手が、スポーツ界でのキャリアをいかに形成するかを考える。また、受講者それぞれが、将来に向けての設計の演習をする。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催にかかわるスポーツ界の役割についても理解を深める。

【授業の進め方と方法】

春期授業 15 回を通して、日本のスポーツ界の現状を理解し、キャリア形成プランニングを行う。基本的には、講義と参加者による意見交換の方法で進める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	授業のガイダンス・基本的アンケート調査	受講生のスポーツキャリアに対する意識を調査するアンケート記入
2 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 1	歴史的背景その 1：「スポーツの導入期」 ～明治維新後の欧米スポーツの輸入、日本の状況
3 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 2	歴史的背景その 2：「日本スポーツの発展」 ～教育・人格形成の手段としてのスポーツの発展
4 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 3	歴史的背景その 3：「学校スポーツと企業スポーツ」 ～学校教育現場・企業に根差したスポーツの発展とその特異性
5 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 4	歴史的背景その 4：「1964 年東京オリンピック開催」 ～1964 年東京オリンピック 一大転換期を迎えた日本のスポーツとそのレガシー
6 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 5	歴史的背景その 5：「東京オリンピック以後のスポーツ界」 ～東京オリンピック以降のスポーツ界の停滞
7 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 6	世界のスポーツ界の実情その 1 ～競技スポーツ・スポーツマーケティング等 オリンピックを中心とするスポーツの発展
8 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 7	世界のスポーツ界の実情その 2 ～諸外国のスポーツ事情・政策など
9 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 8	日本のスポーツ行政とは ～国・地方行政・体協・JOC 等
10 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 9	日本のスポーツビジネス ～日本のスポーツマーケティング等スポーツビジネス
11 回	日本のスポーツ界の現状を理解するその 10	スポーツ界の問題点 ～スポーツ界を取り巻く諸問題その原因と課題
12 回	スポーツのキャリア形成とは何かその 1	スポーツのキャリア形成とは

13 回	スポーツのキャリア形成とは何かその 2	スポーツのキャリア形成について の課題
14 回	スポーツのキャリア形成とは何かその 3	スポーツのキャリア形成について の各自の将来構想
15 回	講義のまとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するテキスト（A4 判 1～2 枚）に講義内容の受講者がそれぞれメモを記載の上、コピーを提出させる。これを毎回のレポートとする。

【テキスト（教科書）】

特に使用予定なし、講義テキストは当方で毎回用意する。

【参考書】

当面予定なし、期中で指定の可能性あり

【成績評価の方法と基準】

30%：平常点

20%：レポートの提出

50%：試験

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度は学生の発表等参加型授業として、学生の積極的参加を促し、講義の内容を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業開始後、20 分までの遅刻は認める。また、交通遅延などの証明があればそれ以降でも認める。

授業中、携帯電話・スマートフォンなどの使用は、こちらから指定がない限り認めない。

スポーツ健康学入門 (A)

苅部 俊二

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (B)

山本 浩

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (C)

鬼頭 英明

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (D)

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (E)

木下 訓光

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：水・ 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (F)

吉田 政幸

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：水・ 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (G)

日浦 幹夫

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・ 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

スポーツ健康学入門 (H)

三ツ谷 洋子

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・ 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前の存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けないで、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	文章の書き方	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入
3	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方・データの保存
4	人に話を聞く	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか
5	資料の調べ方	図書館の協力を得て文献検索に関する知識を獲得する
6	ディベートの考え方	ディベートの要素・その展開の仕方
7	研究テーマを選ぶ	それぞれのテーマを設定し、どこに焦点を当てるかを検討する
8	研究テーマの行程表づくり	行程表を作ることで研究課題へのアプローチを決定する
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法などからお金の流れ、スポーツ組織の役職・メディアの関わりなど
10	スポーツの常識②	アスリートのからだと心の両面から生身の人間としてとらえる
11	スポーツの常識③	スポーツのレベル向上に資する環境を考える
12	研究制作	文章で書き上げる
13	研究発表	プレゼンテーションで発表する
14	研究発表	ディベートでやりとりする（受講生を最低 2 人で 1 組にするケースもあり）
15	研究総括	総合評価と次年度以降へのアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト（教科書）】

なし（その都度、用意します）

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

配分：受講姿勢、小論文、研究発表など総合的に評価する。担当教官の指示に従うこと。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

数学

坂本 寛

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】

統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【授業の進め方と方法】

講師からの一方的な講義にならぬよう、授業内にも実習時間を設けます。

数学の問題を解決するために、Maxima 等のソフトウェアを活用します。

毎回、授業支援システムを通して課題の出题・提出していきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima 入門	数学学習を支援するソフトウェアとして Maxima の基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることが出来ます。そのベクトルの基本を学びます。
10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	乱数	乱数の基礎を学び、確率・統計に活用することを目指します。

15 まとめと期末試験 授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答できることが求められます。

【テキスト（教科書）】

統計学のための数学教室 / 永野裕之著

ISBN:9784478028247

【参考書】

統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著

ISBN:9784563010041

統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著

ISBN:9784563010058

統計学のための数学入門 30 講 / 永田靖著

ISBN:9784254116335

その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 (50%)

毎回、授業支援システムにて課題を提出してもらいます。

期末試験 (50%)

この科目で学習した基本事項を問う筆記試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にてコンピュータを使用し、数学教育用のソフトウェアを活用します。

【その他の重要事項】

統計学 I・II の履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

経営学

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学をはじめて学ぶ学生に対して、経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。

【到達目標】

経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、その動きは非常に身近な学問です。このような経営学を実際に身近に感じてもらうながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。

今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。

具体的には、基本的用語や基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養っていきます。

【授業の進め方と方法】

本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。

また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。

「経営戦略論」および「経営組織論」といものを中心にしながら経営学とは何か理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということ基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。

講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。

メディアなど身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つりますので、講義に以外にも常に意識してみてください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら解説
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係
6	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性

7	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念
8	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法
9	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメント
10	経営組織論(1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響
11	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性。その論理と手法
12	経営組織論(3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方
13	経営情報システム	経営において情報技術が果たす役割とその効果
14	経営学の展開	経営学の企業以外への適用
15	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第2版』硯学舎、2012年4月。

伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社、2003年2月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (40 %), (2) 課題の提出 (30 %), (3) 期末レポート (30 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。講義毎に経営学に関する用語を調べてもらい提出してもらいます。講義終了時に講義内容への「感想・意見」として各人の意見を提出してもらいます。春学期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義の進行にあわせて3回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出すること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。

(3) 講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講する学生の考えを述べてもらう機会を増やし、経営学またはその主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるようにしていきます。

法学（日本国憲法）

森 浩寿

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法特に人権規定を中心に、教育現場で必要な法知識の習得を目指す。

【到達目標】

まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに社会に必要な法化意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【授業の進め方と方法】

授業では、日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、生活に関係する法律問題として、人の生死、契約、罪と罰などについても対象とする。実際に発生している身近な事例を通じて、どういう法律が整備されているのか、何が問題なのかなどについて学習する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	法令の基礎知識	憲法、法律、条例、規則、条理について
3	日本国憲法について	憲法をめぐる歴史、機能、現行憲法の特徴
4	基本的人権・1	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下での平等
5	基本的人権・2	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
7	教育と法・1	教育関連法規、学校教育法、教科書裁判
8	教育と法・2	体罰問題、いじめ問題
9	家族と法	結婚、子ども、認知
10	契約	契約の種類、性格
11	労働問題	就職、退職、転職、労働災害補償
12	罪と罰・1	犯罪の種類、成立
13	罪と罰・2	罰則の種類、適用
14	紛争解決手段・1	裁判とは、裁判所
15	紛争解決手段・2	仲裁、調停

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：シラバスの理解

第2～3回：日頃から新聞を読む

第4～6回：社会の出来事から、人権問題をさがす

第7～11回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ

第12～15回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

2／3以上の出席を前提に、小レポート（20％）及び試験（80％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

コミュニケーション論

山本 浩

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“人はコミュニケーションせずにはいられない”。コミュニケーションの原則のひとつとして指摘されるフレーズは、あまりに当たり前の行為、空気のような存在、それがコミュニケーションであることを示している。周りを見渡せば、コミュニケーションにはいたるところで“能力”という単語がついて回り、その“力”が時として評価の対象として捉えられている。そもそもコミュニケーションの成立には、伝える側には覚悟が、受け取る側には準備が求められる。それは、能力の一方的な押しつけでもなければ、うっとり聞き惚れる天使の音楽でもない。この講義では、コミュニケーションの原始的な成り立ちから、氾濫する情報の数々のとらえ方までを追いかけて、それぞれにコミュニケーション活動を実践することによって、社会の求めるものが何であるのかを知る。

【到達目標】

受容、分析、理解、選択、表現。我々の行う一つ一つの、それでいて連続したアクションには、コミュニケーションの鎖を構成する重要な役割が負わされている。その理解のためには、自らを取り巻く世界の認識と相手の状況把握が欠かせない。コミュニケーションについてその概要を理解したあとは、「読む・聞く・見る」力の醸成と、「書く・話す・伝える」力の開発だ。全体から部分に至るまで、「コミュニケーション論」を受講するうちに情報のやりとりの基本原則を身につけ、“受け取り”“発信する”能力の向上を自覚できるようにする。

【授業の進め方と方法】

受講生には、実際に演壇に立ってもらう場合がある。自ら話すアクティブなコミュニケーション行動の実践だ。一方で多様なコミュニケーション形態に意識的に関わってもらう時間も用意する。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションを考 える	物を見て、人類の遺産を目にして、道具を手にして。コミュニケーションがさまざまな手段を介して交わされてきたのを確認する。
2	コミュニケーションの歴史①	個人から個人へ、個人から特定多数へ、個人から不特定多数へ。コミュニケーションは広がるだけではなく、その性質も変化を続けてきた。活字の時代を迎えるまでを説く。
3	コミュニケーションの歴史②	コミュニケーションの重要なポイントは、双方向性にある。双方向性が時間の縛りと戦うようになったのが現代のコミュニケーションの特徴のひとつだ。社会の中のコミュニケーションの変化を見る。
4	「伝える」～コミュニケーションの主軸～	他人に意志や情報を伝える。当たり前のことのように、人前に出るとなぜか不自由に感じる自分がある。情報の伝達を“ことば”に託す際のありようを考える。
5	文字のコミュニケーション	文章は、一度発したら消えてしまう話しことばを残すために、あるいは離れた場所へ情報を運ぶためにもなくてはならないものであった。私たちになじみの深い文字のコミュニケーションを検証する。
6	わかりやすく話す	「コミュニケーションをとる」といえば多くの人がこのテーマを頭に思いうかべるかも知れない。「わかりやすい」は何か。どこがどうなると「わかりにくい」のか。話すコミュニケーションの基礎を知る。
7	放送のコミュニケーション～ラジオ～	コミュニケーションを生業としている組織の一つが放送だ。近代になって、私たちは世界中に伝わる声と音を発信するようになった。大量情報伝達の始まりとその構造を分析する。
8	放送のコミュニケーション～テレビ①～	映像の情報量は、言葉や文字の比ではない。高速で広範囲に情報を届ける映像メディア。そのコミュニケーション上の影響力と特徴を見る。

9	放送のコミュニケーション～テレビ②～	自分の伝えたいことを口にするだけでなく、相手の主張をうまく引き出せるのか。聞く力が高ければ、コミュニケーションはスムーズに運んでいく。聞くことは、そこにある情報や環境を読む活動でもある。
10	CMに見るコミュニケーション	画面からでてくるCMこそは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態だ。専門的な視点からその構造を分析する。
11	“きく”力とコミュニケーション	コミュニケーションの第一歩は、聞くことに始まる。「聴きとる」「知りたいことを訊く」「人のために聞く」。聞く行動の原則を改めて振り返る。
12	インタビュー	インタビューは不思議な行動だ。そこでは、自分の聞きたいことを聞くばかりではない。聞き手の向こうにいる見えない人々の胸の内をおもんばかってことばのやりとりをする。インタビューのあり方を検証する。
13	人前で話す①	社会のいろいろな場で実際に起こる、「人前で話す」行為。その構造と、すじみちの立てかた、準備と実践の全てを論理的に解明する。
14	人前で話す②	「人前で話す」実際の仕組みを理解した上で、さまざまな状況設定に即して、どう実践するか。体験を経てそのあり方を修得する。
15	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまなコミュニケーションのうち、この講義では「伝える」ことに重心を置いた内容が多くなる。ただし、その前提としての情報収集には万全の体制で臨むことが求められる。そのためには普段から、「何を伝えるか」「どう伝えるか」を意識した生活を送ること。ことに「公式」の場や、「多数を相手にした」場などで活用できる力を備えることを求めたい。そのためには部活やサークル、インターンシップの場面で積極的に発言する姿勢を養っておくこと。これから先につながるコミュニケーションに重点を置いて講義を組んでいく。

【テキスト（教科書）】

なし。必要に応じて用意することもある。

【参考書】

デズモンド・モリス（1980）『マン・ウォッチング』小学館
佐藤卓巳（2006）『メディア社会—現代を読み解く視点』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

それぞれの講義に出席しての発言とリアクションペーパーで、1 回につき最大 3 点が付与される。最終講義内試験を除く 14 回に満点を取り続ければ計 42 点。最終講義に課する期末論文試験（単語/フレーズ問題 20 点、小論文 50 点）には必ず出席のこと。すべてパーフェクトであれば、112 点が獲得できる計算になる。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく、最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

受講生参加の時間を増やす。パワーポイントのスライドをさらに見やすくするように配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使う。授業支援システムにスライドの内容を随時アップする。

【その他の重要事項】

スポーツ世界におけるコミュニケーションの具体例は、画面を通じて頻繁に目にする機会がある。指導者の考え方、トップアスリートの人生観。そうしたときに、内容だけを捉えるのではなく、その構造や流れ、主張の置き所などにも意識をすること。優れたコミュニケーションの実践には、計算された論旨の緩や敏感な感性が隠されていることが少なくない。全体を把握しながら、部分にも目を配る。そうした姿勢で、日々のスポーツに接してもらいたい。

人間とスポーツ

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関わる諸問題について幅広く講義し、これからスポーツ健康学部で何を学ぶべきか、そのヒントを与えられるような内容を用意したい。つまりヒトの生から死までを概観しつつ、現代社会が求めるスポーツの役割について考えていながら指導者の理想像とはいかにあるべきか、さらにそのために限られた学生生活という時間の中でいかに自分を磨き上げていくべきかを考える場としたい。

【到達目標】

スポーツ、健康、人間全般にわたる幅広い知見を修得し、将来の職業選択に際し活用できるような講義展開としたい。

【授業の進め方と方法】

本講義では「人は何故運動不足になるのか」といった素朴な疑問から始める。ヒトの生と死、発育と発達、トレーニングの基本等を考えていく。さらに現代文明が起因する病のありようと、それを克服するための処方としてのスポーツの役割とは何かを論じていきたい。

また近代スポーツの発展と肥大化する五輪運動の諸問題にも検討を加えたい。最後に、体験を交えてスポーツ、トレーニング現場で生起する間違いだらけの諸現象を具体的に指摘し、プロの指導者として自立するためのヒントを与えていきたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業を始めるにあたっての心構え	ガイダンス・講義概要の説明と成績評価について (私語厳禁。静粛な環境を維持する為、注意された者は教場からの退席を要求する場合がある)
2	ヒトは何故運動不足になるのか・生涯スポーツのすすめ	大脳皮質の発達と運動不足の関係 を問い、何故生涯スポーツの指導者の養成が急務とされるのか、その社会的背景を考える。
3	ヒトの発育と発達とスポーツ	ヒトの発育・発達を無視した指導現場の問題点を指摘し、何故スポーツ嫌いが生み出されるのかを考える。
4	手と足の文化からスポーツを考える	移動の足、不動の足をヒントに近代スポーツにおけるフットワークの違いや社会的評価について言及する。
5	オリンピック運動の変遷（その1）/古代五輪から近代への道	古代五輪活動と近代五輪の理念（宗教と教育）の違いを論及しながら、商業主義へと変貌をとける近代五輪の問題点を指摘する。
6	オリンピック運動の変遷（その2）/黎明期から自立への道	近代五輪開催の提唱と資金難克服から自立への道をたどる。
7	オリンピック運動の変遷（その3）/アマチュアリズムの崩壊とプロ化への道	近代五輪が怪物の祭典へと変貌し、プロ化へと傾斜していく過程をたどる。
8	映像にみる五輪運動と未来予測（その4）	残された映像から肥大化する五輪運動を実感し、独自の未来予測を立ててみる。
9	大学スポーツ事情	当世大学スポーツ事情を様々な視点に立って俯瞰する。
10	地域と子供のスポーツ事情	地域と子供のスポーツの有り様を実体験に基づいて分析する。
11	箱根駅伝とオレンジのタスキにかけた夢	「過熱する箱根駅伝」とオレンジの勇者の軌跡

12	トレーニングを考える（構造と方法）	トレーニングの構造と方法について分析する。
13	トレーニングを考える（刺激と回復の原理とは）	トレーニングにおける刺激と回復の原理を学び、オーバートレーニングを回避し、スポーツ障害を予防する知恵を学ぶ。
14	人間とスポーツ Q & A	試験及び授業内の疑問点についての質疑応答
15	総括及び論述試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2回：運動不足に関する情報の収集活動

第3回：運動嫌いを生み出す情報の収集活動

第4回：特になし

第5～8回：五輪運動の情報収集活動

第9回：体育会組織の情報収集活動

第10回：地域スポーツと中学校部活動の情報収集活動

第11回：箱根駅伝の情報収集活動

第12～13回：特になし

第14回：各自質問項目の整理

第15回：論述試験

【テキスト（教科書）】

テキスト、参考書の指定はありません。

【参考書】

授業内で、スポーツ、健康に関する本を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（100%）

論述試験による総合評価によって単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容については、多角的視野に立って進め、難しい内容はより平易に、平易な内容はより深く広くと考えている。尚一層の講義内容の充実をはかりたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、VTR、CD 等々を使用する講義形式

【その他の重要事項】

※講義の進捗状況により、内容を適宜変更する場合があります。

女性とスポーツ

三ッ谷 洋子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー「なでしこジャパン」は、スポーツ界だけでなく広く他の分野においても女性の活躍について見直す契機となった。このように、日本でも女性への期待が高まっているが、その裏には社会進出度が他の先進諸国と比べ非常に遅れているという現実がある。男性社会に生まれた文化のひとつであるスポーツにおいて、「新参者」であった女性がどのようにその地位を確立してきたのか。こうしたテーマについて、スポーツと女性のかかわりだけでなく、歴史や社会的背景も辿りながら、「ジェンダー」（社会・文化的側面）と「セクシャリティー」（生理学的・解剖学的側面）の側面から問題を考えてみる。

【到達目標】

スポーツにおける性差の違いを科学的に説明し、自分の意見を述べるができる。

【授業の進め方と方法】

日本や欧米の「女性スポーツ」の歴史を辿りながら、その発展に大きな影響を与えたトピックや人物を通して、スポーツの背景にある社会や文化についても考える。また、「ジェンダー」という言葉に含まれがちな「セクシャリティー」の問題についても注目し、「男女平等」の意味について理解を深める。なお、授業の展開によって、若干の変更をする場合がある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	スポーツ界における「男女平等」とは	「男女の賞金を平等に」と訴えたテニスの女王・ビルリー・ジーン・キングの活動と、WSF（女性スポーツ財団）について、体験談をもとに紹介。
3	“理想のオリンピック”と戦った女性たち	男性文化のスポーツを女性がどう楽しむようになったのかを画像でふり返り、アリス・ミリア、キャサリン・スウィッツァー、ラスティ・カノコギの運動の意味を考える。
4	女性スポーツのパイオニア・人見絹枝が遺したものの	オリンピックの陸上競技に女子種目が導入された昭和初期に活躍した人見絹枝は、命を削って日本の女性スポーツの発展に尽くした。その人生と社会背景を知る。
5	日本の女性とスポーツのかかわり（歴史）	明治時代に西欧文化の一つとして輸入されたスポーツが、大正・昭和・平成の時代の流れの中でどう受け入れられてきたのかを、映像で辿る。
6	学校体育におけるジェンダーバイアス	明治時代以降、学校教育における体育の授業は、男女で異なっていた。その目的や違いはなぜ生まれたのか。その背景を考える。
7	「女性らしさ」「男性らしさ」とスポーツ（その1）	女性のサッカー主審、男子の新体操部員について、それぞれの立場で「女性らしさ」「男性らしさ」の意味を考える。
8	「女性らしさ」「男性らしさ」とスポーツ（その2）	スポーツにおける「男性中心主義」とは何か。「スポーツ音痴」の男性にとって、スポーツとは何かを考える。

9	スポーツにセックスチェックは必要か	男性ホルモンの摂取で金メダルを獲得したといわれる女子選手や、「性別疑惑」で注目された選手を例に、性差（男と女の違い）について考える。
10	女性スポーツとマスコミ報道	マスコミは女性スポーツをどのように伝えてきたのか。テレビのスポーツキャスターは、なぜ若い女性が多いのか。具体的な事例から問題点を考える。
11	女性の体とスポーツ	女性長距離ランナーの半数以上が月経不順、なでしこジャパンの選手の半数が膝の前十字靭帯損傷の経験者という。スポーツは女性の体にとってマイナスなのだろうか。
12	スポーツビジネスの女性戦略（その1）	女性スポーツをマーケティング戦略に取り込み成功した米国の化粧品会社を例に、その具体的な内容を知ること、ビジネスとスポーツの関係を考える。
13	スポーツビジネスの女性戦略（その2）	消費者としてみた女性と男性の特性はどう異なるのか。各種調査データからその違いを読み取り、スポーツビジネスにおける女性戦略の意味を考える。
14	スポーツにおける女性の活用	2013年初頭の「女子柔道選手による告発問題」は、それまで男性主導型で発展してきた日本のスポーツ界に激震をもたらした。それらについて、社会全体が抱える問題や、国際的な視点から、スポーツの本質について考える。
15	期末レポートの発表	期末レポートを発表し、さらに授業の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

・井谷恵子、田原淳子、来田享子編著「目で見える女性スポーツ白書」（大修館書店 2001 年、2,500 円＋税）
 ・飯田貴子・井谷恵子編著「スポーツ・ジェンダー学への招待」（明石書店 2004 年、2,800 円＋税）
 ・日本スポーツとジェンダー学会編「データでみるスポーツとジェンダー」（八千代出版 2016 年、2,500 円＋税）
 ・<http://www.wsfjapan.org>（WSF ジャパン：女性スポーツ財団日本支部）サイト

【成績評価の方法と基準】

授業で意見や感想を述べる姿勢や、授業の最後に提出する「感想・質問」の内容、期末レポートの結果で評価する。平常点 50 %、期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介する事例等をもとに、各自がより深く考えるよう進めていく。

【その他の重要事項】

私語厳禁。大学生として相応しい服装と態度で授業に臨むこと。

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識
3	基本ソフトウェアの利用方法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作
4	インターネットの利用	成していくファイルに関する知識とそれを利用する上でのマナー。近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	コンピュータを利用した情報の発信方法の確認

6	電子メールの設定法、メールサーバとメール	電子メールの基本操作
	伝送の仕組み、電子メールの基本操作	
7	電子メールの応用操作	電子メールの応用操作（添付ファイルや署名など）
8	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得
9	文書作成（1）、ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作
10	文書作成（2）、定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など
11	文書作成（3）、画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法
12	パワーポイントの基本操作（1）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
13	パワーポイントの基本操作（2）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
14	パワーポイントの基本操作（3）、オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成
15	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識
3	基本ソフトウェアの利用方法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナー。近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	コンピュータを利用した情報の発信方法の確認

6	電子メールの設定法、メールサーバとメール	電子メールの基本操作
	伝送の仕組み、電子メールの基本操作	
7	電子メールの応用操作	電子メールの応用操作（添付ファイルや署名など）
8	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得
9	文書作成（1）、ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作
10	文書作成（2）、定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など
11	文書作成（3）、画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法
12	パワーポイントの基本操作（1）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
13	パワーポイントの基本操作（2）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
14	パワーポイントの基本操作（3）、オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成
15	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識
3	基本ソフトウェアの利用方法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作
4	インターネットの利用	成していくファイルに関する知識とそれを利用する上でのマナー。近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	コンピュータを利用した情報の発信方法の確認

6	電子メールの設定法、メールサーバとメール	電子メールの基本操作
	伝送の仕組み、電子メールの基本操作	
7	電子メールの応用操作	電子メールの応用操作（添付ファイルや署名など）
8	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得
9	文書作成（1）、ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作
10	文書作成（2）、定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など
11	文書作成（3）、画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法
12	パワーポイントの基本操作（1）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
13	パワーポイントの基本操作（2）、文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用
14	パワーポイントの基本操作（3）、オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成
15	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのか理解してもらうことも目標としています。

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 1）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
8	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 2）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析

- | | | |
|----|------------------------|-------------|
| 10 | 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析） | 定量的データの解析 |
| 11 | 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析） | 定量的データの解析 |
| 12 | 表計算ソフトの応用操作（カテゴリデータ解析） | カテゴリデータの解析 |
| 13 | 表計算ソフトの応用操作（カテゴリデータ解析） | カテゴリデータの解析 |
| 14 | 表計算ソフトの応用操作（マクロ作成） | マクロの記録などの操作 |
| 15 | 最終課題の作成 | これまでの講義のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %), (2) 課題の提出 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのか理解してもらうことも目標としています。

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 1）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
8	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 2）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析

- 10 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）
- 11 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）
- 12 表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）
- 13 表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）
- 14 表計算ソフトの応用操作（マクロの記録などの操作）
- 15 最終課題の作成

これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのか理解してもらうことも目標としています。

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進めかた
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 1）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
8	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収 2）	フォームの利用、ピボットテーブルの利用
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析

- | | | |
|----|--------------------------|-------------|
| 10 | 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析） | 定量的データの解析 |
| 11 | 表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析） | 定量的データの解析 |
| 12 | 表計算ソフトの応用操作（カテゴリデータの解析） | カテゴリデータの解析 |
| 13 | 表計算ソフトの応用操作（カテゴリデータの解析） | カテゴリデータの解析 |
| 14 | 表計算ソフトの応用操作（マクロの記録などの操作） | マクロの記録などの操作 |
| 15 | 最終課題の作成 | これまでの講義のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 1 1 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加（50 %）、(2) 課題の提出（50 %）

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

スポーツとまちづくり

三ッ谷 洋子

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まちづくり（地域振興）計画は、とく「ハコモノ行政」と批判されるように、「ハードウエア」の視点に偏る傾向がある。この授業では、「ソフトウエア」「ヒューマンウエア」を重視する立場で、スポーツをキーワードにしたまちづくりとは何かを考える。

【到達目標】

「自分のまち」をスポーツで活性化する計画をまとめて発表する。

【授業の進め方と方法】

授業ではスポーツジャーナリスト、スポーツビジネスコンサルタントとしての経験や、アドバイザーとして参画したプロジェクトを事例として紹介しながら、「スポーツとまちづくり」とは具体的にどのようなことかを、分かりやすく解説する。タイムリーなニュースも取り上げ、それに対する意見や感想を述べてもらいながら、「自分のまち」をスポーツでどのように活性化するかを考えていく。なお、授業の展開により、若干の変更をする場合がある。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を兼ねて、「スポーツとまちづくり」に関連する体験などを交えて授業の概要を説明する。
2	プロ野球を反面教師とした J リーグの戦略とは？	日本ではマイナースポーツだったサッカーが「地域密着」という新しいコンセプトでプロ化に成功した。歴史あるプロ野球とのビジネスモデルの違いから、成功の要因を明らかにする。
3	J リーグの地域戦略（その 1）	「J リーグの名門」と呼ばれる鹿島アントラーズのホームタウンは、かつて「何の楽しみもないまち」として若者や企業に敬遠される過疎のまちだった。
4	J リーグの地域戦略（その 2）	プロスポーツ不毛の地に誕生したアルビレックス新潟は、多様なプロスポーツチームを抱え J リーグ屈指のクラブとして、世界を視野に入れた総合型スポーツクラブを目指している。
5	エリアマーケティングとまちづくり	まちづくり計画は一つとして同じものはない。各地域の特性をどうとらえてまちづくり戦略に生かすのか、「エリアマーケティング」の手法から考える。
6	オリンピックとまちづくり（その 1）	ロンドンの「オリンピック・パーク」や、サッカー・ワールドカップ用スタジアムは、地域においてどのように位置づけられているのか、都市計画の面から考える。
7	オリンピックとまちづくり（その 2）	2020 年東京オリンピック・パラリンピック招致が決まり、東京のまちは大会向けに整備される。巨大メインスタジアムを例に、1964 年大会と比較しながら施設計画について考える。
8	「バリアフリーのまち」から「ユニバーサルデザイン」のまちへ	パラリンピック開催で障害者が住みやすくなったバルセロナを例に、パラリンピック体験者を招き、「2020 年以降の東京」のまちづくりについて考える。

9	「総合型地域スポーツクラブ」はまちづくりの拠点となるか	「総合型地域スポーツクラブ」とは、どのような組織なのか。具体的な仕組みと活動内容を理解し、まちづくりにおいて期待される役割について考える。
10	ヨーロッパに学ぶ地域とスポーツの関係	日本がお手本とする「スポーツクラブ」はヨーロッパで生まれた。そこで人々はスポーツをどのように楽しんでいるのか、映像を見ながらハードウエア、ソフトウエアの実際を知る。
11	「スポーツ産業都市」とは	アマチュアスポーツ振興をテーマに「スポーツ産業都市」として再生した米国インディアナポリス市の具体的な取り組みを理解し、日本が参考とすべき点について考える。
12	まちづくりは「人づくり」	まちづくり計画で必要なのは「よそ者」「若者」「ばか者」の視点である。地域振興を実現させた「ばか者」の仕事ぶりを映像で紹介し、まちづくりにおける「人づくり」の重要性を考える。
13	ウオーキングでまちづくり	老若男女、誰でも参加できるウオーキング大会をまちづくりにつなげている埼玉県東松山市をとりあげ、スポーツによるまちづくりのポイントを考える。
14	文化なくしてまちの発展なし	まちづくりの基本は地域資源の活用である。スポーツを核にした人づくり、場づくりと文化の関係、さらにまちづくりにつながるスポーツツーリズムの可能性を探る。
15	期末レポートの発表	これまでの授業で学んだことをベースに、提示された「課題」についてまとめたレポートを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

・オモ・グルーベ「文化としてのスポーツ」（ベースボールマガジン社 1997 年、1,800 円＋税）
 ・池田弘「神主さんがなぜプロサッカーチームを経営するのか」（東洋経済新報社 2006 年、1,500 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

授業で意見や感想を述べる姿勢や、授業の最後に提出する「感想・質問」、期末レポートの内容で評価する。
 平常点 50 %、期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介する事例等をもとに、各自がより深く考えるよう進めていく。

【その他の重要事項】

私語厳禁。大学生に相応しい服装と態度で授業に臨むこと。

スポーツレクリエーション論

谷本 都栄

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】

- ・日本の社会構造や日本人のライフスタイルの変化、高齢化や少子化、地域の課題とレクリエーションの役割について理解を深める。
- ・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【授業の進め方と方法】

テキストや各種資料だけでなく、ケーススタディをとおして具体的に内容を把握できるようにする。レクリエーションの事業計画では、企画書の作成や発表を実施する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レクリエーションの意義	レクリエーションに関わるの諸理論を紹介し、レクリエーションとは何かについて解説する。
第 3 回	レクリエーション運動の展開①	欧米から始まるレクリエーション運動の展開について、歴史的背景を踏まえて解説する。
第 4 回	レクリエーション運動の展開②	戦後日本におけるレクリエーション運動の展開について、時代背景を踏まえて解説する。
第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション	人間のライフステージにおける各課題とレクリエーションの役割について解説する。
第 6 回	少子化の課題とレクリエーション	ケーススタディをとおして、少子化の課題とレクリエーション支援について考える。
第 7 回	高齢社会の課題とレクリエーション	ケーススタディをとおして、高齢社会の課題とレクリエーション支援について考える。
第 8 回	地域とレクリエーション	ケーススタディをとおして、地域の課題とレクリエーション支援について考える。
第 9 回	レクリエーション事業論①	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について解説する。
第 10 回	レクリエーション事業論②	事業推進の鍵となるグループ運営の方法を習得する。
第 11 回	レクリエーション事業論③	高齢者施設や介護予防活動におけるレクリエーション支援のプログラムづくりを習得する。
第 12 回	レクリエーション事業論④	地域における市民を対象としたレクリエーション支援のプログラムづくりを習得する。
第 13 回	レクリエーション事業論⑤	事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて解説する。
第 14 回	レクリエーション事業論⑥	目的に合わせたレクリエーションワークと素材・アクティビティについて解説する。
第 15 回	総括	授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。

・授業中に示した課題への取り組み方を参考に、各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】

毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題①（9 月提出）25 %
- ・課題②（10 月提出）25 %
- ・課題③（11 月提出）25 %
- ・課題④（学期末提出）25 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら授業を進める。

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的枠組み、三分野の基本課題と解決に向けた諸視点、その問題点。

【到達目標】

西洋哲学の伝統的な課題・方法について理解する。それをみずからの思索の糧とし、世界観・人生観の確立にむけての歩みを始める。

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、ディスカッションも取り入れたい。小レポートの提出を求める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	(1) 哲学とは何か①	哲学の定義、および学問としての特徴
2	(1) 哲学とは何か②	科学、宗教、芸術との関係
3	(2) 存在論・形而上学①	真に在るとは：超越論と内在論
4	(2) 存在論・形而上学②	何が存在の本体か：唯心論と唯物論
5	(2) 存在論・形而上学③	どう存在しどう変化するのか：有機体論と機械論
6	(3) 知識論・認識論①	知るとは：整合説と模写説
7	(3) 知識論・認識論②	何によってどんな知識がえられるのか：合理論と経験論
8	(4) 価値論・実践論①	価値とは：価値と存在
9	(4) 価値論・実践論②	何が価値の根拠か：自然主義と理想主義（幸福と正義）
10	(4) 価値論・実践論③	倫理とは：行為規範と事実
11	(5) 世界観の枠組み①	古代哲学と自然性
12	(5) 世界観の枠組み②	中世哲学と超越性
13	(5) 世界観の枠組み③	近代哲学と主観性
14	(5) 世界観の枠組み④	現代哲学と主観性
15	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習は必須です。その際、配布する資料に必ず目を通す。できれば、哲学の本を一冊でも読んでみる。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小レポートの提出 (30 %)、期末試験 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

対話的な講義にし、ディスカッションするよう努めたい。この点で十分ではなかった。

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎基本を踏まえた、生命倫理の主な論点と基本的な考え方。

【到達目標】

生命倫理の主な論点を理解し、それらについての自分なりの見方を確立する。それをもとにして健康や病気についての理解も深める。

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、適切な受講生数の場合、ディスカッションも取り入れたい。受講生多数の場合には小レポートの提出を数回求める。希望者の校外研修も一部取り入れる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	生命倫理とは何か（1）	倫理とは何か。行為規範と倫理原則、状況倫理。公正手続きか最大幸福か。慣習・規則・良心。
2	生命倫理とは何か（2）	生命倫理学の成立史。生命倫理原則と生命倫理宣言。
3	生殖技術	生殖補助医療の発展。生殖への第三者介入、減胎手術、代理母利用、子どもの諸権利。
4	人工妊娠中絶	胎児の「生命権」と女性の権利。中絶の法的許容範囲。胎児の倫理的地位。
5	人間とは何か	「人間の本質」親の歴史。パーソン論と胎児・植物状態・動物。人命の価値と尊厳。
6	インフォームド・コンセント（1）	患者・医療者間倫理の歴史。医的侵襲と暴行・傷害罪、診療・研究における裁量・自由と同意・拒否権。
7	インフォームド・コンセント（2）	自己決定権と「生活の質」判断。インフォームド・コンセントの内容。弱者保護と代理判断・病院倫理委員会。
8	移植医療（1）	脳死は人の死か。臓器摘出の基準。臓器分配の基準。臓器移植法。
9	移植医療（2）	生体からの臓器提供。移植ツアー。臓器売買。生存くじ。
10	遺伝子技術	再生医療と受精卵・胚の地位。遺伝子改変の限度。遺伝子診断と中絶。優生学。
11	ターミナルケア	ガン治療等と緩和医療。全人的苦痛とターミナルケア。死の受容と死生観。
12	安楽死・尊厳死	安楽死分類。裁判と判決理由。世界の安楽死事情。
13	健康・病気・医療	健康・病気の定義と診断。予防・治療。近代医療の機械論的人体観。
14	今後の医療と生命倫理学	医療・福祉政策と公正基準。環境倫理における人権と公共利益。
15	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書及び授業配布資料に基づいて前回授業を復習し、教科書掲載の設問について考える。次回授業テーマの予習として、最低限、教科書の該当箇所を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

今井道夫『生命倫理学（第3版）』産業図書、2400円＋税
教科書として常時、使用するので、必ず用意すること。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %)、小レポートの提出 (15 %)、ディスカッションの担当 (15 %)。ただし、受講生 50 名を超える場合、ディスカッションは行わず、小レポート 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを取り入れ、とくに受講生多数の場合、意識的に対話的な講義にするよう努めたい。

統計学 I

笹井 浩行

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

旧科目名：統計学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、統計的分析手法の初歩的な実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握する方法を習得し、初級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では Excel および統計ソフト SPSS を用いる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。
2	記述統計（1）	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	推測統計・仮説検定	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、大数の法則と中心極限定理等、推測統計の基礎について学ぶ。尺度水準、仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準、第 1 種の過誤と第 2 種の過誤等について学ぶ。
5～6	小テスト 1・対応のない t 検定	1～4 回目までの内容に関して小テストをおこなう。対応がない独立した 2 群間に、統計的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
7・8	対応のある t 検定	対応がある 2 群間に統計的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
9・10	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2 つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。また、第 3 の指標の影響を取り除いた 2 つの変数間の関連の分析（偏相関分析）について学ぶ。
11・12	小テスト 2・単回帰分析	5～10 回目までの内容に関して小テストをおこなう。一方の変数から他方の変数を予測する分析手法を学ぶ。
13・14	カイ二乗検定	2×2 分割表による比率の差の検討について学ぶ。

15 総括・期末テスト

1～14 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。
・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、出村愼一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%：20%×2 回）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まない及第点が得られないテスト内容となっている。テストでは、主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

・情報実習室にて演習をおこなう。

【その他の重要事項】

・教科書が受講生全員の手元にあることを前提に授業を進める。
・資料は配布しないため、ノートやメモを適宜取ること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。
・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

統計学Ⅱ

笹井 浩行

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、中級レベルの統計的分析手法の実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

多変量解析を含む中級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。本授業では、統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト SPSS を用いる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学Ⅰの復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学Ⅰで扱った分析手法について復習する。
2	統計学Ⅰの復習	統計学Ⅰで扱った分析手法について復習する。
3・4	一元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、1つの要因により、3つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法および多重比較検定を学ぶ。
5・6	二元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、2つの要因により、3つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
7・8	中間テスト・重回帰分析	1～6 回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。間隔・比率尺度である 1 つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。
9	ロジスティック回帰分析	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
10	多項ロジスティック回帰分析	3 つ以上のカテゴリからなる変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
11	順序ロジスティック回帰分析	順序尺度からなる変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
12・13	因子分析	複数変数間の関連性を手がかりに、その背後にある潜在因子を定量する分析手法について学ぶ。
14	主成分分析	複数変数間の関連性を手がかりに、複数個の変数を圧縮、統合する分析手法について学習する。

15 総括・期末テスト

1～14 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学Ⅰでの学習内容もテストに含まれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。
・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、出村慎一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容となっている。テストでは主に、サンプルデータセットを用いた統計解析を通じた実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

演習は情報実習室にて行う。

【その他の重要事項】

・統計学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める（統計学Ⅰを未履修であっても受講可）。小テストや期末テストで、統計学Ⅰの内容が含まれることに留意すること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。
・統計学ⅠおよびⅡの履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

保健体育概論

永木 耕介

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方について考える。

【到達目標】

保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

保健体育とはどのようなものかについて以下の観点から解説し、受講生が今後のあり方について考察できるように導く。①現代に至るまでのスポーツ／教材（主に西洋スポーツと日本武道）の歴史を概観し、さらに現代スポーツの特徴と課題について指摘する。②教科の目標論を踏まえ、各内容領域の実際を確認することで今日の教科の状況を把握する。なおその際、一部に受講生参加型の演習を採り入れる。また、毎授業においてリアクションペーパーの提出を求め、次授業で振り返りを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバルゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「野外活動」の内容と特性	「野外活動」の実際的内容と特性について、運動、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
7	「体づくり運動」の内容と特性	「体づくり運動」の実際的内容と特性について、運動、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
8	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
9	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
10	「水泳」の内容と特性	「水泳」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
11	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
12	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
13	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める

- 14 「体育理論」の内容と 「体育理論」の内容と特性について理解を深める
15 まとめとテスト 授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業後に感想やコメント（リアクションペーパー）の作成を求める。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 （東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

保健体育科教育法 （大修館書店）

新版・体育科教育学入門 （大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度、リアクションペーパーによる平常点（60％）、テスト点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も一部に受講生参加型の演習形式を採り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

部分的に行う参加型演習において運動可能な服装等を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

障害者福祉論

山岸 倫子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：土・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、障害者の定義、障害者福祉の基本理念、制度を学ぶことにより、障害者への理解および障害者福祉への知見を養うことを目的としている。

【到達目標】

障害者の生活実態及び理念を理解するとともに、「障害」という概念に関する様々な言説や理論を学ぶことにより、自らの障害観について内省を深め、共生社会とは何かということを考える。

【授業の進め方と方法】

以下の視点に沿って授業を展開する。①障害者の定義 ②障害者福祉を支える理論や理念がどのように変容してきたか、③「当り前の生活」を送るために、現行制度が適切な支援を行えているか。これらの視点を中心に、講義及びグループワークの形式で授業を進める。途中、障害者福祉に関する基本的な社会哲学の考え方にも触れる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念	障害・障害者の定義について学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。 また、1～3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	障害者福祉がかかわる法体系	現在の障害者福祉の法体系について学ぶ。
7	障害者自立支援法の成立	障害者自立支援法がどのように誕生したのかということについて学ぶ。
8	障害者の教育	障害者の教育に関する考え方および、変遷について学び、現行の教育システムについて考える。
9	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
10	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
11	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
12	グループワーク	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようなになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。
15	まとめ 定期テスト	1～14 回までの内容のまとめを行う。それらを踏まえたうえで、試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておく。講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加 30 %：平常点及び授業態度で評価する。出席回数が3分の2以下のものは不可とする。

課題の提出 30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを3回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

期末試験 40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】

社会福祉に関係を持ってこなかった学生が対象であるので、いかに興味を持ち、考えることができるかという点についての工夫が必要であると感じている。グループワークを含め、体系的かつ体験的な学びの場を提供したいと考えている。

音楽文化論

芦川 紀子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽史を創りあげた人々と場— 1. 教会・2. 宮廷・3. 劇場・4. コンサートホールの立体的な関係をテーマとする。特にそこに関わったマネジメントのあり方は、様々な分野に応用可能と考える。

【到達目標】

音楽の持つ特徴と歴史的展開を理解することによって、それぞれの専門分野に応用できる知識を身につけることを目標とする。
教材として使用する多くの映像音楽資料から、実際の音楽に関心を広げて欲しい。

【授業の進め方と方法】

西洋音楽史の観点から、音楽文化に関わってきた場に焦点を当て、場の特徴、そこで展開した音楽様式・音楽家・時代背景を明らかにすることによって、音楽の歴史的展開を立体的に捉える。
そこから、現代の文化保護（patronage）やマネジメントのあり方を考える。
講義形式・映像・音源をできるだけ使用し、音楽の実際に体験できるよう構成する。
また適宜リアクションペーパーや小レポートの提出を求める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	導入	「音楽史」の成立と問題点 音楽文化の保護とは何か。 トピックス：古代オリンピックにおける音楽とスポーツ
2	時代区分 西洋音楽史の場	西洋音楽史の時代区分—他の文化史との比較— 教会・宮廷・劇場・コンサートホール
3	教会と音楽—その 1	教会の成立／ロマネスクとゴシックの聖堂建築と音楽 世界の教会建築を紹介。 映像：ランスとストラスブールの大聖堂
4	教会と音楽—その 2	ルネサンスとバロックの教会建築と音楽 映像：ローマのパチカンと壮大な教会音楽
5	宮廷文化と音楽—その 1	中世・ルネサンスの宮廷と音楽。映像：ヴァルトブルク城の歌合戦
6	宮廷文化と音楽—その 2	17-18 世紀の宮廷と音楽 映像：エステルハーザ宮殿のハイドン劇場の登場／世界の劇場
7	劇場という場	古代の円形劇場から近代のオペラハウスまで 映像：チェスキークルムロフのバロック劇場
8	劇場様式—その 1	オペラの誕生とバロックオペラの変遷 映像：最初のオペラとしての「オルフェオ」「カストラート」
9	劇場様式—その 2	18-19 世紀のオペラ モーツアルトの果たした役割。オペラの時代としての 19 世紀の作品
10	コンサート文化	19 世紀のコンサート文化成立／市民文化と音楽
11	コンサート文化—その 1	音楽協会／合唱協会／コンサートホール 映像：カタルニア音楽堂
12	コンサート文化—その 2	コンサートホール／音楽サロン 映像：ベルリンフィルハーモニー
13	コンサート文化—その 3	音楽マネジメントの成立と展開。 映像：パリ音楽院旧ホール
14	コンサート文化—その 4	旅するヴィルトゥオーゾ達。—フランク・リストを例に— 映像：リスト音楽院大ホール（ブダペスト）
15	音楽文化の保護・支援に向けて	音楽が展開してきた場を通して、文化保護とは何かを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義をきちんと理解するために復習を中心とする。次の講義のために理解できない点を残さないこと。
また、講義に関連する音楽会や、映像資料を紹介するので、積極的に参加・利用して欲しい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。適宜資料を配付する。

【参考書】

D.H. ヴァン・エス著／船山・芦川他訳「西洋音楽史—音楽様式の遺産」（新時代社 1989）
ヴァルター・ザルメン著／上尾他訳「コンサートの文化史」（柏書房 1994）

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート課題：70 %

授業中の小レポート：30 %

【学生の意見等からの気づき】

音楽関連の専門事項を知らなくても、関心があれば授業の履修が可能である。

【学生が準備すべき機器他】

CD、DVD プレーヤ、及び PC（パワーポイント）を使用する。
学生は特に準備する必要なし。

【その他の重要事項】

担当教員との連絡には、下記のメールアドレスを使用。
芦川紀子：vzz05337@nifty.com

基礎科学

日浦 幹夫

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】

科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目（実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【授業の進め方と方法】

生理学、生化学、解剖学等の理解に必要な、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数値処理について解説する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	元素、原子、分子などの基本的概念の復習と応用。
3	生体を構成する物質（2）	細胞構築などの微小構造の概念の紹介。
4	生体を構成する物質（3）	生理学、生化学、解剖学などを理解するために必要な分子細胞学の基礎。
5	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（1）	科学研究で頻繁に用いる表、グラフの理解；スポーツ科学研究の例示。
6	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（2）	基本的な統計手法の紹介；平均、分散など記述統計に必要な用語の解説。
7	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（3）	データの表現；直線への当てはめとしての最小二乗法、三角関数の延長としての周波数解析の紹介など。
8	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（4）	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝計測に応用されている数値処理の紹介
9	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（1）	糖、アミノ酸、タンパク質の基礎。
10	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（2）	生体内の化学反応、イオンの概念
11	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（3）	呼吸生理の基礎となる、気体の圧力と体積の関係について
12	バイオメカニクス分野に必要な基礎科学	生体と関連する物理学（の基礎；物質の重量、速度、加速度や力学法則、単位系の考え方）
13	基本的な統計処理に活用するソフトウェアについて	エクセルを活用した基礎的な手法やグラフ作成や統計処理が可能なソフトウェアの紹介
14	科学分野の英語について	講義で取り上げたテーマに含まれる用語の英語標記の理解と英文読解の演習
15	まとめ	講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の予習と復習

【テキスト（教科書）】

イラスト 基礎からわかる生化学：構造・酵素・代謝（裳華房）

【参考書】

SPSS によるデータ分析（東京図書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験およびレポート

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

多摩地域形成論

図司 直也

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている「場所」への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩 4 学部の教員と協力して実施する、4 学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	近隣地域の産業の現状と課題を学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	「団地」開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	乱開発、環境破壊と住民運動の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	地域の子育て・福祉・平和運動と自治体づくり
第 9 回	多摩地域の現在	高齢化と周辺化による地域形成の危機
第 10 回	中間まとめ	ふりかえりのワークショップ
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (1)	コミュニティ・ビジネス
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (2)	循環型社会づくり
第 13 回	これからの多摩地域の形成 (3)	コミュニティ文化とスポーツ
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (4)	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 15 回	まとめと今後に向けて	ふりかえりのワークショップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 % 程度）とレポート（70 % 程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった」「地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることをめざしている。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

キャリアデザイン論

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代 1（成田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代 2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは 1（藤本）	日本型雇用システムと変容する大卒者の役割
4	職場で求められる力とは 2（長谷川）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは 3（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
6	職場で求められる力とは 4（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
7	企業を知る 1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
8	企業を知る 2（田中）	企業情報を読み解く
9	職場社会で積極的に生きるために 1（長山）	職場のコミュニケーション
10	職場社会で積極的に生きるために 2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
11	職場社会で積極的に生きるために 3（山本）	これから先につながるコミュニケーション
12	職場社会で積極的に生きるために 4（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
13	キャリアデザインの視野を広げる 1（図司）	多摩地域の企業を知る
14	キャリアデザインの視野を広げる 2（北原）	農業への新規就農
15	キャリアデザインの視野を広げる 3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する。）

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する。（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする。）

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回出席をとる。遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなす。

【受講上の注意】

1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

キャリアデザイン論

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代 1（成田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代 2（斎藤）	自分をつかむ 1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは 1（藤本）	日本型雇用システムと変容する大卒者の役割
4	職場で求められる力とは 2（長谷川）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは 3（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
6	職場で求められる力とは 4（斎藤）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
7	企業を知る 1（坂本）	「大切にしたい会社」とは
8	企業を知る 2（田中）	企業情報を読み解く
9	職場社会で積極的に生きるために 1（長山）	職場のコミュニケーション
10	職場社会で積極的に生きるために 2（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
11	職場社会で積極的に生きるために 3（山本）	これから先につながるコミュニケーション
12	職場社会で積極的に生きるために 4（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
13	キャリアデザインの視野を広げる 1（図司）	多摩地域の企業を知る
14	キャリアデザインの視野を広げる 2（北原）	農業への新規就農
15	キャリアデザインの視野を広げる 3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する。）

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する。（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする。）

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回出席をとる。遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなす。

【受講上の注意】

1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

生理学 A

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。
生理学の幅広い学問領域の中でも、特に運動生理学を学ぶために理解しておくべき、からだの機能と仕組みを中心に学習する。生理学 A で扱う授業内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておいてもらいたい、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・生理学の定義 ・フィードバックシステム
2	細胞膜の生理学	・細胞の構造 ・細胞膜の機能 ・イオンチャネル
3	ニューロン	・細胞の電気現象 ・活動電位を起こすしくみ
4	シナプス	・シナプス伝達 ・シナプス伝達の仕組み
5	筋収縮	・骨格筋と平滑筋 ・筋原繊維の構造 ・筋収縮の仕組み
6	運動①	・運動中枢 ・運動の制御 ・筋の収縮様式
7	運動②	・運動中枢 ・反射運動 ・随意運動
8	自律神経系	・交感神経 ・副交感神経
9	血液と体液	・血液の成分 ・リンパ系 ・体液の区分 ・体液の調節
10	循環器①	・循環の原理 ・心臓 ・新周期
11	循環系②	・血管 ・循環調節
12	呼吸	・呼吸器の構造 ・ガス交換 ・呼吸運動の調節
13	体温調節	・体温の変動 ・体温調節機構 ・熱中症 ・低温暴露
14	内分泌	・ホルモンの種類 ・ホルモンの伝達 ・HPAaxis
15	生理学 A のまとめ	・生理学 A の復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問部分への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。
各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。
ただし、「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)に沿って授業を進める。本書は秋学期に開講する生理学 B の教科書として指定しているので、生理学 B も履修する者は、購入して授業に持参することを強く勧める。

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)

「トートラ人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%)：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 × 30 問) と論述 (10 点 × 4 問))。
提出物 (5%)：期限内に提出された課題等の評価。
欠席を理由に減点することはない。ただし、2/3 以上の出席がない場合は、期末試験を受験する権利を失う。

【学生の意見等からの気づき】

86.7%の履修者に「知識が身についた」との評価を得ることができた。また、「履修して良かった」ことに対して、知識だけでなく興味・関心が高まった、難しかったが為になったという様な肯定的なコメントが多数寄せられ、一定の質は保たれていたと思われる。
一方で、内容が困難であったという評価もあり、理解度における個人差が大きかったことが伺える。履修者の予習・復習時間が少ないことから、これらの改善を促し、基本的な知識レベルの差異を考慮しつつ、履修者の理解度を高める工夫を進めて行く必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する配布資料は、各回の前日までに授業支援システムにアップロードしておくので、プリントアウトをして授業に持参する。

【その他の重要事項】

講義は、参考書に挙げた「はじめの一步のイラスト生理学」に従って進める。このため、本書が手元があれば授業の理解を助け、予習や復習に役立つことから、入手しておくことを強く勧めます。ただし、生理学 A では、およそ半分の内容のみを扱い、残りは生理学 B において扱う (生理学 B では、テキストとして指定している)。

機能解剖学

泉 重樹

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立2足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、その目的と運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】

人体の骨格と関節運動の仕組みを3次元および3面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立2足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【授業の進め方と方法】

人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、直立2足歩行の観点から理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動および機能を関連づけて学習することを目標とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	体幹部（頸部）	脊柱、頸椎、筋、靱帯、運動
3	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
4	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、関節、筋、運動
5	骨・関節・靱帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靱帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配1
6	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
7	下肢（膝関節）	膝関節、筋、運動
8	下肢（足関節）	足関節、筋、運動
9	下肢（全体）	足部、アライメント、二関節筋、運動、神経
10	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
11	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
12	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
13	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配
15	テストと振り返り	筆記試験によるテストを行うとともにその振り返りを行い、生理学や運動学といった周辺領域の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～15回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
2 運動器の解剖と機能

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖。医道の日本社（2002/5）

工藤慎太郎：運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学。医学書院（2012/5）

坂井建雄：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系。医学書院（2016/12）

F.H.Netter(著), 相磯貞和 (翻訳): ネットー解剖学アトラス原書第6版。南江堂（2016/8）

松村謙児: イラスト解剖学。中外医学社（2014/3）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト（50 %）、試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初年度のためない。

【参考書】

適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %・レポート 20 %・平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を取り入れるようにする。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生学とは、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすための基礎的・基本的な知識を学ぶ学問領域である。さらに、得た知識を基に実生活で発展的に応用できることを目指す。具体的には、衛生学の基本的な考え方、食品衛生、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質と健康影響について学ぶ。授業では、実際に起きた事例を挙げて、ディスカッションにより問題点を抽出し、改善のための手立てを考えるようにすることを目指す。この領域のアプローチは、サイエンティフィックな要素、社会学的な要素など幅広い視点が必要とすることに留意してほしい。間口は広く、奥行きは広いが、実生活に活かすことができることを最終目標とする。

【到達目標】

個々人の健康の保持増進のため、身の回りの環境の整備や化学物質の管理が重要であることについて理解し、社会人として責任ある実践に結びつけられるようにするとともに、次世代に繋げられるようにすることが到達目標である。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて授業を進める。パワーポイントの配付資料は準備するが、適宜記入欄を設けているので、書き込むこと。適宜、双方向の授業進行を行うので、自分の考え方を述べられるよう心がけてほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の考え方	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	健康情報の見方・考え方	健康情報の危うさについて概説する。
4	食品衛生・細菌性食中毒	食中毒の概要及び細菌性食中毒について取り扱う
5	食品衛生・自然毒食中毒	自然毒食中毒について概説する
6	食品衛生・食品添加物	食品添加物について概説する
7	食品の安全性	食品の衛生管理と安全性について概説する
8	水の衛生	水の衛生管理の重要性について考える
9	飲料水の安全性	水道水など飲用に供する水の安全性について詳述する。
10	水質汚濁	水質汚濁による過去の公害について映像等に触れることにより課題を考える。
11	居住環境の安全管理	室内環境などの衛生管理の必要性とかだいについて概説する。
12	大気汚染	大気汚染物質及び健康影響について概説する。
13	化学物質の健康影響	化学物質による健康影響及び化学物質に対する考え方について詳述する。
14	環境管理の重要性	環境管理の重要性についてミクロ及びマクロの視点から考える。
15	振り返り	全体を振り返り、得た知識について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、学習内容についてレポート提出を求める。

【テキスト（教科書）】

なし

スポーツ哲学

早瀬 健介

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育とは何かスポーツとは何であるかを考える上で必要な原理・原則について知識を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることでできる力を養うことを目標とする。

なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているであろうか。今後スポーツに少なからず携わろうと考えている者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られることより、スポーツとは何なのか、さらに自身にとってスポーツとはどのようなものであるのか、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについてより深く考えることがスポーツ専門職にとって重要となってくる。

【到達目標】

スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。

プレイとは何か、指導者とコーチの違い、フェアプレイとは何か、スポーツとドーピング、オリンピックとオリンピズムなどスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることでできるスキルを身に付ける。

【授業の進め方と方法】

体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動とおして行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。

テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項等
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜスポーツ哲学を学ぶ必要があるのか
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する
5	学校体育の変遷と学習指導要領①	明治から現在に至る体育の内容を学習指導要領をもとに学ぶ
6	学校体育の変遷と学習指導要領②	現行の学習指導要領及び新学習指導要領について理解する
7	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係①	ホイジンガのプレイ論
8	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係②	カイヨワのプレイ論
9	体育教師とコーチ	教師とは、コーチとは、コーチング回路
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとは具体的にどのようなことか
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、アンチ・ドーピング活動の展開

- オリンピックとオリン 近代オリンピックの概要
ビズム①
- オリンピックとオリン オリピックの真の目的は何か
ビズム②
- スポーツの大衆化と高 地域スポーツ振興の必要性
度化
- まとめ(半期を通して) まとめ(半期を通しての振り返り)の振り返り) 及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回：体育という言葉のイメージを考える

第3回：スポーツ哲学という言葉から想像される内容を考える

第4回：体育とスポーツ、どちらが広い概念なのか考える

第5回：明治、大正、昭和と日本はどのような歴史を歩んだのか復習してくる

第6回：自らが学んできた保健体育の内容をよく思い出してくる

第7回：遊びにより培われたものは何か考える

第8回：遊びの本質は何か考える

第9回：どのような指導者になりたいか、指導されたいのか各自が考える

第10回：アンフェアに見えてもフェアなプレイ、またその逆は何か考える

第11回：なぜドーピングがいけないのか考えをまとめて授業に望む

第12回：クーベルタンについて調べる

第13回：これからのオリンピックはどうあるべきか考える

第14回：身近なスポーツ環境を充実させるためにはどうすればよいか考える

第15回：半期を通しての振り返り

【テキスト（教科書）】

「教養としての体育原理 新版 -現代の体育・スポーツを考えるために-」

友添秀則・岡出美則編 大修館書店 新版第1刷(2016年7月)

また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業における出席態度（出席状況）に代表される平常点（15%）、レポート・小テスト（15%）、定期試験の成績（70%）による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の1/3を越える学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。また、従前の授業内容に関して授業終了時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

スポーツ運動学 I

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ。

【到達目標】

運動の質的評価の方法について、その流れ、手続き、注意点の概要を理解し、学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し、動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する。

【授業の進め方と方法】

身体運動を構成する要素について概説し、身体構造と発達、身体構造と機能、動きのとらえ方（主観と客観）を理解し、その評価方法とストラテジーを学ぶ。運動指導のための評価として、モルフォロジーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り、その概要を学ぶ。またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態、種類、原理、局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の質と運動観察	運動経過の評価および客観的記述
8	運動の評価	質の評価：モルフォロジーとバイオメカニクス
9	運動の質的評価	運動方法学：モルフォロジー的评价、研究方法
10	運動指導	運動方法学：モルフォロジー的评价に基づく運動指導
11	運動の質的評価	運動方法学：バイオメカニクスの評価、研究方法
12	運動指導	運動方法学：バイオメカニクスの評価に基づく運動指導
13	評価から運動技術指導へ	個別運動での具体的考察
14	事例検討	走運動、投運動における運動評価と運動指導
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」 深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

レポート、平常点を含めて総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

具体例の提示を出来るだけ多くとり、理解を助ける。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

スポーツ心理学A

立谷 泰久

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。「競技スポーツ」を行う場合、「健康スポーツ」を行う場合、そして「指導者」という立場になった場合など、様々なスポーツ場面における「こころ」のあり方やその理論、そして心理的諸問題の予防法・対処法について学習する。つまり、スポーツ心理学とは、実践的で役に立つ学問であるということを理解する。本講義で学んだことは、現役のアスリートとして、指導者として、またスポーツ科学・健康科学を活かした職業に従事する者として、さらには一人の人間として役に立つものである。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ関連の従事者となった時に、専門的知見から基礎的説明ができる。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、簡単な心理検査や実技なども行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、「一方通行」の講義にならないように配慮する。これらを通して、スポーツ心理学の知識を得るだけでなく、「考える」ということについても学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (ガイダンス含む)	「スポーツ心理学とは？－その意義と役割－」について学ぶ。
2	メンタルトレーニングの基礎	メンタルトレーニングとは何かを理解し、競技場面で起こる心理的な問題・課題を、自らの経験から理解していく。
3	メンタルトレーニングの応用①	具体的なメンタルトレーニング技法（「目標設定」「リラクセス法」「イメージトレーニング」など）をどのように使うのかを学ぶ。
4	メンタルトレーニングの応用②	競技現場で役に立つ様々な気持ちの切り替え法を実技を行いながら学ぶ。またトップアスリートへの実践例なども紹介し、理解を深める。自らの競技生活に応用し、さらに指導できるようになることを目指す。
5	スポーツと性格	性格の形成について理解し、スポーツと性格特性との関係について学ぶ。スポーツと性格特性の関係、そして動機づけについて解説する。また、心理検査を用いて自分自身の心理的特性を知る。
6	競技心理の諸問題	競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係について理解する。競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係、あがりやスランプ、プラトールなどについても解説する。
7	スポーツ技能の心理的基礎	認知、運動・技術学習の理論的基礎を、スポーツ場面に即して理解する。認知、運動・技術学習の理論的基礎をスポーツ場面に応用して教示し、指導場面で役に立つものを学ぶ。
8	スポーツチームの心理	チームの構造と機能、集団、リーダーシップなどについて学ぶ。チームの構造と機能、集団、リーダーシップなどがチームや集団に及ぼす影響などを解説する。
9	対人魅力の心理	魅力とは？ 対人魅力とは？ それに関わる心理とは？ など学ぶ。人間関係と指導効果の関係や理想の指導者像などについて解説する。

10	健康スポーツ心理学	健康スポーツ場面における心理学の応用、そして運動が心に及ぼす影響・効果について学ぶ。健康スポーツ心理学とは？ 運動が心理面に及ぼす影響の実験データ、実践例を見ながら解説する。
11	ストレスマネジメントの理論と実技	ストレスやストレスマネジメントとは何か？ その対処法や予防法を学ぶ。それをどのように教育現場、指導現場で行うのかを学び、ストレスへの対処法と予防法を指導できるようになることを目指す。
12	コミュニケーションについて	コミュニケーションとは何か？ 人間関係に及ぼす影響を学ぶ。コミュニケーションの重要性、そして「伝える技術」と「聴く技術」を学び、それが日常の人間関係やスポーツ場面に及ぼす影響を学ぶ。
13	スポーツカウンセリングについて	スポーツカウンセリングとは何か？ カウンセリングの効果などを理解する。スポーツに関わる人達が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。
14	競技スポーツ哲学	勝つため、最高のパフォーマンスを得るために必要な「哲学」を学ぶ。「勝つために必要な哲学とは？」「トップアスリートになるために必要なこととは？」「トップアスリートのメンタリティー」などを学ぶ。
15	講義内容の総まとめ	これまでの総復習をし、スポーツ心理学の理解を深め、役に立つ学問ということを再認識する。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布した資料を元に復習及び参考図書の閲覧。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布する。

【参考書】

- ・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版、編著：楠本恭久）
- ・『現場で活きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
- ・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著）

【成績評価の方法と基準】

(1) 配分

平常点：40 %とする。また、出席カード（表）には毎回の講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。

期末試験：50 %とする。

その他：10 %として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

(2) 評価基準

(1) の配分を元に、総合的に判断・判定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見から気づいたことを次年度に生かすようにしている。

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

運動生理学概論

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。本講義では、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果がもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的变化のメカニズムを理解する。

【到達目標】

- ・運動による身体機能変化について理解する。
- ・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【授業の進め方と方法】

体力を定義し、運動によって神経・筋、呼吸循環器系、身体組成にどのような変化が生じるか、その現象としくみについて理解し、体力の測定とトレーニングの効果について学ぶ。なお、本講義で扱う内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき内容である。

運動生理学概論では、運動生理学の基礎的な内容を取り扱うことになるが、機能解剖学と生理学Aを学習していることを前提として授業を進める。したがって、分かりにくいことがあれば、解剖学や生理学のテキストを見直してほしい。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体力の概念	・体力の解釈 ・体力の測定
2	神経系	・中枢神経と身体運動
3	エネルギー産生	・運動へのエネルギー供給機構の関与
4	筋系①	・筋のエネルギー供給機構
5	筋系②	・筋の分類 ・筋力の発揮
6	酸素運搬系(呼吸)	・呼吸運動 ・肺換気量
7	酸素運搬系(循環)	・血液の酸素運搬
8	環境	・温度・湿度、気圧 ・水中環境と運動
9	栄養・体の大きさ	・栄養素とその役割 ・体型、身体組成
10	体力の測定(形態)	・目標体重 ・ウエイトコントロール
11	体力の測定(神経・筋)	・筋力測定 ・パワー測定 ・敏捷性の測定
12	体力の測定(全身持久力)	・酸素摂取量 ・心拍数
13	トレーニングとは	・トレーニングの原則 ・トレーニングの特異性
14	トレーニング(神経・筋)	・トレーニングの神経系への効果 ・トレーニングの筋系への効果
15	トレーニング(有酸素運動・身体組成)	・トレーニングの酸素運搬系への効果 ・トレーニングの身体組成への効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問部分への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

「運動とスポーツの生理学 改訂第3版」(北川薫著, 市村出版, 2014年) 各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】

「運動生理学 エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス」(田口貞善他訳, 杏林書院, 1992年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(95%)：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験(マークシート(2点×30問)と論述(10点×4問))。

提出物(5%)：期限内に提出された課題等の評価。

欠席を理由に減点することはない。ただし、2/3以上の出席がない場合は、期末試験を受験する権利を失う。

【学生の意見等からの気づき】

一方的に説明を続けるだけの授業にならないように注意する。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する配布資料は、各回の前日までに授業支援システムにアップロードしておくので、プリントアウトをして授業に持参する。

スポーツ栄養学

長谷川 祐子

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、体育教師や運動指導員になった際、子供たちや中高年者を含む対象者に対し、食事・栄養に関する科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、栄養学の知識を深め、簡単な栄養診断を体験します。

【到達目標】

《栄養学基礎》主要な栄養素の名前と特性、栄養素／食品／料理の関係性、望ましい食事の基本構成、栄養アセスメントの方法等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》1 年間の期分け、1 日の練習、試合前後といった、スケジュールやタイミングを考慮した食事法を理解する。また栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》減量、増量、貧血予防、水分補給など、頻発する栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。
《特定の対象者の課題対策》女性、遠征時、高所など、特定の対象者・環境で発生しやすい栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式で行い、テーマによって適宜演習を挟みます。
・講義はパワーポイント主体で進めますが、図表は教科書を参照します。また演習時に計算が必要になる場合があります。教科書と電卓は毎回持参してください。
・理解度の確認と復習のためは毎回、前回講義に関する 10 問程度の小テストを行います（リアクションペーパー兼用）。
・授業中は他の学生の受講の妨げになるような私語は慎んでください。目に余る場合は席の移動または退出を命じます。
・映写中のパワーポイント資料の撮影は禁じます。代わりに授業支援システムにて PDF 形式で同等のものを提供します。

【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと前提知識： 栄養は車にたとえられる	・スポーツ栄養学の必要性、授業の進め方、受講生に求められることを理解する。 ・栄養素の分類と名前を知る。
2	前提知識：車はどうやってつくられるか	・栄養素が含まれているもの（食品・料理）と、栄養素が体内に入る経路（消化と吸収）について知る。 ・サプリメントに対する心構えと、よく知られている機能性成分について理解する。
3	エネルギー供給機構と競技分類：心臓部のエンジンと車種、必要なガソリンの量	エネルギー供給機構とそれに基づいた競技分類、エネルギー消費量の内訳、身体活動レベルについて理解する。 【演習】簡易的なエネルギー必要量の推定
4	エネルギー必要量とエネルギー産生栄養素：ガソリンの種類	エネルギー産生栄養素の種類、働きおよび多く含まれる食品について理解する。 【演習】脂質および炭水化物目標摂取量の推定
5	体格とたんぱく質： 走りを支える車体	主に筋たんぱく質合成の観点から、たんぱく質の適切な摂取法を理解する。 【演習】たんぱく質目標摂取量の推定、1 日の食事の比率
6	体格とミネラル： 走りを支える車体	主に骨、血液の代謝の観点から、それらの構成成分となるミネラルの適切な摂取法を理解する。 【演習】たんぱく質目標摂取量の推定、1 日の食事の比率
7	パフォーマンスとビタミン・ミネラル：少量でも重要な潤滑油やワックス	主にパフォーマンスの観点から、代謝の補酵素・補因子となるビタミン・ミネラルの種類、働き、過剰症と欠乏症、および多く含まれる食品について理解する。
8	水分補給と暑熱環境：車体を冷やすラジエーター	体内における水の働きと、効果的な水分補給法について理解する。
9	期分け、とくに試合期：季節ごとのメンテナンス計画	期分けと栄養について理解する。また試合前後の食事法について理解する。
10	栄養ケア・マネジメント：メンテナンス計画の策定・実施	・具体的な症例について、栄養アセスメントに基づいてどのような栄養ケアを行うべきか事例を示す。 ・別な症例について、栄養アセスメントに基づいたアドバイスシートを各自作成する。

11	栄養アセスメント：車体や部品の大きさや状態を調べる	栄養素の望ましい摂取量と、栄養状態をアセスメントする各種の手法を知る。 【演習】身体組成と生活時間調査に基づいたエネルギー必要量推定、食事調査に基づいたエネルギー摂取量推定
12	増量／減量：車体の改造	減量・増量の方法について理解する。 【演習】減量計画の作成
13	貧血、免疫能と栄養：起きやすい故障	・スポーツ貧血の機序や対応策について理解する。 ・免疫と栄養について理解する。
14	女性、ジュニア、高齢者と栄養：特性を考慮したメンテナンス	女性・高齢者・ジュニアで気をつけたい問題とその対応策について理解する。
15	遠征と食事／高所（低圧・低温）と栄養：特殊な状況に合わせた走り	・遠征時に注意すべきことについてチェックリストを用いて確認する。 ・トピックスとして、高所における栄養について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】

教科書や事前配布プリントの関連部分を読了する。

【復習】

第 02～15 回（共通）：教科書、参考書による復習、ノート整理、演習が授業内に終わらなかった場合はその補完

【宿題】

1 日分の行動記録調査、1 日分の食事記録調査

第 10 回に記録用紙配布 → 第 11 回に各自記入して持参、演習に使用

【テキスト（教科書）】

・「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学 第 2 版」（八千代出版）¥2,700

【参考書】

・「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」（市村出版）
・「新版 コンディショニングのスポーツ栄養学」（市村出版）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト第 9 巻）」（日本体育協会）
・「日本人の食事摂取基準 2015 年度版」{<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html>}
・「日本食品標準成分表 2015」{http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365420.htm}
・「食品成分データベース」{<http://fooddb.mext.go.jp/>}
・「改訂版『身体活動のメッツ（MET s）表』」{<http://www0.nih.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf>}

【成績評価の方法と基準】

評価配分：授業への積極性（20 %）、課題・小テスト提出（30%）、筆記試験（50%）
原則として、全授業回数の 2/3 以上の出席者を成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

・各自が課題に時間をかけられるよう、試験と重ならない時期を提出期限とします。
・声が聞き取りにくいようなので、マイクの使い方を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

・PC（Microsoft PowerPoint 使用）、プロジェクター、DVD 再生機器を使用して講義します。
・資料配布、課題提出に授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
・欠席した場合は、**公欠の場合を含め**、以下を行うこと。
1) 授業支援システムにある該当回の資料を見ておく。
2) 欠席した日の食生活チェックシート（用紙は別途指示）を記入のうえ、授業支援システムにてアップロード提出する。
※授業への積極性の評価に使用されます。

スポーツバイオメカニクス

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基礎科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する。そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する。

【到達目標】

スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し、簡単な関節モーメントの算出が可能になる。

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び、キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する。また、キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクスの手法についてもその概要と分析方法について学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、授業の流れを概説	ガイダンス、授業の流れを概説
2	力学の基礎	力とスカラー量・ベクトル量
3	力学の基礎	力と運動
4	力学の基礎	変位・速度・加速度
5	力学の基礎	並進運動の力学
6	力学の基礎	回転運動の力学
7	キネマティクスの分析	分析方法の基礎
8	キネマティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
9	キネマティクスの分析	分析方法の基礎
10	キネマティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
11	筋電図	分析方法の基礎
12	筋電図	分析方法の応用としての事例検討
13	バイオメカニクスの研究例	研究デザインからみた事例検討
14	バイオメカニクスの研究例	研究の実践としての事例検討
15	まとめ	バイオメカニクスの基礎から実践までの流れを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

試験またはレポート、平常点を含めて総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

力学の基礎においては、文系出身者にもわかるよう比較的簡単な具体例も用いる。

【その他の重要事項】

ただし、授業の展開によって若干の変更があり得る

スポーツマネジメント論

川崎 登志喜

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例から課題を見つけ、課題解決のためにどのようなマネジメントが必要なのか指摘できる力を養うことを目標とする。

【到達目標】

①マネジメントは様々な場面で活用できる技術であることを理解できる。

②受講生が所属している様々な組織においてマネジメント能力を発揮できるための基礎的知識を獲得できる。

【授業の進め方と方法】

豊かなスポーツ環境や健康スポーツライフの実現を目指すスポーツに関わる人々にとって「スポーツ」という商品をどのようにマネジメントすればよいのか？重要な課題である。まさに「マネジメント」は現在、様々な領域（学校・地域・職場・民間・プロスポーツなど）や事業現場で注目されている。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を学ぶとともに、様々な事例を通して課題を研究しながら実学としてのスポーツマネジメントを学習していく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	スポーツマネジメントとは	概念と目的について
3	スポーツマネジメントの構造	しくみと構造の把握
4	スポーツマネジメントの領域	スポーツ経営体について
5	マネジメントサイクル	経営過程と経営機能について
6	スポーツ事業論	A.S. P.S. C.S.について
7	各論1	学校体育のマネジメント
8	各論2	地域スポーツのマネジメント
9	各論3	総合型地域スポーツクラブのマネジメント（広域スポーツセンターの機能と役割）
10	各論4	商業スポーツクラブのマネジメント
11	各論5	プロスポーツのマネジメント
12	各論6	スポーツ集団のマネジメント
13	各論7	スポーツイベントのマネジメント
14	各論8	国と地域におけるスポーツ行政（我が国のスポーツ振興施策とビジョン）
15	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～15回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

毎時間、資料を配付する。

【参考書】

八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

試験 60% 授業参加度 20%

(但し、総授業数の 2/3 以上に出席しなければ単位は認定されない。)

レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

スポーツニュースの課題は好評につき今年度も実施します。

林田 はるみ

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：木・3

旧科目名：健康科学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は成人病を助長する。健康に対する知識の不足や誤った生活習慣を理解する。

【到達目標】

健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【授業の進め方と方法】

講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	進め方についてアナウンス
2	健康科学総論	健康科学の定義・各論の紹介
3	食事と健康	健康的な食事そうでない食事について講義する
4	水と健康	水分補給の重要性について講義する
5	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
6	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
7	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について講義する
8	歯と健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
9	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
10	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
11	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
12	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
13	トレーナビリティと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
14	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
15	まとめと試験	これまでの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】

特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況（やむを得ない理由がある場合全講義の 1/3 回まで欠席を認めることがあるので必ず事前あるいは事後に相談してください）、授業態度、中間試験、定期試験

【学生の意見等からの気づき】

双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・ 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学部を志してきた学生が今後4年間多岐にわたるスポーツ分野を学ぶ基礎科目として位置づけている。スポーツの概念の起源、欧米から日本への普及、学校教育としての体育、日本独自の武道のスポーツ化など スポーツ・体育の歴史を常に「現代」との関連を考えながら 総合的に学習する。また、学生が法政大学のスポーツ史を知ることによって法政大学がスポーツ界にどのように貢献してきたかを学び、大学スポーツの目的・在り方を現役の学生とともに考えたい。

【到達目標】

正しい歴史認識を基本に、学生が旺盛な批評精神と自らの意見を持ち発表できるようにする。また、それらを論理的に記述し、伝える方法論を指導する。

【授業の進め方と方法】

講義には視聴覚教材を使用する。毎時間授業のまとめを記述させる。グループ分けして発表させ 意見を交換させる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・オリエンテーション	学生に講義のねらいや、進め方について説明する。 成績評価の基準を明らかにする。
2	スポーツの誕生と日本の体育としての普及	スポーツのルーツと言葉の起源を探る。明治維新後、西欧文明が入ってきた中でスポーツはどのように日本社会に普及していったのか、また学校教育の中「体育」として普及していったのか 体育がなぜ軍国主義に利用されていったのかなど社会状況との関係を考える。
3	古代オリンピック史	紀元前9世紀ごろからおよそ1世紀にわたって行われた古代オリンピックはギリシャを中心としたヘレニズム文化圏の宗教行事だった。それはどのような行事だったのか、オリンピック休戦とは何か、また近代オリンピックにどのように受け継がれていったのかなどを考える。
4	近代オリンピック史	1896年に始った近代オリンピック。クーベルタンは何を求めてオリンピックを提唱したのか。オリンピックはその後どのような道のりを歩んだのか。ナチス・ドイツが主導した1936年ベルリン大会までの歴史を学ぶ
5	1942年幻の東京オリンピック返上の経緯	東京が招致に成功しながら返上した1942年オリンピック。日本はどのような大会を企画していたのか。社会はどのような情勢だったのか。そして「返上」は日本にとって歴史的に正しい選択だったのかを考える。
6	1964年東京オリンピックの時代背景	原体験をもつ私が1964年東京オリンピックと当時の社会状況、スポーツ状況を語る。そして2020年、つまり現代の社会状況と、スポーツ状況とどう違うのかを比較する。
7	モスクワオリンピックボイコットの禍根	日本オリンピック史の中で最も悔やまれる出来事は1980年ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して アメリカがモスクワオリンピックボイコットを提唱、日本も同調し不参加となった。その時スポーツ界はどのような意見を持ち抵抗したのか、永遠のテーマ「スポーツと政治」「スポーツ界の自立」を考える。
8	現代オリンピックの光と影	オリンピック憲章からアマチュアの文字が消えてから久しい。いわゆるオープン化によってオリンピックはどのように変容していったのか。大会の肥大化巨大化、ドーピング違反の多発、相次ぐ開催都市返上など現代オリンピックの抱える問題点を探る。

9	障がい者スポーツとパラリンピック史	イギリスの病院で行われた障がい者の大会がパラリンピックの起源と言われているが、1964年東京オリンピックの直後に開催された国際障がい者大会は意義深い。傷痍軍人も参加していた。何より「パラリンピック」という言葉は日本で生まれたのである。そしてオリンピックとパラリンピックは一つの大会として開催されるようになった。2020年の成功は「パラリンピック」が成功するかどうかにかかっていると言っても過言ではない。しっかり障がい者スポーツについて学ぼう。今や日本の代表的メジャースポーツ野球とサッカー。実は明治時代初期日本に入ってきたのは共に同じ頃なのである。ところが 普及、プロ化は半世紀の差がついてしまった。何故？ 両競技の普及プロセスを比較すると日本のスポーツ史が見えてくる。古代史から登場する相模の歴史を中心に日本独自の武道の発展経過を考える。また、日本武道がスポーツとしてどう発展していったのか、さらに世界にどのように進出していったのか。2020オリンピック正式種目となった空手、オリンピック運動と異なる道を歩む剣道などを例に考える。
10	日本野球と日本サッカーの普及発展の比較	法政大学硬式野球部は去年創部100年の記念式典を行った。立派な部の歴史書も刊行された。法政スポーツ各部はいずれも永い歴史を持ち日本のスポーツをけん引してきたことを法政大学の学生としてしっかり知るべきである。学徒動員、西欧スポーツの禁止令など戦火を乗り越えて先輩は伝統を継承してきた。学園紛争もあった。法政スポーツは常に社会と向き合ってきた。それらを学ぶことはスポーツ史を学ぶことであり 大学スポーツとは何かを考えることでもある。
11	日本から世界へ 日本武道の発達史	新国立競技場問題、エンブレム問題、競技会場変更問題など2020東京オリンピック・パラリンピックの準備は時として暗礁に乗り上げながら進んでいる。大会を3年後ひかえた今、組織委員会とはどんな組織なのか国、東京都、組織委員会、IOC とはどのようにつながっているのかなどを学ぶ。そして 今、何が問題で どのような大会像を描くべきなのか 学生諸君と議論したい
12	法政大学スポーツ史から大学スポーツを問う	2020年オリンピック地元開催は学生諸君にとって一生に一度のチャンスだと思う。ボランティアなどあらゆる可能性を求めて主体的に大会にかわり参加して欲しい。では、具体的にどう動いたらいいのかなどを共に考える。レポート形式の試験を実施
13	2020東京オリンピック・パラリンピック	2020東京オリンピック・パラリンピック 貴君はいかにかかわるのかを問う
14	2020東京オリンピック・パラリンピック	2020東京オリンピック・パラリンピック 貴君はいかにかかわるのかを問う
15	レポート形式の試験を実施	レポート形式の試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし。私独自の資料、講義録

【参考書】

16歳から知るオリンピックの軌跡（清水ひろし 彩流社）近代オリンピック100年の歩み（ベースボールマガジン社）高校野球100年（朝日新聞出版）スポーツ遣伝子は勝者を決めるか（デイヴィッド・エプスタイン早川書房）人間講座・日本人とスポーツ（玉木正之 NHK 出版協会）スポーツは誰のものか（杉山茂 慶応義塾大学出版会）スポーツ白書（笹川スポーツ財団）法政大学野球部百年史（法政大野球部 OB 会など）

【成績評価の方法と基準】

出席日数・積極的授業参加態度・発表態度・講義内で毎回提出させるレポートの内容評価・記述方法のレイアウトなどの伝える工夫評価・講義最終日における授業内試験の内容評価、以上を総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

新規担当者のため、該当なし

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

坪田 智夫、苅部 俊二

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

坪田 智夫、苅部 俊二

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

坪田 智夫、苅部 俊二

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

陸上競技実習

坪田 智夫、苅部 俊二

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。

長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。
15	予備日	天候などを考慮し予備日とする。また目標に達しなかった者について追試を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業への取り組みと復習

第 9 回：特になし

第 10～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を高めらるような授業展開に努める。

【その他の重要事項】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかねばならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」について学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を確実に体得させる。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学ぶ。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるように指導する。

試験では指示された 2 つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳させる。

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール・プールサイドで行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明
2	実技・自由形①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用バタ足等
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビ
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)
9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	試験練習日	4 種目の復習と試験の為の 50m 完泳の練習。
15	試験	指示した 2 種目 25m+25m で 50m 完泳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 種目の基礎泳法についての学習。

ビデオ・DVD 等を活用して正しい泳法の学習。

前回授業の復習と次回授業の予習。

泳力試験を行うので 4 種目泳法の復習と体力作り。

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

法政大学体育会水泳部員による模範泳法等

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

80 %：平常点・授業内の取り組み方

20 %：泳力テスト 50m(25m+25m)2 種目の泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を使い、授業の受けやすい環境設定。

怪我・病気等による見学についてはレポート提出等でも対処する。

【その他の重要事項】

見学については出席扱いにはならない。

スポーツ実習入門 (A)

井上 尊寛

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サブプレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (B)

成田 道彦

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サブプレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (C)

成田 道彦

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サーブレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (D)

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サブプレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (E)

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サブプレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (F)

シェーン・ボール

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サービス ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウイング ②サービス ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サーブレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ①スパイク ②サーブ ③トス・ブロック、つなぎのプレー ④ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃①フットワーク、パス、キャッチ ②シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御①フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ②ボールの獲得 ③ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ②サービスとレシーブ ③スマッシュ 基本技術 (2) ①ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①バックハンドスロー ②サイドアームスロー ③キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ②シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御①フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ②リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ①スイングの基本 ②アイアンショットの基本 ③60メートル以内のアプローチショット ④アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (G)

シェーン・ボール

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング 歩・走の基本技術	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サーブレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ① スパイク ② サーブ ③ トス・ブロック、つなぎのプレー ④ ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃① フットワーク、パス、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② ボールの獲得 ③ ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ② サーブとレシーブ ③ スマッシュ 基本技術 (2) ① ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ① バックハンドスロー ② サイドアームスロー ③ キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ② シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御① フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ② リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ① スイングの基本 ② アイアンショットの基本 ③ 60メートル以内のアプローチショット ④ アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

スポーツ実習入門 (H)

神和住 純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のスポーツ振興や健康づくりに貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

新たなスポーツ文化を確立するためのベースとなる「生涯スポーツ社会」に向けたスポーツ指導者の養成を目指す。

【授業の進め方と方法】

現代スポーツの最も基本的な文化的課題は「スポーツの質」を高めることにある。複数のスポーツ種目を実践することで『スポーツの質』を追い求め、各スポーツのルールや基本技術・戦術の習得と同時にその構造や特徴を認識できる授業内容とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・体力テスト	・半年間の授業テーマ、到達目標、概要、年間計画、各回の目標・内容を説明する。スポーツ総合の必要性、学生に求められる要素の理解。 ・体力テスト項目 機能面（肺活量、背筋力、握力、反復横跳、垂直跳、立位体前屈）
2	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギングのフォーム
3	歩・走の基本技術 硬式テニスのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォア・バックハンドストローク ②ボレー 基本技術 (2) ①サーブ ②リターン,スマッシュ 試合：ダブルス
4	バドミントンのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①ラケットワーク、ラケットスウィング ②サーブ ③レシーブ 基本技術 (2) ①ドライブ、ハイクリアー ②ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ③フットワーク 試合：ダブルス
5	ソフトボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キャッチボール、トスバッティング ②ハーフバッティング ③投手の投球技術 練習試合
6	サッカーのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー②トラップ各種 ③ヘディング 練習試合
7	バレーボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス（オーバー、アンダー） ②レシーブ（サブプレシーブ、スライディング） 基本技術 (2) ①スパイク ②サーブ ③トス・ブロック、つなぎのプレー ④ミニゲーム

8	ハンドボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) 攻撃①フットワーク、パス、キャッチ ②シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御①フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ②ボールの獲得 ③ゴールキーピング 練習試合
9	卓球のルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①フォアハンド、バックハンド ②サーブとレシーブ ③スマッシュ 基本技術 (2) ①ツッツキ・カット ②ハーフボレー 練習試合
10	フライングディスクのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①バックハンドスロー ②サイドアームスロー ③キャッチ・パス アルティメット種目試合
11	フットサルのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①キック インサイド、アウトサイド、インステップ、インフロント、ドロップ、ボレー ②トラップ各種 練習試合
12	バスケットボールのルール・基本技術・戦術 試合	基本技術 (1) ①パス各種 フットワーク、キャッチ ②シュート、ドリブル、フェイント 基本技術 (2) 防御①フットワーク、攻撃活動の阻止、シュート阻止 ②リバウンドボールの獲得 練習試合
13	ゴルフのルール・基本技術 試合	基本技術 (1) ①スイングの基本 ②アイアンショットの基本 ③60メートル以内のアプローチショット ④アイアン・コンテスト
14	実技テスト	上記各種目の基本技術の実技テスト
15	筆記テスト	ルールテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業で随時紹介、指示する。

【参考書】

ニュースポーツ ハンドブック 北川勇人(著) 日本レクリエーション協会

【成績評価の方法と基準】

実技への取り組み (60 %) 実技テスト (20 %) ルールテスト (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

ラケットスポーツ実習

兒嶋 昇

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に組み始めるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得しゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が出来る様に学習する。

将来、初心者指導できるように学ぶ。

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、グリップ、スイングを学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム法を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	基本 6 ストロークの解説及びバドミントン概論
第 2 回	基本技術	グリップとラケットスウィング（リフティング）
第 3 回	基本技術	ドライブストローク（フォアハンド・バックハンド）
第 4 回	基本技術	ハイクリアストローク（（フォアハンド・バックハンド）
第 5 回	基本技術	ドロップ&レシーブ（フォアハンド・バックハンド）
第 6 回	基本技術	プッシュ&レシーブ
第 7 回	基本技術	スマッシュ&ヘアピン
第 8 回	応用技術	オールロング&オールショート
第 9 回	応用技術	ダブルスのフォーメーション
第 10 回	応用技術	ダブルスのローテーション
第 11 回	試合形式	シングルの進め方 基礎編
第 12 回	試合形式	シングルの進め方 実践編
第 13 回	試合形式	ダブルスの進め方 基礎編
第 14 回	試合形式	ダブルスの進め方 実践編
第 15 回	実技試験	実技技能試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

平常点の他、授業への積極的貢献度（授業態度）技術習得の実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルス、シングルのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルス、シングルのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ④体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各ショットの基礎技術
第 2 回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第 3 回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第 4 回	グランドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第 5 回	ボレー	ボレー基礎技術
第 6 回	スマッシュ	スマッシュ基礎技術
第 7 回	サービス	サービス基礎技術
第 8 回	サービス、リターン	サービスとリターン練習
第 9 回	ダブルス基礎技術	ルール、ゲーム方法
第 10 回	ダブルス応用技術	ダブルスゲーム形式
第 11 回	ダブルスゲーム	ダブルスの戦術
第 12 回	シングルス基礎技術	ルールとゲーム方法
第 13 回	シングルス応用技術	ポジショニング、戦術
第 14 回	シングルス、ダブルス	シングルス、ダブルスゲーム形式
第 15 回	実技テスト	基本技術の習得状況の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映される全仏、全英オープンなどを見て、ショットや試合方法を参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」、「テニスクラシック」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢などの平常点（80 %）とルールテストと実技上達度（20 %）を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に報告すること。

ラケットスポーツ実習

兒嶋 昇

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に組み入れるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得しゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が出来る様に学習する。

将来、初心者指導できるように学ぶ。

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、グリップ、スイングを学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム法を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	基本 6 ストロークの解説及びバドミントン概論
第 2 回	基本技術	グリップとラケットスウィング（リフティング）
第 3 回	基本技術	ドライブストローク（フォアハンド・バックハンド）
第 4 回	基本技術	ハイクリアストローク（（フォアハンド・バックハンド）
第 5 回	基本技術	ドロップ&レシーブ（フォアハンド・バックハンド）
第 6 回	基本技術	プッシュ&レシーブ
第 7 回	基本技術	スマッシュ&ヘアピン
第 8 回	応用技術	オールロング&オールショート
第 9 回	応用技術	ダブルスのフォーメーション
第 10 回	応用技術	ダブルスのローテーション
第 11 回	試合形式	シングルの進め方 基礎編
第 12 回	試合形式	シングルの進め方 実践編
第 13 回	試合形式	ダブルスの進め方 基礎編
第 14 回	試合形式	ダブルスの進め方 実践編
第 15 回	実技試験	実技技能試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

平常点の他、授業への積極的貢献度（授業態度）技術習得の実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルス、シングルのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルス、シングルのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ④体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各ショットの基礎技術
第 2 回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第 3 回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第 4 回	グランドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第 5 回	ボレー	ボレー基礎技術
第 6 回	スマッシュ	スマッシュ基礎技術
第 7 回	サービス	サービス基礎技術
第 8 回	サービス、リターン	サービスとリターン練習
第 9 回	ダブルス基礎技術	ルール、ゲーム方法
第 10 回	ダブルス応用技術	ダブルスゲーム形式
第 11 回	ダブルスゲーム	ダブルスの戦術
第 12 回	シングルス基礎技術	ルールとゲーム方法
第 13 回	シングルス応用技術	ポジショニング、戦術
第 14 回	シングルス、ダブルス	シングルス、ダブルスゲーム形式
第 15 回	実技テスト	基本技術の習得状況の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映される全仏、全英オープンなどを見て、ショットや試合方法を参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」、「テニスクラシック」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢などの平常点（80 %）とルールテストと実技上達度（20 %）を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に報告すること。

ラケットスポーツ実習

兒嶋 昇

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に組み入れるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得しゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が出来る様に学習する。

将来、初心者指導できるように学ぶ。

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、グリップ、スイングを学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム法を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	基本 6 ストロークの解説及びバドミントン概論
第 2 回	基本技術	グリップとラケットスウィング（リフティング）
第 3 回	基本技術	ドライブストローク（フォアハンド・バックハンド）
第 4 回	基本技術	ハイクリアストローク（（フォアハンド・バックハンド）
第 5 回	基本技術	ドロップ&レシーブ（フォアハンド・バックハンド）
第 6 回	基本技術	プッシュ&レシーブ
第 7 回	基本技術	スマッシュ&ヘアピン
第 8 回	応用技術	オールロング&オールショート
第 9 回	応用技術	ダブルスのフォーメーション
第 10 回	応用技術	ダブルスのローテーション
第 11 回	試合形式	シングルの進め方 基礎編
第 12 回	試合形式	シングルの進め方 実践編
第 13 回	試合形式	ダブルスの進め方 基礎編
第 14 回	試合形式	ダブルスの進め方 実践編
第 15 回	実技試験	実技技能試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

平常点の他、授業への積極的貢献度（授業態度）技術習得の実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルス、シングルのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルス、シングルのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ④体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各ショットの基礎技術
第 2 回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第 3 回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第 4 回	グランドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第 5 回	ボレー	ボレー基礎技術
第 6 回	スマッシュ	スマッシュ基礎技術
第 7 回	サービス	サービス基礎技術
第 8 回	サービス、リターン	サービスとリターン練習
第 9 回	ダブルス基礎技術	ルール、ゲーム方法
第 10 回	ダブルス応用技術	ダブルスゲーム形式
第 11 回	ダブルスゲーム	ダブルスの戦術
第 12 回	シングルス基礎技術	ルールとゲーム方法
第 13 回	シングルス応用技術	ポジショニング、戦術
第 14 回	シングルス、ダブルス	シングルス、ダブルスゲーム形式
第 15 回	実技テスト	基本技術の習得状況の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映される全仏、全英オープンなどを見て、ショットや試合方法を参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」、「テニスクラシック」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢などの平常点（80 %）とルールテストと実技上達度（20 %）を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に報告すること。

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

神和住 純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・2

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスはラケットを使用するスポーツの中でも代表する種目であり、これを習得する。実習を通してテニスの種目特性を体感し、何故ラケット種目が生涯スポーツを代表する競技であるかを学ぶ。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業として、テニスの基本技術と応用技術を習得し、ダブルスの試合が出来るように学ぶ。

将来、初心者指導できれば尚好ましい。

教員採用試験の受験課題に合格するための技能を習得する。

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになるために、グリップ・スイングを学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。
簡易ルールによるゲーム法を学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テニス基本 6 ストロークのデモンストレーション・グリップとスイングの説明
2	基本技術	フォアハンドストローク
3	基本技術	バックハンドストローク
4	基本技術	フォアハンドボレー
5	基本技術	バックハンドボレー
6	基本技術	スマッシュ
7	基本技術	サービス
8	応用技術	ベースラインプレー（連続プレー・攻撃と守備）
9	応用技術	ネットプレー（連続プレー・攻撃と守備）
10	応用技術	サービス&レシーブ（連続プレー・攻撃と守備）
11	試合形式	ダブルスゲームの進め方（スコアの数え方・ルール・マナー）
12	試合形式	ダブルスゲームⅠ（フォーメーション）
13	試合形式	ダブルスゲームⅡ（フォーメーション）
14	試合形式	ダブルスゲームⅢ（フォーメーション）
15	実技テスト	基本ショット・応用技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献・インターネットなどで調べて予備知識を持つ。実技の前日は体調を整えておくように心掛ける。
テレビでテニス試合の観戦も良い。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

NHK ベストテニス初級編 神和住純著 日本放送協会

テニス指導教本 日本テニス協会

テニス関連の専門雑誌（テニスマガジン・スマッシュ等）

【成績評価の方法と基準】

出席率及び授業態度・実技テストの総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特にないので、現状維持で授業を行う。

【その他の重要事項】

雨天時はアリーナもしくは室内講義に変更しますので、その都度掲示板を確認すること。

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

児嶋 昇

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・2

旧科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に組み入れるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得しゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が出来る様に学習する。

将来、初心者指導できるように学ぶ。

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、グリップ、スイングを学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム法を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	基本 6 ストロークの解説及びバドミントン概論
第 2 回	基本技術	グリップとラケットスウィング（リフティング）
第 3 回	基本技術	ドライブストローク（フォアハンド・バックハンド）
第 4 回	基本技術	ハイクリアストローク（フォアハンド・バックハンド）
第 5 回	基本技術	ドロップ&レシーブ（フォアハンド・バックハンド）
第 6 回	基本技術	プッシュ&レシーブ
第 7 回	基本技術	スマッシュ&ヘアピン
第 8 回	応用技術	オールロング&オールショート
第 9 回	応用技術	ダブルスのフォーメーション
第 10 回	応用技術	ダブルスのローテーション
第 11 回	試合形式	シングルの進め方 基礎編
第 12 回	試合形式	シングルの進め方 実践編
第 13 回	試合形式	ダブルスの進め方 基礎編
第 14 回	試合形式	ダブルスの進め方 実践編
第 15 回	実技試験	実技技能試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

平常点の他、授業への積極的貢献度（授業態度）技術習得の実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等とおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	グループ戦術の習得	2on2 でのスクリーンプレイ
11	チーム戦術の習得	5on5 での攻防
12	チーム戦術の習得	攻守の移行局面での攻防
13	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
14	技能確認	グループ戦術の習得度確認
15	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、出席状況と授業態度により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能試験により評価する (20%)。到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)

ボールスポーツ実習

濱口 純一

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ルールや各技術の正しいやり方等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや各技術の正しいやり方等の知識を理解する。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本技術の習得をし、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るように、基本となるパスやスパイク等の個人技術の習得をしながら、チームを編成して試合を行っていく。

同時にルールや試合の組み立て方、各技術の正しいやり方等、知識としても理解を深めていく。

経験者以外でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。

第 14 回 集団的技術・ゲーム⑤ チームごとに戦略を立ててゲーム（実習＆講義）を行う。

第 15 回 筆記試験 筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また基本的なルールや技術的に必要な要点等、各回で行ったことを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
- 2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践による楽しさは実感出来ているようなので、さらにバレーボールの競技特性をしっかりと理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてビデオ機器を使用する。

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをととして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	グループ戦術の習得	2on2 でのスクリーンプレイ
11	チーム戦術の習得	5on5 での攻防
12	チーム戦術の習得	攻守の移行局面での攻防
13	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
14	技能確認	グループ戦術の習得度確認
15	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、出席状況と授業態度により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能試験により評価する (20%)。到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をととしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

ボールスポーツ実習

濱口 純一

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ルールや各技術の正しいやり方等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや各技術の正しいやり方等の知識を理解する。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本技術の習得をし、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るように、基本となるパスやスパイク等の個人技術の習得をしながら、チームを編成して試合を行っていく。

同時にルールや試合の組み立て方、各技術の正しいやり方等、知識としても理解を深めていく。

経験者以外でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。

第 14 回 集団的技術・ゲーム⑤ チームごとに戦略を立ててゲーム（実習＆講義）を行う。

第 15 回 筆記試験 筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また基本的なルールや技術的に必要な要点等、各回で行ったことを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
- 2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践による楽しさは実感出来ているようなので、さらにバレーボールの競技特性をしっかりと理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてビデオ機器を使用する。

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をととしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをととして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	グループ戦術の習得	2on2 でのスクリーンプレイ
11	チーム戦術の習得	5on5 での攻防
12	チーム戦術の習得	攻守の移行局面での攻防
13	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
14	技能確認	グループ戦術の習得度確認
15	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、出席状況と授業態度により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能試験により評価する (20%)。到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)

ボールスポーツ実習

濱口 純一

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ルールや各技術の正しいやり方等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや各技術の正しいやり方等の知識を理解する。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本技術の習得をし、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るように、基本となるパスやスパイク等の個人技術の習得をしながら、チームを編成して試合を行っていく。

同時にルールや試合の組み立て方、各技術の正しいやり方等、知識としても理解を深めていく。

経験者以外でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。

第 14 回 集団的技術・ゲーム⑤ チームごとに戦略を立ててゲーム（実習＆講義）を行う。

第 15 回 筆記試験 筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また基本的なルールや技術的に必要な要点等、各回で行ったことを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
- 2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践による楽しさは実感出来ているようなので、さらにバレーボールの競技特性をしっかりと理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてビデオ機器を使用する。

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をととしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをととして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	グループ戦術の習得	2on2 でのスクリーンプレイ
11	チーム戦術の習得	5on5 での攻防
12	チーム戦術の習得	攻守の移行局面での攻防
13	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
14	技能確認	グループ戦術の習得度確認
15	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、出席状況と授業態度により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能試験により評価する (20%)。到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)

ボールスポーツ実習

濱口 純一

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、ルールや各技術の正しいやり方等の知識も理解出来るよう、実習及び講義を進めていく。

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや各技術の正しいやり方等の知識を理解する。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本技術の習得をし、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るようにする。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自由にコントロールしていく能力を身につけ、技能を高めると共に運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習においては三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が出来るように、基本となるパスやスパイク等の個人技術の習得をしながら、チームを編成して試合を行っていく。

同時にルールや試合の組み立て方、各技術の正しいやり方等、知識としても理解を深めていく。

経験者以外でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習＆講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習＆講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習＆講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習＆講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習＆講義）	コートの位置取りや実際の動き方などフォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習＆講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習＆講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習＆講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習＆講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。

第 14 回 集団的技術・ゲーム⑤ チームごとに戦略を立ててゲーム（実習＆講義）を行う。

第 15 回 筆記試験 筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また基本的なルールや技術的に必要な要点等、各回で行ったことを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
- 2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践による楽しさは実感出来ているようなので、さらにバレーボールの競技特性をしっかりと理解してもらうことを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてビデオ機器を使用する。

スポーツコーチング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形作る中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくためには、
・コーチングに対する考え方
・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきかを理解する

【授業の進め方と方法】

アクティブ・ラーニングのためにグループ学習で進める。各回のテーマをグループでディスカッションしてプレゼンする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテン
4	コーチの倫理観・規範意識	スプレーヤーズファースト、アンチドーピング
5	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
6	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
7	まとめ①	コーチングに対する考え方のまとめ
8	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
9	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
10	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
11	まとめ②	コーチ自身の態度や行動のまとめ
12	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
13	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
14	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
15	まとめ③	コーチング対象者に対する態度や行動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回にディスカッションするテーマを準備学習することが望まれる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、G a k k e n

【成績評価の方法と基準】

まとめの3回を経て、3回レポートを提出してもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブ・ラーニングが実施できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物には環境からの働きかけ（刺激）に適応する能力がある。現在の形態や機能を、目的に応じて、より高いレベルに適応（プラスへの適応）させる働きかけをトレーニングという。スポーツトレーニングを実施する際には、まずスポーツパフォーマンスの構造を理解した上で、何を、いつまでに、どのようにトレーニングするのかを決める。そして測定をして現状を把握・評価した後に、トレーニングを実践し、終わった時に再び同じ測定をして効果を評価する。このサイクルを繰り返して試合に臨むことになるが、この過程にあるトレーニングの理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツパフォーマンスの構造、体力や技術の概念を理解した上で、トレーニングの目標、手段、方法、計画、試合での行動、測定・評価・フィードバックといったトレーニングの理論を理解する。また、トレーニングを効果的にするための事前、事後の作業も理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、できるだけアクティブ・ラーニングになるように進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス	スポーツパフォーマンスの構造
2	スポーツパフォーマンスを構成する概念①	体力の概念
3	スポーツパフォーマンスを構成する概念②	技術の概念
4	スポーツパフォーマンスを構成する概念③	トレーニングの概念
5	トレーニングの理論①	トレーニングの目標
6	トレーニングの理論②	トレーニングの手段
7	トレーニングの理論③	トレーニングの方法
8	トレーニングの理論④	トレーニングの計画
9	トレーニングの理論⑤	トレーニングの原理
10	トレーニングの理論⑥	トレーニングの原則
11	トレーニングを効果的にするための事前、事後の作業①	ウォーミングアップとクーリングダウン
12	トレーニングを効果的にするための事前、事後の作業②	リカバリー 栄養と休養
13	トレーニングの理論⑦	試合での行動
14	トレーニングの分析・評価	トレーニング前後の測定・評価
15	トレーニングの分析・評価	トレーニング実践のフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論をあてはめる作業を望む。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、授業への出席と積極性40%で評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

スポーツ社会学

海老島 均

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して、スポーツの光と影、様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになることを、本授業は目的としている。

【到達目標】

- 1) スポーツに関連した具体的事例を通して、社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
- 2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
- 3) 社会学的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

【授業の進め方と方法】

文献資料およびDVDやスライド映像資料を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインタラクティブな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは、スポーツ社会学とは
2	グローバル社会の中のスポーツ	高度化、ビジネス化等のキーワードからグローバル社会でのスポーツの変容を探る。
3	現代スポーツの臨界点	ドーピングに代表されるような現代スポーツの問題点を考える。
4	オリンピック・スタディーズ	オリンピックの発展、変遷に関して社会学的に探る。
5	スポーツと自然環境	オリンピックに代表されるメガイメント開催やスポーツに関連する開発と自然環境の問題を考える。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断、または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で、現代的問題に関して考える。
9	スポーツと逸脱の社会学	スポーツにおける暴力、ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える。
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から考える。
12	スポーツ政策とスポーツ振興	我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。
13	日本社会とスポーツ	日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。
14	スポーツ社会学研究の国際比較	スポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論について考える。
15	まとめ	スポーツ社会学研究の意義と将来に向けての提言について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する文献（教科書も含め）を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。

【テキスト（教科書）】

菊幸一他編著『よくわかるスポーツ文化論』（ミネルヴァ書房）

【参考書】

菊幸一他編著『現代スポーツのパースペクティブ』（大修館書店）他、授業時に、それぞれの単元に依りて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、発言等）：60 %
試験および随時課すミニレポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーに書かれた質問、コメントをより有効に活かして授業を展開していく。

スポーツ文化論

早瀬 健介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは私たち人間の“こころ”と“からだ”の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つといわれている。

なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、私たちのスポーツの価値をどのように認識しているのだろうか。

本授業ではスポーツを様々な視点から見ることにより、スポーツが現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできない文化であることを再確認する。

我々の身近にあるスポーツがどのような変遷を経て現在に至っているのか、毎年世界各地で開催をされるオリンピックをはじめとする様々な国際スポーツ大会の在り方から身近なスポーツ環境まで、スポーツは我々の生活に深く根ざしている。

本授業ではこれらを元にスポーツが内包する魅力について知見を深めるとともに、それらを踏まえ自らがスポーツについて語る力を養いたい。

【到達目標】

様々なスポーツ関連事象を通して、現代社会を見ることのできる知識を身につける。

とりわけ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後展開される様々な施策に関し、自らの言葉で語ることのできる力を養う。

【授業の進め方と方法】

国際大会を含め様々なスポーツイベントやアスリートを取りまく環境が変わりつつある今日、それらをめぐる様々な事象からスポーツについて考えるとともに、我が国における体育・スポーツへの取組やスポーツが社会に及ぼす影響など、スポーツに関する身近な題材を参考に、自らの生活との関わりの中でスポーツの価値について考える。

必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では、普段私たちが何気なく目や耳にしてきたスポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにするとともに、今後の各自のスポーツ振興に役立てることを目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項等
2	スポーツとは	スポーツとはどのような歴史をたどり現在に至っているのか
3	スポーツ基本権	スポーツに関する国民の権利を保障する法的根拠を理解
4	スポーツ振興法	当時の逐条解説等をもとに、昭和 36 年のスポーツ振興法を学習
5	我が国のスポーツ活動の現状と課題	体力・スポーツに関する世論調査（文部科学省）データをもとに我が国のスポーツ活動の現状について理解する
6	我が国の体育スポーツ施設	スポーツ施設に関する文部科学省・スポーツ庁のデータをもとにスポーツ環境を考える
7	スポーツ立国戦略	平成 22 年に策定されたスポーツ立国戦略について、その背景も含め理解を深める
8	スポーツ基本法①	平成 23 年に約半世紀ぶりに改正された「スポーツ基本法」の前文及び第 1 章総則について理解する

9	スポーツ基本法②	「スポーツ基本法」第 2 章スポーツ基本計画等及び第 3 章基本的施策以降について理解する
10	スポーツ基本計画	平成 24 年に策定された「スポーツ基本計画」について理解を深める
11	子どものスポーツ環境	体力低下のデータ等をもとに子どものスポーツ環境について考える
12	地域スポーツクラブ	豊かなスポーツ環境の創造に向け「新しい公共」として期待される地域スポーツクラブについて理解を深める
13	オリンピックについて考える①	オリンピックを支えている基本的な考え方を学ぶとともに、祭典競技に対する考え方と競技内容等について理解を深める
14	オリンピックについて考える②	オリンピックにまつわる雑学を知る
15	2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて考える	2020 年東京オリンピック・パラリンピックに関する諸課題について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回：スポーツの始まりは何であったのか考えてくる

第 3 回：日本国憲法第 3 章に目を通してくる

第 4 回：スポーツ振興法 第 1 条～第 4 条（総則）に目を通してくる

第 5 回：現在の成人にとってスポーツ活動は身近なものか否かを考える

第 6 回：日本にはどのようなスポーツ施設が多いのか考えてくる

第 7 回：スポーツ立国戦略に目を通してくる

第 8 回：スポーツ基本法の前文をしっかりと読んで理解してくる

第 9 回：スポーツ基本法第 3 章基本的施策に目を通してくる

第 10 回：スポーツ基本計画に目を通し、7 つの取り組むべき施策に対応する事例を調べてくる

第 11 回：子どもの体力低下の原因について考えてくる

第 12 回：地域スポーツクラブとはどのようなモノのことをいうのか考えてくる

第 13 回：競技別の世界選手権とオリンピックは何が異なるのか考えてくる

第 14 回：オリンピックに関する雑学を各自が一つは調べてくる

第 15 回：2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた課題について考える

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリント等を配布

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業における出席態度（出席状況）に代表される平常点（20%）、レポート・小テスト（20%）及び、定期試験（60%）による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の 1/3 を越える学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備しておくこと。

高見 京太

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【授業の進め方と方法】

本科目と生理学 A とを通して学習することで、身体の高構成要素の基本的な生理学の全般について学習することになる。生理学 B は選択科目であるが、教員免許状取得のための必修科目である。したがって、将来、保健体育の教師として身につけておいてほしい内容は、生理学 A と生理学 B の両方である。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・生理学 A の概観 ・学習指導要領における生理学の領域
2	復習テスト	・生理学 A 分野の復習テスト
3	体性感覚	・体性感覚の受容器 ・体性感覚の伝達経路
4	視覚	・眼球の構造 ・視覚の経路 ・空間の認知
5	聴覚	・外耳、中耳、内耳 ・聴覚情報処理
6	平衡感覚	・前庭系の末梢機構 ・前庭系の中樞機構
7	味覚・嗅覚	・味覚の定義とその種類 ・味覚の分子メカニズム
8	脳の高次機能・記憶・情動	・大脳皮質の機能局在 ・記憶と情動
9	消化	・消化管運動 ・消化管分泌
10	栄養と代謝①	・栄養素 ・代謝
11	栄養と代謝②	・代謝とエネルギー
12	腎機能と尿生成	・ネフロン形態と機能 ・腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮
13	睡眠	・睡眠の種類 ・睡眠覚醒の調節 ・体内時計
14	生殖	・男性の生殖機能 ・女性の生殖機能
15	生理学のまとめ	・生理学 A および B を通しての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問部分への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)

授業で使用する資料を、各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードして、印刷し持参する。

【参考書】

「トートラ人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%) : 講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 × 30 問) と論述 (10 点 × 4 問))。

提出物 (5%) : 期限内に提出された課題等の評価。

欠席を理由に減点することはない。ただし、2/3 以上の出席がない場合は、期末試験を受験する権利を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の簡易レポートからは、理解度における大きな個人差が感じられる。授業外での予習・復習、さらには自身の経験や知識と関連づけた簡易レポート作成などを通じて、知識の定着を図りたいと考えている。また、興味・関心の個人差については解消は困難であるが、基礎知識の定着が前提とはなるが、より発展的な理解が進む授業を目指して内容を工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業で使用する配布資料は、各回の前日までに授業支援システムにアップロードしておくので、プリントアウトをして授業に持参する。

スポーツコンディショニング論 I

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチ等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】

1. コンディションおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解すること。
2. スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気およびその救急処置について理解すること。

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（1）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（2）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（3）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（1）	コンディショニングの手法として、ストレッチの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
8	コンディショニングの手法（2）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（3）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（1）	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリ（トレーニング）の考え方についての講義を行う。

11	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（2）	アスレティックリハビリテーションの実際について、具体的な例を交えながら、トレーニング計画の立て方に関する部分の講義を実習を交えながら行う。
12	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
13	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
14	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
15	試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 日本体育協会編、公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ
2. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
4. 初山日出樹総監修、臨床スポーツ医学、医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

スポーツ心理学B

立谷 泰久

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として競技力向上に重要な役割を持つ「心理サポート」について学ぶ。心理サポートの中のメンタルトレーニングは、一般的に見聞きするようになってきたといえる。しかし、その具体的な方法についてはあまり知られていない。競技者の心理的な問題・課題は多種多様である。そのことに対応するため、メンタルトレーニング、スポーツ・カウンセリング、そして人生の生き方に関することまで大きく捉えた「心理サポート」について学ぶ。また、競技者が抱える問題・課題を事例的に示しながら、専門的知識を習得し、指導者になった時に役立つものを学ぶ。ここで学んだものは、どのような職業に就いても応用できるものである。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、アスリートを対象とした「心理サポート」についての基礎的な理論と実践・応用の仕方が理解できる。

【授業の進め方と方法】

メンタルトレーニング、スポーツ・カウンセリング、ストレス・マネジメントというキーワードから、「心理サポート」について学び、競技場面で具体的に役立つ様々な心理技法を習得していく。また、「ものの見方、考え方、そして人生の生き方の姿勢」という重要なテーマにも取り組み、優秀な指導者になるために必要な人間的成長をも目指す。基本的には講義形式で行うが、応用的な心理検査や実技なども行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、コミュニケーションを行いながらの講義にする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「心理サポートとは？」－その意義と役割－	授業の進め方についての説明と「心理サポートとは？」何かとその基礎について学ぶ（スポーツ心理学Aの復習含む）。
2	パフォーマンスの自己分析、目標設定	パフォーマンスの自己分析の行い方、そして目標設定について学ぶ。用紙や付箋紙を用いて、パフォーマンスの自己分析の方法について学ぶ。また、効果的な目標の立て方についても解説する。
3	競技パフォーマンスと日常生活との関係	競技パフォーマンスと日常生活の関係は重要である。この関係には、一見すると関係のないと思われるものが、実は密接に関係する場合がある。このようなことを一流の指導者の「言葉」から学ぶ。
4	リラクセス法、イメージトレーニング	リラクセス法（漸進性筋弛緩法や呼吸法など）とイメージトレーニングの方法を解説し、体験する。
5	競技現場で役に立つ気持ちの切り替え法	様々な気持ちの切り替え法を実技を通して学ぶ。気持ちの切り替え法は多数あるが、それらを紹介し、その中から自分に合う方法を見つけ、日常的に行えるようになることを目指す。
6	ルーティンとゲームプラン－試合でやることを決めておこう－	ルーティンとゲームプランについて解説する。ルーティン、ゲームプランの事例を通して、自らのルーティンとゲームプランを作成する。
7	競技場面で実力を最大限に発揮するための『考え方』について	競技場面で最高のパフォーマンスを発揮するためには、競技場面でどのような『考え方』で競技に臨むのが重要である。その『考え方』を一流の指導者や選手から学ぶ。

8	自律訓練法について	自律訓練法（リラクセーション法）とは何か？ その効果について学ぶ。自律訓練法を体験し、その効果を実感する。また、スポーツ場面や日常生活にどのように有効なのかを学ぶ。
9	言葉の力－言葉がここに及ぼす影響について－	言葉がここに及ぼす影響について、研究データや新聞記事を用いて学ぶ。セルフトークや暗示、言葉の影響について、データや事例に基づいて解説する。
10	「森田療法」の考え方を競技に応用する	「森田療法とは？」そして、その考え方を理解する。森田療法の考え方がどのように競技現場に生きるのか、ということを実例を通して解説する。
11	けがとところの関係について	けがというものは、当然ながら、身体を傷つけるものである。また、同時にここでも傷つけているのも事実であることを理解する。けがが多い選手の中には、特徴的な心性を持っているケースがあり、けがとところには様々な関係があることを理解する。
12	ストレス・マネジメントについて	「ストレス・マネジメントとは？」、そしてそれをどのように実践するのか、ということを学ぶ。ビデオを用いて、その実践例を学ぶ。また、その詳細について解説する。
13	スポーツ・カウンセリングとは？ ブラインドウォーク－感受性訓練の方法－	スポーツ・カウンセリングとは何か？ カウンセリングの効果などを理解する。選手や指導者が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。また、ブラインドウォークについても、実技を通して解説する。
14	競技や人生に役に立つ「ものの見方、考え方、人生の生き方の姿勢」について学ぶ	勝つため、最高のパフォーマンスを得るために必要な「哲学」を学ぶ。「勝つために必要な哲学とは？」「トップアスリートになるために必要なことは？」「各界の一流者のメンタリティー」などを学ぶ。
15	講義内容の総まとめ	これまでの総復習をし、競技場面の心理面やその他の臨床心理学に関わる分野についても理解を深める。また、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということも学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後は、配布した資料をもとに復習する。また、スポーツ心理学や心理学の関連図書を用いて、講義で取り上げたテーマをより広く理解する。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配る予定である。

【参考書】

・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版、編著：楠本恭久）
・『現場で活きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著）

【成績評価の方法と基準】

平常点：40 %とする。出席カード（表）には講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。
試験：50 %とする。
その他：10 %として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から気づいたことを次年度に生かすようにしている。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れる。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公衆衛生学は、疾病予防及び健康の保持増進の方策を取り扱う学問領域であり、健康問題を集団として取り扱うことが重要な視点となる。具体的なアプローチは、地域や国などの単位で統計的に健康問題を捉えたとともに、年齢、性や職業などの視点でも理解を深め、集団が抱える課題を追求していく。また、疾病や健康の要因について、どのように絞っていくかを、科学的な根拠に基づいて明らかにすることの重要性について理解できるようにする。様々な健康情報が飛び交う中で、適切な意思決定や行動選択がどのようになされるべきかを学ぶ。社会人として、生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを学ぶことを究極の目標とする。

【到達目標】

疾病予防のためにどのような方策が重要であるか、行政など社会が果たす役割とは何かについて理解できるようにする。さらに、生涯を通じての健康的なライフスタイル形成のためにできることは何かについて、自分自身ばかりでなく社会に対しても働きかけることができることを目指す。

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使用して進める。双方向の授業進行となることに留意。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	公衆衛生学の全体を見渡す
2	保健統計／その意義	保健統計が示す国民の姿から、その意義を捉える。
3	保健統計／人口統計	人口静態統計及び人口動態統計について詳述する。
4	保健統計／死因統計	死因別死亡率や悪性新生物による死亡率について概説する。
5	生命表の意義	生命表、平均寿命及び平均余命について概説する。
6	疫学概論	疫学とはどのような学問なのかについて概説する。
7	疫学の歴史	疫学的なアプローチについて過去の事例を紹介し、その意義を詳述する。
8	コホート研究	コホート研究について詳述する。
9	症例対照研究	症例対照研究の意義について詳述する。
10	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念、および一次予防の重要性について概説する。
11	生活習慣病	生活習慣病の実態及び課題について概説する。
12	感染症と対策	感染症の今日的課題について概説する。
13	母子保健	母子保健の重要性と課題について概説する。
14	労働衛生	労働衛生の意義、及び題について概説する。
15	振り返り	全体を振り返り、得た知識について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし（授業時にパワーポイント資料等を配付する）

【参考書】

国民衛生の動向 2015 / 2016（厚生労働統計協会）

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学的知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎として講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では **keyword, take-home message, summary** を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死 (1) ：若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死 (2) ：中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける破滅的外傷	スポーツ中に発生する破滅的外傷 (catastrophic injury)、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。

6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	熱中症：なぜ予防できないのか？	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。
10	天候とスポーツ	スポーツ活動における天候の変化にともなうリスクについて学ぶ。スポーツ活動における落雷事故の予防・対策について学ぶ。
11	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。
12	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
13	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
14	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。
15	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
 - ② 各回の講義の中でも、**keyword, take-home message, summary** など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
 - ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
 - ④ 以下に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。
- 第1回**：シドニー・デッカー、『ヒューマンエラーを理解する』（2010年、海文堂）、（特に第1章～第6章）
- 第2回**：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23. (http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
- 第3回**：木下訓光：突然死、『学校スポーツにおける外傷・障害診療ガイド』（臨床スポーツ医学 2012 年臨時増刊号、pp 362-367）
- 第4回**：木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009 年 26 巻 11 号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
- 第5,6回**：『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版） pp18-21、pp26-29.
- 『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2011 年第3版） pp 8-16. いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
- 『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
- 第7回**：木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック—その有用性と限界—、臨床スポーツ医学 2012;29(2):153-162.

第8回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf) ※第2回の参考文献と同じ。

第9回：『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本体育協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本体育協会）

（いずれも <http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01> より閲覧可能）

第10回：『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会）

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

第11回：高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。（特に第1章、第2章、第4章）

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

第12回：木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

第13回：『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『性と柔-女子柔道史から問う』（溝口紀子、河出ブックス）

第14回：該当資料無し

第15回：日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>). ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

学校保健

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校保健は、児童生徒及び学生等が一日の約 3 分の 1 を過ごす学校において、健康の保持増進を目指すとともに、生涯を通じて健康で過ごせるための知識を提供し実践に活かせるよう働きかける学問領域である。具体的には保健管理、保健教育と組織活動にまたがっている。言葉を換えて言えば、対人管理と対物管理及び組織活動である。これらの構造について学んだ上で、どのように学校環境を維持すべきか、またどのような指導を行う必要があるかを理解できるようにする。学校保健の主体とは誰なのかを認識し、そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

【到達目標】

学校保健の構造について理解し、学校保健がどのような法律によって裏付けされているのかを理解できるようにする。また、学校保健を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋げられるようにする。一方の学習環境については、学習能率の向上や情操の陶冶にとっても重要であることが理解できるようにする。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、双方向で理解の程度に合わせて進めることとする。必要に応じ、課題解決のためのディスカッションを行う。学校環境衛生については内容に応じ、実習を行う場合がある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	学校保健を見渡す。
2	学校保健の構造	保健管理、保健教育、組織活動について概説する。
3	法律と行政	学校保健安全法、学校保健行政について概説する。
4	学校保健関係職員	学校保健に関わる職種について概説する。
5	学校三師	学校三師について個別に詳述する。
6	健康観察と保健指導	健康観察の意義について概説する。
7	健康診断	健康診断の重要性について概説する。
8	学校における感染症	学校で対応すべき感染症について詳述する。
9	組織活動の意義	学校保健委員会等、組織活動の重要性について詳述する。
10	学校環境衛生基準	学校環境衛生活動について詳述する。
11	保健教育・健康教育	学校における保健教育の構造について概説する。
12	喫煙、飲酒防止教育	喫煙、飲酒防止教育の重要性について詳述する。
13	薬物乱用防止教育	薬物乱用防止教育の重要性について詳述する。
14	性教育	性教育の進め方について詳述する。
15	振り返り	全体を通して学習内容を振り返り、理解の程度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学校保健マニュアル（南山堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・2

旧科目名：スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツビジネスにおける現状と現代的な課題について検討するとともに、幅広い領域に拡大しつつあるスポーツビジネスのあり方について、国内外の文献および討議、さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにしていく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展と スポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、 文化の産業化
2	スポーツマーケティングの 考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケティング セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーション シップマーケティング
4	マーケティング戦略の 考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業の プロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満 足
6	スポーツ・イベントの マネジメント 1	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントの マネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントの マネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントの マネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の 一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の 一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブ ランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の 一般的経営課題 3	CSR、SRI、NGO
13	まとめ	秋学期のテーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)
15	授業内レポート	レポート作成 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

スポーツ法学 I

森 浩寿

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

旧科目名：スポーツ法学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、スポーツ・ルールの機能について考えることである。

【到達目標】

さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。

スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。スポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。

スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。

スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在（条約、規程）、違反と処分
7	オリンピック憲章	憲章の拘束力、内容・意義
8	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
9	プロスポーツの選手契約 (1)	選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約 (2)	大相撲、バスケット bj リーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか
12	スポーツにおける八百長	賭博、八百長、フェアネス
13	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任（民事・刑事）
14	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
15	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決（仲裁・調停）、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：シラバスの理解

第 2 回：テキスト第 4 章の予習

第 3～4 回：前回の復習、テキスト第 5 章の予習

第 5 回：前回の復習、テキスト第 6～7 章の予習

第 6 回：前回の復習、テキスト第 8 章の予習

第 7 回：前回の復習、テキスト第 10 章の予習

第 8 回：前回の復習、テキスト第 9 章の予習

第 9 回：前回の復習、テキスト第 16 章の予習

第 10 回：前回の復習、テキスト第 14 章の予習

第 11 回：前回の復習、テキスト第 14 章の予習

第 12 回：前回の復習、テキスト第 11～13 章の予習

第 13～14 回：前回の復習、テキスト第 20～23 章の予習

第 15 回：前回の復習、テキスト第 19 章の予習

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20 %）…授業実時数の 2 / 3 以上の出席が成績評価の対象条件です。数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます（最大 20 %）。

試験・レポート（80 %）…与えられた質問に対して、決められた時間でまとめることが、評価の対象です（最大 80 %）。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

体力測定・評価論

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

旧科目名：体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し、習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】

・各種測定の方法、目的、意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考案方法を理解する。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要なフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようにするための知識や技術を理解する。そして後半は、アスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には傷害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に 5 段階または 10 段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法について講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健康高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。

7	身体活動量の定量	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取、姿勢・アライメントの評価	HOPS、SOAP ノートの作成、姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋萎縮・関節弛緩性の評価	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義を理解し、具体的な方法については実技を交えながら、講義する。
13	整形外科的理学検査 1	手・肘・肩関節、頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	整形外科的理学検査 2	腰部・股・膝・足関節のスペシャルテストについて講義する。
15	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
5 検査・測定と評価
山本利春、測定と評価、ブックハウス HD
C Starkey, J Ryan 著、中里伸也 監訳、スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック、NAP
宮永豊他、アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学、文光堂
J. Gross, J. Fetto, E. Rosen 著 石川斉、嶋田智明 監訳、筋骨格系検査法 [第 2 版]、医歯薬出版株式会社、2005
STANLEY HOPPENFELD : 図解 四肢と脊柱の診かた、医歯薬出版株式会社、2003
他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に実施する期末試験 (80%) : 講義で扱った内容を範囲とする筆記試験。
提出物 (20%) : 期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。
履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられている。学生の主体的な取り組みを期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

予防医学概論

日浦 幹夫

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

旧科目名：スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】

スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【授業の進め方と方法】

予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、本講義は、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康づくりのための運動指針 2006」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。

9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	内科的障害と予防	スポーツによる内科的な急性・慢性の障害について学ぶ。突然死、熱中症、貧血、オーバートレーニング症候群などを取り上げ、予防、治療について紹介する。
11	運動器のしくみと働き	運動機能に重要な神経系、骨格筋系の細胞と機能について学習する。一過性運動時の神経機能応答の発現、筋収縮のメカニズムなどを紹介する。
12	外科的障害 上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害 下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害 脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
15	救急処置	スポーツ現場での外科的救急処置について学習する。心肺蘇生法の実際と理論を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

【参考書】

スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、2004年）

【成績評価の方法と基準】

理解度確認のためにレポート作成を適宜実施する。学期末テストを実施する。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

運動療法総論

林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】

運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特に筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【授業の進め方と方法】

運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動療法とは	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動が生体に及ぼす影響	運動が筋骨格系に及ぼす影響を解説する
3	運動が生体に及ぼす影響	運動が循環器系に及ぼす影響を解説する
4	運動療法の効果判定の仕方（筋力）	筋力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
5	運動療法の効果判定の仕方（筋力持久力）	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
6	運動療法の効果判定の仕方（柔軟性）	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
7	運動療法の効果判定の仕方（協調性）	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	運動療法の効果判定の仕方（全身持久性）	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
9	筋力強化のための運動療法	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
10	筋持久力強化のための運動療法	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
11	柔軟性のための運動療法	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
12	協調性のための運動療法	協調性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
13	全身持久性強化のための運動療法	全身持久性を強化するための運動方法（歩行・ジョギングによる）を解説し実際に体験する
14	全身持久性強化のための運動療法	全身持久性を強化するための運動方法（自転車・水泳）を解説し実際に体験する
15	まとめと試験	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回～第14回 資料に目を通す

第15回 これまでの知識の整理

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

出席状況（原則として全講義に出席すること、やむを得ない理由で休む時には事前あるいは事後必ず相談すること、その理由により全講義の1/3回まで認めることがあります）、毎回事業前に実施する小テスト、その他授業態度、定期試験

【学生の意見等からの気づき】

実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

講義の途中に実技を行うことがあるため運動ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

リハビリテーション概論

昇 寛

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・ 1

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術者を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】

リハビリテーションの基本的知識と技術を理解する。

【授業の進め方と方法】

特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造
3	障害者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害体験
4	車いす杖など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
7	物理療法の実習と体験	赤外線・ホットパック
8	物理療法の実習と体験	寒冷療法
9	物理療法の実習と体験	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法
10	整形外科疾患のリハビリテーション 1	整形外科疾患（主に上肢の障害）のリハビリテーション
11	整形外科疾患のリハビリテーション 2	整形外科疾患（主に下肢の障害）のリハビリテーション
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害のリハビリテーション
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーション
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害のリハビリテーション
15	まとめ	知識の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T・O T・S T・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論

要点整理と用語解説 改訂第 2 版

編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

授業態度・定期試験（6 割以上が合格）、出席日数が不足*している場合には定期試験を受けても採点対象になりません。*原則として全講義に出席してください。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の 1/3 回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

実技をより多く取り入れ理解を深める。

アスレティックトレーナー概論

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスレティックトレーナー（以下 AT）の役割とその業務を理解すること。日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解すること。AT の組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といたに連携をとって選手をサポートしていくかなど AT が現場で活動する上で必要な知識を養うこと。さらに一社会人として活動していくうえで、社会的秩序や倫理観を身につけること。以上が本講義の目標である。

【到達目標】

「アスレティックトレーナー」という仕事・役割を、欧米・アジアと日本、各競技、各種資格などによる違いを通して理解することである。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントや VTR 等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、個々の意見発表の場をできる限り設けていきたい。講義の後半部分では、外部講師による特別講演も予定している。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	AT の歴史と現状	日本における AT の歴史および現状、諸外国における AT に相当する制度の現状について講義する。
2	AT の任務と役割	AT の任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	AT の業務	AT の具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	AT の活動 1	AT の実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	AT の活動 2	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	AT の活動 3	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	AT の活動 4（外部講師の招聘）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割 1	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割 2	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	医科学スタッフの構成と役割 3	医科学スタッフの構成と役割として、コーチングスタッフとの連携・協力について、具体的な事例から役割の違い等を明らかにしながら概説する。

11	AT の組織と運営 1 (外部講師の招聘)	AT の組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	AT の組織と運営 2	AT の組織と運営について、競技者のコンディショニングに関するデータの管理方法およびその実際について概説する。
13	AT と倫理 1	AT と倫理として、AT の社会的な立場、AT を取り巻く環境について考える。
14	AT と倫理 2	AT と倫理として、米国アスレティックトレーナー協会の倫理要綱等を参考にしながら、医療関係法規、法的諸問題について考える。
15	まとめ	本講義全体のまとめと振り返りを行う。同時にレポート課題の紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1 アスレティックトレーナーの役割
・各回の授業内容は、授業支援システムから各自ダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウス HD
2. トレーニングジャーナル（月刊誌），ブックハウス HD
3. コーチングクリニック（月刊誌），ベースボールマガジン社
4. スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウス HD

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）およびレポート（60%）により総合的に評価する。

平常点：各回の出席と授業における発言やリアクションペーパーへの記述を考慮する。

レポート：期間中に与えたレポート課題を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、「アスレティックトレーナー」という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。

アスレティックトレーナーを目指す目指さないに関わらず、スポーツに関わる必須の役割であるこの仕事を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けたい。そのためスポーツを仕事にしたいと考えてはいるが、アスレティックトレーナーは目指さないと考えている人にこそ、受講してもらいたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

スポーツコンディショニング論Ⅱ

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2. 特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（1）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（2）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（3）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディショニングの評価	コンディショニングの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を体験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング1）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
11	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング2）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、四肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング1）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を体験、習得する。
13	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング2）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を体験、習得する。
14	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。

15 テスト

筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
6 予防とコンディショニング、日本体育協会

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

運動処方・負荷テスト

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論。

【到達目標】

- ① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
- ② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
- ③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
- ④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
- ③ 後半では実際の症例に対する運動処方をレポートの課題として課す。
- ④ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるように配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。
- ⑤ 『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表心電図の電気生理学的基礎、12 誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST 変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコル	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコルについての理論および代表的運動負荷プロトコルについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆる VT。

8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
14	運動処方症例検討（1）	各疾患の実際の処方例について、検討する。
15	運動処方症例検討（2）	各疾患の実際の処方例について、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵

・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。ただし授業中に提出を課したレポートを追加的に評価する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。
- ③ 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

生活習慣病と身体活動

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンス。

【到達目標】

- ① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
- ② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
- ③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
- ④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
- ⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
- ⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
- ② 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ③ 各回の授業では **keyword, take-home message, summary** を適宜提示する。
- ④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。 キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症

9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症、locomotive syndrome
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 キーワード：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。 キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	こどもの体力低下と身体活動	こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 キーワード：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジュネティクス
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 キーワード：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス
15	身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。 キーワード：健康増進法、健康日本21（第2次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動基準2013』（厚労省）、都市計画と肥満

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておく、講義の理解を深める助けになる。
- ② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ③ 各回の講義の中でも、**keyword, take-home message, summary** など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下は本授業テーマ全体の概要を理解する上で参考になる図書である。
・佐藤祐造（編）『運動療法と運動処方：身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術』（文光堂）※資料室収蔵
・Bouchard C, Blair SN, Haskell WL. "Physical activity and health" (Human Kinetics, 2007) ※多摩図書館収蔵
・臨床スポーツ医学 Vol.24 2007 年臨時増刊号 『慢性疾患に対する身体活動のすすめかた』（文光堂）※研究室収蔵
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

運動生理学

日浦 幹夫

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】

運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

原則として毎回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経・血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の神経活動の実際：その1末梢系	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflexn について。
3	運動中の神経活動の実際：その2中枢系	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム、代謝について学習する。筋収縮時の電氣的、機械的現象、骨格筋の繊維の型の分類に応じた運動単位、エネルギー代謝について。各種トレーニングに対する骨格筋の構造、生理機能の変化を学習する。有酸素トレーニングやレジスタンストレーニングが筋繊維レベルでの蛋白発現に及ぼす影響について。
5	トレーニングに対する骨格筋の適応	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタン運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
6	内分泌系の役割と運動への応答	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタン運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
7	トレーニングに対する内分泌系の適応	トレーニングの継続による、筋骨格筋や自律神経系の変化の背景にある内分泌系の意義を学習する。筋肥大のメカニズムや持久的トレーニングに伴う自律神経系の変化に伴う内分泌系の変化を紹介する。

8	生体エネルギー論 I	生体エネルギーとしての ATP の産生と利用のメカニズムについて理解する。エネルギーとは、エネルギー基質、解糖系、クレアチン燐酸などについて。
9	生体エネルギー論 II	エネルギー産生機構における酸素の役割。有酸素・無酸素エネルギー、酸素摂取量、酸素動態（定常・漸増負荷）。
10	酸素摂取量といわゆる AT	最大酸素摂取量の概念とその研究の歴史、測定方法（呼吸ガス分析）。Mechanical efficiency。（いわゆる）AT について学習する。
11	心臓・肺・ミトコンドリア	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
13	生体エネルギー論 III	運動のエネルギー基質（macronutrient）、基礎代謝、酸素摂取量と消費エネルギー計算など、生体エネルギーの基質とその利用メカニズムについて学習する。
14	特殊環境における運動	特殊環境における運動において、生体のホメオスタシスがいかにか維持され、また破綻するのか、理解する。すなわち、高所生理学、高山病、潜水生理学、潜水障害、低温障害、大気汚染、微小重力などについての学習。
15	身体組成	Component model、体脂肪率、測定法、macronutrient balance など、身体組成の概念とその測定方法、精度について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- ・石河利寛『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
- ・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
- ・Wilmore JH, et al. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 4th ed. (2007)
- ・McArdle WD, et al. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 7th ed (2009)

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）

講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題（原則として主に選択式）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

アスレティックリハビリテーション

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得すること、以上である。

【到達目標】

身体各部位の傷害の理解およびその評価の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【授業の進め方と方法】

アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実際、競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて学習する。
2	運動療法の基礎知識 1	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	運動療法の基礎知識 2	各種エクササイズの目的、方法について学習する。
4	物理療法・補装具の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
5	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	背腰部のアスレティックリハビリテーション	背腰部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	体幹のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
8	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
9	肘関節・前腕部のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
10	上肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
11	股関節・骨盤のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。

12	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
14	下肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
15	全体のまとめ	講義全体を通じたまとめと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション、日本体育協会
授業資料は授業支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会
他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（試験期間中に行う）より判断する。

【学生の意見等からの気づき】

外傷・障害の理解が不十分なため、評価・リハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害からできるだけ、具体的な事例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。
パワーポイント・プロジェクターを使用する。

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョギング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】

ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョギング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようする。

【授業の進め方と方法】

実習は校内のグラウンド・クロカンコースなどを利用して行う。基本動作・ウォーミングアップや関連知識を学習した上で実技中心に行う。前半はウォーキングを主に、正しいフォームを身につけるとともに歩幅の測定、脈拍の測定などを行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキングの強度を測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。

13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。
15	まとめ	総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）、授業態度・積極性（20%）

実技実習を基本とするので授業への積極的な取り組みを最重要とする。平常点・積極性等を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	運動指導者に必要とされる能力を理解する。
2	トレーニングプログラムの作成	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
3	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
4	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
5	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
6	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
7	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
8	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
9	ストレングストレーニング 1	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
10	ストレングストレーニング 2	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。
11	ストレングストレーニング 3	主要種目のうち、パワークリーンの方法を理解・修得し、デッドリフト、ハングクリーンを実践する。
12	ストレングストレーニング 4	補助種目のうち、肩部・上腕部のトレーニング方法（ベントオーバーロー、バーベル・シヨルダー・プレス、アームカール）を理解する。

13	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
14	スタビライゼーションエクササイズ	SE のうち、器具（バランスボール、バランスディスク、メディシンボール）を用いて行う各種トレーニング方法を理解する
15	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第 3 回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）

石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング―NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、各回の実習レポート（30 %）

3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	運動指導者に必要とされる能力を理解する。
2	トレーニングプログラムの作成	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
3	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
4	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
5	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
6	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
7	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
8	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
9	ストレングストレーニング 1	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
10	ストレングストレーニング 2	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。
11	ストレングストレーニング 3	主要種目のうち、パワークリーンの方法を理解・修得し、デッドリフト、ハングクリーンを実践する。
12	ストレングストレーニング 4	補助種目のうち、肩部・上腕部のトレーニング方法（ペントオーバーロー、バーベル・シヨルダー・プレス、アームカール）を理解する。

13	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
14	スタビライゼーションエクササイズ	SE のうち、器具（バランスボール、バランスディスク、メディシンボール）を用いて行う各種トレーニング方法を理解する
15	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第 3 回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング―NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、各回の実習レポート（30 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

エアロビック運動実習

林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて「スポーツ」に発展したものである。音楽のビートにのって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツである一方、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。対象者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に付けていることが必要である。本実習ではエアロビック指導者に必要な技能を習得することを目的に授業を展開する。

【到達目標】

- ・初級段階のエアロビックの示範ができる。
- ・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
- ・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【授業の進め方と方法】

エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	エアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチングの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う
15	指導実習のまとめ	エアロビック指導実習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

- ・健康運動実践指導者養成用テキスト
- ・エアロビック指導教本

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組み姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
 エアロビック実技試験（40％）：学期の中間に行う
 エアロビック指導実習試験（40％）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【その他の重要事項】

教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。授業の習得度によって若干変更する場合がある。

スポーツリハビリテーション実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ傷害の概要について学び、その発生原因、特徴を概説する。更に、医学的治療方法、復帰までのリハビリテーションを理解し実施できる。

【到達目標】

スポーツ傷害に対する基本的知識を学びスポーツ傷害を予防するにはどのようなことに注意すればよいか。あるいはどのような処置をすればよいのかなどの知識と技術を獲得する。

【授業の進め方と方法】

特に筋骨格系のスポーツ傷害について理解し、そのリハビリテーション方法を実習する。講義と実技を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション1	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション2	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション1	オスグッド病・鷲足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション2	オスグッド病・鷲足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション1	グロインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション2	グロインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション1	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション2	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション1	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション2	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法
15	まとめ	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～14 回：資料に目を通す

第 15 回：これまでの知識の整理

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

出席状況、授業態度、定期試験

【学生の意見等からの気づき】

実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

特に定めず

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測 (1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測 (2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト (1) サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト (2) サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト (3) トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

12	心肺運動負荷試験 (1) : サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験 (2) : トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
15	マスターステップテスト	日本で比較的頻用されている運動負荷様式である、マスターステップテストについて実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
 ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
 ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
 ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
 ・山地啓司. 『ここから心拍数を知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
 ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
 ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測 (1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測 (2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト (1) サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト (2) サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト (3) トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

12	心肺運動負荷試験 (1) : サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験 (2) : トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
15	マスターステップテスト	日本で比較的頻用されている運動負荷様式である、マスターステップテストについて実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵

・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵

・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵

・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵

・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵

・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵

・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵

・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

昇 寛

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・ 2

旧科目名：健康科学Ⅱ [2012 年度以前入学生]

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：健康科学を履修済みであること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の仕組みと病気について理解する。病気と健康について理解する。

【到達目標】

代表的疾患を理解し健康の指標となる簡便な測定法を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

代表的な病気や外傷について講義を行う。また視聴覚教材を通して理解を深める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	健康と疾患のすすめかた	健康と疾患の授業の概要
3	病気と外傷	病気と外傷（病気とは？ 外傷とは？ 障害とは？）
4	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞とは？ 脳出血とは？）
5	癌	癌（胃癌、大腸癌、肺癌）
6	心疾患	心疾患（心筋梗塞とは？ 心虚血性疾患とは？）
7	内部障害	内部障害（糖尿病とは？ 高脂血症とは？ 動脈硬化とは？）
8	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病とは？ 脊髄小脳変性症とは？）
9	リウマチ	リウマチ（慢性関節リウマチとは？）
10	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折）
11	変形性関節症	変形性関節症（変形性膝関節症とは？ 変形性股関節症とは？）
12	腰痛症	腰痛症（急性・慢性腰痛症とは？ 筋筋膜性腰痛症とは？ 脊椎分離滑り症とは？）
13	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害	スポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靱帯損傷）
15	まとめと試験	知識の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T・O T・S T・ナースを目指す人のためのリハビリテーション
総論

要点整理と用語解説 改訂第 2 版

編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

授業態度・定期試験 ＊ 6 割以上で合格

【学生の意見等からの気づき】

専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

テーピング・コンディショニング指導論

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4 年次／3 単位

曜日・時限：金・1

旧科目名：テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手や生徒に指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【授業の進め方と方法】

テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1 足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング
4	テーピング各論 2 足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング 底屈制限、背屈制限
5	テーピング各論 3 足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング (オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法)
6	テーピング各論 4 足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5 下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6 膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7 膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8 大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	テーピング各論 9 腰部のテーピング	腰部のテーピング
12	テーピング各論 10	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対する体幹部に対するテーピング
13	テーピング各論 11 肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
14	テーピング各論 12 肩関節のテーピング 1	投球肩障害に対するテーピング
15	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）

秋学期

回	テーマ	内容
16	アイシング	アイシングの総論と実践
17	テーピング各論 13 肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
18	テーピング各論 14 手関節・手に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング

19	テーピング総括	テーピングの講義の要点を振り返る
20	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
21	ストレッチング各論 1 (足部、下腿)	足部、下腿のストレッチング
22	ストレッチング各論 2 (大腿前面)	大腿前面のストレッチング
23	ストレッチング各論 3 (大腿後面)	大腿後面のストレッチング
24	ストレッチング各論 4 (股関節周囲)	股関節周囲のストレッチング
25	ストレッチング各論 5 (腰背部)	腰背部のストレッチング
26	ストレッチング各論 6 (頸肩部)	頸肩部のストレッチング
27	ストレッチング各論 7 (上肢)	上肢のストレッチング
28	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
29	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について
30	ストレッチング総括	ストレッチングの講義の要点を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと
授業で行ったテーピングの復習をすること

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に付けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】

運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

スポーツ医学（内科系）

日浦 幹夫

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：スポーツ医学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】

スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担 (cardiovascular drift、心房細動)、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ (1)	スポーツに関連した内科的障害（貧血、運動誘発性喘息、過換気、）について解説する。
8	疾患とスポーツ (2)	スポーツに関連した内科的障害（ウェイトリフター頭痛、ランナー下痢など）について解説する。
9	疾患とスポーツ (3)	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
10	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて学習

11	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて学習。
12	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。
13	コンディショニングとスポーツ医学 (1)	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
14	コンディショニングとスポーツ医学 (2)	オーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) に関する最新のトピックスを解説する。
15	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

日本体育協会指導者育成専門委員会 スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他 『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）

講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題（原則として主に選択式）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

スポーツ医学（外科系）

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・1

旧科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	メディカルチェック	年齢と性差と身体特性について学習する
3	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靱帯の修復機転について学習する
4	頭頸部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頸部の外傷・障害について学習する
5	頭頸部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
6	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
7	体幹と骨盤・股関節	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	体幹と骨盤・股関節	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
14	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
15	総括・単位認定試験	授業内において単位認定試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- 1) アスレティックトレーナー専科テキスト1-9 日本体育協会
- 2) スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第2版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎
- 3) スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケア理論と実践 西村書店

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内で実施する小テストと出席 15%、(2) 期末の筆記試験（単位認定試験）85%で評価をおこなう。なお出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

体力測定・評価実習

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：月・1

旧科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。

後半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

- | | | |
|----|------------|----------------------------------|
| 13 | 頸部・胸部出口の評価 | HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する |
| 14 | 腰部の評価 | HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する |
| 15 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
- ・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）

3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

体力測定・評価実習

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：月・2

旧科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。

後半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、身体各部位の評価のできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

- | | | |
|----|------------|----------------------------------|
| 13 | 頸部・胸部出口の評価 | HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する |
| 14 | 腰部の評価 | HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する |
| 15 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
- ・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）

3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

健康増進施設実習

日浦 幹夫、高見 京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：集中・その他

旧科目名：国内研修ワークショップ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導現場を通じて実務を体験することを目的とする。その準備としての接遇に関するセミナーや、健康運動指導士の役割を理解することを目的とした事前および事後の講義を受講する。

【到達目標】

スポーツ健康産業施設での業務内容や取り組みの実際を学び理解すること。健康運動指導士の実務について理解すること。

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義と現場学習およびその報告を織り交ぜて行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。
2	ガイダンス②	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。
3	現場実習参加の準備①	健康運動施設での実務に必要な事項について確認する。
4	現場実習参加の準備②	健康運動施設での実務に必要な事項について確認する。
5	現場実習参加の準備③	健康運動施設での実務に必要な事項について確認する。
6	健康運動指導士の役割と現場実習の意義について①	健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
7	健康運動指導士の役割と現場実習の意義について②	健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
8	健康運動指導士の役割と現場実習の意義について③	健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
9	健康運動指導士の役割と現場実習の意義について④	健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
10	接遇セミナー①	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
11	接遇セミナー②	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
12	接遇セミナー③	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
13	現場実習での課題の確認①	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
14	現場実習での課題の確認②	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
15	まとめ	講義とセミナー内容の総括

秋学期

回	テーマ	内容
16	健康産業施設等現場実習①	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
17	健康産業施設等現場実習②	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
18	健康産業施設等現場実習③	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
19	健康産業施設等現場実習④	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。

20	健康産業施設等現場実習⑤	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
21	健康産業施設等現場実習⑥	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
22	健康産業施設等現場実習⑦	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
23	健康産業施設等現場実習⑧	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
24	健康産業施設等現場実習⑨	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
25	健康産業施設等現場実習⑩	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
26	健康産業施設等現場実習⑪	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
27	健康産業施設等現場実習⑫	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
28	総括①	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。
29	総括②	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。
30	総括③	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～4 回：特になし

第 5～27 回：レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

各テーマの受講成果を基にしてレポートを作成し、提出する。レポート内容を評価して得点化する。各人に与えられたテーマの発表内容を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

スポーツ現場実習 A

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーニングルームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
5	肩関節の評価	肩関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
6	頸部の評価	頸部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
10	膝関節の評価	膝関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション

22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習 1
29	総合実習 4	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習 2
30	まとめ	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた、医歯薬出版株式会社、2003
 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003
 坂井建雄、松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系、医学書院、2011
 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編、大修館書店、2011
 小林直行、成田崇矢、泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング、医歯薬出版、2013

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
 評価は実習への取り組みおよび現場実習報告書（レポート）に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかったという感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるものの途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前に面接を行うことがある。

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

スポーツ現場実習 B

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーニングルームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
5	肩関節の評価	肩関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
6	頸部の評価	頸部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
10	膝関節の評価	膝関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション

22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習 1
29	総合実習 4	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習 2
30	まとめ	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが必須となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

STANLEY HOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた。医歯薬出版株式会社、2003
 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂、2003
 坂井建雄、松村謙児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院、2011
 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編。大修館書店、2011
 小林直行、成田崇矢、泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版、2013

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
 評価は実習への取り組みおよび現場実習報告書に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ている。しかしながら、途中で脱落するものもみられるため、受講の際には選抜や面接を行うことがある。

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

運動学実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：水・4

旧科目名：運動学ケーススタディ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体へ種々の運動や動作を行わせ、あるいは種々の環境下に生体を曝露したときの生体反応を種々の測定機器を使用し運動学、運動生理学、運動解剖学、運動力学的変化を体験する。これにより運動を分析し、処方する基礎づくりとする。

【到達目標】

それぞれの課題を小グループで実施し得られたデーターを処理し報告するまでの課程を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

小グループで各課題を実際に体験し得られたデーターを処理し報告する。課題説明の後実技を行い毎回各課題のまとめをレポートにして報告する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	得られたデーターの処理法、報告書の書き方を説明する
2	歩行	歩幅、歩行率、速度を求める
3	走行	ピッチ、速度、ストライドを求める
4	歩行と心拍数	歩行速度と心拍数を求める
5	移動効率	移動効率を求める
6	姿勢	立位アライメントの測定
7	人の重心	重心点を求める 重心動揺計を使用してみる
8	運動感覚	運動覚、位置覚に関する実習を行う
9	筋力	筋力、筋疲労を測定する
10	体表感覚	痛覚、2点式別覚を測定する
11	運動残効	運動残効を体験する
12	足部の形態	足部形態を測定する
13	平衡感覚	重心動揺を測定する
14	筋活動	筋電図をもちいて動作時の筋活動を 確認する
15	まとめ	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～14 回：資料に目を通す

第 15 回：これまでの知識の整理

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

運動学実習マニュアル（アイベック）

【成績評価の方法と基準】

出席状況、授業態度、レポート点（毎回レポートを提出します）

【学生の意見等からの気づき】

課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：スポーツリハビリテーション実習を履修済みであることが望ましい。

スポーツ医科学実習

日浦 幹夫、木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・2

旧科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症－海外における最近のトピックス－ 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)
6	運動と血液	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。

7	アスリートの臨床的サポートの実際	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害． 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクションの予防についても検討する。
15	観察事象、計測データの妥当性の検討	実習を通じて観察した種々の事象、計測データを利用した研究を報告を行うための初歩的ガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学 (内科系)」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

スポーツ医科学実習

日浦 幹夫、木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症－海外における最近のトピックス－、臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)
6	運動と血液	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。

7	アスリートの臨床的サポートの実際	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アスリートの予防についても検討する。
15	観察事象、計測データの妥当性の検討	実習を通じて観察した種々の事象、計測データを利用した研究を報告を行うための初歩的ガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

Health and Exercise Sciences

笹井 浩行

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

【到達目標】

The students will be expected to:

1. Understand the concept/definition of health.
2. Learn college-age determinants of health.
3. Gain lifelong foundations of skills and attitudes for maintaining/enhancing health.

【授業の進め方と方法】

Lectures, homework assignments, and the final essay.

【授業計画】

Fall semester

回	テーマ	内容
1	Orientation and definition of health	Overview of this course, grading policy, and definition of health by the WHO.
2	Health hazards in college life	Overview of college-age health hazards
3	Healthy eating	Dietary reference intake, macro- and micro nutrients, PFC balance, and the balance guide
4	Exercise and physical activity	Definitions of exercise and physical activity, total energy expenditure and its components, and metabolic equivalent
5	Sedentary behavior	Definition of sedentary behavior, detrimental association of sedentary behavior with health, and sedentary-reducing interventions
6	Weight management	Health risks of overweight and obesity, energy restriction, weight loss and maintenance programs
7	Sleep	Optimal sleep duration, measurements of sleep patterns, sleep quality and health, and tips for good sleep
8	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
9	Sexual health	Sex-transmitted diseases/infections, and contraceptives
10	Maternal health	Stages of pregnancy, pregnancy complications, gestational weight gain, abnormal labor, and postpartum issues

11	Alcohol intake	Alcohol intake and health, optimal amount of alcohol intake, and chugging avoidance
12	Tobacco smoking	Smoking and health, types of smoking, secondhand smoking, and smoking policy
13	Drug abuse	Types of illegal drugs, risky drugs, abuse, and dependence
14	Health literacy	Interpretation of health-related information, and web search tips
15	Summary	Summary for the all topics covered in this course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】

None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

20% attendance, 40% homework assignment, and 40% final essay.

【学生の意見等からの気づき】

Class contents can be modified according to student's comments and level of understanding.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

An active contribution to the class is greatly encouraged.

レジャー論

谷本 都栄

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「遊び」の本質を出発点に、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、観光、スポーツ、芸術、教育、健康、福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、将来のレジャーの方向性についても考察する。

【到達目標】

- ・レジャーの多様性と価値、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
- ・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える力を養う。

【授業の進め方と方法】

オリジナルのテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交えながら分かり易く解説する。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、随時フィードバックしていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レジャーの概念①	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて解説する。
第 3 回	レジャーの概念②	「遊び」の諸理論を紹介し、人間と遊び、文化の発展について解説する。
第 4 回	レジャーの発展①	余暇時間の増大とともにレジャーが大衆化、多様化していく経緯について解説する。
第 5 回	レジャーの発展②	現代レジャーの分類とそれぞれの特徴について解説する。
第 6 回	レジャー環境①	スポーツレジャーの現状と課題について、具体的事例を題材に考察する。
第 7 回	レジャー環境②	観光レジャーの現状と課題について、具体的事例を題材に考察する。
第 8 回	中間レポート	各自で関心のあるレジャーについて、プレゼンテーション資料を作成する。
第 9 回	日本におけるレジャーの動向①	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて解説する。
第 10 回	日本におけるレジャーの動向②	日本人のライフスタイルや価値観の変化とレジャーの志向性について解説する。
第 11 回	日本におけるレジャーの動向③	日本のレジャー産業の特徴、レジャー環境の課題について解説する。
第 12 回	レジャーの将来①	余暇政策や余暇教育をテーマに、今後のレジャーのあり方について考える。
第 13 回	レジャーの将来②	生涯学習やボランティア活動の広がりやレジャーとの関係について考える。
第 14 回	レジャーの将来③	地域創生やまちづくりとの関わりから、レジャーの意義と役割について考える。
第 15 回	総括	授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。

・レポートは事前にテーマを示すので、各自で文献や資料を収集し準備する。

【テキスト（教科書）】

毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業毎のリアクションペーパー 30 %

・中間レポート課題 30 %

・学期末レポート課題 40 %

総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーにより、学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら授業を進める。

スポーツ経済論

藤原 直幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火・4

評価方法：授業の内容に基づき、自分の意見を論理的に説明できるか。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やスポーツ庁の設置など、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義では、こうしたスポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握することを目的とします。合わせて、特に公的な資金に関わるスポーツ政策についての知識を深めることも目的とします。

【到達目標】

スポーツにおける公的・民的な資金についての知識が修得できる。
 スポーツに関連する政策についての知識が修得できる。
 スポーツを取り巻く資金や政策について、自らの意見を述べるができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最後に授業で扱った内容に関する小レポートの提出を求めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および成績評価についての説明
2	スポーツ政策の歴史	スポーツ政策の歴史について学ぶ
3	スポーツ政策の現状①	スポーツ政策の現状について学ぶ (生涯スポーツ)
4	スポーツ政策の現状②	スポーツ政策の現状について学ぶ (競技スポーツ)
5	国のスポーツに関する資金	国のスポーツ関連予算などについて学ぶ
6	地方のスポーツに関する資金	都道府県や市町村のスポーツ関連予算について学ぶ
7	公的機関のスポーツに関する資金	公営競技や独立行政法人、公益法人のスポーツ関連資金について学ぶ
8	中央競技団体に関する資金	スポーツの競技団体における資金について学ぶ
9	プロスポーツの資金①	プロ野球を取り巻く資金について学ぶ
10	プロスポーツの資金②	Jリーグを取り巻く資金について学ぶ
11	プロスポーツの資金③	その他のプロスポーツを取り巻く資金について学ぶ
12	スポーツイベントの資金	オリンピックなどのメガスポートイベントを取り巻く資金について学ぶ
13	スポーツ関連企業の資金	スポーツに関連した民間企業の資金について学ぶ
14	授業のまとめ	授業内容を総括する
15	期末試験・総括	授業の内容に基づき、試験・総括を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、復習を行うこと

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

笹川スポーツ財団『スポーツ白書 2017』2017 年 3 月

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に行う授業内容に関する小レポート： 40 %

評価方法：授業の内容を的確に把握しているか。自らの意見を述べるができるか。

期末試験： 60 %

スポーツ取材論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。

【到達目標】

授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【授業の進め方と方法】

氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「五感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話を聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話を聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。
6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するために、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスク、遠すぎても、近過ぎてもうまくいかない理想の距離感について。

8	新しい取材分野としてのサッカー	93年、サッカーJリーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると300人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	ADカードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらう
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえでの取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。
15	記事発表と総括	記事発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手

10年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏

11年＝サッカーなでしこジャパン W杯優勝メンバー・GK山郷のぞみ選手

12年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏

13年＝サッカー「なでしこリーグ」INAC神戸専属トレーナー&澤穂希コンディショニングトレーナー・山田晃広氏

14年＝サッカー「なでしこジャパン」狭山ASGK・山郷のぞみ選手

15年＝陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏

16年＝リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美氏

スポーツと政治

堀 莊一

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外において、スポーツと政治は切っても切り離せない関係にある。本来は切り離すべきものであると考えがちだが、スポーツは政治に利用されていることを知るべきである。ナチスドイツによるベルリンオリンピック、モスクワ、ロサンゼルス両オリンピックでのボイコット問題など、国際的には政治がスポーツに介入した例である。スポーツと政治の関係を奥深く探り、スポーツとは何かをテーマにしていく。

【到達目標】

スポーツと政治の関係を例を挙げながら、あらゆる角度から分析して国際感覚を身につけてもらうことと、日本のスポーツと政治の考え方を幅広く訴えていくことを目的とする。判断力と自己の考え方を確立していく。

【授業の進め方と方法】

スポーツに関係してきた国会議員、日本体育協会や日本オリンピック委員会（JOC）、スポーツを管轄する文部科学省、スポーツ庁幹部との接触で得たとおきの裏話を披露する。長らくスポーツ記者として培った経験を基に、企画、取材、原稿執筆のほか、社会的使命の基本姿勢を学習してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要、授業計画の説明など。全般的な一般論
2	スポーツ基本法を考える I	スポーツ立国の虚像を暴き、誰のためのスポーツなのかを徹底解剖。政府の思惑をはじめ、成立までの経緯、歴史的背景を探る
3	オリンピックの裏側	不正に染まり、スキャンダルに見舞われたオリンピックを検証する。長野、ソルトレーク両冬季大会での真実を探る。
4	2020 年東京五輪の課題	招致活動は必ず政治が介入してきたが、2016 年招致の失敗、その後の展開を詳しく説明。安倍首相らプレゼンテーションの効果など。新国立競技場問題、エンブレム問題を分析。
5	2020 年東京五輪の展望	招致成功に至った原因を究明し、オリンピックとは何か、東京五輪の理念とは何かを探り、果たして日本国は成長していけるのかを問う
6	政治家が絡むスポーツ界	歴代首相の中にオリンピックをはじめ、体協会長、各競技団体会長に政治家が多い。その理由と実績・効果はあるのかを解説
7	スポーツと国威発揚・愛国精神	日本人の間違った精神論が蔓延っている危険もある昨今、メディアの存在に影響されていないか。特にテレビ局の存在が問題あり
8	スポーツと国際政治論	ベルリン、ミュンヘン、モスクワ五輪と国際政治に支配された大会を深く考える
9	ドーピング問題	ドーピングの概要説明、歴史的背景、今後の展望などを披露

10	国民体育大会の意義	国の方針、日本体育協会の国体委員会は今何を改革しようとしているのか。地元開催県が天皇杯を獲得する理由は何か
11	チャスラフスカとオシムの政治に揺さぶられた人生	かつて東京五輪の名花と言われた女子体操のチャスラフスカと元サッカー日本代表監督のオシムの波乱万丈のスポーツ人生を紹介。
12	真のスポーツマン、改革の鬼	かつて荻村伊智朗氏（故人）というスポーツと政治に長け、世界を飛び回った人物の生き様を披露。橋本聖子参議院議員の野望も
13	中韓の反日運動とスポーツ	中国、韓国とのスポーツ交流は順調にいくのか。過去の関係や事件を例に挙げ、今後の友好関係を探る
14	スポーツと政治・終章	総まとめ。暴力・パワハラ問題を考える。政府が解決できるか
15	レポート	テーマを与え、1000 字程度のレポートを提出してもらう。理解度をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常に新聞を読んでもらう。特に社説、コラムは必須

【テキスト（教科書）】

新聞、雑誌、書物、DVD などを使う

【参考書】

各種新聞記事を教材とする

【成績評価の方法と基準】

レポートを提出してもらい判断

【学生の意見等からの気づき】

時代に即したニュース、話題を予定していた講義を変更し、急きょ入れる場合もある。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ブルーレイ、プロジェクターなど

【その他の重要事項】

興味を引く話をできるだけ多くし、学生との対話を重視、楽しく一緒に多くの問題を議論していくことも考えている

スポーツマーケティング論

平野 祐司

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマーケティングとは何か、過去のスポーツマーケティングの実例や現在の実例を紹介し理解を含める。また、2020 年東京オリンピックパラリンピックに向けたスポーツマーケティングの具体的な展開を紹介する。現在スポーツマーケティングの第 1 戦で活躍するゲスト講師の招聘も行う。

【到達目標】

スポーツマーケティングの歴史的推移、理論、組織、実態を完全に理解する。

【授業の進め方と方法】

過去、現在のオリンピックを中心としたスポーツマーケティングの実例を紹介し、2020 年東京オリンピックパラリンピックに向けてのマーケティングを検証する。ゲスト講師の招聘、学生による研究発表も実施する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス・基本的アンケート調査	受講生のスポーツマーケティングに対する意識調査等
第 2 回	スポーツマーケティング概論 その 1	スポーツマーケティングとは何か 総論
第 3 回	スポーツマーケティング概論 その 2	スポンサーシップ概論 1
第 4 回	スポーツマーケティング概論 その 3	スポンサーシップ概論 2
第 5 回	スポーツマーケティング概論 その 4	放映権 マーチャンダイジング チケットティング
第 6 回	スポーツマーケティング概論 その 5	知的所有財産 アンブッシュマーケティング
第 7 回	スポーツマーケティングの事例検証 その 1	1964 年東京オリンピックのマーケティング
第 8 回	スポーツマーケティングの事例検証 その 2	1984 年ロサンゼルス五輪のマーケティング
第 9 回	スポーツマーケティングの事例検証 その 3	1998 年長野オリンピックのマーケティング
第 10 回	スポーツマーケティングの事例検証 その 4	国際オリンピック委員会（IOC）アメリカオリンピック委員会（USOC）日本オリンピック委員会（JOC）
第 11 回	2020 年東京五輪のマーケティング検証 その 1	2020 年東京に向けたマーケティングの事例紹介 その 1 放映権等
第 12 回	2020 年東京五輪のマーケティング検証 その 2	2020 年東京に向けたマーケティングの事例紹介 その 2 スポンサーシップ等
第 13 回	2020 年東京五輪のマーケティング検証 その 3	2020 年東京に向けたマーケティングの事例紹介 その 3 マーチャンダイジング ファンドレイジング
第 14 回	講義総括 その 1	スポーツマーケティングの将来的展望と問題点
第 15 回	講義総括 その 2	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当方で用意する毎回のテキスト（A4 版 1～2 枚）に、授業内容をメモし、復習の後、次回の授業でコピーを提出。

【テキスト（教科書）】

現在使用の予定なし。期中での導入の可能性はあり。

【参考書】

現在使用の予定なし。期中での導入の可能性はあり。

【成績評価の方法と基準】

平常授業出席 30% レポートの提出 20% 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

スポーツ産業論

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】

スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：

- (1) スポーツ産業の構造および現状
- (2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
- (3) 日米における「みるスポーツ」の構造および特徴
- (4) 米国大学スポーツの歴史の変遷、概要、産業規模
- (5) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【授業の進め方と方法】

本授業はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章を読んで授業に参加する。毎回の講義の最初に発表される学習課題について深く考えながら学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史の変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第 6 回	日本のプロスポーツビジネス	日本のプロスポーツを代表するプロ野球と J リーグを例に、プロスポーツビジネスの収入構造、支出構造、プロダクト特性について学習する。
第 7 回	米国のプロスポーツビジネス	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 8 回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体である NCAA の役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。

第 9 回 米国のカレッジバスケットボールビジネス

第 10 回 サービス業としてのスポーツサービス

第 11 回 参加型スポーツ産業

第 12 回 観戦型スポーツ産業

第 13 回 スポーツスポンサーシップ

第 14 回 スポーツツーリズム

第 15 回 スポーツと社会的責任

米国のカレッジバスケットボールは日本の甲子園に似ていると言われる。毎年 3 月になると全米中を熱狂させる大学バスケの歴史の変遷、概要、産業規模について理解を深める。

成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。

わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。

サッカー W 杯、五輪、プロスポーツなどは人気のスポーツ観戦として定着している。ここでは「みるスポーツ」の市場規模、魅力、観戦者の特性などについて理解を深める。世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。

多くのスポーツチームや選手たちが東日本大震災の被災地復興支援に取り組んでいる。スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的役割があり、これはスポーツ組織の社会的責任と深く関係している。今回はその概念規定、種類、特徴について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：40 点
 米国の大学スポーツに関するレポート：10 点
 期末試験：50 点
 合計：100 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

スポーツメディア論

海老名 徳雪

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 年東京五輪まで3 年を切った。今後益々五輪関連報道が増える。メディアはその動向を伝える機関として存在感が大きく役割が重要視される。「文字」「映像」を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えるか、メディアの動向、情報を知ること社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】

既存の新聞、放送と、新興のインターネット等幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する。メディアの成長の軌跡と現状を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨き、知識を身につける。メディアの表現を吟味することで自らの表現力を高めることが可能になる。

【授業の進め方と方法】

五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組を素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ること、メディアの役割に対する理解が深まる。またメディアの歴史的な流れを把握することも肝要である。講義では素材に接して得たもの、感じたものを随時報告してもらう機会を持つ。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送は依然メディアの中心にいる。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中でのスポーツの占める位置を伺う。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースパリュウの基準はなにか。ニュースが大衆に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉と選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で面白い。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響	放送はいまやスポーツそのものを動かす原動力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	オリンピックとメディア	春夏の甲子園大会は国内スポーツメディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害を指摘される。その歴史を辿り、20 年大会を考える。

10	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
11	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。
12	メディアに対する受け手の反応	大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
13	ニューメディア①	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、マスメディア終焉の声もある。
14	ニューメディア②	ネットメディアの隆盛が社会を変えつつある。その実態と課題を考える。
15	まとめ	スポーツ界とメディアの将来、特にメディアのあり方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社

「アメリカ・メディア・ウオーズ ジャーナリズムの現在地」大治朋子 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見るレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント（写真含む）による説明。番組映像の使用。

【その他の重要事項】

20 年五輪はスポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の産業にも大きく影響する。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

スポーツ行政論

川崎 登志喜

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 国・都道府県・市区町村の3つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2. 身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】

1. スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2. 地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3. 諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方・成績評価等の確認をする
2	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
3	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の仕組みについて理解できる
4	スポーツ行政関連の法律	スポーツに関連する法律・施策の概要をつかむ
5	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
6	スポーツ活動の現状と課題	我が国のスポーツ活動の現状を理解し、課題を見つける
7	国のスポーツ振興施策と課題	スポーツ振興法・スポーツ振興基本計画について理解する
8	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織について理解する
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	身近なスポーツ行政について理解する
10	グループ発表	課題のレポートをグループごとに発表する。
11	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する
12	諸外国のスポーツ行政	欧米のスポーツ行政から日本のスポーツ行政の特徴を理解する
13	プロスポーツと行政	プロスポーツに関わるスポーツ行政を理解する
14	グループディスカッション1	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる
15	グループディスカッション2	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。

【テキスト（教科書）】

テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】

小笠原正ほか「スポーツ六法」2011

日本スポーツ法学会編「詳解 スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】

- (1) 出席確認：毎時間確認する
- (2) 試験方法：レポート2編 80%
- (3) 評価基準：平常点（学習態度を含む）20%
(2 / 3 以上の出席が必要)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

スポーツイベント論

ミツ谷 洋子

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
 曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツイベントの種類や仕組み、関わる企業や団体の目的を知ること、スポーツイベントの持つ社会的・経済的・文化的な意味や効果について理解する。

【到達目標】

スポーツイベントに関わるヒト、モノ、カネの仕組みについて理解し、個々の事例について自分なりの意見を述べるができる。

【授業の進め方と方法】

市民スポーツからチャンピオンスポーツまで多様に行われているスポーツイベントの具体例を取り上げ、歴史的背景や構造を知り、スポーツ団体、マスコミ、スポンサー等のそれぞれの役割や目的を明らかにする。最後に IT 時代の新たなスポーツとして「e スポーツ」（エレクトロニック・スポーツ）を取り上げ、未来のスポーツとしての可能性を探る。なお、授業の進行具合等により、若干の変更をする場合がある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を兼ね、かかわってきたスポーツイベントにまつわる体験談や、授業の概要について説明する。
2	スポーツイベントの種類と商品構造	「見るスポーツ」「するスポーツ」「考えるスポーツ」などの具体例と、それぞれの商品構造について整理し、その意味を理解する。
3	スポーツイベントのマーケティング（その1）	スポーツイベントのマーケティングについて、その意味と歴史を辿り、2つの種類があることがあることを学ぶ。
4	スポーツイベントのマーケティング（その2）	実際のスポーツイベントで取り組まれている種々のマーケティング戦略について、実例を取りあげながらその意図を考える。
5	スポーツイベントとブランド戦略	企業がスポーツイベントを支援する意味とは何か。様々な事例を取り上げ、ブランドイメージの向上を含めて、その意味を考える。
6	スポーツイベントにおけるマスメディアの役割	スポーツイベントは新聞、テレビ等のマスメディアを通して普及・発展してきた。それらの歴史を辿り、注目されているインターネットによる発信の可能性について考える。
7	オリンピックもスポーツイベントの一つ	オリンピックがいかにして世界最大のスポーツイベントとなったのか、その歴史的背景とビジネスの構造を知る。
8	スポーツイベントが持つ政治的側面	近代オリンピックはスタート時以来、政治に翻弄されてきた。その歴史について説明し、様々な体験を紹介しながら、スポーツイベントが持つ政治的側面について考える。
9	スポーツイベントはまちづくりに効果的か？	スポーツイベントでまちづくり（地域活性化）に取り組んだ多くの事例を紹介し、成功と失敗の分岐点とは何かを考える。

10	「理想的なスポーツ施設」とは？	スポーツイベントの舞台となる施設に必要な機能とは何か。話題となった新国立競技場などの事例を紹介しながら、スポーツ施設のあり方を考える。
11	「スポーツ芸術」とは何か？	近代オリンピックの父・クーベルタン男爵がこだわった「スポーツ芸術」とは何か。さらに、その背景にある「スポー文化」という思想についても考える。
12	オリンピック映画を語る	事前にオリンピックをテーマとした映画を見て、その感想を発表し、互いに講評する。
13	「e スポーツ」とは？（その1）	人類の歴史の中で、生活の楽しみとして生まれたスポーツは、IT 時代の今、全く新しい概念の「e スポーツ」を誕生させた。その視点から、改めてスポーツの歴史を振り返る。
14	「e スポーツ」とは？（その2）	今後、スポーツに何が期待できるのか。「e スポーツ」の可能性を踏まえて、各自の考えを発表する。
15	期末レポートの発表	「スポーツイベントの企画書」を作成して発表し、互いに講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから選手として、観客として、ボランティアとしてかかわるスポーツイベントを、運営者やスポンサーの視点で見直してみる姿勢を養って欲しい。また、課題のレポートは授業の場での発表を前提に、積極的な取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況や、授業の感想などの内容、期末レポートなどから総合的に判断する。
 平常点 50 %、期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介する事例等をもとに、各自がより深く考えるよう進めていく。

【その他の重要事項】

私語厳禁。大学生として相応しい服装と態度で授業に臨むこと。

スポーツジャーナリズム論（新聞）

堀 庄一

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏季・冬季オリンピックをはじめ、数々の国際大会、国内の国民体育大会など総合大会取材のほか、あらゆる競技をカバーしてきた豊富な経験から、最終的には「スポーツとは何か」「スポーツの光と影」「スポーツの真実」を解明していく

【到達目標】

報道の世界を目指す者だけに限らず、教員、商社、トレーナーなどを志す人たちにも解りやすく、人に感動を与えるスポーツの魅力を伝えとともに、文章を作成する面白さ、楽しさ、表現力などの捉え方を身につけてもらう。社会全般を幅広く見てもらう。就職活動にも役立つ講義内容

【授業の進め方と方法】

現場で起きた具体例（指導者の暴力・パワハラ問題など）を教材に、スポーツライター（政治、経済、社会も含む）を志す者には基本的なスキルを教える。スポーツジャーナリズム論のテーマに沿って、それに関連する資料を示しながら、毎回一つのテーマを掘り下げて授業を進める。内容は場合によって変更することもある

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズム論・序章	講師紹介と授業概要、授業計画の説明など。成績評価の概要説明も
2	スポーツ報道・新聞の特性について	テレビ、ラジオなど他媒体との差異、新聞ならではの特性を講義。新聞、通信の歴史、社会的役割なども学んでもらう
3	オリンピックを考える	TOKYO2020 に向けた組織委の取り組みを批評。オリンピックの意義、課題など、現在取り巻いている問題点を探る
4	トップアスリートの生き方、考え方	大リーグのイチロー、松井秀喜をはじめ、ゴルフの石川遼、フィギュアスケートの羽生結弦らの考え方などを披露
5	新聞報道の意義と裏側に潜む矛盾	各種新聞記事を教材に、行間からは読み取れない真相、報道過程などを具体例を挙げて紹介していく
6	スポーツ取材の難しさとしんどさ	暴力・体罰・パワハラ問題をはじめ、数多くの取材体験からこぼれ話、苦労話、とっておきの話などを披露する
7	プロ野球、Jリーグ、大相撲、ゴルフなどプロスポーツの実態を分析	多くの問題点を抱えるプロスポーツ。欧米との比較をしながら実態を分析する
8	新聞報道の役割	新聞報道の中で、スポーツ欄が果たす役割、その他問題点を指摘する
9	高校時代の松井秀喜が経験した 5 打席連続敬遠	かつて甲子園で社会問題ともなった高知・明徳義塾対松井秀喜の石川・星稜の試合を解説。その裏側にある秘話を披露し、考えてもらう
10	大物、一流選手の取材、付き合い、報道	スポーツ取材は、競技を知ることはもちろん、対象となる選手との付き合いが大切だが、その表と裏を探る
11	ゲスト講演	オリンピックメダリストをゲストに呼び、講演してもらう。講演後、ミニレポート提出

12	スポーツ界の事件簿Ⅰ	過去、スポーツ界はプロ、アマを問わず多くの事件が起きたが、主なものを取り上げ考えていく
13	スポーツ界の事件簿Ⅱ	プロ野球の黒い霧事件、賭博行為、覚せい剤使用など、スポーツ界で過去多くの事件が起きたが、主なものを取り上げていく
14	レポート	テーマを与え、1000 字程度自分の考えをまとめてもらう
15	スポーツジャーナリズム論・終章	総論とまとめ。一番言いたかったことで締める。リオデジャネイロ五輪の展望も

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日、できるだけ新聞の社説、コラム、読者の感想文、スポーツ欄の囲み記事を読んで問題意識を持ってもらう

【テキスト（教科書）】

必要に応じ、授業中に適宜指示する

【参考書】

各種、新聞記事、書籍等を教材とする

【成績評価の方法と基準】

レポート提出を基本とする。平常点を含めて総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

話題性のあるニュースがあった場合は、予定している講義を変更してそのニュースの中身を追っていく

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD その他

【その他の重要事項】

41 年間の取材記者経験から、面白く興味を引く話を中心に学生たちと質疑応答も含め、一緒になって考えていく場にしたい。東日本震災の復興支援をスポーツ界が果たしていく重要性を伝え、今後も続けていくべきことだと強調していく。2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの東京招致の裏話も解説する。

スポーツジャーナリズム論（放送）

佐塚 元章

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・ 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

報道、歴史観、社会正義、批評性、啓蒙性などをジャーナリズムの本質とするならば 日本のスポーツジャーナリズムはそれらを追求する存在として発達してきたのか。とりわけ放送メディアがスポーツジャーナリズムとして歴史的にどう評価されるのか、現代社会に如何に貢献し、影響力をもっているのかを考える。また今年度は、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向う報道姿勢について通年のテーマとする。

【到達目標】

スポーツジャーナリズムというテーマを軸に様々なメディアから情報を収集し、その情報の普遍化、客観化の能力を身につける。さらに判断する力、自己の考えを確立する。それらを言語化し、仲間に発表・表現に至ってゴールとする。

【授業の進め方と方法】

基本講義に加えて、ビビッドな今日のニュースを随時教材として取り上げ、常に学生に問いかけ、発表させながら授業をすすめていく。収集している映像、音声資料をふんだんに使用する。自ら現役として現在制作・オンエアしている多様な番組の生の現場体験を伝える。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ジャーナリズムへの誘い	自己紹介、授業のオリエンテーション。成績評価の考え方を説明する。ジャーナリズムとは何か、SNS 時代におけるマスメディアの現状を認識をする。学生諸君のメディア接触傾向のアンケート調査をおこなう。
2	マスメディアの歴史と特質そして今後は	新聞・ラジオ・テレビの発達の歴史、社会の役割を学ぶ。ネット時代における新聞・ラジオ・テレビはどのような存在となるのかを展望し、メディアアクセスの在り方を考える。
3	日本と世界の放送体制の比較研究	日本はNHK・民放の並立体制、アメリカは商業放送など様々である。放送の公共性とは何か、放送法の基本理念とはなにか、放送界の基礎知識を学ぶとともに現行制度の課題を解説する。
4	マスメディアのスポーツ報道の歴史	新聞・ラジオ・テレビのスポーツ報道の歴史をたどりながら、戦争・戦後復興・災害復興など社会史とスポーツのかかわりを学ぶ。
5	スポーツ放送の現場とは	スポーツ放送の3本柱である中継、ニュース、番組はどのような歴史を歩んできたのか。それぞれのスポーツ放送を作る仕組み、取材方法、制作体制、番組提案、実況アナウンサー、スポーツキャスターとは何かなど放送現場の実際を解説する。 教材 NHK「スポーツ実況80年」ほか
6	スポーツを見るジャーナルな視点とは	スポーツジャーナリストにとって大切なことはいかなる視点をもってスポーツを見るかである。それにはスポーツとは何かという根源的な問いかけがまず必要である。そして正しい歴史観に基づく価値判断が生まれる。2回にわたってスポーツを見る視点とは何かを考える。またそのための取材・事前準備のあり方も解説する。 (その1) ゲームを読み解く（試合前取材、分析、予想、試合の分岐点、勝因敗因、技術・戦略采配を批評する）
7	スポーツを見るジャーナルな視点とは	(その2) 大会を読み解く（オリンピック、夏の甲子園大会、ラグビー大学選手権など大会全体を講評）。シーズン全体を解説する（プロ野球リーグ）社会とスポーツの在り方を考える（体罰問題）。 通年で見ると（君が選ぶその年のスポーツ10大ニュースの作成）

8	放送とスポーツの関係	スポーツ興隆は放送によってもたらされ、また放送通信技術はスポーツ放送が契機となって発展してきた。放送はスポーツに何をもたらしてきたのかを考える。また多額の放送権料などが逆にスポーツの本質をゆがめていないか、放送とスポーツの関係の問題点にもせまる。 教材「NHK特集 テレビはオリンピックをどう変えた」の視聴など。
9	スポーツドキュメンタリーを読み解く	スポーツドキュメンタリーの制作過程を解説する。名作と言われる作品を視聴し、番組の視点を探しながら深く読み解く感性を身につける。 (その1) ラジオドキュメンタリーを読み解く 例 NHKラジオ「全国高校軟式野球3日間の延長50回」などを聴く (その2)「江夏の21球」「スポーツ新大陸」など国内のドキュメンタリーの秀作を視聴する
10	スポーツドキュメンタリーを読み解く	NHKBS「英雄たちの選択 目指せ平和の祭典～1940 東京～」 NHK 総合「東京五輪招致にかけた3人の男」 学生諸君がスポーツのあり方についてジャーナルな視点からテーマを決めて授業で発表する。 (発表例) 大学陸上部における箱根駅伝の存在 地域型スポーツクラブ経営に参加して東京六大学野球の現状と課題 (教材) 2020 東京五輪招致IOC総会プレゼンテーション 内容の指導はもちろん、現役アナウンサーとしてプレゼンテーションの基本・取材・構成・演出など、人「伝える」方法を指導します。
11	スポーツをテーマにした番組を視聴議論する	学生諸君が講義を通じてジャーナルな勉強をした上で、実際に放送局のディレクターになったつもりで自分の関心のあるスポーツの出来事、興味あるスポーツ人へのインタビューなどの番組を企画してみよう。提案表を書いて発表してもらいます。提案の書き方の方法論もいっしょに勉強します。
12	君がスポーツについてプレゼンテーションしてみよう	ますます多様となるメディア環境の中で、中継・ニュース・番組を3本柱とするスポーツ放送はいかにあるべきかスポーツジャーナリズム全体はいかにスポーツの振興、社会に貢献すべきか、講義のまとめとして考える。 レポート形式の試験を実施します
13	放送番組企画提案を作ってみよう	学生諸君が講義を通じてジャーナルな勉強をした上で、実際に放送局のディレクターになったつもりで自分の関心のあるスポーツの出来事、興味あるスポーツ人へのインタビューなどの番組を企画してみよう。提案表を書いて発表してもらいます。提案の書き方の方法論もいっしょに勉強します。
14	スポーツジャーナリズムは社会にいかに関与すべきかを考える	ますます多様となるメディア環境の中で、中継・ニュース・番組を3本柱とするスポーツ放送はいかにあるべきかスポーツジャーナリズム全体はいかにスポーツの振興、社会に貢献すべきか、講義のまとめとして考える。 レポート形式の試験を実施します
15	レポート形式の試験を実施します	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】
スポーツジャーナリストという仕事（出版文化社 小田光康）
オリンピックと放送（丸善ライブラリー 西田善夫）
月刊 GALAC（放送批評懇談会）
マイクでつづるスポーツ史（恒文社 岡田実）
アナウンサーたちの70年（講談社）
調査報道（TBS）

【参考書】
現代スポーツ評論（創文企画）
東京運動記者クラブ80年史（東京運動記者クラブ編）
日本スポーツ放送史（大修館書店 橋本一夫著）
世界を動かすプレゼン力（NHK 出版 ニックバリー）

【成績評価の方法と基準】
出席はもちろん、毎回の授業最後に提出を求める感想レポートから講義の理解度を確かめます。
また授業中に積極的にテーマを発表しようとしたか、討論で意見を述べたかなど授業の参加態度を重視します。最終週にレポート形式の試験をおこないます。以上の内容を総合的に判断し評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の全15回の授業が論理的に流れていないかもしれません。これは「放送」という極めて社会の動きと直接かかわっていることを授業テーマにしているからです。ビッグニュースが発生すれば、予定講義を変更してその問題を急遽、生きた教材として優先することがあるからです。（例 東京五輪開催決定、テニス錦織大活躍の背景、パリテロ事件など）

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント・DVD・VHS・カセットプレーヤーなど

【その他の重要事項】
特になし

スポーツ政策論

鈴木 知幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のスポーツ政策の潮流と、欧州諸国のスポーツ政策を学んだうえで、平成23年制定の「スポーツ基本法」に基づいて策定された「スポーツ基本計画」における具体的施策を習得する。加えて、文部科学省及び地方自治体のスポーツ施策方針への反映やスポーツ団体の動向等を学ぶ。また、スポーツ庁創設に伴い、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、総務省などのスポーツ関連政策の一元化や総合調整等に関する行政方針について学ぶ。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京五輪）開催に向けた準備状況を逐次観察しながら、成功に向けた政策課題について学んでいく。

【到達目標】

国及び地方自治体のスポーツ振興策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことで、行政が推進するスポーツ政策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ひと」「もの」「かね」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを学ぶ。「ひと」は、指導者、組織運営者、政策企画及び執行者等、「もの」は、スポーツ施設の老朽化・耐震性、設備・備品の考え方等、「かね」は、厳しい行政財源を踏まえ、管理・運営のアウトソーシング手法を学ぶ。特に、東京五輪の成功に向けた取り組みを通じて、大会後のレガシーを目指す政策のあり方を理解できることを考える。もって受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係の職域において活躍できる基礎知識を習得することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を丁寧に踏まえつつ、常に発信される国や地方自治体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、スポーツ界が発する時事的諸問題（インテグリティ、事故・事件、トラブル、不祥事等）や、社会的貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）に関連する報道等を活用して授業を進めていく。なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説、及び、授業進行や評価方法等に関する説明
2	日本及び世界のスポーツ政策の歴史と国及び地方自治体のスポーツ振興計画等	日本のスポーツ政策の経緯と世界のスポーツ政策（スポーツ憲章、ドイツゴールデンプラン等）
3	スポーツ基本法とスポーツ基本計画にみる主要提言と政策課題	文科省の政策（各審議会答申、国家戦略、基本計画等）、地方自治体の政策（審議会答申、スポーツプラン等）
4	五輪憲章を基に東京五輪の準備政策と成功への課題検討	オリンピックに基づく五輪開催の価値、大会後のレガシー創造、選手強化方針等
5	総合型地域スポーツクラブ育成事業が目指す社会的効果	ドイツのクラブ社会、日本型クラブ社会の創造、広域スポーツセンターの役割、クラブ社会の意義と課題
6	学校体育施設の開放事業に期待する社会的効果	学校開放の法的根拠、審議会答申等の経緯と振興策、学校開放事業の現状と課題、学校施設機能の変遷

7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性、経済効果	国民体育大会の潮流と価値、各種競技大会や市民マラソン大会の開催、国際大会の誘致、ツーリズムの活用等
8	障がい者に対するスポーツ政策の現状と課題	障がい者スポーツの潮流と現状、障がい者指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	スポーツ組織のガバナンスとインテグリティ	スポーツ団体の経営能力や組織体質、暴力・体罰・セクハラ等に関する団体のガバナンス
10	運動部活動の制度変遷と問題点、及び今後の方向性	運動部活動の二極化及び、体罰・しごき等の現状、外部指導員制度、複数校合同部活動の可能性
11	スポーツ政策を支えるボランティア、公益法人等の現状と課題	ボランティア育成、NPO法人、公益法人の寄付税制活用、寄付支援社会の創造
12	ニュースポーツの普及と高齢者スポーツ政策のあり方	ニュースポーツの振興策と普及効果、高齢者の運動・健康・生きがいに関するスポーツ振興策等
13	公共スポーツ施設の維持・管理に関するアウトソーシング	公共施設の現状と課題、事業マネジメントと施設管理のPFI、指定管理者制度等
14	授業内テストの実施	すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施
15	テスト解答と評価、授業の総括	テストの回答を解説して、指定した水準に達していない者については、追課題を指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ政策は、国（文科省をはじめ国交省、厚労省、経産省、総務省等）や地方自治体（都道府県、市町村等）、及びスポーツ関係団体（日体協、JOC、JSC、各NF、笹川スポーツ財団等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織のHP等で常にチェックしていること。今年度は、特に、東京五輪関係の情報を常時確認

【テキスト（教科書）】

毎授業時に、自作の資料（印刷物）を配布して講義を進行する。適時、スポーツ政策に関する報道記事を配布して解説する。

【参考書】

文部科学省のHP（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）
都道府県のスポーツ行政部署（主に教育委員会）のHP（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）
「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行
笹川スポーツ財団のHP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】

授業中に配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、授業内テスト60点以上の得点を70%以内の評点とし、平常点の30%を評点化したうえで、その評点の合計点が60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケート結果及び授業内テストの結果を踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認して、改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

毎事業時に、資料を配布して講義するが、講義内容によって、パワーポイントやDVDを使用する場合がある。

【その他の重要事項】

本科目は、社会学の分野であり、例えば、体罰・暴力問題、五輪開催準備など、重要な時事問題の発生によって、講義の順序や内容の変更がある。

マーケティングリサーチ実習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 3 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、実習を通じて、マーケティングリサーチの基礎となる知識について学ぶことにより、スポーツビジネスにおけるリサーチの実践的な能力を身につける。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握（日本におけるプロスポーツサーベイの実態から）、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方①	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題の立て方②	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方③	第4回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類①	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ①
7	調査の種類②	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ②
8	定量調査①	定量調査とは何かを学ぶ
9	定量調査②	第5回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査①	定性調査とは何かを学ぶ
11	定性調査②	第5回、第9回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第9回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦①	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦②	インタビュー調査の実施
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する

秋学期

回	テーマ	内容
16	スポーツに関する調査の概観①	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
17	スポーツに関する調査の概観②	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定①	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の設定②	第18回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施①	第19回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査の実施②	第20回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の設計①	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の設計②	第22回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の実施①	第22回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
25	定量調査の実施②	フィールドで調査を実施する
26	調査の集計、分析①	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の分析②	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の分析③	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
29	発表	結果について発表を行い、今後の課題について考える
30	まとめ	マーケティングリサーチとは何かについて、マーケティングの観点からまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2～15回：フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

地域スポーツ経営論

岩村 聡

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：月・4
 旧科目名：コミュニティスポーツ論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

【到達目標】

地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえでマネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともに、スポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解するとともに、スポーツ事業の計画の方法や組織のあり方を理解する。また、総合型地域スポーツクラブの構造や地域に対する役割を理解すると同時にその多様性にに応じた指導方法も学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
2	地域スポーツクラブの機能と役割（1）	我が国のスポーツ振興
3	地域スポーツクラブの機能と役割（2）	スポーツ行政の仕組みとねらい
4	地域スポーツクラブの機能と役割（3）	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」
5	対象に合わせたスポーツ指導（1）	地域スポーツクラブの必要性
6	対象に合わせたスポーツ指導（2）	地域スポーツクラブの立ち上げと運営
7	スポーツ組織の運営（1）	地域におけるスポーツ経営
8	スポーツ組織の運営（2）	総合型地域スポーツクラブの育成と運営
9	スポーツ組織のマネジメント（1）	スポーツ組織のマネジメント
10	スポーツ組織のマネジメント（2）	スポーツ事業のマーケティング
11	スポーツ組織のマネジメント（3）	スポーツ事業のプロモーション
12	対象に合わせたスポーツ指導（3）	中高年者とスポーツ
13	対象に合わせたスポーツ指導（3）	女性とスポーツ
14	対象に合わせたスポーツ指導（4）	障害者とスポーツ
15	対象に合わせたスポーツ指導（5）	スポーツ組織の運営 ～スポーツ組織やスポーツ事業の管理・運営～

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書を読んでいることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

レジメを使用する。

【参考書】

- (1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ：(公) 日本体育協会
- (2) アスレティックトレーナー教本：(公) 日本体育協会
- (3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
- (4) クラブづくりの4つのドア：文部科学省

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度等）30%、小テスト 30%、期末試験 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業環境を適切に保つよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツビジネス論Ⅱ

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：木・3
 旧科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツクラブの運営における現状と現代的な課題を検討するとともに、Jリーグに代表されるプロスポーツクラブの運営をいかに進めていく、そのあり方について内外の文献及び討議さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにする。さらに、プロ・スポーツにおけるスポーツ消費者行動に関するフィールド・サーベイからプロ・スポーツクラブの需給構造に関する理解を深め、スポーツクラブ運営の実情についてより深く理解する。

【到達目標】

スポーツクラブの運営、特にプロスポーツクラブの経営に焦点を当て、経営の在り方やスポーツサービスの特徴、そして抱えている問題などの理解を深めるだけではなく、今後の在り方についても検討していく

【授業の進め方と方法】

スポーツクラブ運営の立場からスポーツマーケティングへの基礎的な理論への理解を深めるとともに、スポーツクラブ経営戦略についての理解を深める。特にスポーツマーケティングの立場からスポーツの商品特性を踏まえ、無形資産の重要性を認識し、クラブのブランド形成や顧客（観戦者・スポンサー・地域社会）との関係性構築のありかた、さらには CSR に対しての理解を深め、今後のクラブの社会的な役割や持続可能性を高めるための活動およびブランディングのあり方について考えていくことを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、またスポーツクラブを運営することについて解説する。
2	スポーツクラブの意義	スポーツクラブの存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、リレーションシップマーケティング
5	スポーツクラブの組織構造と業務内容	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	クラブの事業計画	クラブの経営戦略、ビジョンやミッションに基づいた事業計画について説明する
7	スポーツクラブにおけるファイナンス	スポーツファイナンスについて説明する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツクラブの実例①	国内外のプロスポーツクラブで運営に関する研究からクラブの実施について説明する
13	スポーツクラブの実例②	国内外のプロスポーツクラブで運営に関する研究からクラブの実施について説明する

14	総括	スポーツクラブ運営について授業内容を振り返る
15	授業内レポート	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
 第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けませんが、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）および授業内レポート（40%）の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

スポーツ法学Ⅱ

鈴木 知幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スポーツ法学Ⅰ」において、スポーツ競技が成立するためのルールや規範を中心に展開されていることを受け、当該授業では、スポーツがもたらす社会的価値（教育効果、経済効果、地域効果等）や産業振興（プロスポーツ、レジャー、用品生産等）に作用している関係諸法令や諸規定、諸制度を学ぶ。加えて、体育・スポーツ活動による事故・事件の判例やインテグリティ（暴力・ドーピング・不祥事・不正行為・ガバナンス等）の発生事例について学ぶことで、受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係職（指導者、プロ選手、団体運営者、クラブ経営者）の職域をめざすために必要なマネジメント能力を習得する。

【到達目標】

スポーツ振興の社会的装置になっている関係法令（組織経営、行政執行、学校教育、施設管理、障害者対策、産業・ビジネス、プロ競技等）を学び、どのように作用しているかを理解できるようにする。また、特徴的なスポーツ事故の判例やスポーツ紛争を仲裁する機能の活動状況を学ぶことで、スポーツに関するリスクマネジメント能力やガバナンス能力を習得する。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京五輪）開催に向けた準備状況において、五輪憲章を始め、東京五輪開催に必要な法制整備について検証できる能力を身につける。もって受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係の職域において活躍できることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動や振興策に関する法令や制度などの基本的知識に関する資料を自作し配布する。特に、五輪開催準備、障害者スポーツ、スポーツ教育、スポーツビジネス、産業振興等に関する法令や制度への関心度や認識度を確認しながら解説していく。また、スポーツ界がもたらす時事的諸問題（事件・事故、不祥事・トラブル等）に対して、受講生が問題意識を高めるよう質問形式で授業を進める。なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説、及び、授業進行や評価方法等に関する説明
2	スポーツ行政の変遷と行政組織に関する法令等	日本のスポーツ法令の変遷（明治以降）、省庁（文科省、国交省、厚労省）の法令・省令、地方自治体（都道府県、市区町村）の条例等
3	スポーツ基本法に関する重要事項	基本法成立までの変遷と、本法のスポーツ権解釈、スポーツ庁設置、及び、世界のスポーツ憲章との比較等
4	スポーツ振興策に関する法令等	文科省（JSC法、TOTO 等）、地方自治体（プール条例、施設設置条例、学校開放条例等）、公共施設（PFI、指定管理者制度、公共サービス基本法等）
5	スポーツ団体に関する法令等	競技団体（JOC、NF、日体協）の規約等（寄付行為、競技規約、ガイドライン等）、法人格（公益法人法、NPO法等）
6	学校事故等に関する法令・判例等	スポーツ事故（国家賠償法、PL法、公務員災害補償法等）、事故判例（プール事故等）事故補償（共済給付見舞金制度等）
7	ハラスメント・ガバナンスに関する法令・判例等	暴力・体罰、ハラスメントの発生事案の法令と判例、NF組織のガバナンス等、ツーリズム事故（登山、スキー等）
8	スポーツイベントに関する法令等	国民体育大会（開催基準要項等）、経済効果（観光立国、ツーリズム、国際大会招致、地域マラソン等）

9	五輪憲章、アジェンダ 2020 等を通して、五輪開催に必要な法整備、制度設計等	受動喫煙の防止、性的マイノリティ等の人権保護対策、施設のバリアフリー基準等の対策と法整備の必要性
10	スポーツ紛争（仲裁）、インテグリティに関する法令・規則等	仲裁組織（スポーツ仲裁裁判所、日本スポーツ仲裁機構）と仲裁判例及び対策、八百長や無気力試合等の事案と対策
11	アンチ・ドーピングに関する法令・規程等	アンチ・ドーピング組織（WADA、JADA、IF、NF）と団体規程等、過去事案及び最新動向、東京五輪対策等
12	プロスポーツに関する契約等の法令等	プロ選手の法令（契約・協約、著作権、商標、意匠等）、プロ団体の法令（Jリーグ規約、プロ野球協約、反トラスト、独禁等）
13	スポーツビジネスに関する市場及び権利と法令等	産業（レジャー市場、イベント化、プロ化、フィットネス業界、用品業界等）、権利関係（肖像権、放送権、グッズ、知的財産権等）
14	授業内テストの実施	すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施
15	テスト解答と評価、授業の総括	テストの回答を解説して、指定した水準に達していない者については、追課題を指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツに関する法令や制度の改正、及び、新政策の発表、重大な事件・事故の発生等に関心を持ち、その概要を把握することが極めて重要である。また、スポーツ団体も、ルール改正、規約変更、ガイドライン作成等を必要に応じて発信している。したがって、適時、発信される行政の通達・通知、告知等の情報や、スポーツ団体の発表情報等を、報道等で確認し組織のHP等でチェックしていること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に、自作の資料（印刷物）を配布して講義を進行する。適時、直近に発生したスポーツ関係の出来事（事故・事件等）の報道記事を配布して解説する。

【参考書】

「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「標準テキスト：スポーツ法学」日本スポーツ法学会監修（エイデル）
「スポーツ六法」小笠原正他（信山社）
「スポーツガバナンス」笹川スポーツ財団編（東洋経済新報社）
「日本のスポーツ界は暴力を克服できるか」（かもがわ出版）
「商品スポーツ事故の法的責任」中田誠（信山社）
「スポーツ法への招待」道垣内正人 他（ミネルヴァ書房）
「スポーツ法危機管理学」藤原哲朗（エイデル研究所）
「判例法学と教育・スポーツ事故論」北側均（探究社）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正 他（不磨書房）
「Q&A スポーツの法律問題」スポーツ問題研究会編（民事法研究会）
「スポーツ法」神谷宗之介（三省堂）

【成績評価の方法と基準】

配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、授業内テスト60点以上の得点を70%以内の評点とし、平常点の30%を評点化したうえで、その評点の合計点が60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケート結果及び授業内テストの結果を踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認して、改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業時に、資料を配布して講義するが、講義内容によって、パワーポイントやDVDを使用する。

【その他の重要事項】

本科目は、新しい法改正や制度改正や突発的な事件・事故等の発生によって、講義内容を変更及び順序の変動がある。また、法学は、専門性が高く範囲が広いので、一部の講義で、特定の分野に高い専門性を有する弁護士にゲスト講義していただく予定である。

スポーツビジネス論Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツビジネス論Ⅲでは企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。受講者はスポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の学習をとおして、スポーツ組織がスポンサーを獲得する仕組みについて理解を深めることが目的である。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

- (1) スポーツスポンサーシップの定義を説明できる。
- (2) スポーツスポンサーシップにおいて協賛企業が期待できる効果を説明できる。
- (3) スポーツスポンサーシップにおいてスポーツ組織が期待できる効果を説明できる。
- (4) スポンサー企業と協賛対象の間の整合性の重要性について説明できる。
- (5) スポーツ組織と協賛企業の双方にとって有益かつ持続可能なスポンサーシップ契約の企画書を作成し、発表できる。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツスポンサーシップについて理解を深めていく。また、受講者はグループに分かれてスポンサーシップの企画書を作成し、学期末の授業の時間の一部を使って発表を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツスポンサーシップの基礎的理解	スポーツスポンサーシップの定義、誕生および発展の背景、現在の市場規模について学習する。
第 2 回	スポンサーシップの種類	企業がスポーツに協賛する代表的なものとして、チーム、リーグ、選手、試合、施設を取り上げ、それらのスポンサーシップの事例および特徴について学ぶ。
第 3 回	スポンサーシップを通じたマーケティング活動	スポーツスポンサーシップを通じたマーケティング活動について、スポーツ組織と協賛企業の両方の視点から理解する。
第 4 回	スポンサーシップにおける消費者の意思決定過程	スポーツイベントの参加者や観戦者が協賛企業を認知し、興味を抱き、実際に製品やサービスを購入するまでにはいくつかの段階がある。ここでは消費者の意思決定過程に着目し、スポンサーシップの効果について考える。
第 5 回	スポンサーシップにおける整合性	企業のイメージが協賛するスポーツ関連の対象のイメージと一致している度合いのことを整合性と呼ぶ。本授業では整合性の種類、役割、高め方などについて学習する。
第 6 回	スポンサーシップのアクティベーション	スポンサーシップを活性化させ、効果を高める工夫のことをアクティベーションと呼ぶ。今回の授業ではアクティベーションの概念、種類、特徴を、スポンサーの種類と併せて理解する。
第 7 回	スポンサーシップにおけるプラットフォーム	スポンサー企業が同業種の競合相手から差別化を図り、マーケティング目標を達成するためには、どのようなプラットフォームを選ぶべきかという問題について理解を深める。
第 8 回	スポンサーシップの企画書	スポーツ組織が企業に協賛を提案する際に作成する企画書の構成、内容、注意点について学び、実際にグループに分かれて企画書の作成に取り掛かる。

第 9 回 価格設定

企業がスポーツ組織に支払うスポンサー権料は露出方法、アクティベーションの度合い、契約年数などによって異なる。ここではスポンサー権料の価格設定について学ぶ。

第 10 回 スポンサーシップの評価

スポンサーシップは寄付ではない。企業は支払ったスポンサー権料に対してマーケティング目標の達成を期待する。本授業ではこの費用対効果を説明する評価方法について学ぶ。

第 11 回 「スポンサーシップ」対「広告」

スポンサーシップにおける企業の宣伝活動は間接的かつ支援的であるのに対し、広告における企業の宣伝活動は直接的かつ説得的である。こうした違いを学ぶとともに、スポンサーシップが発展してきた背景についても広告との違いから理解する。プロスポーツや国際試合で活躍する選手は使用しているスポーツ用品の推奨者としての役割を持つ。彼らは試合以外の場面でも、車、腕時計、嗜好品などを推奨している。今回はアスリートが製品を推奨するエンドースメントについて学ぶ。

第 12 回 アスリート・エンドースメント

スポンサーシップは協賛企業の認知度や社会的イメージを向上させることから、そこで働く社員のモチベーション、団結力、営業活動に対して正の影響がある。ここではその仕組みについて理解を深める。

第 13 回 スポンサーシップを通じたインターナルマーケティング

スポンサーシップ契約を正式に結んでいない企業が、特定のイベントに関連づけて商業活動を行うことをアンブッシュマーケティングと呼ぶ。本授業ではその定義、特徴、対処法について学習する。

第 14 回 アンブッシュマーケティングへの対応

スポーツには社会問題を解決する力がある。この力を活用したスポンサーシップはソーシャルスポンサーシップと呼ぶことができ、協賛企業にとっては社会的責任を果たす一つの形になり得る。ここではそのソーシャルスポンサーシップについて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の課題として、グループ発表の準備を行います。パワーポイント資料を同じ班のメンバーと協力して作成してください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

Howard, D. R., & Crompton, J. L. (2004) Financing sport (2nd ed.). Morgantown, WV, Fitness Information Technology, Inc., pp. 433-571.

藤本淳也（2015）スポーツ産業論（第 6 版）、原田宗彦（編）、15 章スポーツスポンサーシップ、pp. 195-209、杏林書院：東京。

藤本淳也（2008）スポーツマーケティング、原田宗彦（編）、6 章スポーツスポンサーシップ、pp.133-155、大修館書店：東京。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：30 点

スポンサーシップの企画書の作成および発表：20 点

期末テスト：50 点

合計：100 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

トップアスリート論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロサッカー、野球、オリンピックの金メダリストや世界記録保持者といったトップアスリートたちが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素を自分たちで検証していく。

【到達目標】

トップアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。17 年は、サッカーW杯アジア最終予選等が行われる。選手をメディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標

【授業の進め方と方法】

一流を超えた「超」一流選手たちの思考、技術、肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトップアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストに呼んで授業を行ってもらい、「トップアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トップアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トップアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトップアスリートを発表してもらう。
3	トップアスリートの「心・技・体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトップアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トップアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	2代に渡るトップアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、2代競技者を考える。
6	女性アスリートの台頭と活躍	日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた1980年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する2000年後半までの歴史と進歩の詳細について。2016年W杯で連覇を狙うなどしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。
7	オンリーワン思考と技術	日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらう。

8	怪我とリハビリ、復帰への道程	一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。
9	オリンピックムーブメント	IOC（国際オリンピック委員会）、JOC（日本オリンピック委員会）の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020 年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。
10	トップアスリートを支える環境	不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。
11	トップアスリートのメンタルトレーニング	大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。
12	薬物問題とパフォーマンス	過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終らない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらう。
13	トップアスリート長寿の理由	近年、30代、40代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考える。
14	グループでの討論、発表など	グループでの討論、発表など
15	春学期まとめ	春学期まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：新聞を読む。ニュースの中でもトップアスリートについて情報を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、トップアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年＝サッカー元日本代表・名波浩氏

10年＝バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏

11年＝大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手

12年＝陸上男子四百メートル障害世界陸上メダリスト・為末大選手

13年＝パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手

13年＝プロサッカーリーグ「Jリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏

14年＝競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手

15年＝成立学園コーチ・山郷のぞみ氏

16年＝リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び4位・鈴木徹選手

スポーツトレーニング論Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツトレーニング論Ⅰではスポーツトレーニングの理論を学んだ。そこでスポーツトレーニングⅡでは、自分自身でトレーニングの目標を設定し、手段・方法を決めてトレーニングを実践し、効果を測定・評価する実践を学び、トレーニング理論と実践を通じて生じてくる問題との相違を学ぶ。

【到達目標】

スポーツトレーニングの目標、手段、方法、計画、測定・評価、フィードバックを実践の中で理解する。

【授業の進め方と方法】

トレーニング理論をもとに、自分自身で実際に8週間のトレーニングを実施する。経過の中で生じた問題に対処する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	トレーニング実施前の準備	トレーニング内容の設定
2	トレーニング実施前の準備	トレーニング内容に応じた測定項目の検討
3	トレーニング実施前の準備	トレーニング前の測定
4	現状把握とトレーニングのための設定	現状把握とトレーニング目標の設定
5	トレーニングのための設定	トレーニング手段・方法の設定
6	トレーニングの実践	トレーニング記録の検討①
7	トレーニングの実践	トレーニング記録の検討②
8	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の検討①
9	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の検討②
10	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の検討③
11	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の検討④
12	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の検討⑤
13	トレーニングの実践	トレーニングで生じた問題の健闘
14	トレーニング後の作業①	トレーニング後の測定
15	トレーニング後の作業②	トレーニング効果の評価のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外の時間にトレーニングを実践し、記録をつけて生じた問題を検討する。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

トレーニング内容に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、トレーニングの実践記録20%、授業への参加と積極性40%で評価する

【学生の意見等からの気づき】

トレーニングの実践を常にモニターして効果を上げる。

【学生が準備すべき機器他】

エクセル、パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

スポーツ運動学Ⅱ

工藤 裕仁

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動指導における観察問題を概説し、運動観察から運動の質をおもにバイオメカニクス的方法を用いて評価することを学び、その結果を運動指導に還元する方法について学ぶ。

【到達目標】

学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し、その特徴を身体構造、あるいはバイオメカニクスの観点から、具体的に抽出できるようにする。

【授業の進め方と方法】

運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討・学習をする。またこれは、種々の競技動作について検討・学習する

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の流れを概説	授業の流れを概説
2	動きの解剖学1	筋と骨格の構造
3	動きの解剖学2	骨格の構造と関節運動
4	運動学の基礎知識1	機能解剖と力学的基礎1
5	運動学の基礎知識2	機能解剖と力学的基礎2
6	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎
7	歩行の運動学的研究	研究事例を用いた検討
8	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎
9	走動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
10	投動作の運動学	投動作の運動学的基礎
11	投動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
12	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎
13	跳動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
14	種々のスポーツ動作の運動学	バイオメカニクスの解析に基づく検討
15	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
 第2～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版
 「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院 他

【成績評価の方法と基準】

試験またはレポート、平常点を含めて総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

スポーツコーチング論Ⅱ

熊川 大介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水・4

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践するために必要となるコーチングに対する考え方、自分や対象者に対する態度や行動をスポーツコーチング論Ⅰで学んだ。

スポーツコーチング論Ⅱではコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】

年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・科学の活用を理解する。

【授業の進め方と方法】

講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツにおけるコーチング
4	コーチング現場での医・科学の活用①	学校スポーツのコーチングにおける医・科学の活用
5	様々なコーチング現場③	ジュニアアスリートを取り巻く環境
6	コーチング現場での医・科学の活用②	ジュニアアスリートのコーチングにおける医科学の活用
7	様々なコーチング現場④	ジュニア期の性に応じたコーチング
8	コーチング現場での医・科学の活用③	発育の性差を考慮したコーチングと医・科学の活用
9	様々なコーチング現場⑤	競技種目に応じたコーチング
10	コーチング現場での医・科学の活用④	種目特性に応じたコーチングにおける医・科学の活用
11	様々なコーチング現場⑥	トップアスリートにおけるコーチング
12	コーチング現場での医・科学の活用⑤	トップアスリートのコーチングにおける医・科学の活用
13	コーチ育成の取り組み	一流コーチ育成のための国内外の取り組み
14	まとめ①	年齢・性・競技レベルに応じたコーチングのまとめ
15	まとめ②	コーチングにおける医・科学の活用のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

なし（講義形式の回には資料を作成して提示する）

【参考書】

コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

コーチング現場を1つ選んでコーチングおよびその中での医・科学の活用をレポートしてもらう。そのできばえで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

スポーツ戦略・戦術論

熊川 大介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技力向上のための戦略・戦術について、国や地方団体の取り組みやその実状について理解する。また、各競技種目の特性を理解するとともに、基本的な戦術構造について触れ、自身の専門競技について、競技力向上のための戦術、行動を理解する。さらに、コーチの資質や指導法について論じ、試合までの取組み方やトレーニング方法について理解する。

【到達目標】

学生は、国や地方団体がスポーツの競技力向上を目的として実施している長期的な政策について理解し、自身が貢献できることは何かを明確にする。また、各競技種目の特性を理解したうえで、競技力向上のための戦略・戦術について説明することができる。さらに、コーチ・指導者としての基礎知識を習得し、スポーツ現場において起こりうる諸問題を段階的に解決できる能力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とする。主にスライドを用い、必要に応じて配布資料を基に講義を展開していく。講義の最後には、まとめやテーマに対する自身の考えを整理するといった小レポートを数回実施予定である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2	競技力と戦術・戦略の関わり	あらゆるスポーツの戦略・戦術について紹介し、競技力向上とのかわりについて考える。
3	国や地方団体のスポーツ戦略的取り組み	国や地方団体が競技力向上を目的として取り組んでいる政策とその実状について理解する。
4	チーム種目の特性	チームスポーツの種目特性について理解する。
5	球技系種目の戦術・戦略	球技系スポーツの基本的な戦術構造について理解する。
6	記録系種目の特性	記録系スポーツの種目特性について理解する。
7	記録系種目の戦術・戦略	記録系スポーツの基本的な戦術構造について理解する。
8	冬季種目の特性	冬季スポーツの種目特性について理解する。
9	冬季種目の戦術・戦略	冬季スポーツの基本的な戦術構造について理解する。
10	戦術行動に必要な体力及び技術	戦術行動に必要とされる体力及び技術について、発育発達の観点から理解する。
11	試合に向けての戦術プランとコンディショニング	試合に向けた戦術プランとコンディショニング法について理解する。
12	スポーツ科学研究とコーチング	スポーツ科学研究とコーチングとの関わりについて理解する。
13	スポーツ科学研究とトレーニング	スポーツ科学研究とトレーニングとの関わりについて理解する。
14	戦術・戦略とスポーツ科学研究	戦術・戦略にスポーツ科学研究の成果をどのように活用するのかについて考える。
15	総括及びレポート	専門的に実施している競技（実施していた競技）について、個人の技術力及びチーム力アップのための戦術、行動についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし、第2～15回：前回授業の復習として、重要なキーワードを抽出しその意味について簡潔に整理する。事前の準備学習として、スポーツの戦術・戦略に関する文献や情報を収集する。

【テキスト（教科書）】

授業は、作成したスライドを用いて実施する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、授業終了後に実施するまとめ及び課題に対する自身の考えをまとめさせる小レポート（30％）、また、最終レポート（40％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業は事前に作成したスライドを用いて展開していく。必要に応じて配布資料を作成していく。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：火・2
 旧科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における『ダンス』とはどのようなダンスであるべきかを知り、『ダンス授業』の存在意義やあり方について学ぶ。様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント）を体験し、その指導法について学ぶと共に、体験をもとに指導案を作成し模擬授業を行なう。

【到達目標】

卒業後体育教員として、ダンスの「表現活動」分野を指導できるように、自己の表現力、コミュニケーション能力、身体機能等の向上を目指し、ダンス表現の基礎を身につける。

【授業の進め方と方法】

- ・表現活動分野について概要を知る。
- ・自己の身体の可動域や柔軟性、動き方について知り、実践を通して改善していく。
- ・ダンスの授業案を作成、模擬授業の実施。教員、生徒双方の体験を基に授業の進め方について話し合う。
- ・グループでの創作活動を体験し作品を仕上げ、発表する。ビデオ撮りした作品を客観的に見ることにより、評価方法について考える。

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	身体について	自己の姿勢や関節の可動域、動きの癖を知ることで、どこを改善すればよいのかを知り、今後の目標にする。
3	リズムダンス	簡単なリズムから、個々でステップを考える。仲間とステップを組み合わせることで、短いリズムダンスを作る。
4	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 1	日常的な動作から振り付けを考え、ダンスへと展開する。
5	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 2	動詞から振り付けを考え、移動も加えて、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 3	緩急・止まる・スピードの変化、などによって「見せ方」がどの様になるのかについて考え作品を作る。
7	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 4	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知り、個人では表現しきれない「集団による表現方法」について学ぶ。
8	学習指導案の作成	数人のグループに分かれ、指導案を作成。生徒観について話し合い、適した内容をテーマとして、導入・展開・発展の流れを作る。
9	模擬授業 1	作成した指導案を基に授業を行い、改善点について話し合う。
10	模擬授業 2	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
11	模擬授業 3	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
12	模擬授業 4	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
13	創作作品作り	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、実際に作品を創作する。
14	創作作品作り	振り付けを練習し、作品を仕上げていく。
15	発表・評価	創作作品の発表。作品を撮影し、客観的にビデオを見ながら、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。
 第 2 回目以降は、毎回授業内でテーマを指示する。次の授業で、レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『ダンスの教え方、学び方』 マリオン・ゴーフ著 玉川大学出版
 『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

実際に体験し、実技の向上とともに理解していく授業なので、出席も含め下記の内容を総合的に評価していく。
 ・毎時間、積極的に活動し理解を深めている。（出席も含め）50 %
 ・レポート内容が充実しているか。30 %
 ・実技（自己の能力を向上できたか。）20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さから、人数は 25 名に制限をします。
 14 年度のアンケート結果より。
 授業時間以外の個々の学習時間が少なかった。レポート内容もメモのような内容だったことから、教員のテーマの説明が不足だったと考えました。
 今年度から、毎回の授業でテーマを提示し、次回授業でレポートを提出することとし改善を図ります。

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるように、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
 主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かす意欲を持って参加してください。
 ※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
 曜日・時限：火・3
 旧科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における『ダンス』とはどのようなダンスであるべきかを知り、『ダンス授業』の存在意義やあり方について学ぶ。様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント）を体験し、その指導法について学ぶと共に、体験をもとに指導案を作成し模擬授業を行なう。

【到達目標】

卒業後体育教員として、ダンスの「表現活動」分野を指導できるように、自己の表現力、コミュニケーション能力、身体機能等の向上を目指し、ダンス表現の基礎を身につける。

【授業の進め方と方法】

- ・表現活動分野について概要を知る。
- ・自己の身体の可動域や柔軟性、動き方について知り、実践を通して改善していく。
- ・ダンスの授業案を作成、模擬授業の実施。教員、生徒双方の体験を基に授業の進め方について話し合う。
- ・グループでの創作活動を体験し作品を仕上げ、発表する。ビデオ撮りした作品を客観的に見ることにより、評価方法について考える。

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	身体について	自己の姿勢や関節の可動域、動きの癖を知ることで、どこを改善すればよいのかを知り、今後の目標にする。
3	リズムダンス	簡単なリズムから、個々でステップを考える。仲間とステップを組み合わせることで、短いリズムダンスを作る。
4	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 1	日常的な動作から振り付けを考え、ダンスへと展開する。
5	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 2	動詞から振り付けを考え、移動も加えて、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 3	緩急・止まる・スピードの変化、などによって「見せ方」がどの様になるのかについて考え作品を作る。
7	表現活動における振り付け方法 即興ムーブメント 4	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知り、個人では表現しきれない「集団による表現方法」について学ぶ。
8	学習指導案の作成	数人のグループに分かれ、指導案を作成。 生徒観について話し合い、適した内容をテーマとして、導入・展開・発展の流れを作る。
9	模擬授業 1	作成した指導案を基に授業を行い、改善点について話し合う。
10	模擬授業 2	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
11	模擬授業 3	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
12	模擬授業 4	作成した指導案を基に模擬授業を行い、改善点について話し合う。
13	創作作品作り	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、実際に作品を創作する。
14	創作作品作り	振り付けを練習し、作品を仕上げていく。
15	発表・評価	創作作品の発表。作品を撮影し、客観的にビデオを見ながら、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。
 第 2 回目以降は、毎回授業内でテーマを指示する。次の授業で、レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『ダンスの教え方、学び方』 マリオン・ゴーフ著 玉川大学出版
 『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

実際に体験し、実技の向上とともに理解していく授業なので、出席も含め下記の内容を総合的に評価していく。
 ・毎時間、積極的に活動し理解を深めている。（出席も含め）50 %
 ・レポート内容が充実しているか。30 %
 ・実技（自己の能力を向上できたか。）20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さから、人数は 25 名に制限をします。
 14 年度のアンケート結果より。
 授業時間以外の個々の学習時間が少なかった。レポート内容もメモのような内容だったことから、教員のテーマの説明が不足だったと考えました。
 今年度から、毎回の授業でテーマを提示し、次回授業でレポートを提出することとし改善を図ります。

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるように、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
 主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かす意欲を持って参加してください。
 ※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

柔道指導論実習

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：土・1
 旧科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
 ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	試合の行い方と審判法
14	試合	簡易な試合
15	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
 ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

授業への出席状況や参加の度合い、貢献度及び受け身と技の技能テスト、レポートなどを考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

柔道指導論実習

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：土・2
 旧科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
 ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	試合の行い方と審判法
14	試合	簡易な試合
15	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
 ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

授業への出席状況や参加の度合い、貢献度及び受け身と技の技能テスト、レポートなどを考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

武道指導論演習

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：土・1

旧科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【授業の進め方と方法】

・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習
14	学習指導計画③	武道における安全指導
15	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

授業への出席状況や参加の度合い、貢献度及び学習指導計画やレポート、模擬授業の実施状況などを考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

武道指導論演習

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：土・2

旧科目名：総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【授業の進め方と方法】

・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習
14	学習指導計画③	武道における安全指導
15	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

授業への出席状況や参加の度合い、貢献度及び学習指導計画やレポート、模擬授業の実施状況などを考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

剣道指導論実習

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。

【到達目標】

- ①教員採用試験（実技試験）の合格に繋がる礼法・技能を習得する。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③剣道1 級取得ができる程度の技能を習得する。

【授業の進め方と方法】

- ①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。
- ②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。
- ③全日本剣道連盟制定の「木刀による基本稽古法」の応用を習得し、剣道の基本を理解する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本稽古①（基本指導法①）	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本稽古②（基本指導法②）	・基本稽古①の反復 ・素振り（一挙動・蹲踞跳躍素振り（鳥跳び）） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本稽古③（仕掛け技指導法①）	・基本稽古①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本稽古④（仕掛け技指導法②）	・基本稽古①②③の反復 ・切り返し
6	基本稽古⑤（仕掛け技指導法③）	・基本稽古①②③④の反復 ・打ち込み稽古 ・掛かり稽古
7	基本稽古⑥（木刀による基本技稽古法の指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿う その1
8	基本稽古⑦（木刀による基本技稽古法の指導法②）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿う その2
9	基本稽古⑧（木刀による基本技稽古法の指導法③）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿う その3

10	基本稽古⑨（応じ技指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・応じ技（抜く、返す、摺りあげる） ・出端技（小手、面） ・五角稽古
11	基本稽古⑩（総合演習指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 五角稽古 → 切り返し）
12	基本稽古⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 基本稽古①②③④⑤⑨⑩の反復
13	基本稽古⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本稽古①②③④⑤⑨⑩ ・試合審判法 ・スキルテスト演習
14	基本稽古⑬（評価・評定指導法、スキルテスト指導法①）	・スキルテスト （仕掛け技 → 切り返し）
15	基本稽古⑭（総合演習指導法④）	・個人戦 ・団体戦 ・試合審判法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・竹刀の手入れ（安全対策）
- ・素振り
- ・木刀による基本技稽古法のテキストを学習し、応用する。（基本1 から基本9 までの打ち方・受け方を覚える）

【テキスト（教科書）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論実習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。

【参考書】

「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟）

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への出席度合い
 - ②出席態度
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
 - ④スキルテスト
 - ⑤ケガ等で授業に参加できず、見学した際のレポート
- ①から⑤を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

冬場は剣道場は大変寒いので、運動効果の面から、暖房の効いた空手場を使用します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。実技講座なので、教職に就いた時に実技指導ができるためには、全出席を目標にして、授業に参加してください。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

剣道指導論実習

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。

【到達目標】

- ①教員採用試験（実技試験）の合格に繋がる礼法・技能を習得する。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③剣道1 級取得ができる程度の技能を習得する。

【授業の進め方と方法】

- ①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。
- ②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。
- ③全日本剣道連盟制定の「木刀による基本稽古法」の応用を習得し、剣道の基本を理解する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本稽古①（基本指導法①）	・防具の着け方、片づけ方 ・小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本稽古②（基本指導法②）	・基本稽古①の反復 ・素振り（一挙動・蹲踞跳躍素振り（鳥跳び）） ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本稽古③（仕掛け技指導法①）	・基本稽古①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本稽古④（仕掛け技指導法②）	・基本稽古①②③の反復 ・切り返し
6	基本稽古⑤（仕掛け技指導法③）	・基本稽古①②③④の反復 ・打ち込み稽古 ・掛かり稽古
7	基本稽古⑥（木刀による基本技稽古法の指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿うその1
8	基本稽古⑦（木刀による基本技稽古法の指導法②）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿うその2
9	基本稽古⑧（木刀による基本技稽古法の指導法③）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・木刀による基本技稽古法に沿うその3

10	基本稽古⑨（応じ技指導法および互角稽古指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・応じ技（抜く、返す、摺りあげる） ・出端技（小手、面） ・互角稽古
11	基本稽古⑩（総合演習指導法①）	・基本稽古①②③④⑤の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し）
12	基本稽古⑪（総合演習指導法②）	・総合演習1 基本稽古①②③④⑤⑨⑩の反復
13	基本稽古⑫（総合演習指導法③）	・総合演習2 ・基本稽古①②③④⑤⑨⑩ ・試合審判法 ・スキルテスト演習
14	基本稽古⑬（評価・評定指導法、スキルテスト指導法①）	・スキルテスト （仕掛け技 → 切り返し）
15	基本稽古⑭（総合演習指導法④）	・個人戦 ・団体戦 ・試合審判法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・竹刀の手入れ（安全対策）
- ・素振り
- ・木刀による基本技稽古法のテキストを学習し、応用する。（基本1 から基本9 までの打ち方・受け方を覚える）

【テキスト（教科書）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論実習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。

【参考書】

「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟）

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への出席度合い
 - ②出席態度
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
 - ④スキルテスト
 - ⑤ケガ等で授業に参加できず、見学した際のレポート
- ①から⑤を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

冬場は剣道場は大変寒いので、運動効果の面から、暖房の効いた空手場を使用します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。実技講座なので、教職に就いた時に実技指導ができるためには、全出席を目標にして、授業に参加してください。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

器械運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目である、マット・鉄棒・跳び箱・平均台における基礎的な技術を習得します。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要なとなる安全な補助方法を身につけることを目指します。

【到達目標】

教員採用試験の受験課題に合格するための技能を習得します。最終目標は、器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感し、生徒へその楽しさを安全に指導できる力を身につけることです。

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な4つの器具を用いて、実技の学習をします。

＜マット運動＞接転系の運動（前後転、倒立前転、後転倒立等）と翻転系の運動（ヘッドスプリング、ハンドスプリング等）の技術を習得します。その後、巧技系の運動も交えて、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

＜鉄棒運動＞支持回転系と懸垂振動系の基本技術の習得とその発展技に取り組みます。

＜跳び箱運動＞切り返し系の技と回転系の技の基本的な技術を身につけます。

＜平均台運動＞歩く、跳ぶ、ターン、バランス、回転等の基本的な技術を習得した後に、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の歴史とその特性	ヤーンがドイツ・ハイゼンハイデで行われた当時の社会的背景とTurnenの歴史的意義を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 翻転系技群の基本技	マット運動における翻転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	鉄棒運動 支持回転系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の習得を目指す
8	鉄棒運動 懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における懸垂振動系の基本技と発展技の習得を目指す
9	跳び箱運動 切り返し系の基本技	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	平均台運動 基本技	平均台運動における歩走系、跳躍系、ターン系基本技の習得を目指す
12	平均台運動 技の組み合わせ	平均台運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
13	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける

- 14 小グループによる指導演習 2 これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
- 15 試験（実技テスト） 教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり，大修館書店，2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動），大修館書店，1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり，大修館書店，2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり，大修館書店，2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、実技テストです。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技術を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

器械運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目である、マット・鉄棒・跳び箱・平均台における基礎的な技術を習得します。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要な安全な補助方法を身につけることを目指します。

【到達目標】

教員採用試験の受験課題に合格するための技能を習得します。最終目標は、器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感し、生徒へその楽しさを安全に指導できる力を身につけることです。

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な4つの器具を用いて、実技の学習をします。

＜マット運動＞接転系の運動（前後転、倒立前転、後転倒立等）と翻転系の運動（ヘッドスプリング、ハンドスプリング等）の技術を習得します。その後、巧技系の運動も交えて、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

＜鉄棒運動＞支持回転系と懸垂振動系の基本技術の習得とその発展技に取り組みます。

＜跳び箱運動＞切り返し系の技と回転系の技の基本的な技術を身につけます。

＜平均台運動＞歩く、跳ぶ、ターン、バランス、回転等の基本的な技術を習得した後に、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の歴史とその特性	ヤーンがドイツ・ハイゼンハイデで行われた当時の社会的背景とTurnenの歴史的意義を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 翻転系技群の基本技	マット運動における翻転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	鉄棒運動 支持回転系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の習得を目指す
8	鉄棒運動 懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における懸垂振動系の基本技と発展技の習得を目指す
9	跳び箱運動 切り返し系の基本技	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	平均台運動 基本技	平均台運動における歩走系、跳躍系、ターン系基本技の習得を目指す
12	平均台運動 技の組み合わせ	平均台運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
13	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける

- 14 小グループによる指導演習 2 これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
- 15 試験（実技テスト） 教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり，大修館書店，2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動），大修館書店，1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり，大修館書店，2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり，大修館書店，2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、実技テストです。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技術を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

体づくり運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実技を通して「体づくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の理解と実践力を習得します。

【到達目標】

様々なねらいに応じた動きの習得に取り組むと共に、帯状学習や単元学習として実践的に指導が出来る能力を身に付けることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいをバランスよく実施します。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開していきます。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の科目としての意義を考え、その必要性と役割を確認していきます。授業の最終段階では、一連の動きを構成し、ねらいに応じた体操の作品づくりにも取り組みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の歴史とその特性	スウェーデンのリングやドイツのボーデなどを取り上げて、これまでの体操の歴史とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本	テンポよくリズムカルに動くための基礎的な技能を身につける
6	音楽に合わせた動きの発展	様々な曲調の音楽に合わせて、運動を継続するための発展的な技能を身につける
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	手具を用いた動きの基本と発展（6）	用具を組み合わせ、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
13	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	小グループによる指導演習 2	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける

15 試験（各グループによる） これまでに習得した各技能を組み
る演技発表を含む） 合わせて、演技を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で実施した内容を、自らが指導する立場になったらどのように展開するか、想定して振り返りましょう。体づくり運動の様々な実践例を調べてみましょう。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－、2000

長谷川聖修：これは簡単！表現運動・体づくり運動、学事出版、1996
高橋健夫編：ビジュアル新しい体育実技、東京書籍、2001

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された体操作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くして行きたい

体づくり運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位
曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実技を通して「体づくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の理解と実践力を習得します。

【到達目標】

様々なねらいに応じた動きの習得に取り組むと共に、帯状学習や単元学習として実践的に指導が出来る能力を身に付けることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいをバランスよく実施します。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開していきます。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の科目としての意義を考え、その必要性と役割を確認していきます。授業の最終段階では、一連の動きを構成し、ねらいに応じた体操の作品づくりにも取り組みます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の歴史とその特性	スウェーデンのリングやドイツのボーデなどを取り上げて、これまでの体操の歴史とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本	テンポよくリズムカルに動くための基礎的な技能を身につける
6	音楽に合わせた動きの発展	様々な曲調の音楽に合わせて、運動を継続するための発展的な技能を身につける
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	手具を用いた動きの基本と発展（6）	用具を組み合わせ、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
13	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	小グループによる指導演習 2	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける

15 試験（各グループによる） これまでに習得した各技能を組み
る演技発表を含む） 合わせて、演技を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で実施した内容を、自らが指導する立場になったらどのように展開するか、想定して振り返りましょう。体づくり運動の様々な実践例を調べてみましょう。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－、2000

長谷川聖修：これは簡単！表現運動・体づくり運動、学事出版、1996
高橋健夫編：ビジュアル新しい体育実技、東京書籍、2001

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された体操作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くして行きたい

サッカー指導論実習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】

(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニア(U-12) からユース(U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者をを目指す学生のキャパシティを広げられる授業になればうれしい。

☆格言『学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない』

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応(個人) 2、対敵での対応(グループ)
4	コミュニケーションの重要性(実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディアクション
5	パス&サポート(実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る ●グループでのボール保持の大切さを習得する
6	ボール・ポゼッション(実技)	●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識(講義) 2、発育発達と一貫指導(講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論
8	フィジカルの基本(リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法(スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション(実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3人目の動き(オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム(実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける(体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う(個人・グループ)	アプローチ(インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う(個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論(講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニングⅠ	指導の実践
15	基本の総合トレーニングⅡ	指導の実践とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

①(財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。

②(財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト（教科書）】

(公) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】

・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング(大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

指導テスト(70%)、実技テスト(30%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指導実践の充実(受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ機器一式

【その他の重要事項】

ピッチ上のオーガナイズが出来るように導く

サッカー指導論演習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・3
 旧科目名：サッカー指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である試合の分析・評価ができ、指導案の作成を通じて中高教員やピッチレベルで指導が出来る人材を養成する事を目的とする。

【到達目標】

(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニア (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティを広げられる授業になればうれしい。

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)～ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の3割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	ゴールキーピング (実技)	GK の技術・戦術
7	アタック&デフェンス (実技)	ゲーム・フリース
8	個人戦術とゲーム I	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディアクション)
9	個人戦術とゲーム II	サポートの重要性。 判断・決断の速さ。
10	指導者との信頼関係 (講義)	各年代の日本代表チームや J クラブ監督の事例を示し分析する。
11	チーム戦術とゲーム I	守備
12	チーム戦術とゲーム II	攻撃
13	指導の実践 I	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導の実践 II	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
15	指導の実践Ⅲとまとめ	学生が3名 (監督1名、コーチ2名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

- ① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針～U18 指導指針内容を理解しておく。
 ② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト（教科書）】

(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】

- ・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
- ・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
- ・サッカー指導教本2012 (JFA公認C級コーチ) (公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】

指導テスト (70%)、実技テスト (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ機器一式

【その他の重要事項】

ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く

テニス指導論実習

神和住 純

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
曜日・時限：水・3
旧科目名：テニス指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「テニス指導論実習」の目的は、テニスというスポーツについて指導のあり方・指導内容・指導方法の学習を含みつつ、個人の実技力・実践力を高めるための授業。
テニスの専門的知識を身につける為に、歴史・ルール・マナー・組織などを学ぶ。

【到達目標】

テニスの指導者になる為に、より専門的な角度からテニスの知識を身につける。
テニスの歴史、ルール、マナー・組織を文献・資料などを参考に学習する。また、テニスにおいて必要な基本技術を段階的指導法により、テニスの指導法・育成法を修得する。テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域スポーツ指導者（テニスの指導者）として、キッズからシニアまで生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチングが出来る能力をこの授業で学ぶ。

【授業の進め方と方法】

テニスの基本技術をまず学び、その後、応用技術を学び、試合が出来るように学習する。将来、初心者指導出来るように、自分なりの教え方を学ぶ。テニスの楽しさを伝授する。テニス基本6ストロークを習得するために、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サービスの基本動作を学び、その後、応用技術として各ショットの連続プレーの練習をする。応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	テニスの歴史	テニスのルーツ・語源・スコアの数え方・何故ゼロのことをラブ
2	テニスの特性と組織	国内海外のテニス組織・JTA・ATP・ITF・WTA
3	テニスのルールとマナー	コートの友・選手倫理規定
4	トップアスリートへの道	テニスを始めてからトップまで
5	デビスカップ・フェドカップ・五輪・アジア大会	国別対抗
6	テニス指導者とは	初心者から上級者までの指導法
7	審判指導法	セルフジャッジから国際審判員まで
8	一貫指導システム	日本体育協会の推進システムを学ぶ
9	ジュニアを育成する為の指導法	発育発達
10	テニスの道具と進歩	ラケット・ボール・コートの種類
11	日本・世界のトッププレーヤー達	名選手のプレースタイル
12	テニスのメンタルスキル	テニスの心理学
13	テニスの体力トレーニング	テニスに必要なトレーニング法
14	テニスの安全管理	傷害防止と安全対策と指導
15	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

【テキスト（教科書）】

「テニスの教本」日本テニス協会
「J T A テニスルールブック」日本テニス協会
「NHK ベストテニス」日本放送協会

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席率・実技テストにより評価を行う。
テニスの基本技術のレベルにより評価することもある。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

テニス指導論演習

神和住 純

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・3
 旧科目名：テニス指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニス指導論の目的は、テニスというスポーツについて指導のあり方、指導内容、指導法の学習を含みつつ、個人の実技力、実践力を高めるための授業。
 テニスの専門的知識を身につけるために、歴史、ルール、マナー、組織などを学ぶ。

【到達目標】

テニスの指導者になる為に、より専門的な角度からテニスの知識を身につける。
 テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考にする。
 また、テニスにおいて必要な基本技術を段階的指導法により、テニスの指導法、育成法を習得する。
 テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域スポーツ指導者（テニスの指導者）として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチングが出来る能力をこの授業で学ぶ。

【授業の進め方と方法】

テニスの基本技術をまず学び、その後、応用技術を学び、試合が出来るように学習する。将来、初心者指導出来るように、自分なりの教え方を学ぶ。テニスの楽しさを伝授する。
 テニス基本6ストロークを習得するために、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サービスの基本動作を学ぶ。基本技術がある程度出来るようになったら、応用技術として各ショットの連続プレーの練習をする。応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	テニスの基本6ストロークの説明/ガイダンス	グリップ・スイング
2	フォアハンドボレー	基礎技術
3	バックハンドボレー	基礎技術
4	フォアハンドストローク	基礎技術
5	バックハンドストローク	基礎技術
6	スマッシュ	基礎技術
7	サービス	基礎技術
8	ベースラインプレー	応用技術
9	ネットプレー	応用技術
10	サービス&レシーブ	応用技術
11	シングルスゲーム達	試合形式
12	シングルスゲーム	試合形式
13	ダブルスゲーム	試合形式
14	ダブルスゲーム	試合形式
15	実技テスト	実技テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
 実技の前日は体調を整えるように心がける。
 毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。

【テキスト（教科書）】

「テニスの教本」日本テニス協会
 「J T A テニスルールブック」日本テニス協会
 「NHK ベストテニス」日本放送協会

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席率・実技テストにより評価を行う。
 テニスの基本技術のレベルにより評価することもある。

【学生の意見等からの気づき】

特に無いので、現状維持で授業を行う。

【その他の重要事項】

春学期科目のテニス指導論実習を併せて履修することが臨ましい。

陸上競技指導論実習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。

また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
2	陸上競技の歴史・概要	陸上競技の歴史・概要について種目別に学習する。
3	陸上競技の基礎 I	陸上競技の生理学、力学について学習する。
4	走運動の理論と実技短距離走 I	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
5	走運動の理論と実技短距離走 II	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
6	走運動の理論と実技ハードル走 I	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
7	走運動の理論と実技ハードル走 II	ハードル走の実践および指導法を学習する。
8	走運動の理論と実技リレー競技 I	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
9	走運動の理論と実技リレー競技 II	リレー競技の実践および指導法を学習する。
10	跳躍運動の理論と実技走幅跳 I	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
11	跳躍運動の理論と実技走幅跳 II	走幅跳の実践から指導法を学習する。
12	跳躍運動の理論と実技走高跳 I	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
13	跳躍運動の理論と実技走高跳 II	走高跳の実践から指導法を学習する。
14	投運動の理論と実技砲丸投 I	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
15	投運動の理論と実技砲丸投 II	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

陸上競技指導教本 種目別実技編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %) と提出物 (リポートなど) (50 %)、小テスト (20 %) による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を挙げるなど、より理解しやすい授業を目指す。

陸上競技指導論演習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、理論、実技を通じて学習し、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を身につける。

教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法を習得する。

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導法を学習する。 また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案法について学習する。
2	跳躍運動の理論と実技三段跳	三段跳の実践から指導法を学習する。
3	跳躍運動の理論と実技棒高跳 I	棒高跳の実践から指導法を学習する。
4	跳躍運動の理論と実技棒高跳 II	棒高跳の実践から指導法を学習する。
5	短距離走の指導実習ハードル III	ハードル走の実践から指導法を学習する。
6	歩運動の指導法概論競歩	競歩種目の実践から指導法を学習する。
7	投運動の理論と実技円盤投	円盤投の実践から指導法を学習する。
8	投運動の理論と実技やり投	やり投の実践から指導法を学習する。
9	投運動の理論と実技ハンマー投	投運動の実践から指導法を学習する。
10	走運動の理論と実技長距離 I	走運動の実践から指導法を学習する。
11	走運動の理論と実技長距離 II	走運動の実践から指導法を学習する。
12	走運動の指導案作成	走運動の指導理論から指導案を作成する。
13	跳躍運動の指導案作成	跳躍運動の指導理論から指導案を作成する。
14	投擲運動の指導案作成	投擲運動の指導理論から指導案を作成する。
15	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

陸上競技指導教本 種目別実技編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %) と提出物 (リポートなど) (50 %)、小テスト (20 %) による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を挙げるなど、より理解しやすい授業を目指す。

HSS200IA

バドミントン指導論実習

児嶋 昇

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：バドミントン指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り且つ教えることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【授業の進め方と方法】

バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を文献、資料などを参考に学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン史	世界編・日本編
3	バドミントン技術論	講義と実技「初級編」
4	バドミントン技術論	講義と実技「中級編」
5	バドミントン技術論	講義と実技「上級編」
6	バドミントン競技指導論	講義と実技「ジュニア編」
7	バドミントン競技指導論	講義と実技「シニア編」
8	バドミントン・トレーニング論	講義と実技「導入編」
9	バドミントン・トレーニング論	講義と実技「応用編」
10	バドミントン・コーチ論	講義と実技
11	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技
12	バドミントン競技規則	講義と実技
13	バドミントンゲームの分析	講義と実技「シングルス」
14	バドミントンゲームの分析	講義と実技「ダブルス」
15	技術論及び競技規則試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」(財) 日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

筆記試験、平常点の他、技術習得やジャッジメントの実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの基本ストローク（6 種）を時間を掛けてじっくり学習したことにより応用編でのゲーム技術が格段に上達した。特にダブルスではバドミントンの面白さが倍増していくのが実感できた。基本技術をしっかり習得することが必須条件である事が実証出来た。

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。

HSS200IA

バドミントン指導論演習

児嶋 昇

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水・3

旧科目名：バドミントン指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り且つ教えることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習しシングルス、ダブルスのゲームが出来る様に学習する。また、地域スポーツ指導者として最も要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ技術習得
4	基本ストローク	ハイクリア
5	基本ストローク	ドロップ&レシーブ
6	基本ストローク	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本ストローク	ヘアピンショット総合
9	基本技術 応用編	オールロング
10	基本技術 応用編	オールショート
11	シングルス	フットワーク
12	シングルス	ゲーム組立
13	ダブルス	フォーメーション
14	ダブルス	ゲーム組立
15	実技試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」(財) 日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

筆記試験、平常点の他、技術習得やジャッジメントの実技試験も重視する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの基本ストローク（6 種）を時間を掛けてじっくり学習したことにより応用編でのゲーム技術が格段に上達した。特にダブルスではバドミントンの面白さが倍増していくのが実感できた。基本技術をしっかり習得することが必須条件である事が実証出来た。

【その他の重要事項】

春学期科目のバドミントン指導論実習を併せて履修することが望ましい。

ソフトボール指導論実習

大田 穂

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木・3

旧科目名：ベースボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【授業の進め方と方法】

技術を習得するため、屋外での実技を基本とする。ただし、ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には、室内での講義も実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。

屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハントスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術	ゴロ捕球・フライ捕球
第 5 回	打撃の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング
第 6 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 7 回	犠打の基本的技術	送りバント
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	チームでの守備係	併殺プレー・シートノック
第 11 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 12 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 13 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 14 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 15 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2 ～ 1 4 回：前回授業の復習と次回授業の予習。

第 1 5 回：春学期の総合的な復習とテスト対策。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・授業時の課題提出など授業への取り組み（20％）・テスト（50％）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は基本的に春学期・秋学期を通じて履修すること。

ソフトボール指導論演習

大田 穂

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・3

旧科目名：ベースボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【授業の進め方と方法】

基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技、ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための室内での講義を実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。

屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	さまざまなベースボール型スポーツ	ベースボール型スポーツの紹介とそれらの比較
第 3 回	さまざまな練習方法	さまざまな練習方法の紹介とその意図
第 4 回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導
第 5 回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導
第 6 回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導
第 7 回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導
第 8 回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導
第 9 回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導
第 10 回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリーへの指導方法と留意点
第 11 回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第 12 回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第 13 回	ソフトボール（野球）の現状	ソフトボール（野球）を指導する難しさ
第 14 回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第 15 回	学期末まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし。

第 2 ～ 1 4 回：前回授業の復習と次回授業の予習。

第 1 5 回：秋学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）・授業時の課題提出など授業への取り組み（20％）・レポート課題（50％）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

スイミング指導論実習

八塚 明憲

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：金・1

旧科目名：スイミング指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実とともない年間を通じて計画されるスポーツになった。スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた（実習）すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック

9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無しキック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
12	実技 バタフライ②	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
13	実技 バタフライ③	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターン
14	実技 個人メドレー①	100m 個人メドレーを泳げるようにする
15	実技 個人メドレー②	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習

テレビ等からのトップスイマーの泳法観察

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

日本代表選手の DVD

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業内の取り組み方:80%

泳力テスト:20%（各泳法の評価と 100 m または 200m 個人メドレーのタイム測定を行う）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。

水温・室温の管理に気を配る。

【その他の重要事項】

教員採用に必要な者、将来スポーツクラブでの指導者を目指す者を優先して受講者を決めたい。

スイミング指導論演習

八塚 明憲

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：金・1
 旧科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に関わりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にとめない年間を通じて計画されるスポーツになった。スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた（実習）すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。実技の為の基礎知識を学び指導者としての授業を展開して行く。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明
2	講義 水泳の特性	水泳の意義・特性について
3	講義 水泳の歴史	水泳の起源と発展 日本の水泳 世界の水泳
4	講義 水泳指導者	水泳と指導者 指導者の定義 一般心得 任務 人間性
5	講義 水泳指導法①	対象に応じた指導内容と技術指導・技術水準別指導・初心者指導
6	講義 水泳指導法②	中級者・上級者・年齢別指導・安全の為の指導・水泳場所別指導
7	講義 水泳の技術	運動原理・ストロークメカニクス・生理学的要因・心理学的要因
8	講義 水泳の安全対策	水泳管理と安全指導・水泳と保健・救助法・心肺蘇生法
9	講義 水泳のトレーニング法	トレーニング理論・体力別トレーニング法・メンタルトレーニング法・技術
10	講義 生涯スポーツと水泳	生涯スポーツの意義・水中運動・障害者水泳
11	講義 競技規則と審判法	競泳競技・水球競技・飛び込み競技・シンクロナイズドスイミング・オープンウォーター
12	講義 指導者制度 水泳事故の判例・保障	スポーツ指導者制度・アシスタント指導員制度・国民皆泳・事故と指導者の責任・事故と補償・事故と判例
13	実技 指導法	グループに分かれ実際に指導したり、受講者として学ぶ実践

14	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳・救助法・蘇生法の実践
15	予備日	上記内容で補えなかった授業を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習と次回授業の予習
 テレビ等からのトップスイマーの泳法観察

【テキスト（教科書）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
 日本代表選手の DVD

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業内の取り組み方: 80 %
 泳力テスト: 20 % (各泳法の評価と 100 m または 200m 個人メドレーのタイム測定を行う)

【学生の意見等からの気づき】

受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
 水温・室温の管理に気を配る。

【その他の重要事項】

教員採用を目指す者、将来スポーツクラブでの指導者を目指す者を優先して受講者を決めたい。

バレーボール指導論実習

濱口 純一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 1 単位
 曜日・時限：木・3
 旧科目名：バレーボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通
 年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールの基本的な技術指導ができ、人を育てられる人材を育成する。

【到達目標】

技能：バレーボールの基本的な技術指導とチーム作り、試合運営ができる。

知識：バレーボールの歴史、ルール、人材育成に必要な知識の習得ができる。

態度：指導者としての考え方、あり方を学ぶことができる。

【授業の進め方と方法】

実技では、新しいトレーニング方法（コーディネーショントレーニング）を使った導入段階の練習方法などを実際に体験する。講義では、ルールや歴史、指導者として必要な知識を習得する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を行い、授業の目標、概要について確認する
2	身体づくり・オーバーパスの基本	コーディネーショントレーニング（以下 COT）を行い身体づくりをする。授業後半はオーバーパスの基本技術とその教え方を学ぶ。
3	身体づくり・アンダーパスの基本	COT を行い身体づくりをする。授業後半はアンダーパスの基本技術とその教え方を学ぶ。
4	COT とは	COT の考え方とそのノウハウについて学ぶ
5	レシーブの基本・ミニゲーム	COT を使いレシーブの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は、習得した技術を生かしてゲームを行う
6	スライディングレシーブ・ミニゲーム	COT を使いスライディングレシーブの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は習得した技術を生かしてゲームを行う
7	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	COT を使いスパイクの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は習得した技術を生かしてゲームを行う
8	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	COT を使いスパイクの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半はスパイク技術を生かしてゲームを行う
9	講義	バレーボールの歴史・ルールを学ぶ
10	サーブ、サーブレシーブの基本・ミニゲーム	COT を使いサーブ、サーブレシーブの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は習得した技術を生かしてゲームを行う
11	トス、ブロックの基本・ミニゲーム	COT を使いトス、ブロックの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は習得した技術を生かしてゲームを行う

12	つなぎのプレー・ミニゲーム	COT を使いつなぎのプレーの基本技術とその教え方を学ぶ。授業の後半は習得した技術を生かしてゲームを行う
13	講義	大会の運営方法・公式記録の付け方を学ぶ
14	ゲーム	チームに分かれてゲームを 5 セットマッチで行う
15	ゲーム	チームに分かれてゲームを 5 セットマッチで行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし、第 2 回～15 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %
- 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に変更がある時は早いタイミングで連絡を行う。

バレーボール指導論演習

濱口 純一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：木・3
 旧科目名：バレーボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通
 年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、バレーボールの授業づくりについて演習する。

【到達目標】

技能：バレーボールの基本的な技術指導とチーム作り、試合運営ができる。

知識：バレーボールの歴史、ルール、人材育成に必要な知識の習得ができる。

態度：指導者としての考え方、あり方を学ぶことができる。

【授業の進め方と方法】

・バレーボールの歴史や特性について分析し新しいトレーニング方法（コーディネーショントレーニング）を使った導入段階の練習方法などを実際に体験し学習指導計画の作成演習を行う。

・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の概要と進め方	オリエンテーション(授業の進め方)
2	バレーボールの歴史と特性	バレーボールの歴史と特性
3	学習指導の要領解説	バレーボールの指導方法の要点説明
4	学習指導計画①	バレーボールの学習指導計画の作成
5	学習指導計画②	バレーボールの学習指導計画案作成演習
6	模擬授業①	各チームでサーブの有効性の解説と指導演習
7	模擬授業②	各チームでサーブレシーブの有効性の解説と指導演習
8	模擬授業③	各チームでスパイクの有効性の解説と指導演習
9	模擬授業④	各チームでブロックの有効性の解説と指導演習
10	模擬授業⑤	各チームでディグの有効性の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	評価計画①	観点別評価による評価基準の設定の仕方と留意点
13	評価計画②	観点別評価による評価演習
14	学習指導計画③	バレーボールにおける安全指導
15	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2回～15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %

2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

模擬授業の実施状況なども総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に変更がある時は早いタイミングで連絡を行う。

演習や実技練習を行う。

【学生が準備すべき機器他】

映像などを使用

【その他の重要事項】

春学期のバレーボール指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。

バスケットボール指導論実習

清水 貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：金・3

旧科目名：バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

※通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけ、チーム競技としての協調性、対人競技による闘志面の向上をテーマとする。

また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲームの展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレイヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【授業の進め方と方法】

バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。

また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス&ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー 4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う

14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う
15	指導案について	指導案の作成、提出。中学校・高等学校のバスケットボールの授業における指導案作成方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～8 回：前回授業の実技の復習

第 9～11 回：試合の中でのルールの確認

第 12～14 回：実技試験の練習（試験内容は第 11 回目の授業で説明）

第 15 回：特になし

【テキスト（教科書）】

資料を配布する

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）

実技試験及び課題（指導案の作成）から評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

男子と女子では扱うボールも異なるためできる限りは男女別で授業を展開していくので履修人数も均等に振り分けていく予定です。

【その他の重要事項】

※基本的には実技を取り入れていくので体育館で行います（但し、第 1 回、第 15 回は教室で行う予定）

※履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。

※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

バスケットボール指導論演習

清水 貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：金・3

旧科目名：バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

※通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須。

【その他の重要事項】

※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大 40 名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール指導論実習の受講後の学生を優先とする。

※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけ、チーム競技としての協調性、対人競技による闘志面の向上をテーマとする。また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲームの展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【授業の進め方と方法】

模擬授業を中心として授業を展開していく。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（次回から受講者に指導者の立場を学ばせ、実際に授業を展開していただくのでその順番などを決めます）
2	模擬授業①	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
3	模擬授業②	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
4	模擬授業③	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
5	模擬授業④	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
6	模擬授業⑤	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
7	模擬授業⑥	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
8	模擬授業⑦	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
9	模擬授業⑧	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
10	模擬授業⑨	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
11	模擬授業⑩	グループ及び 1 名が模擬授業を行うのでその反省と評価
12	まとめ（試合形式による学習）	試合形式での能力確認（個人技能及び集団技能）
13	まとめ（試合形式による学習）	試合形式での能力確認（個人技能及び集団技能）
14	まとめ（試合形式による学習）	試合形式での能力確認（個人技能及び集団技能）
15	模擬授業についてのまとめ	模擬授業の評価としてのアンケートをフィードバックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～11 回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）

第 12～14 回：チームとしての反省と戦術の確認を行う

第 15 回：特になし

【テキスト（教科書）】

資料を配布する

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）課題（指導案の作成と模擬授業）から評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を中心に進めていきますが、1 回の授業内で模擬授業終了後に時間のある限りはゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がるとわかりましたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

野外教育指導論演習（スノー）

高見 京太

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：集中 | 配当年次／単位：2～4 年次／3 単位

曜日・時限：集中・その他

旧科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習）[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウィンタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】

ウィンタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウィンタースポーツの技術と指導及び青少年教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメイキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【授業の進め方と方法】

キャンパスでの講義と現場での実習（実技、ワークショップ）により構成される。

講義は 11 月に 2 回、1 月に 1 回の合計 3 回、金曜日の 5 時限目に実施する予定で、スノースポーツの理論と技術を学習し、この学びをもとにレポートを作成する。また、実習は 2 月の第一月曜日から 5 日間（4 泊 5 日）の日程で、白馬八方尾根スキー場で実施することを想定し、八方尾根スキースクールのインストラクターのサポートを得て行う。受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上とスノースポーツキャンプの指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ
2	野外活動としてのウィンタースポーツの特性	野外活動としてのウィンタースポーツの特性
3	ウィンタースポーツの歴史その①	古代～隆盛期
4	ウィンタースポーツの歴史その②	スキーの隆盛と現代における状況
5	ウィンタースポーツ活動環境について	自然環境、人文環境、社会環境
6	スキー・スノーボードの身体運動学	解剖学、バイオメカニクス、生理学、心理学的アプローチ
7	スキー・スノーボード技術の発達と用品・用具の関係	スキー技術の発達と用品・用具の関係
8	スキー・スノーボード技術と方法論その①	滑走とターンのメカニズム、基礎スキー技術（ブルークターン）
9	スキー・スノーボード技術と方法論その②	基礎スキー技術（シュテムターンとパラレルターン）
10	スキー・スノーボード技術と方法論その③	スキー技術の現場での応用
11	スキー・スノーボードの指導法についてその①	スキーの装備について

12	スキー・スノーボードの指導法についてその②	学校教育におけるスキー授業のあり方
13	スキー・スノーボードの指導法についてその③	カリキュラムとメニュー、スキーの傷害への対応（リスクマネジメント）
14	ウィンタースポーツキャンプのオーガナイジング実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方	スキーキャンプのオーガナイジング実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方
15	まとめ	授業評価のあり方
秋学期		
回	テーマ	内容
16	開校式・能力別クラス分け	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価
17	自然環境（雪）に親しみ、慣れる	全員で歩行による雪中ハイキング
18	1 日目午後の実技講習	グループによる実技レッスン
19	1 日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップ
20	2 日目午前の実技講習	グループによる実技レッスン
21	2 日目午後の実技講習	グループによる実技レッスン
22	2 日目夜の種目別講義	基本技術のワークショップ
23	3 日目午前の実技講習	グループによる実技レッスン
24	3 日目午後の実技講習	グループによる実技レッスン
25	3 日目夜の種目別講義	ストレッチ、マッサージのワークショップ
26	4 日目午前の実技講習	グループによる実技レッスン
27	4 日目午後の実技講習	グループによる実技レッスン
28	4 日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップ
29	5 日目午前の実技講習	グループによる実技レッスン
30	実技テスト・閉講式	SAJ の評価基準に基づいた実技評価、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深める。
スキー、スノーボードに必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを配布する

【参考書】

・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために 2016 年度』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

【成績評価の方法と基準】

・実習前講義を、無断または正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点 (16%)
・レポート課題 (10%)
・実習の平常点 (42%)
・ワークショップの平常点 (12%)
・実技テスト (10%)
・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

現場からの学びを大切にすることを心がける。

【その他の重要事項】

【参考】 2016 年度の実習前講義の開催日および実習日程

実習前講義①： 11 月 11 日（金）5 時限目

実習前講義②： 11 月 25 日（金）5 時限目

実習前講義③： 1 月 13 日（金）5 時限目

実習地集合： 2 月 6 日（月）13:30

実習地解散： 2 月 10 日（金）12:00

野外教育指導論演習（マリン）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：集中 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において我々のライフスタイルは、余暇時間の増大や可処分所得の増加などに伴い、変容および多様化を遂げている。スポーツを受容する人間にとってこのライフスタイルの変化や多様性は、新たなマーケットを創出し、スポーツに対する需要も変容を遂げているといえる。

今後スポーツのさらなる多様化や拡大する重要に対応するためには、競技として確立されているスポーツだけではなく、拡大している身体活動に関する広い見識が求められる。

【到達目標】

本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【授業の進め方と方法】

授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5～6	プール実習 1	スキューバダイビングの用具について
7～8	プール実習 2	スキューバの技術について
9～15	現地実習	現地での実習を行う スキューバダイビング
16～29	現地実習	シーカヤック・ボードセイリング・パドルセイリング・ウェイクボードなどの水辺での活動についての技術や理解を深める
30	総括	事前講習や実習を通して得られた事柄や習熟状況について自らまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて資料を配布する

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

専門演習 I

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ

健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める

【到達目標】

上級生あるいは教員と協同して課題に取り込む方法を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し学ぶ

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	歩行分析 1（実習）	歩行分析 1（実習）
3	歩行分析 2（実習）	歩行分析 2（実習）
4	まとめ	まとめ
5	姿勢分析 1（実習）	姿勢分析 1（実習）
6	姿勢分析 2（実習）	姿勢分析 2（実習）
7	まとめ	まとめ
8	運動残効（実習）	運動残効（実習）
9	運動生理学分析（実習）	運動生理学分析（実習）
10	まとめ	まとめ
11	筋力評価 1（実習）	筋力評価 1（実習）
12	筋力評価 2（実習）	筋力評価 2（実習）
13	まとめ	まとめ
14	感覚検査（実習）	感覚検査（実習）
15	まとめ	まとめ

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
17	課題報告会（合宿）	課題報告会（合宿）
18	グループ学習	グループ学習
19	実験 1	実験 1
20	実験 2	実験 2
21	実験 3	実験 3
22	中間報告	中間報告
23	データ分析法	データ分析法
24	データ分析	データ分析
25	発表資料作成	発表資料作成
26	発表資料作成	発表資料作成
27	リハーサル	リハーサル
28	学会参加（合宿）	学会参加（合宿）
29	日程未定	日程未定
29	反省会	反省会
30	報告書最終提出	報告書最終提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の調査、報告書のまとめなど

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況、課題提出成績、発表成績

6 割以上が合格

【学生の意見等からの気づき】

より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

専門演習 I

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける 2 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】

本ゼミにおける 2 年次の到達目標は以下の 3 点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対して HOPS に基づいた評価ができるようになること。

【授業の進め方と方法】

基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際 1	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際 2	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学 1	機能解剖学の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学 2	機能解剖学の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学 3	機能解剖学の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学 4	機能解剖学の演習・小テストを行う。
8	実技演習 1	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
9	実技演習 2	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
10	実技演習 3	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
11	実技演習 4	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価 1	HOPS および SOAP について学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価 2	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価 3	ロールプレイを通して HOPS を実践する。
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価 4 / 夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	肩関節の外傷・障害 / 抄読会 1	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害 / 抄読会 2	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
18	頸部の外傷・障害 / 抄読会 3	頸部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習 5	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。
20	実技演習 6	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。
21	実技演習 7	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。

22	実技演習 8	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。
23	腰部の外傷・障害 / 抄読会 4	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害 / 抄読会 5	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害 / 抄読会 6	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害 / 抄読会 7	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習 9	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。
28	実技演習 10	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。
29	まとめ 1 / 抄読会 8	1 年間を振り返り、3 年時の課題を確認する。
30	まとめ 2	1 年間を振り返り、3 年時の課題を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】

日体協公認アスレティックトレーナーテキスト 1～9

ドナルド・A. ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー、医歯薬出版、2012

坂井建雄，松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系、医学書院、2011

日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編、大修館書店、2011

小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング、医歯薬出版、2013

Starkey, C., Brown, S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009

臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

中村千秋編：ファンクショナルトレーニング機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング、文光堂、2010

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、各内容や課外活動への取り組み（30 %）

出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等から、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーは体育／スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で、受講生は一生懸命頑張ってくれている。今後も継続してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

専門演習 I

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマーケティングの基礎的な知識の習得と、自ら問題意識を持ちその解決方法を導く能力を身につけることを目的とした演習をおこなう。具体的には、興味のある競技やスポーツイベントなどスポーツマーケティングに関連する事象について調べ、その問題点と解決に向けたリサーチおよびマーケティングレコメンデーションをプレゼン形式でおこなう。

【到達目標】

スポーツマーケティングの基礎的な知識や理論を身につけることはもとより、自ら課題を発見し解決できるような能力を身につけることを目的とする

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、スポーツ産業の構造や構成要素の関係について解説し、さらに、プロスポーツリーグおよびプロスポーツクラブ、さらにはメガスポートイベントに至るまで様々なケースを題材とし、スポーツ産業およびスポーツマーケティングのあり方についての授業を展開していく。また、話題性の高い時事問題やスポーツに関する新鮮な素材を資料として活用し、数グループに分かれ整理、検討し口頭発表を行い、人前で的確に発表、伝達能力を磨くとともに、マーケティングへの基礎的な理論・技術の修得および自ら活用しうるような課題に取り組んでいく。

秋学期は、スポーツマーケティングの実際として、プロスポーツクラブの運営や、マーケティングリサーチについて学び、科学的・合理的な根拠を持ち、スポーツの現場で活用するためのスキルを身につけることを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1～5	スポーツビジネスの基礎的な知識および理論の体系的な習得	・スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング (サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化) ・スポーツマーケティングの考え方 (マーケティング志向、交換)・マーケティング戦略の考え方 ・スポーツ産業のプロダクト ・スポーツイベントについて ・スポーツ消費者とは
6～7	プレゼンの仕方について	プレゼンの仕方について
8～15	プレゼンテーション	グループにて、興味のある事柄について調査および報告をおこなう

秋学期

回	テーマ	内容
16～20	スポーツビジネスの実際を知る	・スポーツサービス産業の一般的経営課題 (需要動向・事業環境・経営戦略・市場規模・コミュニケーション戦略・ブランディング・CSR) ・プロスポーツのマーケティング
21～30	プロスポーツのマーケティングの実際	・マーケティングリサーチについて (調査計画・実査・集計・レコメンデーションなどの手法について) ・競技および日本と海外の比較分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) および課外活動 (30%)、提出物等の内容 (30%) から総合的に判断するものとする

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンの配分を再検討し、調査で得たデータの活用方法や分析の手法などについての解説を実施する

専門演習 I

神和住 純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神和住ゼミでは、テニスというスポーツの競技力向上及びテニスに関するあらゆる分野を研究し、テニスの知識を高めることを目標とする。原則的には、テニスの実技、基本技術、応用技術、試合形式などを経て、技術を高める。テニスを生涯スポーツとしてとらえ、人生の喜びや健康に役立てる考えを学ぶ。

【到達目標】

テニスの楽しさや、基本技術・応用技術を学び、競技力向上を図る。テニスの問題点を研究し、課題レポートにより、各々が発表できるようにする。

【授業の進め方と方法】

2 年次を対象に、少人数で綿密な指導の下、スポーツと健康に関して幅広い視野から、受講者各人が研究テーマを決めて、調査・分析・報告・討論・実践を通して学習を深める演習である。これまでに講義で習得した理論を主体的に受け止め実践してみる姿勢を育てることを目的とする。例：スポーツ（テニス）における競技力向上・スポーツ（テニス）指導者のスキルアップ・生涯スポーツと健康・地域スポーツ指導者・スポーツと健康に関する日本体育協会公認の資格・スポーツコーチングビジネス、等等。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	自己紹介・初心者からプロテニスプレーヤーまでの話・年間の授業ガイダンス	神和住ゼミの生徒と教師のコミュニケーションを図る
2	実技指導	基本技術 フォアハンドストローク
3	神和住純のグロリアスデーのビデオ鑑賞（50分）	過去の神和住のプレー及び国内外の選手を映像で見る。
4	実技指導	基本技術 バックハンドストローク
5	テニスの七不思議（テニスの歴史）	何故、ゼロのことをラブと呼ぶ？ スコアの数え方の謎などを考える。
6	実技指導	基本技術 フォアハンドボレー
7	テニスの審判の資格（ITF・国内）	テニスの審判法を学ぶ
8	実技指導	基本技術 バックハンドボレー
9	テニス指導者の資格（ITF・国内）	将来テニス指導者を目指す為に必要な資格を学習する。
10	実技指導	基本技術 スマッシュ
11	テニスのルールとマナー	プレーヤーとして必要な資質を身につける
12	実技指導	基本技術 サービス
13	テニスのランキングシステム（JOP・ATP/WTB）	国内外のランキングの決め方を勉強する。
14	実技指導	基本技術の総集編
15	テニスプレーヤーの研究（世界的名選手）	名プレーヤーの研究・プレースタイルなど現在との比較

秋学期

回	テーマ	内容
16	実技指導	応用技術 ベースラインプレー
17	テニス関係のスポーツギア（ラケット・ストリング・シューズ等）	テニスに必要な道具の研究
18	実技指導	応用技術 ネットプレー

19	テニスビジネスの研究（プロツアー・コーチ・トレーナー・心理学者・テニススクール）	収入のためにどのようなテニス関係の仕事があるかの研究
20	実技指導	応用技術 サービス&レシーブ
21	神和住純のビデオライブラリーから鑑賞（NHK ベストテニス・GS・その他）	過去のテニス関係のビデオを鑑賞し知識を高める。
22	実技指導	応用練習ドリルベースラインプレー編
23	キッズテニス・ジュニアテニスの研究	子供たちにテニスを教えるにはどうしたらよいかを学ぶ
24	実技指導	応用練習ドリルネットプレー編
25	シニアツアーの研究	生涯スポーツと健康についてテニスとのかかわり
26	実技指導	総合応用練習
27	草トーナメントの研究	実力に応じた大会に挑戦してみる為に大会を把握する。
28	実技指導	ダブルスゲームの進め方
29	海外テニスアカデミーの研究	トッププロになる為のテニスアカデミーの指導法を学ぶ。
30	ダブルスゲーム大会	ダブルスゲームを楽しむ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックしフィードバックする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

【参考書】

「JTA テニスルールブック」・「テニスの教本」 日本テニス協会

【成績評価の方法と基準】

出席率及び授業態度を基準とする。技術テストや論文発表なども取り入れることがある。

【学生の意見等からの気づき】

特に問題は無いが、改善点などがあれば、適宜把握しながら、授業を行っていく。

【その他の重要事項】

*実技指導とは、基本技術・応用技術・試合形式などテニスコート内で行う。

天候によりテニスコートか教室か変更する場合がある。

専門演習 I

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義で修得した理論を主体的に受けとめ、実践する姿勢を育てる。

【到達目標】

2 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める。

【授業の進め方と方法】

学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成、研究の方法、分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
2	情報・文献の検索	1 図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
3	情報・文献の検索	2 インターネットなど様々な方法での情報収集の方法、文献検索の方法について学習する。
4	統計解析の基礎	1 実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
5	統計解析の基礎	2 実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。
6	統計解析の基礎	3 実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。
7	研究法	1 スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
8	研究法	2 スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
9	研究法	3 スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
10	文献の検索と輪読	1 興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
11	文献の検索と輪読	2 興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
12	文献の検索と輪読	3 興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
13	文献の検索と輪読	4 興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
14	文献の検索と輪読	5 興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
15	春学期のまとめ	春学期授業のまとめを行う。 夏休み期間の課題研究について話し合う。

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期受講ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。 夏期研究のまとめを行う。
17	実験・調査の方法：実験法 1	研究・実験に必要な器を使用し理解を深める。

18	実験・調査の方法：実験法 2	研究・実験に必要な実験方法について実際に機器を使用し理解を深める。
19	実験・調査の方法：調査法 1	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
20	実験・調査の方法：調査法 2	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
21	実験・調査の方法：データの解釈方法 1	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。
22	実験・調査の方法：データの解釈方法 2	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。
23	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールについて理解を深める。
24	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
25	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
26	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
27	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 3	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
28	今後の研究課題の方向性発表 1	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。
29	今後の研究課題の方向性発表 2	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。
30	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とプレゼン（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

より理解度の高い授業の展開に努める。

専門演習 I

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの現代的な健康課題は時代の流れとともに様変わりする。昨今ではいじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど多様化の傾向にある。教員となるためには、これらの問題に対応するための資質が求められる。このため、子どもの現代的な健康課題について全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】

専門演習を通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【授業の進め方と方法】

まず、講義により基本的事項について理解を図る。その後、参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	専門演習の進め方について確認する。
2	文献と検索	保健に関する専門雑誌を紹介し、論文の構成について理解する。
3	まとめ方	レポートのまとめ方について理解する。
4	子どもの健康課題	現代的な健康課題について理解する。
5	子どもの生活習慣病の課題	子どもの基本的な生活習慣の重要性について理解する。
6	性の逸脱行動	子どもの性に関する健康課題について理解する。
7	喫煙	子どもの喫煙に関する健康課題について理解する。
8	飲酒	子どもの飲酒に関する健康課題について理解する。
9	薬物乱用	子どもの薬物乱用に関する健康課題について理解する。
10	メディアと健康	子どものメディアから受ける健康課題について理解する。
11	子どもが身につけるべきミニマム	保健において子どもが身につけるべきミニマムとは何か理解を深める
12	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について理解を深める
13	学校におけるライフスキル教育の進め方	学校でのライフスキル教育の進め方について理解を深める
14	学習指導要領の組み立て	保健に関する学習指導要領の組み立てについて理解する
15	学習指導要領の系統性	発達段階を踏まえた学習指導要領の校種間での系統性について理解する
16	保健に関する教材の考え方	保健の教材について既存の資料の内容の考え方について理解を深める
17	学習指導要領各論感染症について	学習指導要領で示される感染症の指導内容について理解する
18	学校安全の教育内容	学校安全に関する指導内容について理解する
19	性に関する指導	学習指導要領における性に関する指導内容について理解を深める

20	喫煙防止教育	学習指導要領における喫煙と健康に関する指導内容について理解を深める
21	飲酒防止教育	学習指導要領における飲酒と健康に関する指導内容について理解を深める
22	薬物乱用防止教育	学習指導要領における薬物乱用と健康に関する指導内容について理解を深める
23	医薬品に関する指導	学習指導要領における医薬品に関する指導内容について理解を深める
24	食育と食品安全	学習指導要領における食に関する指導及び食品安全に関する指導内容について理解を深める
25	心の健康	学習指導要領における心の健康に関する指導内容について理解を深める
26	環境と健康	学習指導要領における環境と健康に関する指導内容について理解を深める
27	がんに関する指導	がんに関する指導内容について理解を深める
28	科学的根拠とは	科学的根拠に基づいて指導することの重要性を理解する。
29	メディアとボディイメージ	メディア情報を批判的に捉え、その重要性を理解する
30	まとめ	専門演習 1 で得た知識を基に、よりよい授業づくりについて振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題による準備を基本とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート点 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見は積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進展により変更がありうる

専門演習 I

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「見る・聞く・体験する」から始めて「読む・分析する・評価する」へ

【到達目標】

科学的分析および論理的思考能力を獲得するための基礎を養う。

【授業の進め方と方法】

① 2 年時においては、3 年時以降に本格的に取り組む研究テーマの探求と、実践的体験に必要な知識とスキルの習得を目的として講義・実習を行うが、3 年生、4 年生のプレゼンテーションとその指導からも学ぶ機会を得る。

② 扱う内容は、プレゼンテーション、インタビューやコミュニケーション、科学的研究の方法論、スポーツ医科学の理解に必要な統計学、英語論文・文献の解読法、体力の重要な構成要素である「持久力」、「体組成」、「筋力・パワー」についての正確な理解、スポーツ栄養などである。

③ スポーツ医学やスポーツ科学分野の学会・研究会に参加し、研究テーマと関連した、または興味のあるテーマについて学習・取材する。

④ 文章を読み、理解し、評価する能力を養うための抄読会式セッションも定期的に設ける。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）
3	プレゼンテーション・スキル②	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
6	研究報告会①	[演習] 3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	LT の測定①	[実習] LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] LT を測定する。
18	LT の測定③	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	[演習] 3 年生による研究発表会-2。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。

26	スポーツ栄養①	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。
29	スポーツ栄養④	[演習] 栄養調査分析の結果とこれまで測定してきた体組成や VO2max のデータをもとに、減量・バルクアップのプログラムを作る。
30	Book Club ⑥	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

【テキスト（教科書）】

・本多勝一、『中学生からの作文技術』。朝日新聞社。（2004）※研究室収蔵

・福澤一吉、『議論のレッスン』。生活人新書。（2002）※資料室収蔵

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008) ※資料室収蔵

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 3rd ed (2008) ※資料室収蔵

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition: An Introduction to Energy Production and Performance" Human Kinetics; 1st ed. (2004) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢（20％）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会（20％）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション（20％）：発表の structure、論理性。スライドの質。

Non verbal communication skill の水準。

④ 実習参加（20％）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成（20％）：科学的分析能力。

⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

専門演習 I

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が急速に進むなか、余暇時間の増大・生活意識の変容・人口の定住化傾向などを背景に地域スポーツは今、大きな転換期を迎えている。この現状を踏まえて我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、J リーグのクラブや総合型地域スポーツクラブに代表される地域におけるスポーツ組織の運営・経営の基本を実践で経験する。又、日本サッカー協会やJ リーグが日本のスポーツ界に与える影響を現状分析し将来予測につなげる。

【到達目標】

- ・J クラブや総合型地域スポーツクラブに代表される地域におけるスポーツ組織の現状を調査分析し、日本における生涯スポーツの在り方をシミュレートする。
- ・日本サッカー界の現状を分析し、将来のあり方を考察する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解した上で、地域スポーツクラブの調査研究を個人・グループで行いスポーツ事業の計画の方法や組織のあり方をシミュレートしプレゼンテーションを行えるようにする。また、J クラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域に対する役割についても明らかにし、多様性に応じた運営方法も学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・専門演習の理念 ・学生の目標設定 ・学習計画策定
2	・プレゼンテーション、スキルアップ	・自己紹介を介して本ゼミの自身の目標をプレゼンテーション
3	・地域におけるスポーツ振興方策と行政のかわり	・スポーツ行政のねらいと仕組みについて学ぶ
4	・地域スポーツクラブの機能と役割	・地域スポーツの役割と機能について調査する（グループ）
5	・地域スポーツクラブの機能と役割	・調査した結果をグループでプレゼンテーション
6	・地域におけるスポーツ経営	・自身が取り組む研究テーマを決定する
7	・テーマの解説：スポーツ組織の運営・経営	・日本におけるスポーツ組織の現状分析
8	・テーマの解説：総合型スポーツクラブの運営・経営	・日本における総合型地域スポーツクラブの現状分析
9	・J クラブの運営	・J クラブの現状を理解する ・J クラブでの運営に参加（J クラブの分析）
10	・J クラブの経営	・J クラブの経営状況を調査研究する
11	・J リーグの現状 ・日本サッカー協会の現状	・（社）J リーグと（社）日本サッカー協会の役割を分析
12	・J リーグの現状 ・日本サッカー協会の現状	・グループディスカッション（2 グループ）
13	・研究テーマの発表－1	・プレゼンテーション
14	・研究テーマの発表－2	・プレゼンテーション
15	・秋学期に向けての自身の研究内容を発表	・アセンブリー

秋学期

回	テーマ	内容
16	・地域スポーツクラブの役割－1	・日本における総合型地域スポーツクラブの調査
17	・地域スポーツクラブの役割－2	・海外における総合型地域スポーツクラブの調査
18	・総合型地域スポーツクラブの調査した結果の報告－1	・プレゼンテーション
19	・総合型地域スポーツクラブの調査した結果の報告－2	・プレゼンテーション
20	総合型地域スポーツクラブの今後について	・ディベート
21	・スポーツが地域にもたらす効果	・自身の考えをまとめる
22	・スポーツが地域にもたらす効果	・2～3 人のグループでまとめる
23	J クラブに対するスポンサーシップの現状分析	経済状況が厳しい中、J リーグや J クラブがどのような方法でスポンサー獲得に務めているのかグループで分析する。（J クラブの分析）
24	・J クラブの分析	・J クラブの強化・育成（アカデミー）について分析
25	・J リーグの現状	・J クラブの分析して結果をグループで発表
26	・日本サッカーの分析	・年代別日本代表の分析
27	・サッカー日本代表の現状	・日本代表の現状を分析し、代表監督や選手の質についてディベート形式で明らかにする。
28	・J リーグ（経営）	・収支の構造について
29	・日本代表（経営）	・収支の構造について
30	総括	総括とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

その都度、用意する。

【参考書】

1. 総合型地域スポーツクラブ 大修館書店
2. クラブづくりの 4 つのドア 文部科学省
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ（財）日本サッカー協会
- 4.（財）日本サッカー協会サッカー指導教本 2007
5. 地域スポーツの創造と展開 大修館書店
6. スポーツ産業論 第 4 版 杏林書院
- 7.J・League YEARBOOK 2012
- 8.J・League GUIDE 2012
- 9.NPO 法人をつくろう 東洋経済新聞社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%、小論文・学外活動 40%、調査・研究内容 20%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を実施する前に、あらかじめその場所を調べておく。個人だけではなく 2～3 人のグループでの発表を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの情報機器

専門演習 I

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。

25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	データ整理・統計処理	統計処理を実践する。
29	データ整理・統計処理	統計処理を実践する。
30	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

専門演習Ⅰ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】

学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【授業の進め方と方法】

「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校における体育科の教科書の読み直し、および、体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解き、最新の知識を習得する。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における展開や工夫に関する資料を収集するとともに模擬授業に参加し、体験する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する。
2	「体づくり運動」の理論的検討	「体づくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
3	「体づくり運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体づくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
5	「器械運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
7	「陸上競技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
9	「球技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
11	「武道」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
13	「ダンス」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
15	「体育理論」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体育理論」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。

秋学期

回	テーマ	内容
16	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の授業づくりを振り返る。
17	「体づくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
18	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
19	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。

20	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
21	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
22	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
23	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
25	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
27	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
28	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
29	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
30	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 （東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版体育科教育学入門 （大修館書店）
保健体育科教育法 （アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（見洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60％）、レポート点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

専門演習 I

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマを絞り込むとともに、卒業論文作成のための基礎的な研究手法を学ぶ。

【到達目標】

1. スポーツ心理学領域の動向について理解を深め、研究テーマを絞り込む。
2. 卒業論文作成のための基礎的な心理学的研究手法を理解する。
3. 可能であれば予備調査に取り組む。

【授業の進め方と方法】

スポーツメンタルトレーニングやチームビルディングを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告を収集・発表し、その内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深める。また、講義や体験的学習により、研究活動の遂行に不可欠となる基礎的な心理学の研究法を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，他己紹介，演習方針の決定
2	心理サポートの動向	昨今の心理サポートの動向を探る
3	スポーツメンタルトレーニングの方法	スポーツメンタルトレーニングの方法について学ぶ
4	スポーツカウンセリングの方法	スポーツカウンセリングの方法について学ぶ
5	チームビルディングの方法	チームビルディングの方法について学ぶ
6	スポーツメンタルトレーニングの実践	個人を対象としたスポーツメンタルトレーニングの事例を概観する
7	スポーツカウンセリングの実践	個人を対象としたスポーツカウンセリングの事例を概観する
8	チームを対象とした心理サポートの実践	チームを対象とした心理サポートの事例を概観する
9	体育授業における心理サポートの実践	体育授業における心理サポートの事例を概観する
10	レジュメ	レジュメの書き方を学ぶ
11	文献	文献の検索方法と記載の仕方を学ぶ
12	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
13	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
14	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
15	総括	夏季休業期間に取り組む研究計画の立案・発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業期間に実施した研究成果の発表
17	研究調査法	実験法，質問紙法，事例検討について解説する
18	実験法	実験法について学ぶ
19	事例検討の方法	インタビューの方法，面接の進め方・記録の仕方，倫理規定について学ぶ
20	事例検討の実践（KJ法，GTA）	KJ法，GTAによる事例報告について学ぶ
21	事例検討の実践（語りの研究）	心理学的諸理論に基づく語りの研究について学ぶ
22	研究調査法の検討	各調査法の長所・短所，相互補完性について学ぶ
23	質問紙法の実践	精神力，パーソナリティの測定・評価を行なう

- | | | |
|----|-----------------|--------------------------|
| 24 | データの整理（心理統計の基礎） | 心理統計の必要性を知る |
| 25 | データの整理（相関係数） | 2つの変数の関係：「相関係数」について学ぶ |
| 26 | データの整理（母集団と標本） | 「母集団と標本」に関連したトピックスについて学ぶ |
| 27 | データの整理（統計的仮説検定） | 統計的仮説検定について学ぶ |
| 28 | データの整理（t検定） | t検定について学ぶ |
| 29 | データの整理（分散分析） | 分散分析について学ぶ |
| 30 | 研究構想 | 研究課題の選定・発表 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解，およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016 年
2. 必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

次の本を持っていることを前提として授業を進める。

1. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 年
2. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006 年

【成績評価の方法と基準】

原則として全授業への出席を前提に，次の基準に従い総合評価する。

1. レポート，レジュメ，リアクションペーパー：50 %。プレゼンテーションで用いるレジュメ，各種レポート，およびリアクションペーパーについて評価します。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：50 %。授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。プレゼンテーションでは，発表の仕方，スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習，介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明，発表順の決定などを行なうため，必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

専門演習 I

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・ 5

【学生の意見等からの気づき】

発表した内容についてもっと幅広い議論が必要だったように思えるので改善していきたい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康など分野にとらわれず疑問・問題点など興味あるテーマを設定調査研究する。

【到達目標】

各自が調査・研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

グループ別にスポーツに関することで興味のあることや疑問に思うことを調査発表してもらい、プレゼンテーション能力を高めていく。秋学期はその過程で各自の研究テーマのヒントを見つけ、調査研究し発表してもらう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間計画について
2	指導者について	指導者の存在意義と競技成績の関係 これまでに会った指導者について
3	指導法について	最高の指導者と指導法について考える
4	夢を実現するには何を なすべきか	目標を達成するために現時点でこれから何ができるかを考える 自分の夢を達成するために現時点で努力していることについて
5～13	グループ別にテーマ決め調査発表	小グループに分かれ、お互いに関心あるテーマを調査し発表
14	夏季休暇中の研究テーマの検討	各自が関心のあるテーマを検討する。秋学期発表
15	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し秋学期へ向けて準備する 春学期授業を振り返る

秋学期

回	テーマ	内容
16	春学期の復習	秋学期の目標と抱負
17～20	個人別研究発表	春学期で設定したテーマについて発表
21～28	グループ別にテーマを設定し発表	小グループでお互に関心あるテーマを設定し、発表
29	来期に向けての準備	個人別テーマを考える
30	総括	1 年間の授業を総括し次年度へ備える 年間を振り返り反省点・問題点を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、発表（40％）、積極性（20％）

授業に対する積極的な取り組み（研究・発表等）、授業態度等を総合的に判断し評価する。

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：木・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション、研究・実験計画の基礎、文献のレビュー、実験・測定・調査の具体的方法、統計解析、研究仮説の設定などの各方法を学び、研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状态と心理的情報との対応

○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価、運動中のエネルギー代謝

○体型と減量行動・瘦身指向・身体活動量・エネルギー代謝

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ
第 3 回	発表方法の実際 (1)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (1)
第 4 回	発表方法の実際 (2)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (2)
第 5 回	発表方法の実際 (3)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (3)
第 6 回	発表方法の実際 (4)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (4)
第 7 回	研究計画を学ぶ (1)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (1)
第 8 回	研究計画を学ぶ (2)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (2)
第 9 回	先行研究の調査 (1)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (1)
第 10 回	先行研究の調査 (2)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (2)
第 11 回	先行研究の調査 (3)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (3)
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ (1)	尺度の判定 (名義・順位・間隔・比率尺度データ) を学ぶ
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ (2)	相関・予測の分析について学ぶ
第 14 回	実験・調査方法を学ぶ (3)	実験計画法と分散分析 (一要因の分散分析) を学ぶ
第 15 回	実験・調査方法を学ぶ (4)	実験計画法と分散分析 (二要因の分散分析) を学ぶ
第 16 回	測定方法を学ぶ (1)	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 17 回	測定方法の実際 (1)	骨格筋活動 (筋電図) の測定方法を学ぶ
第 18 回	測定方法を学ぶ (2)	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 19 回	測定方法の実際 (2)	エネルギー代謝 (呼吸ガス分析) の測定方法を学ぶ
第 20 回	測定方法を学ぶ (3)	身体の動作解析についてグループで調査して発表し、論議する
第 21 回	測定方法の実際 (3)	動作解析の測定方法を学ぶ
第 22 回	測定方法を学ぶ (4)	質問紙調査についてグループで調査して発表し、論議する
第 23 回	測定方法の実際 (4)	質問紙調査の方法について学ぶ
第 24 回	測定方法を学ぶ (5)	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し、論議する

第 25 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する
第 26 回	研究計画の立案 (1)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (1)
第 27 回	研究計画の立案 (2)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (2)
第 28 回	研究の実践 (1)	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う
第 29 回	研究の実践 (2)	グループごとに、ミニ研究のデータ分析・考察を行う
第 30 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー (まとめ)、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。

また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜次次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.

出村慎一, 山下秋二, 佐藤進, 健康・スポーツ科学のための調査研究法, 杏林書院.

浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.

田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで, 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：60%, 2) 授業への参画状況 (出席・発言など)：40%, で行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での活動については、理解に個人差が大きいように感じられた。また、受講生から授業内での課題について積極的な提言もあり、今年度は授業内で使用するテキストの内容および授業の展開を変更する予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

専門演習 I

日浦 幹夫

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine and exercise physiology. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn “Integrated Exercise Physiology”.

【到達目標】

Having attended this course, students will recognize that there are many aspects to be updated and integrated in the area of sports science.

【授業の進め方と方法】

We study the methodology which serves as application of the refined theory in the area of sports medicine and exercise physiology. Responses to exercise in cardiorespiratory system and output from working muscles as well as cerebral blood flow are to be explained and discussed in this course. Finally, through practical experiments, we learn the basic issues about these measurement methods and evaluation of data.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of Integrated Exercise Physiology and reviewing its background
2	Practical issues	Instruction of a poster presentation (semester's theme), ethical issue
3	Changes of cardiovascular and cerebral function during exercise (1)	Basis for measurement of pulmonary oxygen uptake during cycle ergometer exercise etc..
4	Changes of cardiovascular and cerebral function during exercise (2)	Basis for measurement of the middle cerebral blood flow velocity during cycle ergometer exercise etc..
5	Practice for reading of scientific articles (1)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
6	Equipments and PC software for measurement (1)	timing system, AD converter and imaging tools (video analysis etc.)
7	Brain function imaging (1)	Basic knowledge for brain imaging detecting oxygen metabolism and cerebral blood flow as well as morphology.
8	Statics (1)	Basis for statistical analysis using PC software
9	Equipments and PC software for measurement (2)	Electromyogram (EMG) and tools for analysis.
10	Central command (1)	Introduction of major concepts in brain function concerning to exercise
11	Biomechanical analysis in exercise (1)	Basic knowledge of imaging analysis during human movement
12	Field practice for measurements (1)	Simple and fundamental exercise such as walking and running.
13	Preparation of the poster presentation	Study and research of literatures

14	Practice for reading of scientific articles (2)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
15	Poster presentation	A workshop among several groups
秋学期		
回	テーマ	内容
16	Practical issues	Instruction of an oral presentation: semester's theme
17	Measurements (1)	Pulmonary oxygen uptake
18	Practice for reading of scientific articles (3)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
19	Measurements (2)	Middle cerebral blood flow velocity
20	Measurements (3)	Biomechanical analysis
21	Software for brain function imaging	Imagings for brain function such as positron emission tomography (PET) and near infrared spectroscopy (NIRS) in conjunction with magnetic resonance imaging (MRI)
22	Statics (2)	Basis for statistical analysis using PC software
23	Measurements (4)	Integrated physiology during exercise
24	Brain function imaging (2)	Basic knowledge for brain imaging detecting oxygen metabolism and cerebral blood flow as well as morphology.
25	Field practice for measurements (2)	Sports events such as distance running and soccer.
26	Central command (2)	Introduction of central command by which neural activation is induced as feed forward manner at the onset of exercise.
27	Preparation of the oral presentation	Study and research of literatures
28	Practice for reading of scientific articles (4)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
29	Oral presentation	A workshop among several groups
30	Preliminary discussion	Themes of future researches

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For effective learning, students should study about each theme at least before the practical measurements.

【テキスト（教科書）】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【参考書】

“Textbook of Work Physiology” Astrand et al. Ed. Human Kinetics, 2003

【成績評価の方法と基準】

Score is based on active participation, reports for measurements and poster and oral presentation in class.

【学生の意見等からの気づき】

In this course, we will learn some typical themes in physiology such as “oxygen uptake kinetics during exercise” by practical demonstrations.

Some important issues in statistics will be studied using the corresponding softwares for PC.

専門演習 I

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技スポーツのみならず、国民スポーツにおいてもそのコーチングにおいては医・科学の活用が求められている。しかし、どのような医・科学を？ どのように活用するのか？ については具体的ではない。コーチングを支援しているスポーツ医・科学の具体例とその課題から今後の活用の方策を学ぶ。

【到達目標】

競技スポーツにおける「医・科学、情報によるコーチング支援」から「現状を把握する」「トレーニングを提案する」の中でコーチングに活用されているあるいは活用できるトレーニング科学とスポーツバイオメカニクスを理解する。

【授業の進め方と方法】

毎回、講義形式とグループによるディスカッション形式を併用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「現状を把握する」	授業の進め方のガイダンス
2	パフォーマンス分析・評価①	映像の収集・編集・フィードバック
3	パフォーマンス分析・評価②	動作分析による把握
4	パフォーマンス分析・評価③	レース・ゲーム分析による把握
5	パフォーマンス分析・評価④	リアルタイム情報の活用
6	フィットネス面からの把握①	身体組成
7	フィットネス面からの把握②	コンディショニングチェック
8	フィットネス面からの把握③	フィットネスチェック
9	フィットネス面からの把握④	リカバリー
10	フィットネス面からの把握⑤	睡眠
11	栄養面からの把握	アセスメント モニタリング 女性の 3 主徴
12	心理面からの把握	モニタリング カウンセリング メンタルトレーニング
13	医学面からの把握①	メディカルチェック
14	医学面からの把握②	リハビリテーション
15	まとめ	「現状を把握する」のまとめ
16	「トレーニングを提案する」	授業の進め方のガイダンス
17	トレーニング方法・内容の提案①	酸素濃度を変えたトレーニング
18	トレーニング方法・内容の提案②	上半身のトレーニング
19	トレーニング方法・内容の提案③	流体力に対するトレーニング
20	トレーニングの指導①	トレーニング管理システム
21	トレーニングの指導②	トレーニング指導の中での測定
22	トレーニングの指導③	リハビリテーション、栄養、心理との連携
23	情報戦略サポート①	スポーツ政策、ルール情報
24	情報戦略サポート②	リザルト分析、対戦国・相手分析
25	競技マネージメントサポート①	合宿・試合の準備
26	競技マネージメントサポート②	施設・用具の管理

27	コーチング支援の現状	コーチングと支援、多分野による支援と他競技種目への支援
28	コーチング支援の課題	オリパラサイクルと支援内容、対象による支援内容の相違
29	トレーニング科学の活用	コーチングの中でのトレーニング科学
30	スポーツバイオメカニクスの活用	コーチングの中でのスポーツバイオメカニクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式での内容、ディスカッションの内容を復習してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの積極的参加 40%、およびスポーツ医・科学の活用に関するレポートを作成してもらうので、そのできばえ 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

専門演習 I

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I のポイントは、メディアないしはジャーナルな視点を大切にしてスポーツ世界を考えるとところにある。参加するそれぞれが独自の世界観をもち、ゼミに臨む。スポーツ世界を切り取って伝える際の根本原則は、わかりやすい構成、新鮮な情報、魅力的な提示、説得力のある論理立て、第三者の意見の尊重、そして他人にはない個性があつてなお均整のとれたものの見方だ。そうした手法を自らのものにながら、社会を貫く世界観を養う。将来の卒業論文へ導く道としたい。

【到達目標】

ベースになるのは、①「自分で将来取り組むテーマ」である。初めのうちはよく見えなかったり、ぼんやりしているのかも知れない。しかし大学生活が進むにつれて、なにがしかの方向が定まってくる。手がかりが感じられるようになったら、一度近づいてみることだ。それに加え、②「折に触れて提示するジャーナルな問題」に対して、自分なりのものの見方をまとめ上げる。専門演習 I では、基本的な手法も身につけなければならない。A：資料を選択しポイントをいかに抽出するか。B：いかにアポイントを取り何を聞いてくるか。C：アンケートをどう構成しどのように集めるか。D：素材の写真やデータをどうやって収集するか。具体的な事例を元にひとつずつ積み上げていく。設定したテーマを論じるために、広い視野で材料を集められるようにする。立体的に事象を捉え、説得力のあるプレゼンテーションの能力を身につける。

【授業の進め方と方法】

研究の途中経過を文章、プレゼンテーション、ディベートなどで発表していく。他人の発表に対しては、自分のテーマを意識しながら批判的に検証すること。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深める。また日本の論調にばかりとらわれず、世界の視点を大切にする。調査、情報のやりとり、分析、研究。一連の活動は、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。アルバイト先やインターンの現場で精力的に材料を集めること。定期的に発表の機会を設け、フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。どう伝えるかと同じようにどう問いただすかも成長の鍵だ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。これからの演習の進め方、求められる姿勢を説く。
2	プレゼンテーションの読み方	専門演習 II のゼミ生のプレゼンテーションを見て、そのあり方を分析し、どうとらえたかを発表する。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料がどんなところにあるのか。選択肢やアプローチの方法を知る。
4	プレゼンテーションの基本	他人のプレゼンテーションを参考にしながら、あるべきスタイルやその構成を知る。アニメーションの使い方、スライドの構成を実際に見る。
5	調査とインタビューの基本	調査のやり方からインタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか。
6	ディベートの考え方	物事を批判的に見るための考え方に始まり、ディベートの要素・その展開の仕方を学ぶ。
7	論文の分析、書き方	緒言、目次、アブストラクト、章だてなど論文の手法を確認する。
8	スポーツ界のさまざまな問題	実際のスポーツ界の出来事を自分なりに分析し、主張する。
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法や規約を検証する。
10	スポーツの常識②	テーマの医学・生理学的なジャンルとの関連を考える。
11	スポーツの常識③	テーマを運動学的、社会学的な側面から考える
12	研究制作	文章で粗い構成を書き上げる。

13	研究発表	プレゼンテーションを制作し発表する。
14	研究発表	プレゼンテーションを制作し発表する。
15	夏課題の取り組み方	夏課題に対する自らのテーマの設定、更にはどう取り組んでいくかを工程表にする。

秋学期

回	テーマ	内容
16	夏課題総括 I	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括 II	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の法的観点からの検証。
19	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の経済的観点からの検証。
20	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の社会的観点からの検証。
21	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の環境的観点からの検証。
22	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の人権上の観点からの検証。
23	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の商業的観点からの検証。
24	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表＝夏に作った研究の改訂版と批評。
25	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表と批評。
26	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表と批評。
27	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
28	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
29	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
30	研究総括	研究発表のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと。特に海外のメディアにも関心を持っておく。専門演習 II の受講生とも密に情報交換し、その手法や視点を学ぶこと。テレビのプレゼンテーションをよく分析して見ておくこと。流れ、展開、材料の引き出し方。参考になるものがそこここにある。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（批評の内容/研究発表）50%、最終章論文50%。

評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど。

最終演習日の小論文は、必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブにランダムに発表できるチャンスを増やす。研究室でのやりとりのチャンスを拡大する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

【その他の重要事項】

研究室に顔を出すこと。何気ないことばのやりとりから、新しい発想が生まれることがある。そのためには、一人で閉じこもらずにコミュニケーションの機会を増やすこと。

【特記事項】

今年度は、秋学期に入ってから担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、大学を向こう一年にわたって空けることになる。代替教官を配置、引き継ぎには万全を期すが、早めの対応を心がけられたい。なお、インターネットを使つての遠隔指導も可能。

専門演習 I

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる（前期）。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる（前期）。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる（後期）。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる（後期）。

【授業の進め方と方法】

前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	事例を知る：みるスポーツの定義と構造	みるスポーツの定義と現代社会における構造について学ぶ。
第 3 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 4 回	事例を知る：プロスポーツが人々に与える影響	プロスポーツにおける娯楽性と社会的アイデンティティという二つの価値の提供を通して期待できる効果について理解を深める。
第 5 回	事例を知る：J リーグスタジアム観戦者調査	観戦者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、J リーグ観戦者調査を例に学習する。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツマーケティング調査の種類	スポーツマーケティング調査における量的アプローチと質的アプローチの違いや、実験的研究と非実験的研究の違いなどについて学習する。
第 8 回	スポーツマーケティング調査の課題、目的、仮説の設定	スポーツマーケティング調査における課題、目的、仮説のそれぞれが持つ意味、役割を理解するとともに、設定方法についても学習する。
第 9 回	スポーツマーケティング調査の測定尺度	スポーツ消費者の人口動態的性、心理的特性、行動的特性などの特性に応じた測定方法について学ぶ。
第 10 回	スポーツ消費者心理の測定	スポーツ消費者の心理を直接的に測定することはできない。いくつかの観測変数を合成して消費者心理を推定する方法について学習する。
第 11 回	スポーツマーケティング調査におけるアンケート用紙の作成	スポーツマーケティング調査におけるアンケート用紙の構成、内容、作成方法、注意点などについて学ぶ。
第 12 回	スポーツマーケティング調査における標本抽出方法	スポーツマーケティング調査における標本抽出方法の種類、特徴、選択基準などについて学ぶ。

第 13 回	調査における倫理的問題と注意事項	調査の実施、協力機関への結果のフィードバック、調査結果の開示などにおける倫理的問題や注意点について理解を深める。
第 14 回	スポーツマーケティングに関する学術論文の読み方	スポーツマーケティングに関する学術論文の構成、内容、決まり、専門用語などについて学習する。
第 15 回	前期のまとめ	前期に学習した内容を振り返るとともに、その内容を踏まえて実際にデータを収集する。
第 16 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 17 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などについて学ぶ。
第 18 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 19 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリー変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法について学習する。
第 20 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
第 21 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 22 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検定の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 23 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 24 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 27 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 28 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 29 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。
第 30 回	後期のまとめ	スポーツマーケティング調査が計画的に実施されることを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】

- (1) みるスポーツのマーケティングに関するレポート（10 点、前期）
 - (2) 質問項目の設定（10 点、前期）
 - (3) データ収集（20 点、前期）
 - (4) 結果の分析（図表およびスライド資料）（30 点、後期）
 - (5) 結果の報告（プレゼンテーション）（30 点、後期）
- 合計：100 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

英語演習 I

相馬 美明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず何より数多くの問題をこなすことで問題に慣れ、その問題の傾向と対策について自ら考える。

【到達目標】

精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書の順序にしたがって進められるが、教科書のみならず、学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。要は、一年かけて自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Pre-test (1)	Pre-test (1)
3	Pre-test (2)	Pre-test (2)
4	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
5	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
6	Short Conversations	Short Conversations
7	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
8	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
9	Looking for Reference books in the library	Looking for Reference books in the library
10	American Insurance System	American Insurance System
11	American Insurance System	American Insurance System
12	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
13	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
14	まとめ	まとめ
15	学期末まとめ	試験、学期末まとめ

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期予定確認	秋学期予定確認
17	Financial Crisis	Financial Crisis
18	Financial Crisis	Financial Crisis
19	Conversation between a Professor and a Student	Conversation between a Professor and a Student
20	Native American	Native American
21	Native American	Native American
22	The Civil War	The Civil War
23	Environmental Problem	Environmental Problem
24	Environmental Problem	Environmental Problem

25	Astronomy	Astronomy
26	Astronomy	Astronomy
27	Post-test (1)	Post-test (1)
28	Post-test (2)	Post-test (2)
29	まとめ	まとめ
30	学期末まとめ	試験、学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

Power-up Trainer for the TOEFL ITP (CENGAGE Learning), およびプリント使用

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60 %), レポート (10 %), 平常点 (20 %), 発表点 (10 %) など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

英語演習Ⅱ

松下 晴彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得すること、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。秋学期には TOEIC テストの対策もする。

【到達目標】

学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Lesson 1	初めて会う人と待ち合わせ
3	Lesson 2	会議・商談で自己紹介する
4	Lesson 3	客先を同僚に紹介する
5	Lesson 4	電話で：ヴォイスメール
6	Lesson 5	電話で：初めての人と
7	Lesson 6	客先に訪問して
8	Lesson 7	海外出張：飛行場でチェックイン
9	Lesson 8	入国審査・通関
10	Lesson 9	ホテルで
11	Lesson 10	会議で
12	Lesson 11	アポをとる
13	Lesson 12	雑談
14	Lesson 13	ビジネス関連の e-mail
15	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

秋学期

回	テーマ	内容
16	Unit 1	Entertainment
17	Unit 2	Transportation
18	Unit 3	Technology
19	Unit 4	Housing
20	Unit 5	Sightseeing
21	Unit 6	Eating Out
22	Unit 7	Health
23	Unit 8	Finance
24	Unit 9	Sports
25	Unit 10	Education
26	Unit 11	Service
27	Unit 12	Purchases
28	Unit 13	Personnel
29	Unit 14	Job Hunting
30	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：付属 CD のリスニング、テキストの予習、前回授業の復習

第 15 回：春学期試験対策の総復習

第 16～29 回：自習用 CD を使いリスニングする、およびテキストの予習、前回授業の復習

第 30 回：秋学期試験対策の総復習

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

【テキスト（教科書）】

春学期『ビジネス会話で学ぶアメリカ文化』Todd Jay Leonard（成美堂）税込：2,160 円

秋学期『TOEIC テスト 究極アプローチ』松本恵美子（成美堂）2,200 円+税

【参考書】

『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパントイムズ）

『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパントイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネスで役立つ英語、知識が学べた、という意見が頂いた。学生の役に立つ授業を展開できるように今後も努力します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

大学生に相応しい英語力は必須である。

受講を希望する学生、興味がある学生は必ず初回の授業に出席すること。

演習が主となるので全出席が期待されている。

なお、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

専門演習Ⅱ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査器具を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ。また課題をもち課題を解決する力を身につける。
健康科学分野、運動療法分野、健康科学分野の科学論文を抄読することで科学論文の読解力を高める。

【到達目標】

各自研究テーマを持ち実験しデータを処理し報告するまでを学ぶ。
自ら科学論文を収集し、読解し、報告する能力を高める。

【授業の進め方と方法】

少人数グループに分かれ課題を定め課題解決のために実験を実施しデータをまとめ報告する

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 1	グループに分かれ課題決定
2	オリエンテーション 2	各課題発表。オリエンテーションを行う
3	クラス別課題	クラスに分かれ文献を探す
4	調査・まとめ・発表のしかた	検索方法・調査方法について教員の助言を受けながら列挙し確認する。また調べた事項をまとめる方法や発表の方法を確認する。
5	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
6	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
7	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
8	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
9	全体課題	実験計画を作成する
10	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
11	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
12	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
13	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
14	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する
15	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する

秋学期

回	テーマ	内容
16	全体オリエンテーション	秋学期課題タイムスケジュールを発表。オリエンテーションを行う
17	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
18	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
19	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
20	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
21	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
22	中間報告会	調査した文献に基づき課題解決のための研究計画書を作成する
23	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
24	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
25	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
26	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
27	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
28	発表会	履修生全員の前で成果を発表する
29	学会参加	学会参加（日程未定）

30 全体のまとめ

各自が授業を振り返り意見を出す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：配付資料を持参する
第 4 回：ディスカッションで決まった事項をまとめる
第 5～6 回：翌週までに発表の準備をする
第 7～8 回：翌週までに課題について調べまとめる
第 9 回：報告資料をコピーし配布しておく
第 16 回：配付資料を持参する
第 18～22 回：発表原稿のコピーと配布
第 23～27 回：資料のコピーと配布
第 28～29 回：プレゼンテーション資料の作成
第 30 回：意見をまとめ整理する

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて教員が資料を配付する

【参考書】

特に定めず、学生が課題解決のため決定する

【成績評価の方法と基準】

出席状況、授業への積極性、発表資料のできばえあるいは仕方

【学生の意見等からの気づき】

少人数で進める必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

【その他の重要事項】

専門演習Ⅰを履修済みであるものが対象

専門演習Ⅱ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける 3 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】

アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、活動ができることが 3 年次の到達目標である。

【授業の進め方と方法】

2 年時から引き続き、春学期では事前準備の上で発表・実践が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定および発表、可能な限り予備実験を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3 年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹部全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。
15	まとめと夏季課題	春学期の予備日。 夏季課題について確認する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	研究の方法/抄読会 1	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
17	機器の操作方法確認 1/抄読会 2	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法確認 2/抄読会 3	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法確認 3/抄読会 4	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法確認 4/抄読会 5	トレッドミル・ハートレートモニターの使い方について学習する。論文抄読会。
21	機器の操作方法確認 5/抄読会 6	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
22	研究計画の作成 1/抄読会 7	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	研究計画の作成 2/抄読会 8	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
24	現場実習報告 1/抄読会 9	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
25	現場実習報告 2/抄読会 10	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
26	予備実験 1/抄読会 11	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
27	予備実験 2/抄読会 12	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
28	予備実験 3/抄読会 13	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
29	研究計画発表会	卒業研究の研究計画発表会を行う。
30	まとめ/抄読会 14	3 年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

1. 日本協公認アスレティックトレーナーテキスト 1～9
2. ドナルド・A. ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー。医歯薬出版。2012
3. 坂井建雄，松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店。2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013
6. Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
7. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂。2003
8. 中村千秋編：ファンクショナルトレーニング—機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング。文光堂。2010

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、種々の活動への取り組み 40%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などを通して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーは体育・スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場の経験が大変重要である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

専門演習Ⅱ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰでおこなったマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査までおこなう。また、依頼する競技団体や企業とのやり取りを実践し、ビジネスマナーを身につけることも目的とする。

【到達目標】

調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践していく。

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究の進め方、調査の手法などについて説明する
2~3	研究の進め方について	研究の手法について解説する
4~5	情報・文献の検索	研究を進めるための文献および情報の収集について解説する
6~10	統計解析の基礎	データの扱い方について解説する
11~13	調査の方法	調査の方法について学び、調査計画をたてる
14	研究テーマの設定	各自の研究テーマを設定する
15	春学期のまとめ	春学期の総括をおこなう

秋学期

回	テーマ	内容
16	オリエンテーション	研究・調査の進め方について解説する
17	調査の方法	外部とのやり取りや調査の手法についての留意点について説明する
18~20	調査の実施	各自調査を実施し、データを収集する
21~23	データ整理・統計処理	データの統計的な処理をおこない、進捗状況を報告する
24~27	調査報告	調査結果から得られた知見についてプレゼンテーションをおこなう
28~29	論文作成への導入	各自の研究課題を踏まえ、論文作成のための研究企画をたてる
30	秋学期のまとめ	秋学期の総括をおこない、論文作成に向けた指導をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特に設定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) および課外活動 (30%)、提出物等の内容 (30%) から総合的に判断するものとする

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンの配分を再検討し、調査で得たデータの活用方法や分析の手法などについての解説を実施する

専門演習Ⅱ

神和住 純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマ例：スポーツ（テニス）における競技力向上・スポーツ（テニス）指導者のスキルアップ・生涯スポーツと健康・地域スポーツ指導者・スポーツと健康に関する日本体育協会公認の資格・スポーツコーチングビジネス等。

【到達目標】

テニスの楽しさや、基本技術・応用技術を学び、各々の競技力を向上させる。

テニスの問題点を研究し、課題レポートで発表できるようにする。

【授業の進め方と方法】

3 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	研究テーマを何にするか討論し考える。	専門演習Ⅰで発表した内容を再検討し、更に深める。
2	実技指導・レベルアップへの道	基本技術ベースラインプレーの復習と向上
3	研究テーマの内容を検討し焦点を絞る。	テーマ候補の中から興味ある内容を絞る。
4	実技指導・レベルアップへの道	基本技術ネットプレーの復習と向上
5	研究テーマの決定とタイトルの発表	テーマの最終決定をする。
6	実技指導・レベルアップへの道	基本技術サーブとレシーブの復習と向上
7	研究テーマの資料収集①	あらゆる情報メディアを利用して調査する。
8	実技指導・レベルアップへの道	応用技術ベースラインプレー練習ドリル
9	研究テーマの資料収集②	あらゆる情報メディアを利用して調査する。
10	実技指導・レベルアップへの道	応用技術ネットプレー練習ドリル
11	研究テーマの資料収集③	あらゆる情報メディアを利用して調査する。
12	実技指導・レベルアップへの道	応用技術ゲームの進め方 ①
13	研究テーマの分析 ①	資料収集した内容を整理する。
14	実技指導・レベルアップへの道	応用技術ゲームの進め方 ②
15	研究テーマの分析 ②	資料収集した内容を整理する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	実技指導・レベルアップへの道	ダブルスゲームの戦術 ①
17	研究テーマの内容構成を考える。 ①	整理した内容を順序だてて論文風にする準備段階
18	実技指導・レベルアップへの道	ダブルスゲームの戦術 ②
19	研究テーマの内容構成を考える。 ②	整理した内容を順序だてて論文風にする準備段階
20	実技指導・レベルアップへの道	シングルスゲームの戦術 ①
21	研究テーマのまとめ作業 ①	最終発表が出来るように校正する

- 22 実技指導・レベルアップ シングルスゲームの戦術 ②
ブへの道
- 23 研究テーマのまとめ作業 最終発表が出来るように校正する ②
- 24 実技指導・レベルアップ 勝つためのゲーム戦略 ①
ブへの道
- 25 実技指導・レベルアップ 勝つためのゲーム戦略 ②
ブへの道
- 26 研究テーマの発表会 発表会は2名～3名とする ①
- 27 実技指導・レベルアップ 実技最終回は紅白試合
ブへの道
- 28 研究テーマの発表会 発表会は2名～3名とする ②
- 29 研究テーマの発表会 発表会は2名～3名とする ③
- 30 研究テーマの発表会 発表会は2名～3名とする ④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した内容や技術を、次回にチェックする、それをフィードバックする。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「JTA テニスルールブック」・「テニスの教本」 日本テニス協会

【成績評価の方法と基準】

研究発表の内容は、A 4で10枚以上とする。

授業出席率及び授業態度の総合評価

実技テスト及び研究発表を参考に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善点があれば、適宜把握して、授業を行う。

専門演習Ⅱ

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育学、コーチ学などといった運動科学分野における文献分析から、自分の取り組みたいテーマを選択していく。

【到達目標】

自らの研究テーマについて、研究方法や実験方法、分析方法など研究に必要なスキルを高める。

【授業の進め方と方法】

3 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることが目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
2	情報収集 1	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
3	情報収集 2	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
4	演習合同研究テーマの検討	演習合同で行う研究についてテーマを決定する。
5	文献検索と輪読 1	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
6	文献検索と輪読 2	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
7	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
8	予備実験	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討に基づき予備実験を行う。
9	データ解析	演習合同テーマ予備実験のデータの解析を行う。
10	論文作成 1	演習合同テーマの論文を作成する。
11	論文作成 2	演習合同テーマの論文を作成する。
12	論文作成 3	演習合同テーマの論文を作成する。
13	発表 1	演習合同テーマの論文を発表する。
14	発表 2	演習合同テーマの論文を発表する。
15	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。 夏期研究テーマを検討する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
17	ポスター発表作製	合同研究もしくは夏期研究についてポスターを作製する。
18	論文計画書作成	各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う。
19	研究テーマのプレゼン 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
20	研究テーマのプレゼン 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
21	研究テーマのプレゼン 3	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。

22	研究テーマのプレゼン 4	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
23	研究テーマのプレゼン 5	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
24	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
25	予備実験 1	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
26	予備実験 2	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
27	予備実験 3	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
28	今後の研究課題の方向性発表 1	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。
29	今後の研究課題の方向性発表 1	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。
30	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）とプレゼン（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高める授業展開に努める。

専門演習Ⅱ

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの現代的な健康課題は時代の流れとともに様変わりする。昨今ではいじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど多様化の傾向にある。教員となるためには、これらの問題に対応するための資質が求められる。このため、子どもの現代的な健康課題について全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】

専門演習Ⅱを通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【授業の進め方と方法】

参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰを振り返り、Ⅱの演習計画について確認する。
2	子どもの健康課題	現代的な健康課題についてデータを読みとく。
3	子どもの生活習慣病の課題	子どもの健康課題、生活習慣病の課題に関わる文献を読みとく。
4	性の逸脱行動	性の逸脱行動に関わるデータの意味を理解する。
5	性の逸脱行動の文献を読む	性の逸脱行動に関する文献を読み解く。
6	性に関する指導	指導案を作成する。
7	未成年喫煙に関する知見	未成年喫煙に関するデータを理解する。
8	未成年喫煙の健康影響	文献を読み解く。
9	未成年喫煙に関する指導案作成	指導案を作成する。
10	未成年飲酒に関する知見	未成年飲酒に関するデータを理解する。
11	未成年飲酒の健康影響	文献を読み解く。
12	未成年飲酒の健康影響に関する指導案作成	指導案を作成する。
13	薬物乱用と健康	薬物乱用に関するデータを理解する。
14	薬物乱用の健康影響－覚せい剤－	関連薬物の実態と課題について理解する。
15	薬物乱用の健康影響－大麻と危険ドラッグ－	関連薬物の実態と課題について理解する。
16	薬物乱用に関する文献	文献を読み解く。
17	薬物乱用に関する指導案作成	指導案を作成する。
18	メディアによる影響	文献を読み解く。
19	広告分析	広告分析により批判的思考を養う指導案を作成する。
20	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について専門演習Ⅰの理解を踏まえ、さらに理解を深める。
21	ライフスキル教育	危険行動を防ぐための意義について構成スキルとの関連性を踏まえ理解を深める。
22	ライフスキル教育の指導案作成	指導案を作成する。

23	医薬品に関する指導	関連文献を読みとく。
24	医薬品に関する指導案作り	医薬品に関する指導案を作成する。
25	安全教育に関する領域構造	安全教育に関する領域と系統性について理解を深める。
26	安全教育に関するデータ解析	安全教育に関するデータを読み解く。
27	安全教育に関する指導案作成	安全教育に関する指導案を作成する。
28	環境と健康に関するデータ	環境と健康に関するデータを読み解く。
29	環境と健康に関する指導案作成	環境と健康に関する指導案を作成する。
30	まとめ	専門演習を振り返り、意義と成果を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導案の作成、文献を読みレポートを作成する

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説保健体育編

高等学校学習指導要領保健体育編

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

参加状況、取組状況による平常点（60％）、レポート点（40％）により評価

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見は積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進展により変更がありうる。

専門演習Ⅱ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】

春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿って調査活動を行う。

研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。

各学生の研究に必要な実験・測定を行う。

ヒューマンカロリーメーターを用いた測定を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	【演習】2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーション・スキル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	【演習】3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会①	【演習】3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	【実習】インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	【実習】DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3 年生による研究発表会-2
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
26	スポーツ栄養①	【講義】栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	【実習】栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	【演習】栄養調査・分析の結果発表。
29	スポーツ栄養④	【演習】栄養調査分析の結果とこれまで測定してきた体組成や VO2max のデータをもとに、減量・バルクアップのプログラムを作る。

モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

【テキスト（教科書）】

・本多勝一、『中学生からの作文技術』、朝日新聞社、(2004) ※研究室収蔵

・福澤一吉、『議論のレッスン』、生活人新書、(2002) ※資料室収蔵

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008) ※資料室収蔵

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 3rd ed (2008) ※資料室収蔵

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition: An Introduction to Energy Production and Performance" Human Kinetics; 1st ed. (2004) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢 (20%) : 一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会・Book Club (20 %) : 評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション (20 %) : 発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。

④ 実習参加 (20 %) : 実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成 (20 %) : 科学的分析能力。

⑥ 授業外セミナー、研究会への参加 (optional) : 各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

専門演習Ⅱ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすと同時に体力の向上や健康の維持にとどまらず人格形成の基礎でもある。演習Ⅱでは我が国におけるスポーツ振興の現状やスポーツ産業の広がりによる効果などを検証し、自身の将来を構想する機会とする。又、Jリーグや総合型地域スポーツクラブが地域に与える影響について演習Ⅰでの学びを進化させる。

【到達目標】

- ・2 年次で習得したスキルに加え、インターンシップで力を発揮できるレベルにまで充実させる。
- ・資格取得にチャレンジする。

【授業の進め方と方法】

日本における学校体育や生涯スポーツ・競技スポーツの実態を把握した上で、Jリーグなどのプロスポーツクラブや総合型地域スポーツクラブの役割について理解した上で、インターンを通じてライフスタイルに応じたスポーツ社会の創造に向けてシミュレートする。又、社会全体でスポーツを支える基盤整備の現状を調査・研究する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・学習計画や研究計画の設定
2	・3 年次で取り組む研究	・3 年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
3	・3 年次で取り組む研究	・3 年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
4	・日本のスポーツこれからの5 年	・各自、テーマを選び調査する
5	・日本のスポーツこれからの5 年	・調査した結果をプレゼンテーションする
6	・海外の総合型スポーツクラブの現状を分析	・各自で調査する
7	海外の総合型クラブの現状分析	・プレゼンテーション
8	・J クラブの現状調査・分析	J クラブ (53 クラブ) のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析
9	・J クラブの現状調査・分析	J クラブ (51 クラブ) のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析
10	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする
11	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする
12	・スポーツ庁	・調査
13	・スポーツ庁	・プレゼンテーション ・ディベート
14	・スポーツの功罪	・研究テーマの発表 1
15	・学校体育と地域スポーツクラブ	・研究テーマの発表 2

秋学期

回	テーマ	内容
16	・地域スポーツクラブの役割	・NPO 法人法政クラブの現状分析と将来展望についてのグループ調査
17	・地域スポーツクラブの役割	・グループで選定した地域スポーツクラブの分析と将来展望についてのグループ調査

18	・日本サッカーの現状	・インターンシップで経験したことを発表
19	・日本サッカーの将来	・インターンシップで経験したことを発表
20	・スポーツの功罪	ディベート
21	・学校体育と地域スポーツ	ディベート
22	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・J クラブのスポンサー獲得の現状を分析
23	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・プレゼンテーション
24	・海外のサッカークラブと J リーグ	研究テーマ発表—3
25	・海外のサッカークラブと J リーグ	研究テーマ発表—4
26	・スポンサーシップ	・J クラブのスポンサー獲得の現状を分析
27	・スポンサーシップ	・海外クラブのスポンサー獲得の現状を分析
28	・研究テーマの決定	研究テーマ発表—5 (卒業論文に向けて)
29	・研究テーマの決定	研究テーマ発表—6 (卒業論文に向けて)
30	総括	総括とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【参考書】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30 %、小論文・学外活動 50 %、調査研究 20 %

【学生の意見等からの気づき】

・J クラブや総合型地域スポーツクラブへのインターンの実践。

・アンケート調査地点の事前リサーチの実施。

専門演習Ⅱ

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。

25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	データ整理・統計処理	統計処理を実践する。
29	データ整理・統計処理	統計処理を実践する。
30	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

専門演習Ⅱ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】

指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【授業の進め方と方法】

学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体づくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
15	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

秋学期

回	テーマ	内容
16	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講者に対する指導的役割の確認を行う。
17	「体づくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
18	「体づくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
19	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
20	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
21	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
22	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
23	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
24	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

25	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
26	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
27	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
28	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
29	「体育理論」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
30	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外で指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 （東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 （東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法 （大修館書店）
新版体育科教育学入門 （大修館書店）
保健体育科教育法 （アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60％）、レポート点（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

専門演習Ⅱ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰにおいて習得した知見や研究手法を精査し、卒業論文作成に向けた研究テーマの確定と研究計画の作成に取り組む。

【到達目標】

1. 卒業論文作成に向けて、各自の研究課題を整理する。
2. 研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。
3. 研究計画の作成に寄与する予備調査に取り組む。
4. 予備調査の結果を報告書にまとめる。

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅰで習得した知見を下敷きとして各自が問題設定を行ない、先行研究の精読や仮説検証に向けた予備実験に取り組む。その進捗状況を適宜発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明，他己紹介，演習方針の決定
2	競技力向上に関連する論文講読・発表	競技力向上のための心理サポートに関連する文献講読・発表
3	実力発揮に関連する論文講読・発表	実力発揮のための心理サポートに関連する文献講読・発表
4	スポーツカウンセリングに関連する論文講読・発表	スポーツカウンセリングによる心理サポートに関連する文献講読・発表
5	チームビルディングに関連する論文講読・発表	チームビルディングを用いた心理サポートに関連する文献講読・発表
6	球技に関連する論文講読・発表	球技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
7	対人競技に関連する論文講読・発表	対人競技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
8	チームに関連する論文講読・発表	チームを対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
9	体育授業に関連する論文講読・発表	体育授業における心理サポートに関連する文献講読・発表
10	進捗状況の報告①	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
11	進捗状況の報告②	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
12	進捗状況の報告③	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
13	進捗状況の報告④	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
14	進捗状況の報告⑤	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
15	総括	夏季休業期間に取り組む研究計画の立案・発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業期間に実施した研究成果の発表
17	研究計画の精査	緒言，目的，方法の記載の仕方について学ぶ
18	研究計画の精査	期待される結果，研究の意義を考察する
19	研究計画の精査	フローチャートを作成する
20	予備実験①	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する
21	予備実験②	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する
22	予備実験③	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する

23	研究計画の再考①	予備実験の結果を踏まえて研究計画を修正する
24	研究計画の再考②	予備実験の結果を踏まえて研究計画を修正する
25	個別指導	調査方法を精査する
26	個別指導	分析方法を精査する
27	個別指導	フローチャートを修正する
28	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
29	研究計画の発表	研究計画を発表する
30	演習全体の振り返り	研究計画書を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解，およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016 年
2. 必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

次の本を持っていることを前提として授業を進める。

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014 年。
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 年。
3. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006 年。

【成績評価の方法と基準】

原則として全授業への出席を前提に、次の基準に従い総合評価する。

1. レポート，レジュメ，リアクションペーパー：50 %。プレゼンテーションで用いるレジュメ，各種レポート，およびリアクションペーパーについて評価します。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：50 %。授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。プレゼンテーションでは，発表の仕方，スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習，介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明，発表順の決定などを行なうため，必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

専門演習Ⅱ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点・問題点を整理し4年次演習Ⅲの卒業論文作成に備える。

【到達目標】

2年次秋学期の演習Ⅰで研究発表したテーマを参考に秋学期各自の研究テーマを決定する。

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に、少人数での報告・検討・実践をととして学習を深める演習である。2年次秋学期で設定したテーマに沿ってさらに調査・研究し発表する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間計画について
2	今年度に向けて	今年度の抱負
3	将来の目標	各自の研究テーマを再確認する
4	今年度の計画	今年度個人別計画の立案
5～13	グループ別にテーマを調査発表	小グループに分かれ、お互い関心あるテーマを検討する
14	夏季休暇中の研究テーマの検討	各自が関心のあるテーマを検討する
15	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し秋学期へ向けて準備する

秋学期

回	テーマ	内容
16	春学期の復習	秋学期の目標と抱負
17～20	個人別研究発表	春学期で設定したテーマについて発表
21～28	個人の研究発表	各自の研究テーマにそって発表
29	来期に向けての準備	来期の計画
30	総括	1年間の授業を総括し反省点・問題点を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

第16回：春学期の復習

第17～30回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、発表（40％）、積極性（20％）

授業に対する積極的な取り組み（研究・発表）、業態度等を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後の目標を明確に把握し指導していきたい。

専門演習Ⅱ

林 容市

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰで選定した研究課題を整理し、卒業論文作成に向けた研究テーマの確定及び研究計画の作成に取り組む。

【到達目標】

1. 卒業論文作成に向けて研究課題を整理する。
2. 仮説検証に向けた予備実験に取り組む。
3. 研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅰで選定した研究課題を整理するため、先行研究の精読や仮説検証に向けた予備実験に取り組む。適宜、その進捗状況を発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、他已紹介、演習方針の決定
2	競技力向上に関連する論文講読・発表	競技力向上のための心理サポートに関連する文献講読・発表
3	実力発揮に関連する論文講読・発表	実力発揮のための心理サポートに関連する文献講読・発表
4	スポーツカウンセリングに関連する論文講読・発表	スポーツカウンセリングによる心理サポートに関連する文献講読・発表
5	チームビルディングに関連する論文講読・発表	チームビルディングを用いた心理サポートに関連する文献講読・発表
6	球技に関連する論文講読・発表	球技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
7	対人競技に関連する論文講読・発表	対人競技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
8	チームに関連する論文講読・発表	チームを対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
9	体育授業に関連する論文講読・発表	体育授業における心理サポートに関連する文献講読・発表
10	進捗状況の報告①	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
11	進捗状況の報告②	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
12	進捗状況の報告③	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
13	進捗状況の報告④	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
14	進捗状況の報告⑤	研究論文作成に向けた今後の課題の抽出
15	総括	夏季休業期間に取り組む研究計画の立案・発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業期間に実施した研究成果の発表
17	研究計画の精査	緒言、目的、方法の記載の仕方について学ぶ
18	研究計画の精査	期待される結果、研究の意義を考察する
19	研究計画の精査	フローチャートを作成する
20	予備実験①	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する
21	予備実験②	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する
22	予備実験③	仮説検証に向けた予備実験の結果を発表する

23	研究計画の再考①	予備実験の結果を踏まえて研究計画を修正する
24	研究計画の再考②	予備実験の結果を踏まえて研究計画を修正する
25	個別指導	調査方法を精査する
26	個別指導	分析方法を精査する
27	個別指導	フローチャートを修正する
28	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
29	研究計画の発表	研究計画を発表する
30	演習全体の振り返り	研究計画書提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究課題に関連する文献の収集・読解、およびプレゼンテーションの準備等への能動的な取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

次の本を持っていることを前提として授業を進める。

1. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 年
2. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006 年

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価する。

1. レポート、レジュメ、リアクションペーパー：40 %。プレゼンテーションで用いるレジュメ、各種レポート、およびリアクションペーパーについて評価する。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：60 %。授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの体裁等について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の専門演習Ⅰでの内容については多くの受講生において踏まえられており、その知識・スキルに基づく充実した活動がなされていた。一方で、受講生から授業内での課題について積極的な提言もあったため、今年度は授業内で使用するテキストの内容および授業の展開を変更する予定である。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

専門演習Ⅱ

日浦 幹夫

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and exercise physiology by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn “Integrated Exercise Physiology”.

【到達目標】

Having attended this course, students will recognize that there are many aspects to be updated and integrated in the area of sports science.

【授業の進め方と方法】

We study the methodology which serves as application of the refined theory in the area of sports medicine and exercise physiology. Responses to exercise in cardiorespiratory system and output from working muscles as well as cerebral blood flow are to be discussed in this course. Finally, through practical experiments, we learn the basic issues about these measurement methods and evaluation of data.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of Integrated Exercise Physiology and reviewing its background
2	Practical issues	Instruction of a poster presentation (semester's theme), ethical issue
3	Changes of cardiovascular and cerebral function during exercise (1)	Basis for measurement of pulmonary oxygen uptake during cycle ergometer exercise etc..
4	Changes of cardiovascular and cerebral function during exercise (2)	Basis for measurement of the middle cerebral blood flow velocity during cycle ergometer exercise etc..
5	Practice for reading of scientific articles (1)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
6	Equipments and PC software for measurement (1)	timing system, AD converter and imaging tools (video analysis etc.)
7	Brain function imaging (1)	Basic knowledge for brain imaging detecting oxygen metabolism and cerebral blood flow as well as morphology.
8	Statics (1)	Basis for statistical analysis using PC software
9	Equipments and PC software for measurement (2)	Electromyogram (EMG) and tools for analysis.
10	Central command (1)	Introduction of major concepts in brain function concerning to exercise
11	Biomechanical analysis in exercise (1)	Basic knowledge of imaging analysis during human movement
12	Field practice for measurements (1)	Simple and fundamental exercise such as walking and running.

13	Preparation of the poster presentation	Study and research of literatures
14	Practice for reading of scientific articles (2)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
15	Poster presentation	A workshop among several groups

秋学期

回	テーマ	内容
16	Practical issues	Instruction of an oral presentation: semester's theme
17	Measurements (1)	Pulmonary oxygen uptake
18	Practice for reading of scientific articles (3)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
19	Measurements (2)	Middle cerebral blood flow velocity
20	Measurements (3)	Biomechanical analysis
21	Software for brain function imaging	Imagings for brain function such as positron emission tomography (PET) and near infrared spectroscopy (NIRS) in conjunction with magnetic resonance imaging (MRI)
22	Statics (2)	Basis for statistical analysis using PC software
23	Measurements (4)	Integrated physiology during exercise
24	Brain function imaging (2)	Basic knowledge for brain imaging detecting oxygen metabolism and cerebral blood flow as well as morphology.
25	Field practice for measurements (2)	Sports events such as distance running and soccer.
26	Central command (2)	Introduction of central command by which neural activation is induced as feed forward manner at the onset of exercise.
27	Preparation of the oral presentation	Study and research of literatures
28	Practice for reading of scientific articles (4)	Scientific articles with regrads to exercise physiology and sports medicine.
29	Oral presentation	A workshop among several groups
30	Preliminary discussion	Themes of future researches

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For effective learning, students should study about each theme at least before the practical measurements.

【テキスト（教科書）】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【参考書】

“Textbook of Work Physiology” Astrand et al. Ed. Human Kinetics, 2003

【成績評価の方法と基準】

Score is based on active participation, reports for measurements and poster and oral presentation in class.

【学生の意見等からの気づき】

In this course, we will learn some typical themes in physiology such as “oxygen uptake kinetics during exercise” by practical demonstrations.

Some important issues in statistics will be studied using the corresponding softwares for PC.

専門演習Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技スポーツのみならず、国民スポーツにおいてもそのコーチングにおいては医・科学の活用が求められている。しかし、どのような医・科学を？ どのように活用するのか？ については具体的ではない。コーチングを支援しているスポーツ医・科学の具体例とその課題から今後の活用の方策を学ぶ。

【到達目標】

競技スポーツにおける「医・科学、情報によるコーチング支援」から「現状を把握する」「トレーニングを提案する」の中でコーチングに活用されているあるいは活用できるトレーニング科学とスポーツバイオメカニクスを理解する。

【授業の進め方と方法】

毎回、講義形式とグループによるディスカッション形式を併用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「現状を把握する」	授業の進め方のガイダンス
2	パフォーマンス分析・評価①	映像の収集・編集・フィードバック
3	パフォーマンス分析・評価②	動作分析による把握
4	パフォーマンス分析・評価③	レース・ゲーム分析による把握
5	パフォーマンス分析・評価④	リアルタイム情報の活用
6	フィットネス面からの把握①	身体組成
7	フィットネス面からの把握②	コンディショニングチェック
8	フィットネス面からの把握③	フィットネスチェック
9	フィットネス面からの把握④	リカバリー
10	フィットネス面からの把握⑤	睡眠
11	栄養面からの把握	アセスメント モニタリング 女性の 3 主徴
12	心理面からの把握	モニタリング カウンセリング メンタルトレーニング
13	医学面からの把握①	メディカルチェック
14	医学面からの把握②	リハビリテーション
15	まとめ	「現状を把握する」のまとめ
16	「トレーニングを提案する」	授業の進め方のガイダンス
17	トレーニング方法・内容の提案①	酸素濃度を変えたトレーニング
18	トレーニング方法・内容の提案②	上半身のトレーニング
19	トレーニング方法・内容の提案③	流体力に対するトレーニング
20	トレーニングの指導①	トレーニング管理システム
21	トレーニングの指導②	トレーニング指導の中での測定
22	トレーニングの指導③	リハビリテーション、栄養、心理との連携
23	情報戦略サポート①	スポーツ政策、ルール情報
24	情報戦略サポート②	リザルト分析、対戦国・相手分析
25	競技マネージメントサポート①	合宿・試合の準備
26	競技マネージメントサポート②	施設・用具の管理

27	コーチング支援の現状	コーチングと支援、多分野による支援と他競技種目への支援
28	コーチング支援の課題	オリパラサイクルと支援内容、対象による支援内容の相違
29	トレーニング科学の活用	コーチングの中でのトレーニング科学
30	スポーツバイオメカニクスの活用	コーチングの中でのスポーツバイオメカニクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式での内容、ディスカッションの内容を復習してもらいたい

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの積極的参加 40%、およびスポーツ医・科学の活用に関するレポートを作成してもらうので、そのできばえ 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

専門演習Ⅱ

三ッ谷 洋子

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スポーツによるまちづくり」のキッカケとなるようなイベントとはどのようなものかについて、実践を通してより深く研究する。

【到達目標】

単なる「スポーツイベント」と、「まちづくりにつながるスポーツイベント」の違いを理解し、グループ活動を通して社会人として必要な常識を身につける。

【授業の進め方と方法】

前年のゼミで取り組んだフィールドワークやイベント実施を通して得た知見をもとに、互いに積極的にディスカッションをしながら、まちづくりにつながるスポーツイベントとは何かを考える。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	研究テーマの再検討	前年に取り組んだゼミ活動と、研究テーマの再検討。
2~3	文献・資料の検討	「スポーツによるまちづくり」に関する文献・資料にあたり、そこから得た知見をもとに、「スポーツによるまちづくり」のポイントについてディスカッション。
4~6	研究テーマの発表とフィールドワークのテーマ・内容の検討	研究テーマを発表し、フィールドワークに適切な事例の検討。
7~8	フィールドワークの実施と報告	現場に出かけ、そこで得た知見を発表し、互いに講評する。
9~12	グループ活動（計画・実施）	イベント実施に向けてのグループ活動。
13~15	グループ活動（中間報告）	イベント実施に向け、進捗状況を整理し発表する。

秋学期

回	テーマ	内容
16~24	グループ活動（計画・実施）	イベント実施に向けてのグループ活動。
25~30	実施したスポーツイベントのまとめと発表	「スポーツイベント実施報告書」をまとめて発表し、互いに講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・上級生としての自覚を持ち、責任ある学生として何事にも積極的に取り組む。
- ・グループ活動が中心であることから、同じグループ内での連絡を密にして、他のメンバーに迷惑をかけないように心がける。

【テキスト（教科書）】

テーマに応じて随時、紹介する。

【参考書】

テーマに応じて随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・上級生としてのゼミ活動の参加姿勢。（リーダーシップの有無）
- ・フィールドワークやゼミ合宿への参加姿勢。
- ・課題の内容、発表の態度。
- ・成績評価基準は、平常点 70 %、各種レポート 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ活動への積極的な参加。
- ・ゼミ活動に関連する報告・連絡・相談の徹底。

専門演習Ⅱ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱの特徴は、専門演習Ⅰで培った力を元に、大きな世界観の中でスポーツを考えるとところにある。あらかじめ設定した自分のテーマに対して、さまざまな角度から問題点を抽出し、自分の論理につづけてみる。一方で、授業の中で随時設定するジャーナルなテーマに、自分の設定したテーマに共通する構造がないのかを検証する。広い視野から分析・検討できる能力を醸成するのが狙いだ。方向が決まれば、それをプレゼンテーションへとつなぐ。その際の根本原則は、①キャッチのある導入、②わかりやすい構成、③新鮮な情報、④飽きさせない流れ、⑤説得力のある論理立て、そして⑥個性があつて毅然としたものの見方をすること。文章でもプレゼンテーションでも発揮できるようにする。それを次年度の卒論へとつなげていく。

【到達目標】

取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを精査していかなければならない。資料の選択や抽出に矛盾はないか。十分に話を聞いているか。出典を正確に記しているか。アンケートの項目を深く検証しているか。説得力のある発言を取り込んでいるか。具体的な事例を元にひとつずつ積み上げていく。完成度の高いプレゼンテーション、説得力のある論文を書く能力を獲得することが目標だ。高い頻度で現場や図書館に通いながら、論理の足腰を強くしてもらいたい。同時に、他の受講生のプレゼンテーションに対する鋭い批評眼も獲得しなければならない。

【授業の進め方と方法】

先行研究への関心。研究を進め、論文を書く上で欠かせないのが先行研究に対する敬意と批判精神だ。多くの先行研究の上に、取り組もうとする研究が存在の価値を認められる。取り組みの根本には、広い視野と旺盛な好奇心が求められる。その上で専門演習Ⅰと同じ場に入ってくる。そこでは積極的にリーダーシップを発揮するよう求めたい。研究の途中経過を文章、プレゼンテーション、質問や指摘で随時表現しながら、後進への手本も見せること。スポーツの世界にとどまらず幅広いジャンルに対する知見を深め、斬新なものの見方を養うことも欠かせない。

調査、情報取得、分析、研究。それぞれの強度を高めるために広い行動範囲を積極的に利用し、その成果を演習の中に結実させること。さまざまな場で、写真を撮り、声や音を録音するのを意識すること。素材はどこかで説得力のある材料に応用することができる。経験、ゆとり、見識。専門演習Ⅱでは、演習Ⅰからの大幅なステップアップが求められる。主張の軸を外さないためには、普段から世の中の出来事を受け流してしまわない姿勢が求められる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。演習Ⅰの振り返り。演習Ⅱで求められる姿勢を説く。
2	方針確認	あらかじめ決めたジャンルの検証、どの角度から見るのか。
3	素材の検証Ⅰ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
4	素材の検証Ⅱ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
5	素材の検証Ⅲ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
6	批評と提案	物事を批判的に見るための考え方に始まり、ディベートの要素・その展開の仕方を実際に披露する。
7	研究テーマの世界観①	それぞれのテーマに対して異なる論点が提示されていないか。国内の識者がどう見ているか検証する。
8	研究テーマの世界観②	同じテーマを、国外の論者はどのようにとらえているか。
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法や規約を検証する。
10	スポーツの常識②	テーマの医学・生理学的なジャンルとの関連を考える。
11	スポーツの常識③	テーマを運動学的、社会学的な側面から考える。
12	研究制作	文章でコンテを作り肉付けをする。
13	研究発表①	プレゼンテーションを制作し発表する。
14	研究発表②	プレゼンテーションを制作し発表する。
15	夏課題への工程表製作	夏の課題をどうとらえ、それをどのように研究成果として完成させるか、工程表をつくる。

秋学期

回	テーマ	内容
16	夏課題総括Ⅰ	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括Ⅱ	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。

18	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の法的観点からの検証。
19	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の経済的観点からの検証。
20	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の社会的観点からの検証。
21	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の環境的観点からの検証。
22	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の人権上の観点からの検証。
23	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の商業的観点からの検証。
24	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表＝夏に作った研究の改訂版と批評。
25	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表と批評①
26	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表と批評②
27	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表①
28	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表②
29	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表③
30	研究総括	総括と卒論へのアプローチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアの情報に敏感に。ただし「鵜呑み」であっては意味がない。他のメディアがどんな論調でいるのか。このコマーシャルに足りないところはないのか。ちょっとしたチャンスに、自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の世界観がどこからなりたっているのか、足下を探っておくことも必要だ。もう一つ大切なことは、自分の将来設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうか。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：演習内小論文/研究発表50％ 最終演習小論文50％
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
最終演習日には、小論文を課す。必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

専門演習Ⅰの学生に対する、積極的な働きができるチャンスを増やす。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートをしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

【その他の重要事項】

自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。夏休みに、夏ゼミ合宿を予定している。万難を排して参加してもらいたい。
オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運ぶよう求めたい。
演習の際には、指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。

【特記事項】

今年度は、秋学期に入ってから担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、大学を向こう一年にわたって空けることになる。代替教官を配置、引き継ぎには万全を期すが、早めの対応を心がけられたい。なお、インターネットを使つての遠隔指導も可能。

専門演習Ⅱ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・ 5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立てることを目的とする。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：

- (1) 前期の演習はスポーツマーケティングに関する最新の研究テーマや理論に関するディスカッション形式の授業である。履修者は前期の終わりに各自の研究テーマを決定し、発表することができる。
- (2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。

【授業の進め方と方法】

受講者は他の出席者との議論を通じて理解を深める。前期は事前に配布される資料を読み、議論に参加する。後期は各自のテーマのもとで新規性のある研究課題を設定し、その遂行において求められる目的や仮説を導出するとともに研究計画を立てる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	サービス、経験中心のロジック	サービスや経験などの無形財のマーケティングにおけるサービスロジックについて学ぶ。
第 3 回	スポーツビジネスとサービス中心のロジック	スポーツマーケティングにおいてサービスロジックをどのように応用できるのかについて学ぶ。
第 4 回	スポーツイベントの品質と顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 5 回	スポーツ関与	人とスポーツの関わり方の強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 6 回	観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 7 回	スポーツ観戦者からスポーツファンへ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。これらの区分および階層性について学ぶ。
第 8 回	顧客ロイヤルティと顧客エンゲージメント	スポーツにおける顧客ロイヤルティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第 9 回	スポーツビジネスとブランド価値	ブランドとは製品に追加された付加価値である。今回はスポーツにおけるブランド価値について学ぶ。
第 10 回	集団成員性とブランドコミュニティ	スポーツファンがチームというブランドを中心に集団化するブランドコミュニティについて学ぶ。
第 11 回	ソーシャルキャピタル	スポーツと「する、みる、支える」などの形で関わることで生まれる社会的な人的資本のソーシャルキャピタルについて学ぶ。
第 12 回	スポーツレガシー	スポーツイベントをとおして開催都市および主催競技の関係者の間で形成されるレガシーについて学ぶ。
第 13 回	スポーツ組織の社会的責任とマーケティング	スポーツ組織が社会に対して果たす社会的責任について学ぶ。
第 14 回	スポーツスポンサーシップ	企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。
第 15 回	前期のまとめおよび総評	(1) 各自の興味のあるテーマ、(2) それについて疑問に思ったこと、(3) その疑問に答えて明らかにしたい内容、(4) 何故その研究が必要なのかを記述し、発表する。

第 16 回 後期の演習の概説

後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。

第 17 回 過去の卒業研究の検討：第一グループのレビュー

過去の卒業研究について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 18 回 過去の卒業研究の検討：第二グループのレビュー

過去の卒業研究について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 19 回 過去の卒業研究の検討：第三グループのレビュー

過去の卒業研究について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 20 回 研究課題の選択：第一グループの発表

各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 研究目的、(3) 学術的な重要性、(4) 実践的な重要性をまとめ、発表する。

第 21 回 研究課題の選択：第二グループの発表

各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 研究目的、(3) 学術的な重要性、(4) 実践的な重要性をまとめ、発表する。

第 22 回 研究課題の選択：第三グループの発表

各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 研究目的、(3) 学術的な重要性、(4) 実践的な重要性をまとめ、発表する。

第 23 回 先行研究（一般の研究）の検討：第一グループのレビュー

一般の研究論文について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 24 回 先行研究（一般の研究）の検討：第二グループのレビュー

一般の研究論文について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 25 回 先行研究（一般の研究）の検討：第三グループのレビュー

一般の研究論文について、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。

第 26 回 研究方法の検討：第一グループの発表

(1) 研究環境、(2) 研究の種類、(3) 測定尺度、(4) 調査概要、(5) サンプリングについて発表する。

第 27 回 研究方法の検討：第二グループの発表

(1) 研究環境、(2) 研究の種類、(3) 測定尺度、(4) 調査概要、(5) サンプリングについて発表する。

第 28 回 研究方法の検討：第三グループの発表

(1) 研究環境、(2) 研究の種類、(3) 測定尺度、(4) 調査概要、(5) サンプリングについて発表する。

第 29 回 まとめ：各自の研究テーマの振り返り

後期を通して疑問に思ったことや理解が十分に進まずもう一度説明が必要な点などについて議論する。

第 30 回 まとめ：卒業論文の実施に向けて

卒業論文の目的、重要性、意義、流れについて再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は各自の研究テーマや計画を発表するための準備を、授業時間外に行ってください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

- (1) 研究テーマ、目的、重要性に関するレポート：10 点（前期）
 - (2) 研究テーマ、目的、重要性の発表：10 点（前期）
 - (3) 過去の卒業研究のレビュー：20 点（後期）
 - (4) 研究テーマ、目的、重要性の発表：20 点（後期）
 - (5) 一般の先行研究のレビュー：20 点（後期）
 - (6) 研究方法の設定：20 点（後期）
- 合計：100 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

専門演習Ⅲ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【授業の進め方と方法】

4 年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見だし、それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告、討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データ者の報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行う①	文献を検索しこれを報告する
5	関連した文献報告を行う②	文献を検索しこれを報告する
6	関連した文献報告を行う③	文献を検索しこれを報告する
7	関連した文献報告を行う④	文献を検索しこれを報告する
8	関連した文献報告を行う⑤	文献を検索しこれを報告する
9	関連した文献報告を行う⑥	文献を検索しこれを報告する
10	関連した文献報告を行う⑦	文献を検索しこれを報告する
11	論文指導を行う①	面談で論文指導を行う
12	論文指導を行う②	面談で論文指導を行う
13	論文指導を行う③	面談で論文指導を行う
14	論文指導を行う④	面談で論文指導を行う
15	報告会	中間報告会

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会
17	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
18	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
19	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導①	協同実験 順番で面接指導
20	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導②	協同実験 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導③	協同実験 順番で面接指導
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導

24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導
25	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑦	協同実験 順番で面接指導
26	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑧	協同実験 順番で面接指導
27	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑨	協同実験 順番で面接指導
28	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑩	協同実験 順番で面接指導
29	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
30	学会参加	学会へ参加し学術的雰囲気を体験する（日程未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文に仕上げるまでの課程を学ぶ

【テキスト（教科書）】

各自関連した文献を 30 論文以上検索し読む。

【参考書】

各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】

論文の完成度、出席状況

【学生の意見等からの気づき】

個人面接による指導を中心とする

【その他の重要事項】

専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

専門演習Ⅲ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

スポーツ医学、特に運動器系のスポーツ外傷・障害予防に関する実験研究、実践的な取り組みや具体的な事例に対する報告等の研究を行う。

【授業の進め方と方法】

本ゼミでは実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認
2~15	研究テーマの立案・予備実験	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。さらに予備実験を通して研究の方向性を決定する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマの決定と本実験に向けたプレゼンテーションを行う。
17~28	本実験、データ解析、プレゼンテーション資料作成	中間発表会の結果に基づき、本実験を行う。さらには論文にまとめる。
29	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を発表する。
30	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1~15 回 研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。

16~30 回 先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次, 西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法, NAP, 2004

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画書（10 %）

プレゼンテーション（デザイン発表・中間発表・卒業論文発表）（20 %）

卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

研究は一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生同士や上級生・下級生たちの協力なしには行えない。ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間とコミュニケーションをとりながら、皆で「卒業研究」に積極的に取り組んでもらいたい。

専門演習Ⅲ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。

【到達目標】

専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅱにおいて調査をおこなったテーマをさらに掘り下げ、競技団体への報告およびレコメンデーションをおこなう。また、学術的な論文を作成するために必要な知識や論理的思考能力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	専門演習Ⅱで取り組んできた課題を発展させる形で、研究の枠組み、方向性を決める
2~15	研究内容のプレゼンおよび論文指導	各自の研究内容をプレゼンし、ディスカッションをすることにより内容を精査していく

秋学期

回	テーマ	内容
16	中間報告会	研究の内容および進捗、さらには今後完成にいたるまでの課題について発表する
17~28	研究内容のプレゼンおよび論文指導	各自の研究内容をプレゼンし、ディスカッションをすることにより内容を精査していく
29	卒論発表会	研究を完成させ、口頭もしくはパネルにて発表する
30	論文提出	完成した論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究計画に沿って論文の作成を進めていく

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間発表や論文の内容および発表から総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

専門演習Ⅲ

神和住 純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表を通して練り上げていくことを目的とする

【到達目標】

ゼミの集大成として、専門演習Ⅰ・Ⅱで研究したテーマをより深く掘り下げ、卒業論文を完成させ、発表する。

【授業の進め方と方法】

卒業論文作成に伴い、例えば、研究テーマ、スポーツ（テニス）における競技力向上・スポーツ（テニス）指導者のスキルアップ・生涯スポーツと健康・地域スポーツ指導者・スポーツと健康に関する事柄、日本体育協会公認の資格取得について、スポーツコーチングに伴うビジネスについて。

各自のテーマに沿って、卒業論文作成の為の過程を、適宜指導する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	専門演習Ⅲ ガイダンス	卒業論文のしおりについての説明
2	研究テーマの選択Ⅰ	卒業論文のテーマを決める為に、専門演習ⅠⅡで発表した課題を進展させるか、新テーマを探す。
3	研究テーマの選択Ⅱ	卒業論文テーマをひとつに絞る。
4	研究テーマの決定	研究テーマを発表し提出する。
5	研究テーマの資料収集Ⅰ	テーマに関する文献の調査、図書館・ネットなどから必要に応じた、アンケート調査などを行う。
6	研究テーマの資料収集Ⅱ	テーマに関する文献の調査、図書館・ネットなどから必要に応じた、アンケート調査などを行う。
7	研究テーマの資料収集Ⅲ	テーマに関する文献の調査、図書館・ネットなどから必要に応じた、アンケート調査などを行う。
8	研究テーマの資料収集Ⅳ	テーマに関する文献の調査、図書館・ネットなどから必要に応じた、アンケート調査などを行う。
9	研究テーマの資料分析Ⅰ	文献の解読と整理を行う。
10	研究テーマの資料分析Ⅱ	文献の解読と整理を行う。
11	研究テーマの資料分析Ⅲ	文献の解読と整理を行う。
12	研究テーマの資料分析Ⅳ	文献の解読と整理を行う。
13	研究テーマのアウトラインの作成Ⅰ	中間報告が出来るように、大筋のまとめ作業をする。
14	研究テーマのアウトラインの作成Ⅱ	中間報告が出来るように大筋のまとめ作業をする。
15	研究テーマのアウトラインの作成Ⅲ	中間報告が出来るように、大筋のまとめ作業をする。

秋学期

回	テーマ	内容
16	中間報告までの内容の確認Ⅰ	中間報告内容を検討する。論文の書き方・文章など。
17	中間報告までの内容の確認Ⅱ	中間報告内容を検討する。論文の書き方・文章など。
18	中間報告	中間報告を担当教員に提出する。

19	中間報告の編集作業Ⅰ	中間報告の訂正・編集等の作業を行う。
20	中間報告の編集作業Ⅱ	担当教員のアドバイスを受ける。中間報告の訂正・編集などの作業を行う。
21	研究テーマの内容構成の検討Ⅰ	担当教員のアドバイスを受ける。中間報告を受け、内容及び構成を再検討する。
22	研究テーマの内容構成の検討Ⅱ	研究テーマの内容及び構成を再検討する。
23	研究テーマの内容構成の検討Ⅲ	研究テーマの内容及び構成を再検討する。
24	研究テーマのまとめ作業Ⅰ	最終発表が出来るように完全版を作成する。
25	研究テーマのまとめ作業Ⅱ	最終発表が出来るように完全版を作成し校正する。
26	研究テーマのまとめ作業Ⅲ	最終発表が出来るように完全版を作成し校正する。
27	卒業論文の完成	卒業論文を完成させる。
28	卒業論文発表練習	卒業発表会で研究論文が与えられた時間内で発表できるかリハーサルを行う。
29	卒業論文発表会	各グループに分かれて、教員及び学生の前で研究テーマを発表する。
30	卒業論文の提出	卒業論文を事務課に期限までに提出すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

専門演習ⅠⅡで研究したテーマを復習しておくこと。

更に、卒業論文の研究テーマについて良く考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

テニス関連書籍
ルールの友
テニスの教本
テニスの文化史

【参考書】

インターネットや図書館からのテニスに関する情報

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の評価

【学生の意見等からの気づき】

特に改善点があれば、適宜把握して、卒業論文制作の指導を行う。

専門演習Ⅲ

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する報告書を学術的な論文を作成し、発表する。

【到達目標】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める。

【授業の進め方と方法】

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、方法論をベースとし、運動科学における研究を行い論文にまとめ、発表する。オリジナリティのあるテーマを選定し、研究計画の設計、研究の実施、データ処理などを行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
2	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う①
3	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う②
4	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う③
5	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。①
6	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。②
7	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。③
8	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表①
9	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表②
10	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表③
11	卒業研究	中間発表①
12	卒業研究	中間発表②
13	卒業研究	中間発表③
14	卒業研究	中間発表④
15	卒業研究	夏期休暇の研究計画

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
17	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。①
18	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。②
19	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。③
20	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。④
21	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑤
22	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑥

23	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑦
24	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑧
25	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑨
26	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑩
27	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑪
28	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑫
29	卒業研究	卒業論文作成。 抄録作成、発表資料作成。
30	卒業研究	卒業論文発表 抄録作成、発表資料の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

特に設けない。

【成績評価の方法と基準】

論文 (70%) と発表 (30%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業研究が大学の集大成になるよう指導する。

専門演習Ⅲ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】

卒業論文の完成。

【授業の進め方と方法】

研究データの集積、分析を随時指導する。研究計画書を作成する。進捗があればゼミ内で発表する。研究計画書は最終的に抄録として完成させる。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。抄録をもとに、論文を作成する。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
春学期 開始時	卒業論文作成	研究計画を完成し実験や調査を始める。夏期休暇期間中に分析、論文執筆を行えるようにしておくこと。
秋学期 開始時	卒業論文作成	「緒言」（研究の背景などを書く論文のイントロダクション）の執筆をほぼ終えていること。
12 月初旬	卒業論文作成	卒業論文の完成・提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 研究データ解析
- ② 調査活動
- ③ 学会・研究会参加

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとり記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】

個人指導を早期から開始し、卒業研究を計画的に完成させられるように支援する。

【その他の重要事項】

原則として木下の方からゼミの講義の中で指導時間を作っていくことはせず、個別指導が中心である。

自ら研究室を訪れ、準備・学習・相談の機会を作るように。これを自主的、積極的かつ計画的に行い間断なく継続していかなければ、論文完成は極めて難しいと考えられるので注意すること。

専門演習Ⅲ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・2年・3年時に取り組んだ調査・研究をベースに卒業論文を作成し発表する。
- ・履修者全員の論文集として編集する。
- ・優れた論文は学会で発表する。

【到達目標】

卒業論文を完成させ、学内外で発表する。

【授業の進め方と方法】

①研究テーマを決定し研究計画を作成する。②研究に沿ったデータ収集や分析について指導する。研究テーマのアウトラインに沿った、資料の収集・分析の進捗状況に応じて9月中旬を目標に中間報告を受ける。11月末を目標にテーマの内容構成を行い、12月にはゼミ内で発表会を行う。1月初旬を目標に卒業論文を提出する。

テーマ例：スポーツ（サッカー）における競技力向上についての考察。
：スポーツ（サッカー）指導者のスキルアップについての考察。：日本における総合型地域スポーツクラブの抱えている問題についての考察。
：生涯スポーツと健康・地域スポーツ指導者の役割についての分析：人材ビジネスの現状と今後の展開：Jリーグの観客動員数増加戦略：セカンドキャリアに関する考察：スポーツにおける戦争と平和の関わりについての考察。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業内容についてガイダンスを行う。
2	研究テーマの選択と先行研究①	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
3	研究テーマの選択と先行研究②	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
4	研究テーマの決定	事前調査した候補の中から内容を検討し、テーマを決定する。
5	研究テーマの発表	決定したテーマを履修者全員が共有する。
6	研究テーマの資料収集①	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
7	研究テーマの資料収集②	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
8	研究テーマの資料収集③	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
9	研究テーマの資料を分析する①	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
10	研究テーマの資料を分析する②	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
11	研究テーマの資料を分析する③	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
12	研究テーマのアウトラインの作成①	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
13	研究テーマのアウトラインの作成②	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
14	研究テーマの中間報告①	テーマの中間報告を行う。

- 15 研究テーマの中間報告② テーマの中間報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
16	卒論完成に向けて	秋学期で行う内容の確認
17	研究テーマの内容を検討し、構成する①	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
18	研究テーマの内容を検討し、構成する②	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
19	研究テーマの内容を検討し、構成する③	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
20	研究テーマの内容を検討し、構成する④	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
21	研究テーマのまとめと校正①	最終発表が出来るように完成版作成する。
22	研究テーマのまとめと校正②	最終発表が出来るように完成版作成する。
23	研究テーマのまとめと校正③	最終発表が出来るように完成版作成する。
24	研究テーマのまとめと校正④	最終発表が出来るように完成版を作成する。(抄録の作成)
25	研究テーマのまとめと校正⑤	最終発表が出来るように完成版を作成する。(抄録の作成)
26	卒業論文発表会（ゼミ内）①	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
27	卒業論文発表会（ゼミ内）②	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
28	卒業論文 最終修正①	発表会。専任教員・履修生の前で発表する。(ゼミ内)
29	卒業論文 最終修正②	発表会。専任教員・履修生の前で発表する。(ゼミ内)
30	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館の活用
データの分析
調査活動（アンケート調査など）
インターン

【テキスト（教科書）】

定めない

【参考書】

定めない

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

P C

専門演習Ⅲ

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする

【到達目標】

- ・卒業論文を完成させる。
- ・卒業論文の内容を発表する。

【授業の進め方と方法】

運動や身体活動と、健康の保持増進や体力の向上との関係について明らかにすること、そして、その結果を個人または集団の健康・体力づくりにおいて、有効に活かすための方法論を学習する。作成した研究計画に従って、研究を実施し、データの解析をして、論文としてまとめる。また、研究成果を効果的に発表出来る能力を養う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1～15	卒業論文作成	各学生の進度に合わせて個別に指導

秋学期

回	テーマ	内容
16～26	卒業論文作成	各学生の進度に合わせて個別に指導
27～28	プレゼンテーション	発表会リハーサル
29～30	プレゼンテーション	発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が立てた計画通りに、確実に作業を進める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業研究への取り組み、完成した論文およびその発表を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

計画通り作業を進められるように指導する。

専門演習Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学・スポーツ教育学領域における卒業論文の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】

研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめ力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの紹介①	指導教員が「体育」の「目標論」に関する研究論文を紹介する。
2	研究テーマの紹介②	指導教員が「体育」の「カリキュラム論」に関する研究論文を紹介する。
3	研究テーマの紹介③	指導教員が「体育」の「教材論」に関する研究論文を紹介する。
4	研究テーマの紹介④	指導教員が「体育」の「学習環境論」に関する研究論文を紹介する。
5	研究テーマの紹介⑤	指導教員が「体育」の「学習指導論」に関する研究論文を紹介する。
6	研究テーマの紹介⑥	指導教員が「体育」の「学習評価論」に関する研究論文を紹介する。
7	研究テーマの紹介⑦	指導教員が「体育」の「国際比較論」に関する研究論文を紹介する。
8	研究テーマの紹介⑧	指導教員が「運動部活動論」に関する研究論文を紹介する。
9	研究テーマの紹介⑨	指導教員が「体育」の「教師養成論」に関する研究論文を紹介する。
10	研究テーマの紹介⑩	指導教員が「体育」の「教師行動論」に関する研究論文を紹介する。
11	研究テーマの設定と方法の選択①	「目標論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
12	研究テーマの設定と方法の選択②	「カリキュラム論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
13	研究テーマの設定と方法の選択③	「教材論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
14	研究テーマの設定と方法の選択④	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
15	研究テーマの設定と方法の選択⑤	「学習指導論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。

16	研究テーマの設定と方法の選択⑥	「学習評価論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
17	研究テーマの設定と方法の選択⑦	「国際比較論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
18	研究テーマの設定と方法の選択⑧	「運動部活動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
19	研究テーマの設定と方法の選択⑨	「教師行動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
20	研究テーマの設定と方法の選択⑩	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
21	調査方法の指導①	質問紙調査法についてレクチャーする。
22	調査方法の指導②	観察法についてレクチャーする。
23	統計分析法の指導①	単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等についてレクチャーする。
24	統計分析法の指導②	T 検定、分散分析、多重比較等についてレクチャーする。
25	統計分析法の指導③	調査項目・内容の設定の仕方、因子分析等についてレクチャーする。
26	質的分析法の指導①	内容分析・カテゴリ分析等についてレクチャーする。
27	質的分析法の指導②	テキスト分析、記録法等についてレクチャーする。
28	質的分析法の指導③	インタビュー法等についてレクチャーする。
29	考察の指導	結果に対する考察の視点等についてレクチャーする。
30	まとめ方とプレゼンテーションの指導	まとめ方とプレゼンテーションの行い方についてレクチャーする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文内容（80%）、卒業論文発表（20%）

【学生の意見等からの気づき】

研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつも、学生が迷路に陥らないように指導していく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、記録用媒体（USB 等）

【その他の重要事項】

上記以外、特に無し。

専門演習Ⅲ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から新たな課題を抽出し、その課題の解明を通して卒業論文を完成する。

【到達目標】

1. 学術論文を作成可能な能力を養い、卒業論文を完成する。
2. 学内で実施する卒業研究発表会において発表する。
3. 可能であれば学外の学会や研究会において卒業論文の内容を発表する。

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から得られた新たな課題の解明を通して、卒業論文の完成に向けた作業に取り組む。その進捗状況に対する個別指導やグループディスカッションを通して、論文の完成度を高めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	進捗状況および今後の方向性の確認
2	課題の抽出①	卒業論文作成に向けた今後の課題の抽出
3	課題の抽出②	卒業論文作成に向けた今後の課題の抽出
4	研究の意義を探る①	期待される結果、研究の意義を考察する
5	研究の意義を探る②	期待される結果、研究の意義を考察する
6	研究の意義を探る③	期待される結果、研究の意義を考察する
7	研究計画の作成①	フローチャートの作成
8	研究計画の作成②	フローチャートの修正
9	研究計画の作成③	卒業論文作成に向けた研究計画の作成
10	研究計画の作成④	卒業論文作成に向けた研究計画の作成
11	本調査の実施①	本調査への取り組み、および適宜その進捗状況に関する報告
12	本調査の実施②	本調査への取り組み、および適宜その進捗状況に関する報告
13	本調査の実施③	本調査への取り組み、および適宜その進捗状況に関する報告
14	本調査の実施④	本調査への取り組み、および適宜その進捗状況に関する報告
15	本調査の実施⑤	本調査への取り組み、および適宜その進捗状況に関する報告
16	データの収集①	データを収集する
17	データの収集②	データを収集する
18	考察①	結果に基づき考察する
19	考察②	結果に基づき考察する
20	考察③	結果に基づき考察する
21	図表の作成①	図表を作成する
22	図表の作成②	図表を作成する
23	論文の作成①	緒言、目的、結果、考察、文献、まとめの作業
24	論文の作成②	緒言、目的、結果、考察、文献、まとめの作業
25	論文の作成③	緒言、目的、結果、考察、文献、まとめの作業
26	発表①	発表を通して課題を抽出し、論文の精度を高める
27	発表②	発表を通して課題を抽出し、論文の精度を高める

28	発表③	発表を通して課題を抽出し、論文の精度を高める
29	論文の完成：①	論文を完成する
30	論文の完成：②	論文を完成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016 年
2. 必要に応じて資料等を配布する。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に案内する。また、必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

次の本を持っていることを前提として授業を進めます。
松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014 年。

【成績評価の方法と基準】

原則として全授業への出席を前提に、次の基準に従い総合評価する。

1. 卒業論文の内容：50 %。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：50 %。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度から新規開講のため特記事項なし

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明、個別指導順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

専門演習Ⅲ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各個人の研究テーマを決定し、資料収集の整理、分析を行う。

【到達目標】

3 年次の専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

3 年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間計画について
2～6	卒論テーマの決定	専門演習ⅠⅡの内容を踏まえ卒業論文のテーマを決める
7～15	資料収集	テーマに合った資料の収集と分析

秋学期

回	テーマ	内容
16～17	中間報告	進行状況を報告する
18～23	卒業論文の構成	内容を検討し構成する
24～26	まとめ	卒業論文を完成させる
27～29	最終確認	卒業論文の内容、構成を再度確認する
30	卒業論文提出	卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文のテーマについての資料収集と分析を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

卒業論文提出を最低条件とする

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けて計画性を持って指導していきたい。

専門演習Ⅲ

林 容市

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起して、先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし、これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を行い、卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】

1. 研究テーマ・課題を設定でき、適切な研究計画を立案できる。
2. 妥当な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、グループでミニ研究を行い、論文作成に向けた準備を行います。その後、研究課題・研究仮説の設定、実験・測定・調査、統計解析方法を検討して研究計画書を作成し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ、内容のプレゼンテーションを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。
第 15 回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第 16 回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第 17 回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に係る機器や方法を確認し、実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第 18 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し、全体で論議・推敲する。
第 19 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し、全体で論議する。
第 20 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し、発表する。
第 21 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 22 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 23 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し、意見交換を行う。
第 24 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し、全体で推敲・意見交換を行う。
第 25 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ、発表する。

第 26 回	プレゼンテーション（1）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（1）。
第 27 回	プレゼンテーション（2）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（2）。
第 28 回	口頭発表練習（1）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い、内容などについて討議する（1）。
第 29 回	口頭発表練習（2）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い、発表内容の改善に向けて意見交換する（2）。
第 30 回	統括・まとめ	卒業論文作成の過程について、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、個人研究、グループ研究共に、各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜次次 訳)、身体活動科学における研究方法、ナッパ、
出村慎一、山下秋二、佐藤進、健康・スポーツ科学のための調査研究法、杏林書院、
浦上昌則、脇田貴文、心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方、東京図書、
田中敏、山際 勇一郎、ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで、教育出版、

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容： 70%、2) 発表・質疑応答の内容 20%、3) 発表への質問状況・論議への参加状況： 10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には、授業の到達目標に全員が達していたが、その過程においては大きな個人差が見受けられた。授業中の活動や個人々人とのやり取りにおいても、習得したスキルや課題に取り組む時期などに差異がみられたため、特に今年度は授業外の卒業論文執筆に係る授業外での学習・課題について改善を試みる予定である。

【その他の重要事項】

・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

専門演習Ⅲ

日浦 幹夫

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする

【到達目標】

運動生理学、スポーツ医学分野の研究手法を模倣して各自の研究テーマを定め、卒業研究を遂行して論文を作成する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ医科学の最先端の理論を実際の運動測定や体力評価に応用するための方法論を学習する。運動中の呼吸・循環器系の指標に加え、筋出力、脳血流などが扱うテーマとなる。講義で習得した基礎理論に加え国際的学術誌が取り扱うテーマについても積極的に学習する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	卒業研究のテーマの選定①	専門演習Ⅰ,Ⅱで学習した文献を参照して実験・研究手法を検討する。
2	卒業研究のテーマの選定②	専門演習Ⅰ,Ⅱで学習した文献を参照して実験手法を検討する。
3	卒業研究のテーマの選定③	専門演習Ⅰ,Ⅱで学習した文献を参照して実験手法を検討する。
4	卒業研究のテーマの選定④	専門演習Ⅰ,Ⅱで学習した文献を参照して実験手法を検討する。
5	構想発表会①	各自の研究テーマを発表し、具体的な計画・スケジュールを確定する。
6	構想発表会②	各自の研究テーマを発表し、具体的な計画・スケジュールを確定する。
7	テーマに沿った研究遂行①	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
8	テーマに沿った研究遂行②	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
9	テーマに沿った研究遂行③	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
10	テーマに沿った研究遂行④	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
11	テーマに沿った研究遂行⑤	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
12	テーマに沿った研究遂行⑥	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
13	テーマに沿った研究遂行⑦	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
14	テーマに沿った研究遂行⑧	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。
15	テーマに沿った研究遂行⑨	各自の研究遂行に必要なデータ計測、資料および文献収集を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
16	中間発表会①	各自が遂行中の研究の途中経過を報告する。
17	中間発表会②	各自が遂行中の研究の途中経過を報告する。
18	テーマに沿った研究遂行と論文作成①	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。

19	テーマに沿った研究遂行と論文作成②	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
20	テーマに沿った研究遂行と論文作成③	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
21	テーマに沿った研究遂行と論文作成④	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
22	テーマに沿った研究遂行と論文作成⑤	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
23	テーマに沿った研究遂行と論文作成⑥	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
24	テーマに沿った研究遂行と論文作成⑦	各自が研究計画を進め、得られた結果およびその考察進め、論文作成の準備を進める。
25	最終発表会	これまでに行った研究結果を発表し、操業論文作成に必要な補足事項を検討する。
26	最終発表会	これまでに行った研究結果を発表し、操業論文作成に必要な補足事項を検討する。
27	卒業論文作成①	研究結果から論文を作成し、教員を交えて適宜推敲を重ねる。
28	卒業論文作成②	研究結果から論文を作成し、教員を交えて適宜推敲を重ねる。
29	卒業論文作成③	研究結果から論文を作成し、教員を交えて適宜推敲を重ねる。
30	卒業論文作成④	研究結果から論文を作成し、教員を交えて適宜推敲を重ねる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集と計測実験および研究資料の作成。

【テキスト（教科書）】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【参考書】

特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各自の研究テーマについて、時間をかけて検討する。

専門演習Ⅲ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて、改めて研究デザインを検討、作成し、必要となる測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。

【到達目標】

- ・研究デザインの検討・作成
- ・測定・調査の実施
- ・先行研究の検討
- ・論文の緒言、方法の作成
- ・測定・調査の分析
- ・結果、考察、結論の作成

【授業の進め方と方法】

個別対応で到達目標をクリアしていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文の作成に向け て1	研究デザインの検討1
2	卒業論文の作成に向け て2	研究デザインの検討2
3	卒業論文の作成に向け て3	研究デザインの検討3
4	卒業論文の作成に向け て4	研究デザインの検討4
5	デザインの検討を受け て1	研究デザインの作成1
6	デザインの検討を受け て2	研究デザインの作成2
7	デザインの検討を受け て3	研究デザインの作成3
8	デザインの検討を受け て4	研究デザインの作成4
9	作成したデザインをも とに1	測定・調査の実施1
10	作成したデザインをも とに2	測定・調査の実施2
11	作成したデザインをも とに3	測定・調査の実施3
12	作成したデザインをも とに4	測定・調査の実施4
13	先行研究の検討1	先行研究にもとづいて緒言を作成 する1
14	先行研究の検討2	先行研究にもとづいて緒言を作成 する2
15	先行研究の検討3	先行研究にもとづいて緒言を作成 する3
16	測定・調査の方法を記 述1	測定・調査の方法を記述1
17	測定・調査の方法を記 述2	測定・調査の方法を記述2
18	測定・調査の方法を記 述3	測定・調査の方法を記述3
19	測定・調査の分析1	測定・調査したデータを分析する 1
20	測定・調査の分析2	測定・調査したデータを分析する 2
21	測定・調査の分析3	測定・調査したデータを分析する 3
22	測定・調査の分析4	測定・調査したデータを分析する 4

23	結果・考察1	分析結果を記述し、考察する1
24	結果・考察2	分析結果を記述し、考察する2
25	結果・考察3	分析結果を記述し、考察する3
26	結果・考察4	分析結果を記述し、考察する4
27	結論と全体の構成1	結論を記述して、論文全体の構成 を再度検討する1
28	結論と全体の構成2	結論を記述して、論文全体の構成 を再度検討する2
29	結論と全体の構成3	結論を記述して、論文全体の構成 を再度検討する3
30	結論と全体の構成4	結論を記述して、論文全体の構成 を再度検討する4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別対応になるので、対応の前後には各自課題を検討して臨む

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文で評価する

【学生の意見等からの気づき】

できる限りオフィスアワーを増やして個々との対応を密にする。

【学生が準備すべき機器他】

P C

専門演習Ⅲ

三ッ谷 洋子

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次、3 年次の専門演習で取り組んできた各自の「スポーツによるまちづくり計画」を学術的な論文としてまとめる。

【到達目標】

「スポーツによるまちづくり計画」を学術的な論文として完成させる。

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅰで取り組んだ研究テーマをベースに、専門演習Ⅱで実施した「まちづくりにつながるスポーツイベント」の体験等から得た知見を重ね、「スポーツによるまちづくり計画」を論文としてまとめる。グループディスカッションと個別指導を並行して行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1～4	研究テーマの再確認と概要作成	研究テーマを学術的な視点から再確認し、概要（原案）を作成する。
5～10	関連文献の調査・解読・整理	できるだけ多くの文献や資料に当たり、読み込んでポイントを整理する。
11～15	論文の最終概要作成	論文の最終概要をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
16～30	論文の執筆	論文をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が自主的に卒業研究として取り組む。

【テキスト（教科書）】

要望があれば随時、紹介する。

【参考書】

要望があれば随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究態度、取り組みの姿勢、論文の内容。

成績評価基準は卒論執筆の対応 40 %、卒論 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

「論文」は、一般的な文章とは異なっていることを事前に理解して取り組まねばならない。参考文献は書籍のような紙ベースが基本である。インターネットの検索機能が容易になり、全く根拠のない情報や噂、虚偽のデータが溢れている。他大学の学生論文も読むことができるが、これらを参考にはしてはいけない。少しでも疑問に思った場合は、指導教員に相談することが重要である。

論文作成は、その過程で学生同士のディスカッションを重ね、自分の考えを一つの理論として構築しまとめていく。最終年次のため就職活動に比重がかかることも予想されるので、「卒論をまとめる」という強い覚悟で取り組む必要がある。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本 浩

カテゴリー：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4年次／4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次を対象とした授業。メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションいずれかの視点をひとつの足がかりにテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱにおいて掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。

自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきたテーマ、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】

研究テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、実際に試すという能動的な対応を加えて、より深い成果に結びつける。論文は、最低目標 20000 字。そこから抄録を用意する。卒論提出のあと、プレゼンテーションの場が設けられる。

【授業の進め方と方法】

集中講義の形式で、随時指導を基本原則とする。追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもういちど見渡すこと。先行研究や過去の論文をたぐることがまずは重要。しかも自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れない。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。

論文執筆に欠かせない「工程表」の作成を早めに終えること。流れとしては、①テーマの設定確認、②素材の取捨選択、③方法の選択、④工程表の作成・確認、⑤執筆、⑥検証とつながる。④から⑥までは、途中でくり返しチェックする。結論は、あらゆる方向から見て、この到達点しかないという所まで究めることだ。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	3年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出（必須）。
4	調査・研究①	実際の調査、研究、文献購読に入る。
5	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究③	調査、研究、文献購読を継続する。工程表チェック（必須）。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象のポイントをチェックし手を加える。
14	方向検証①	中間のとりまとめをし、大きなくりで全体像を検証する。
15	方向検証②と夏季休暇中の計画	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。

秋学期

回	テーマ	内容
16	中間報告④	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を継続する。
18	継続研究④	研究を継続する。
19	継続研究⑤	研究を継続する。
20	継続研究⑥	研究を継続する。
21	継続研究⑦	研究を継続する。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。

24

最終検証③

結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。

25

発表①

研究発表と質疑応答（3人）。

26

発表②

研究発表と質疑応答（3人）。

27

発表③

研究発表と質疑応答（3人）。

28

発表④

研究発表と質疑応答（3人）。

29

修正発表

既定の発表で問題点の掘り起こしや指摘を受けた場合、修正発表をする。

30

研究総括

講評、最終チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点をチェックしながら進めること。

【成績評価の方法と基準】

主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にパワーポイントなどを使ってプレゼンテーションをする。自分なりの哲学があつて、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼した上で論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうか。一方的であったり、思い込みで資料を強引にあわせるような論法に陥らないこと。研究を待つまでもなく誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないこと。

評価配分：卒業論文 70 % プレゼンテーション作成 15 % 工程表 15%

【学生の意見等からの気づき】

「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組み。ここがクリアできれば、あとは自分の関心とこれまでの積み重ねで、それなりの推力を発揮できる。

後手後手になりがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意することで、エンジンの回転数を準備よく上げていきたい。一人一人のテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

研究室で、随時スクリーンを使つての講義が設定できる。必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くこと。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告すること。

【その他の重要事項】

③引用に対しては、必ず出典や URL を残しておくこと。⑥写真や材料をことあるごとに集めておくこと。⑦人の声を聞いたなら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておくこと。

そうした材料が、論文の執筆で大きな助けになることが少なくない。

専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。

とかく、論文制作への気持の集中が遅れがちになる。就活など、別の活動に気持が傾くからだ。論文のテーマを、自分の将来設計と連携させることが、論文への深いところでの接点を形成してくれることがある。テーマ設定には、熟考を求めたい。

執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官、ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。

就活に追われて、研究に滞りが生じないよう、工程表を間断なくチェックすること。

【特記事項】

今年度は、秋学期に入ってから担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、大学を向こう一年にわたって空けることになる。代替教官を配置、引き継ぎには万全を期すが、早めの対応を心がけられたい。なお、インターネットを使つての遠隔指導も可能。

保健体育科教育法Ⅰ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・ 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中等教育における保健体育科の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を学び、中学校・高等学校の体育授業がどのようなことを踏まえてつくられているのか理解する。

【到達目標】

学生が教育実習を経験するため、および将来の体育教師として務めるための知識や能力、態度を身につける。また、保健体育科学学習指導計画の作成と展開によって、「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、出席等についての説明
2	体育科教育法について	体育科教育の必要性
3	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
4	学習指導要領の変遷①	法的根拠（憲法、教育基本法、学校教育法・施行規則等）
5	学習指導要領の変遷②	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領①	中学校・高等学校における教科目標及びポイント、違い
7	学習指導要領②	中学校における体育（体育分野）目標とポイント
8	学習指導要領③	高等学校における体育（科目体育）目標とポイント
9	学習指導要領④	領域及び内容の取扱い、授業時数
10	体育授業づくり①	学習形態の考え方と具体的な展開方法
11	体育授業づくり②	学習過程の考え方と効果的な方法
12	体育授業づくり③	学習環境の考え方と具体的な工夫
13	体育授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
14	学習指導計画	年間・単元・単元時間時間計画の作成方法
15	学習指導案作成方法（体育）	作成にあたっての留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること

以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健体育科教育法』（大修館書店）
- ・『新版体育科教育学入門』（大修館書店）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【中学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【高等学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・試験（30%）、小レポート・小テスト（30%）、学習指導案（30%）、授業で求める発言・発表（10%）を総合的に判断して評価を行う
- ・全出席は当然であることを心得ること

【学生の意見等からの気づき】

試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポート作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、若干の変更があり得る

保健体育科教育法Ⅰ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・ 2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中等教育における保健体育科の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を学び、中学校・高等学校の体育授業がどのようなことを踏まえてつくられているのか理解する。

【到達目標】

学生が教育実習を経験するため、および将来の体育教師として務めるための知識や能力、態度を身につける。また、保健体育科学学習指導計画の作成と展開によって、「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、出席等についての説明
2	体育科教育法について	体育科教育の必要性
3	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
4	学習指導要領の変遷①	法的根拠（憲法、教育基本法、学校教育法・施行規則等）
5	学習指導要領の変遷②	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領①	中学校・高等学校における教科目標及びポイント、違い
7	学習指導要領②	中学校における体育（体育分野）目標とポイント
8	学習指導要領③	高等学校における体育（科目体育）目標とポイント
9	学習指導要領④	領域及び内容の取扱い、授業時数
10	体育授業づくり①	学習形態の考え方と具体的な展開方法
11	体育授業づくり②	学習過程の考え方と効果的な方法
12	体育授業づくり③	学習環境の考え方と具体的な工夫
13	体育授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
14	学習指導計画	年間・単元・単元時間時間計画の作成方法
15	学習指導案作成方法（体育）	作成にあたっての留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・学習指導要領の各領域について熟読すること

以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健体育科教育法』（大修館書店）
- ・『新版体育科教育学入門』（大修館書店）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【中学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【高等学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・試験（30%）、小レポート・小テスト（30%）、学習指導案（30%）、授業で求める発言・発表（10%）を総合的に判断して評価を行う
- ・全出席は当然であることを心得ること

【学生の意見等からの気づき】

試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポート作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、若干の変更があり得る

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・ 3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中等教育における保健体育科の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、授業論や指導論を中心とした授業研究及び授業分析、教材を活かした授業案について学び、保健（分野）学習指導計画の作成と展開によって教育的実践力の資質を養う。

【到達目標】

中学校及び高等学校における保健科教育としての独自の役割や目的・目標を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。また、「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などについて講述する。

【授業の進め方と方法】

授業論や指導論など授業づくりに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明
2	保健科教育法について	保健科教育の必要性
3	保健科教育の概念	教育課程における位置づけ、歴史
4	学習指導要領の要点 1	中学校（保健分野）目標
5	学習指導要領の要点 2	高等学校（科目保健）目標
6	授業づくり①	学習（授業）形態
7	授業づくり②	学習過程
8	授業づくり③	学習環境
9	授業づくり④	学習評価・評価規準
10	授業づくり⑤	保健科学習指導の課題
11	指導計画	年間・単元・単元時間
12	第Ⅰ単元 現代社会と健康	各単元のねらいと留意事項
13	第Ⅱ単元 生涯を通じる健康	各単元のねらいと留意事項
14	第Ⅲ単元 社会生活と健康	各単元のねらいと留意事項
15	学習指導案作成方法（保健）	作成にあたっての留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる情報等について日々収集すること

【テキスト（教科書）】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』学研
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』大修館書店

【参考書】

・『保健科教育の基礎』（教育出版）
・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

・試験（30％）、小レポート・小テスト（30％）、学習指導案（30％）、授業で求める発言・発表（10％）を総合的に判断して評価を行う
・全出席は当然であることを心得ること

【学生の意見等からの気づき】

試験のみならず、小レポート・小テスト、学習指導案作成にも積極的に取り組んでほしい

【その他の重要事項】

授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

保健体育科教育法Ⅱ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・ 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中等教育における保健体育科の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、授業論や指導論を中心とした授業研究及び授業分析、教材を活かした授業案について学び、保健（分野）学習指導計画の作成と展開によって教育的実践力の資質を養う。

【到達目標】

中学校及び高等学校における保健科教育としての独自の役割や目的・目標を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。また、「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などについて講述する。

【授業の進め方と方法】

授業論や指導論など授業づくりに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明
2	保健科教育法について	保健科教育の必要性
3	保健科教育の概念	教育課程における位置づけ、歴史
4	学習指導要領の要点 1	中学校（保健分野）目標
5	学習指導要領の要点 2	高等学校（科目保健）目標
6	授業づくり①	学習（授業）形態
7	授業づくり②	学習過程
8	授業づくり③	学習環境
9	授業づくり④	学習評価・評価規準
10	授業づくり⑤	保健科学習指導の課題
11	指導計画	年間・単元・単元時間
12	第Ⅰ単元 現代社会と健康	各単元のねらいと留意事項
13	第Ⅱ単元 生涯を通じる健康	各単元のねらいと留意事項
14	第Ⅲ単元 社会生活と健康	各単元のねらいと留意事項
15	学習指導案作成方法（保健）	作成にあたっての留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる情報等について日々収集すること

【テキスト（教科書）】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』学研
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』大修館書店

【参考書】

・『保健科教育の基礎』（教育出版）
・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

・試験（30％）、小レポート・小テスト（30％）、学習指導案（30％）、授業で求める発言・発表（10％）を総合的に判断して評価を行う
・全出席は当然であることを心得ること

【学生の意見等からの気づき】

試験のみならず、小レポート・小テスト、学習指導案作成にも積極的に取り組んでほしい

【その他の重要事項】

授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

保健体育科教育法Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校における体育科教育について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】

学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとに指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業① 「球技」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業② 「体づくり運動Ⅰ」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③ 「体づくり運動Ⅱ」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④ 「陸上競技」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤ 「武道Ⅰ」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥ 「武道Ⅱ」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦ 「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧ 「体育理論Ⅰ」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業⑨ 「体育理論Ⅱ」	グループ⑨による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
14	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
15	まとめ	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模擬授業を実施したグループは、実施後に授業評価、授業記録等による振り返りを行うこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）

中学保健体育（学研）

最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

保健体育科教育法（大修館書店）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）

保健体育科教育法（アイオーエム）

内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

体育の教材を創る（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60％）、プレゼンテーション（20％）、レポート点（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる講義を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

保健体育科教育法Ⅳ

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

保健体育科の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解した上で、実際に保健（分野）学習指導計画の作成と授業展開を自分自身で行うことで教育的実践力を養う。

【授業の進め方と方法】

保健体育科教育法Ⅱを発展させた内容を具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を行い、それらを学生同士互いに評価していく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明
2	学習指導案作成方法	各担当分野の班編成 学習指導案立案手順
3	学習指導案作成①	各班における担当分野の 学習指導案作成
4	学習指導案作成②	各班における担当分野の 学習指導案作成、 教壇指導練習
5	模擬授業及び省察①	第Ⅰ単元 現代社会と健康 －健康の考え方・生活習慣病－
6	模擬授業及び省察②	第Ⅰ単元 現代社会と健康 －食事・運動・休養－
7	模擬授業及び省察③	第Ⅰ単元 現代社会と健康 －喫煙、飲酒、薬物乱用－
8	小まとめ①	第Ⅰ単元の模擬授業における反省
9	模擬授業及び省察④	第Ⅱ単元 生涯に通じる健康 －思春期、性への関心・性行動－
10	模擬授業及び省察⑤	第Ⅱ単元 生涯に通じる健康 －妊娠・出産、避妊法の選択と 人工妊娠中絶、結婚生活－
11	小まとめ②	第Ⅱ単元の模擬授業における反省
12	模擬授業及び省察⑥	第Ⅲ単元 社会生活と健康 －大気汚染、水質汚濁・土壌汚染－
13	模擬授業及び省察⑦	第Ⅲ単元 社会生活と健康 －取り組み、ごみ処理・上下水道、 食品安全－
14	小まとめ③	第Ⅲ単元の模擬授業における反省
15	まとめ	模擬授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書（保健部分）を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校教科書『新中学保健体育』学研
- ・高等学校教科書『最新高等保健体育』大修館書店

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び模擬授業、省察後の学習指導案の再構成内容、模擬授業者へのコメント、他学生の模擬授業を受けた評価等を成績評価とする
- ・全出席は当然であることを心得ること

【学生の意見等からの気づき】

- ・模擬授業展開は、どこがポイントになるのか明確にして進めること
- ・模擬授業を受ける学生は、教科書、ノートを用意するなど
授業に望む準備を十分に行ってから授業に参加すること

【その他の重要事項】

授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

教職実践演習

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：4 年次／2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校における教職を担うために相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化③子ども理解及び学級・学校の実際の理解④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告の発表会などにより構成される。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・期末課題作成に関する説明 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	次年度教育実習予定者との交流①	教育実習への準備、学習指導案作成方法、授業展開の進め方など 3 年生からの質問に対する応答
3	次年度教育実習予定者との交流②	教育実習への準備、学習指導案作成方法、授業展開の進め方など 3 年生からの質問に対する応答
4	ディスカッション（起案）	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定をおこない、今日の実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門性の高度化について考える
5	ディスカッション（準備）①	グループディスカッションに向けた準備作業
6	ディスカッション（準備）②	グループディスカッションに向けた準備作業
7	ディスカッション①	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」「教科の指導力」
8	ディスカッション②	テーマ：「子どもに対する責任」
9	ディスカッション③	テーマ：「生徒指導・生徒理解」「学級経営」
10	ディスカッション④	テーマ：「社会的態度の育成」
11	ディスカッション⑤	テーマ：「職務内容」
12	ディスカッション⑥	テーマ：「教師自身の対人関係能力」
13	実習授業の振り返り①	次年度教育実習予定者に向けての研究授業（体育）
14	実習授業の振り返り②	次年度教育実習予定者に向けての研究授業（保健）
15	まとめ	ディスカッションの振り返り、課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
- ・次年度教育実習予定者のクラスに数回参加して、後輩の支援・指導を行う
- ・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習（事前指導）」になっている

その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」

「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・ディスカッション起案と内容、役割の遂行、討論の参加状況、レポート提出を

総合的に勘案して評価を行う

- ・実習科目のため、評価にあたっては、全出席は当然のこと
- ・授業への積極的参加、グループでの課題の取り組み、課題提出などが

厳しく問われ、最終的評価については、必要に応じて個別面接を実施する

【学生の意見等からの気づき】

4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して、改めて、将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

教職実践演習

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校における教職を担うために相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化③子ども理解及び学級・学校の実際の理解④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告の発表会などにより構成される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・期末課題作成に関する説明 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	次年度教育実習予定者との交流①	教育実習への準備、学習指導案作成方法、授業展開の進め方など 3 年生からの質問に対する応答
3	次年度教育実習予定者との交流②	教育実習への準備、学習指導案作成方法、授業展開の進め方など 3 年生からの質問に対する応答
4	ディスカッション（起案）	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定をおこない、今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門性の高度化について考える
5	ディスカッション（準備）①	グループディスカッションに向けた準備作業
6	ディスカッション（準備）②	グループディスカッションに向けた準備作業
7	ディスカッション①	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」「教科の指導力」
8	ディスカッション②	テーマ：「子どもに対する責任」
9	ディスカッション③	テーマ：「生徒指導・生徒理解」「学級経営」
10	ディスカッション④	テーマ：「社会的態度の育成」
11	ディスカッション⑤	テーマ：「職務内容」
12	ディスカッション⑥	テーマ：「教師自身の対人関係能力」
13	実習授業の振り返り①	次年度教育実習予定者に向けての研究授業（体育）
14	実習授業の振り返り②	次年度教育実習予定者に向けての研究授業（保健）
15	まとめ	ディスカッションの振り返り、課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・次年度教育実習予定者のクラスに数回参加して、後輩の支援・指導を行う
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習（事前指導）」になっている

その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」

「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容、役割の遂行、討論の参加状況、レポート提出を

総合的に勘案して評価を行う

- ・実習科目のため、評価にあたっては、全出席は当然のこと
- ・授業への積極的参加、グループでの課題の取り組み、課題提出などが

厳しく問われ、最終的評価については、必要に応じて個別面接を実施する

【学生の意見等からの気づき】

4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して、改めて、将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

教育実習（事前指導）

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、講評を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備1	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備2	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健1単元（食事、運動・休養）	担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健1単元（喫煙、飲酒、薬物乱用）	担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健2単元（結婚、妊娠・出産、避妊法）	担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健3単元（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業の反省・課題	模擬授業を撮影したビデオを通してディスカッションを行い、良い点、改善点を分かち合う
15	まとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる
 - ×の評価を受けると、次年度の実習が行えない
- ・実習教科であるため、評価にあたっては、全出席は当然のこと
- ・授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われる

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供します

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

教育実習（事前指導）

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、講評を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備1	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備2	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健1単元（食事、運動・休養）	担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健1単元（喫煙、飲酒、薬物乱用）	担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健2単元（結婚、妊娠・出産、避妊法）	担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健3単元（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業の反省・課題	模擬授業を撮影したビデオを通してディスカッションを行い、良い点、改善点を分かち合う
15	まとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書 『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる
 - ×の評価を受けると、次年度の実習が行えない
- ・実習教科であるため、評価にあたっては、全出席は当然のこと
- ・授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われる

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供します

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

教育実習（高）

林 園子

カテゴリ：

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 3 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育現場に学ぶ

【到達目標】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとなるものである。教育現場・高等学校における教師の多様な教育実践・実務を実際に体験することを通して、「教育」の重要性、困難性、人間性等と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

【授業の進め方と方法】

①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）

②高等学校における現場実習

③実習後の反省と総括

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

実習校の指導教員による採点を主とし、実習日誌、実習後にまとめる実習レポート、事後指導等を含めた総合評価とする。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は習得できない。

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断欠席はしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

教育実習（中・高）

林 園子

カテゴリ：

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 5 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育現場に学ぶ

【到達目標】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとなるものである。教育現場である中学校及び高等学校における教師の多様な教育実践・実務を実際に体験することを通して、「教育」の重要性、困難性、人間性等と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

【授業の進め方と方法】

①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）

②中学校及び高等学校における現場実習

③実習後の反省と総括

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（3～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

実習校の指導教員による採点を主とし、実習日誌、実習後にまとめる実習レポート、事後指導等を含めた総合評価とする。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は習得できない。

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断欠席はしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【2017 年度なし】専門演習Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。
4. データを収集し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【授業の進め方と方法】

30 週に渡り、授業計画に沿って卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をととして高められる能力について学ぶ。
第 2 回	緒言：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 3 回	緒言：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 4 回	緒言：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 5 回	卒業研究のテーマ発表	研究の背景、問題の所在、研究の目的、研究の重要性を記述し、途中経過を報告する。
第 6 回	緒言：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 7 回	緒言：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 8 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第 9 回	方法：質問項目（基本属性）	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第 10 回	方法：質問項目（心理的要因）	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
第 11 回	方法：分析方法	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
第 12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
第 13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
第 14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。

第 15 回 調査計画の修正

第 16 回 オリエンテーションおよび後期の概要の説明
第 17 回 調査データの入力およびデータクリーニング

第 18 回 結果：人口動態的特性の集計

第 19 回 結果：行動的特性の集計

第 20 回 結果：心理的特性の分析

第 21 回 卒業論文の中間発表

第 22 回 結果：仮説の検証（基本的な統計分析）

第 23 回 結果：仮説の検証（発展的な統計分析）

第 24 回 考察：全体の考察

第 25 回 考察：セグメント別の考察

第 26 回 考察：実践的貢献

第 27 回 考察：研究の限界と今後の展望

第 28 回 結論、引用文献、巻末資料

第 29 回 最終発表の準備

第 30 回 最終発表

研究発表において指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。対象者の人口動態的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。対象者の行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で実施し、場合によっては追加分析を行う。研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表：10 点
調査計画の発表：10 点
中間発表：10 点
最終発表：20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50 点
合計：100 点

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

出力一覧

M0010 総合英語 I (1)	1
M0011 総合英語 I (2)	2
M0012 総合英語 I (3)	3
M0013 総合英語 I (4)	4
M0014 総合英語 I (5)	5
M0015 総合英語 I (6)	6
M0016 総合英語 I (7)	7
M0020 総合英語 II (1)	8
M0021 総合英語 II (2)	9
M0022 総合英語 II (3)	10
M0023 総合英語 II (4)	11
M0024 総合英語 II (5)	12
M0025 総合英語 II (6)	13
M0026 総合英語 II (7)	14
M0030 総合英語 III (1)	15
M0031 総合英語 III (2)	16
M0032 総合英語 III (3)	17
M0033 総合英語 III (4)	18
M0034 総合英語 III (5)	19
M0035 総合英語 III (6)	20
M0036 総合英語 III (7)	21
M0040 総合英語 IV (1)	22
M0041 総合英語 IV (2)	23
M0042 総合英語 IV (3)	24
M0043 総合英語 IV (4)	25
M0044 総合英語 IV (5)	26
M0045 総合英語 IV (6)	27
M0046 総合英語 IV (7)	28
M0050 英語コミュニケーション I	29
M0060 英語コミュニケーション II	30
M0320 スポーツとキャリア形成	31
M0330 スポーツ健康学入門 (A)	32
M0331 スポーツ健康学入門 (B)	32
M0332 スポーツ健康学入門 (C)	33
M0333 スポーツ健康学入門 (D)	33
M0334 スポーツ健康学入門 (E)	34
M0335 スポーツ健康学入門 (F)	34
M0336 スポーツ健康学入門 (G)	35
M0337 スポーツ健康学入門 (H)	35
M0520 数学	36
M0530 経営学	37
M0540 法学 (日本国憲法)	38
M0550 コミュニケーション論	39
M0560 人間とスポーツ	40
M0570 女性とスポーツ	41
M0600 情報リテラシー I	42
M0601 情報リテラシー I	43
M0602 情報リテラシー I	44
M0610 情報リテラシー II	45
M0611 情報リテラシー II	46
M0612 情報リテラシー II	47
M0620 スポーツとまちづくり	48
M0630 スポーツレクリエーション論	49
M0660 哲学	50
M0670 生命倫理	50
M0680 統計学 I	51
M0690 統計学 II	52
M0700 保健体育概論	53
M0710 障害者福祉論	54
M0720 音楽文化論	55
M0730 基礎科学	56
M0740 多摩地域形成論	56
M0750 キャリアデザイン論	57
M0751 キャリアデザイン論	57
M1010 生理学 A	58
M1020 機能解剖学	59

M1030 衛生学	60
M1040 スポーツ哲学	61
M1050 スポーツ運動学 I	62
M1070 スポーツ心理学 A	63
M1080 運動生理学概論	64
M1100 スポーツ栄養学	65
M1110 スポーツバイオメカニクス	66
M1120 スポーツマネジメント論	66
M1130 健康科学	67
M1140 スポーツ史	68
M1420 陸上競技実習	69
M1421 陸上競技実習	70
M1422 陸上競技実習	71
M1423 陸上競技実習	72
M1424 陸上競技実習	73
M1425 陸上競技実習	74
M1426 陸上競技実習	75
M1427 陸上競技実習	76
M1440 スイミング実習	77
M1441 スイミング実習	78
M1442 スイミング実習	79
M1443 スイミング実習	80
M1444 スイミング実習	81
M1445 スイミング実習	82
M1446 スイミング実習	83
M1447 スイミング実習	84
M1460 スポーツ実習入門 (A)	85
M1461 スポーツ実習入門 (B)	86
M1462 スポーツ実習入門 (C)	87
M1463 スポーツ実習入門 (D)	88
M1464 スポーツ実習入門 (E)	89
M1465 スポーツ実習入門 (F)	90
M1466 スポーツ実習入門 (G)	91
M1467 スポーツ実習入門 (H)	92
M1470 ラケットスポーツ実習	93
M1471 ラケットスポーツ実習	93
M1472 ラケットスポーツ実習	94
M1473 ラケットスポーツ実習	94
M1474 ラケットスポーツ実習	95
M1475 ラケットスポーツ実習	95
M1476 ラケットスポーツ実習	96
M1477 ラケットスポーツ実習	96
M1480 ボールスポーツ実習	97
M1481 ボールスポーツ実習	98
M1482 ボールスポーツ実習	99
M1483 ボールスポーツ実習	100
M1484 ボールスポーツ実習	101
M1485 ボールスポーツ実習	102
M1486 ボールスポーツ実習	103
M1487 ボールスポーツ実習	104
M1610 スポーツコーチング論 I	105
M1620 スポーツトレーニング論 I	105
M1630 スポーツ社会学	106
M1650 スポーツ文化論	107
M1670 生理学 B	108
M1680 スポーツコンディショニング論 I	109
M1690 スポーツ心理学 B	110
M1700 公衆衛生学	111
M1730 スポーツリスクマネジメント	112
M1740 学校保健	114
M1750 スポーツビジネス論 I	114
M1760 スポーツ法学 I	115
M1770 体力測定・評価論	116
M1780 予防医学概論	117
M2010 運動療法総論	118
M2020 リハビリテーション概論	119
M2040 アスレティックトレーナー概論	120
M2050 スポーツコンディショニング論 II	121
M2060 運動処方・負荷テスト	122
M2080 生活習慣病と身体活動	123
M2090 運動生理学	124

M2110	アスレティックリハビリテーション	125	M4470	野外教育指導論演習（スノー）	189
M2130	ジョギング・ウォーキング実習	126	M4480	野外教育指導論演習（マリン）	190
M2140	フィットネス・トレーニング実習	127	M5010	専門演習Ⅰ	191
M2141	フィットネス・トレーニング実習	128	M5011	専門演習Ⅰ	192
M2150	エアロビック運動実習	129	M5012	専門演習Ⅰ	193
M2170	スポーツリハビリテーション実習	129	M5013	専門演習Ⅰ	194
M2190	運動負荷テスト実習	130	M5014	専門演習Ⅰ	195
M2191	運動負荷テスト実習	131	M5015	専門演習Ⅰ	196
M2230	健康と疾患	132	M5016	専門演習Ⅰ	197
M2240	テーピング・コンディショニング指導論	133	M5017	専門演習Ⅰ	198
M2250	スポーツ医学（内科系）	134	M5018	専門演習Ⅰ	199
M2260	スポーツ医学（外科系）	135	M5019	専門演習Ⅰ	200
M2270	体力測定・評価実習	136	M5020	専門演習Ⅰ	201
M2271	体力測定・評価実習	137	M5021	専門演習Ⅰ	202
M2280	健康増進施設実習	138	M5022	専門演習Ⅰ	203
M2291	スポーツ現場実習 A	139	M5023	専門演習Ⅰ	204
M2292	スポーツ現場実習 B	140	M5024	専門演習Ⅰ	205
M2310	運動学実習	141	M5026	専門演習Ⅰ	206
M2321	スポーツ医科学実習	142	M5027	専門演習Ⅰ	207
M2322	スポーツ医科学実習	143	M5080	英語演習Ⅰ	208
M2330	Health and Exercise Sciences	144	M5090	英語演習Ⅱ	209
M3010	レジャー論	145	M5110	専門演習Ⅱ	210
M3020	スポーツ経済論	146	M5111	専門演習Ⅱ	211
M3040	スポーツ取材論	147	M5112	専門演習Ⅱ	212
M3050	スポーツと政治	148	M5113	専門演習Ⅱ	213
M3060	スポーツマーケティング論	149	M5114	専門演習Ⅱ	214
M3070	スポーツ産業論	150	M5115	専門演習Ⅱ	215
M3080	スポーツメディア論	151	M5116	専門演習Ⅱ	216
M3090	スポーツ行政論	152	M5117	専門演習Ⅱ	217
M3100	スポーツイベント論	153	M5118	専門演習Ⅱ	218
M3120	スポーツジャーナリズム論（新聞）	154	M5119	専門演習Ⅱ	219
M3130	スポーツジャーナリズム論（放送）	155	M5120	専門演習Ⅱ	220
M3140	スポーツ政策論	156	M5121	専門演習Ⅱ	221
M3150	マーケティングリサーチ実習	157	M5122	専門演習Ⅱ	222
M3160	地域スポーツ経営論	158	M5123	専門演習Ⅱ	223
M3170	スポーツビジネス論Ⅱ	159	M5124	専門演習Ⅱ	224
M3180	スポーツ法学Ⅱ	160	M5125	専門演習Ⅱ	225
M3190	スポーツビジネス論Ⅲ	161	M5126	専門演習Ⅱ	226
M4010	トップアスリート論	162	M5127	専門演習Ⅱ	227
M4020	スポーツトレーニング論Ⅱ	163	M5210	専門演習Ⅲ	228
M4030	スポーツ運動学Ⅱ	163	M5211	専門演習Ⅲ	229
M4040	スポーツコーチング論Ⅱ	164	M5212	専門演習Ⅲ	229
M4050	スポーツ戦略・戦術論	165	M5213	専門演習Ⅲ	230
M4250	ダンス指導論演習	166	M5214	専門演習Ⅲ	231
M4251	ダンス指導論演習	167	M5216	専門演習Ⅲ	232
M4260	柔道指導論実習	168	M5217	専門演習Ⅲ	233
M4261	柔道指導論実習	168	M5218	専門演習Ⅲ	234
M4270	武道指導論演習	169	M5219	専門演習Ⅲ	235
M4271	武道指導論演習	169	M5220	専門演習Ⅲ	236
M4280	剣道指導論実習	170	M5221	専門演習Ⅲ	237
M4281	剣道指導論実習	171	M5222	専門演習Ⅲ	238
M4290	器械運動指導論実習	172	M5223	専門演習Ⅲ	239
M4291	器械運動指導論実習	173	M5224	専門演習Ⅲ	240
M4300	体づくり運動指導論実習	174	M5225	専門演習Ⅲ	241
M4301	体づくり運動指導論実習	175	M5226	専門演習Ⅲ	242
M4310	サッカー指導論実習	176	M9010	保健体育科教育法Ⅰ	243
M4320	サッカー指導論演習	177	M9011	保健体育科教育法Ⅰ	243
M4330	テニス指導論実習	178	M9020	保健体育科教育法Ⅱ	244
M4340	テニス指導論演習	179	M9021	保健体育科教育法Ⅱ	244
M4350	陸上競技指導論実習	180	M9030	保健体育科教育法Ⅲ	245
M4360	陸上競技指導論演習	180	M9040	保健体育科教育法Ⅳ	246
M4370	バドミントン指導論実習	181	M9120	教職実践演習	247
M4380	バドミントン指導論演習	181	M9121	教職実践演習	248
M4390	ソフトボール指導論実習	182	M9210	教育実習（事前指導）	249
M4400	ソフトボール指導論演習	182	M9211	教育実習（事前指導）	249
M4410	スイミング指導論実習	183	M9310	教育実習（高）	250
M4420	スイミング指導論演習	184	M9320	教育実習（中・高）	250
M4430	バレーボール指導論実習	185	M9999	【2017 年度なし】専門演習Ⅲ	251
M4440	バレーボール指導論演習	186			
M4450	バスケットボール指導論実習	187			
M4460	バスケットボール指導論演習	188			